

下松市総合計画後期基本計画策定のための
まちづくり市民アンケート
結果報告書

令和7年1月

下 松 市

目 次

I. アンケート調査の概要	1
II. 回答者の属性分布	2
(1) 年齢／(2) 性別／(3) 仕事の有無／(4) 市内居住経緯／	2
(5) 居住地区／(6) 世帯構成／(7) 住居形態／	
(8) 日常交通手段(通勤通学・買物・通院など)	
III. 調査の結果	10
1. 日常生活での不安	10
2. 下松市の魅力・自慢	13
(1) 下松市の魅力	13
(2) 下松市の自慢・優れた点	18
3. まちづくり施策の満足度・重要性	23
(1) 施策の満足度	23
(2) 今後の施策の重要度	31
4. コミュニティ・協働の意識	36
(1) コミュニティ活動への参加	36
(2) 協働のしくみづくり	41
5. 少子高齢化・人口減少への対応	45
(1) 少子化への対策	45
(2) 人口の社会増への対策	49
(3) 市外転出家族の還流意向	52
(4) 人口減少・少子高齢化の生活や都市環境への影響	54
(5) 交流人口・関係人口拡大の方策	58
(6) 高齢化社会のまちづくりの重点	62
6. 防災対策	66
7. 産業振興	70
8. 笠戸島・米川の振興	74
(1) 笠戸島	74
(2) 米川	76
9. 新たな時代の課題への対応	78
(1) カーボンニュートラルへの取組	78
(2) デジタル化の進展への期待や不安	81
10. 都市生活・都市形成	88
(1) 公共施設のあり方	88
(2) 公共交通機関の確保・整備方向	91
(3) 都市づくりの方向性	94
11. 定住意向や愛着	99
(1) 下松市への定住意向	99
(2) 下松市への誇りや愛着	105
12. まちづくりのアイデア等	108
IV. 調査結果の総括	115

I. アンケート調査の概要

◆調査の目的

下松市総合計画（令和2年3月基本構想策定）後期基本計画（計画期間：令和8～12年度）の策定にあたり、策定過程への市民参加の一環として、市民の意識、意向を把握し、計画内容に反映させることを目的とする。なお、基本計画の各施策分野における一部の目標指標への活用も兼ねるものとする。

◆調査実施の方法

調査対象	下松市に在住する18歳以上の市民	
抽出・配布数	2,000人	
抽出方法	住民基本台帳からの完全無作為抽出	
配布方法	郵送による配布	
回答回収方法	右のいずれかの方法（無記名）	郵送回答（料金受取人払い、下松市役所宛） インターネット回答（スマートフォンまたはパソコンから専用サイトにアクセス）
実施時期	調査票の設計・印刷：令和6年6～9月 インターネット回答サイトの準備：令和6年9月 調査票の配布：令和6年10月9日 調査票の回収：令和6年10月31日締切（実際には紙の調査票は11月末まで受付、インターネット回答サイトは11月5日閉鎖） 集計・分析：令和6年12月～令和7年1月上旬	

◆回収結果

有効回収数	714票（うちインターネット回答197票）
有効回収率	35.7%

◆留意事項

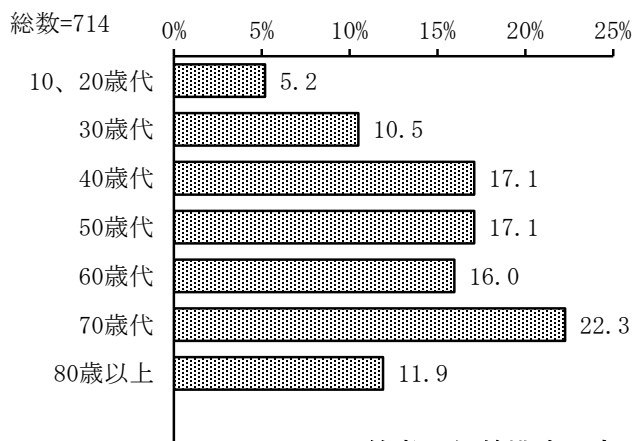
本報告書の内容においては、以下の点に留意されたい。

- ・ 回答の選択肢別構成比（%）は、原則として小数点以下第2位を四捨五入して第1位まで表示している。従って、各選択肢の表示構成比の合計が100.0%に一致しない場合がある。
- ・ 複数回答の設問では、回答者数を母数とするため、各選択肢の回答構成比の合計が100%を超えることになる。
- ・ 属性別等のクロス集計では、サンプル数が少ない属性があるため、その属性での結果が十分な精度を持たないことがあり得る。特に、居住地区別集計において、笠戸島地区、米川地区は有効回答数がそれぞれ8票、9票と少ないため、図表上に表示はしても参考としての表示である。
- ・ 過去の調査で同様の設問がある場合は、それとの結果比較を示している。ここで、「R1調査」は、令和元年度実施の下松市総合計画策定・下松市都市計画マスタープラン中間見直しのためのまちづくり市民アンケート、「H26調査」は、平成26年度実施の下松市総合計画後期基本計画策定のためのまちづくり市民アンケート、「H21調査」は、平成21年度実施の下松市総合計画・下松市都市計画マスタープラン策定のためのまちづくり市民アンケートを指す。

II. 回答者の属性分布

■問1 あなたご自身のことをおたずねします。次の項目ごとに該当する番号を1つずつ選んで口の中に記入してください。

(1) 年齢



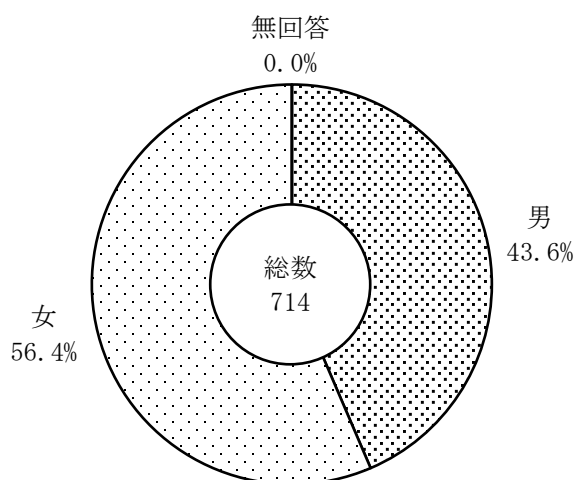
回答者の年齢は70歳代が最も多く、60歳代以上で約半数を占める。今回調査ではインターネット回答を併用したが、それでも若年層の回答率は低く、国勢調査や住民基本台帳による人口の年齢分布と比較してもかなり高齢者層の比重が高い状況である。

従って、以下の各設問の結果の評価においてはこの点への注意が共通して必要である。

回答者の年齢構成と市人口の年齢構成の比較

	10、20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	(%)
(凡例)								
今回調査	5.2	10.5	17.1	17.1	16.0	22.3	11.9	
R02国勢調査	11.8	14.2	18.0	13.8	14.2	17.1	11.0	
R06.9住民基本台帳	13.2	13.7	15.8	16.6	12.3	15.9	12.6	

(2) 性別



回答者の性別は、女性が56.4%で、前回調査（令和元年）（57.0%）と同様に男性に比べて女性の割合が高い。

令和6年9月末の住民基本台帳人口の女性比率は51.0%であり、女性の方が回答率が高いことになり、以下の各設問の結果の評価においても、女性の意向がやや強く反映されていることに注意が必要である。

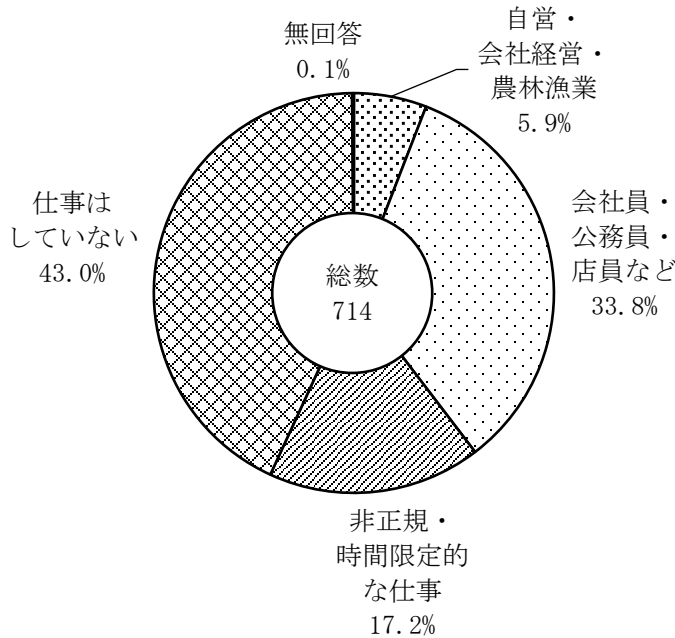
(3) 仕事の有無

[選択肢]

(仕事を) { }

- 1. 自営業者・会社経営者・農林漁業者
- 2. 会社員・公務員・店員など(常勤で雇用されている)
- 3. パート・アルバイト・派遣・非常勤など時間限定的な仕事
- 4. 仕事はしていない

※1、2、3にまたがって兼業している場合は、収入の多い方での回答を求めている。



回答者の56.9%が仕事を「している」という中で、「会社員・公務員・店員など」常勤で雇用されている人が最も多く、全体の約1/3強を占める。

この「会社員・公務員・店員など」の割合は前回調査(令和元年)から3.4ポイントほど増えており、「非正規・時間限定的な仕事」も前回から若干増加している。一方、「自営・会社経営・農林漁業」と「仕事はしていない」は前回調査から比率がやや低下している。

仕事をしている割合は50歳代で最も高く9割近くに達しており、それより下の年代では年齢が下がるほどその比率が低下する。

また、70、80歳代以上では「仕事はしていない」の割合が圧倒的に高い。

性別では、仕事をしている割合が男性64.6%と、女性よりかなり高く、また、女性では「非正規・時間限定的な仕事」の割合が男性の2倍以上と高い。

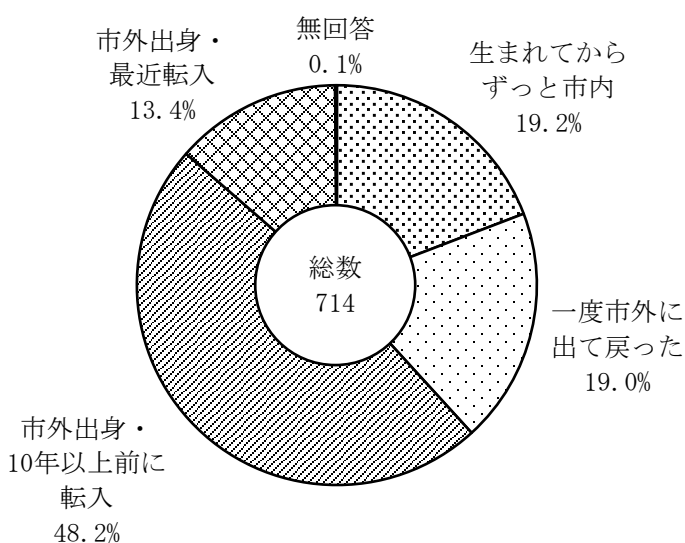
		自営・農林漁業	会社員・公務員・店員など	非正規・時間限定的な仕事	仕事はしていない	無回答
(凡例)						
【年齢別】	(n)					
	全体 (714)	5.9	33.8	17.2	43.0	
	10、20歳代 (37)		54.1		8.1	35.1
	30歳代 (75)		53.3		22.7	20.0
	40歳代 (122)	6.6	59.0		22.1	12.3
	50歳代 (122)		63.1		20.5	11.5
	60歳代 (114)	7.0	23.7	23.7		45.6
	70歳代 (159)	6.3	14.5		76.7	
	80歳以上 (85)	7.1			89.4	
【性別】						
	男 (311)		46.0	10.9		
	女 (403)		24.3	22.1		48.9

注) 5%未満の数値は表示を省略している(以下同じ)。

【過去の調査との比較】

	営・自 ・営 ・農 ・林 ・漁 ・業 ・社 ・経	員会 ・社 ・店 ・員 ・な ・ど ・公 ・務	限非 ・正 ・定 ・規 ・な ・仕 ・時 ・間	な仕 ・い ・事 ・は ・し ・て ・い	無 回 答
(凡例)					
(n)					
今回調査 (714)	5.9	33.8	17.2	43.0	
R01調査 (730)	7.7	30.4	16.8	44.8	
H26調査 (928)	7.4	30.4	14.1	46.7	
H21調査 (1007)	7.9	30.5	16.6	43.1	

(4) 市内居住経緯



[選択肢]

1. 生まれてからずっと下松市に住んでいる
2. 下松市出身で、一度市外に出て再び下松市に戻ってきた
3. 市外出身で、10年以上前に下松市に転入してきた
4. 市外出身で、最近(10年未満)下松市に転入してきた

下松市内に「生まれてからずっと住んでいる」割合は、前回調査(令和元年)より若干増えたものの19.2%であり、「一度市外へ出て戻った」を合わせても38.2%で、回答者全体の6割以上は市外出身者である。しかし、市外出身でも10年以上市内に住んでいる割合が全体の半数近くであり、転入者の定着を窺わせる。

この「市外出身で10年以上前に転入」の割合は、40~70歳代では半数を超え、また、「生まれてからずっと市内」の割合は、10、20歳代の他では年齢が高いほど高くなる。女性では「市外出身」の割合が男性より若干高い。居住地区(回答数が少ない笠戸島、米川地区を除く)別では、「生まれてからずっと市内」は下松地区で、「市外出身で10年以上前に転入」は久保・東陽地区で、「市外出身・最近転入」は末武地区で、それぞれ割合が相対的に高い。

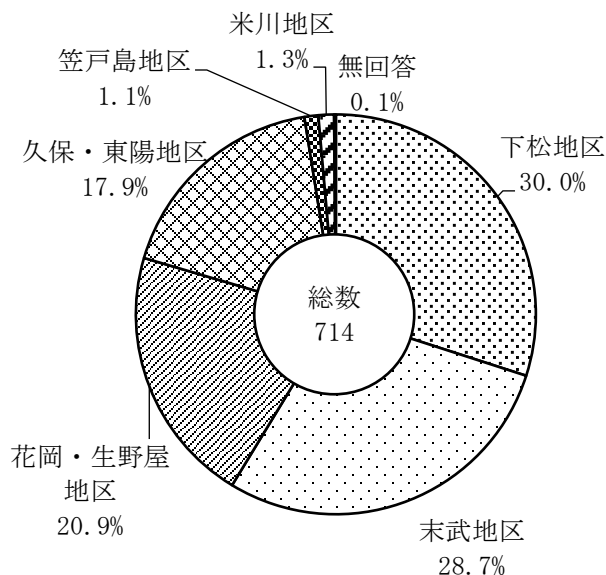
【過去の調査との比較】

	ず生 ・つ ・ま ・と ・れ ・市 ・内 ・か ・ら	て一 ・戻 ・っ ・た ・市 ・外 ・に ・出	入年 ・市 ・以 ・外 ・上 ・出 ・身 ・に ・・ ・転 ・入	近市 ・転 ・外 ・入 ・出 ・身 ・・ ・最	無 回 答
(凡例)					
(n)					
今回調査 (714)	19.2	19.0	48.2	13.4	
R01調査 (730)	17.0	20.1	48.9	13.6	
H26調査 (928)	22.2	19.4	44.2	13.1	
H21調査 (1007)	22.9	19.4	44.4	12.0	

		生まれ市から	て一度市外に出	入年市外出身に・転十	近市外入出身・最	無回答	(%)
(凡例)							
【年齢別】	全体 (n) (714)	19.2	19.0	48.2		13.4	
	10、20歳代 (37)	43.2		10.8	8.1	37.8	
	30歳代 (75)	8.0	17.3	21.3		53.3	
	40歳代 (122)	9.8	20.5	50.0		19.7	
	50歳代 (122)		24.6	52.5		8.2	
	60歳代 (114)	15.8	21.1	57.0		5.3	
	70歳代 (159)	22.0	19.5	58.5			
	80歳以上 (85)	37.6		10.6	49.4		
【性別】	男 (311)	20.9	19.3	46.6		13.2	
	女 (403)	17.9	18.9	49.4		13.6	
【居住地区別】	下松地区 (214)	23.8	22.0	40.2		14.0	
	末武地区 (205)	17.1	17.6	47.3		18.0	
	花岡・生野屋地区 (149)	13.4	21.5	49.7		15.4	
	久保・東陽地区 (128)	19.5	12.5	63.3			
	笠戸島地区 (8)	50.0		25.0	12.5	12.5	
	米川地区 (9)	11.1	33.3	55.6			

注) 笠戸島・米川地区は回答数が少ないため、参考として表示している (以下同じ)。

(5) 居住地区



回答者の市内6地区別の分布では、下松地区が30.0%で最も多く、末武地区、花岡・生野屋地区を合わせた3地区で全体の8割近くを占める。

実際の住民基本台帳人口の分布との比較では、末武地区と花岡・生野屋地区の順位が逆転しているが、回答者が自身の校区を正確に認識していない可能性も考えられる。

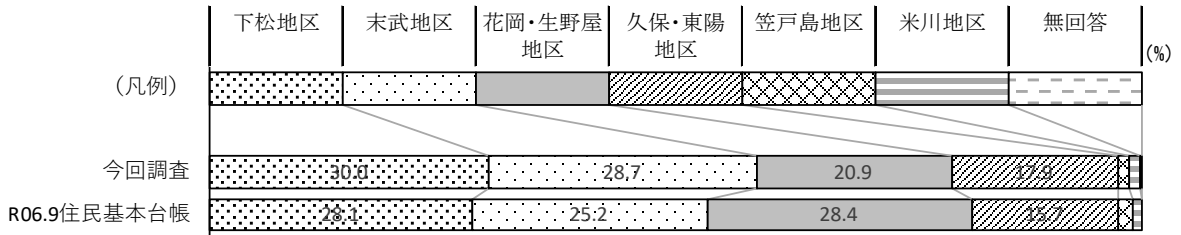
前回調査 (令和元年) との比較では、下松地区の割合が若干増えている。

年齢別では、10、20歳代及び50歳代、70歳代以上では下松地区が最も多く、30歳代では末武地区が、40歳代では末武地区と並んで花岡・生野屋地区が最も高い割合となっており、各地区の居住

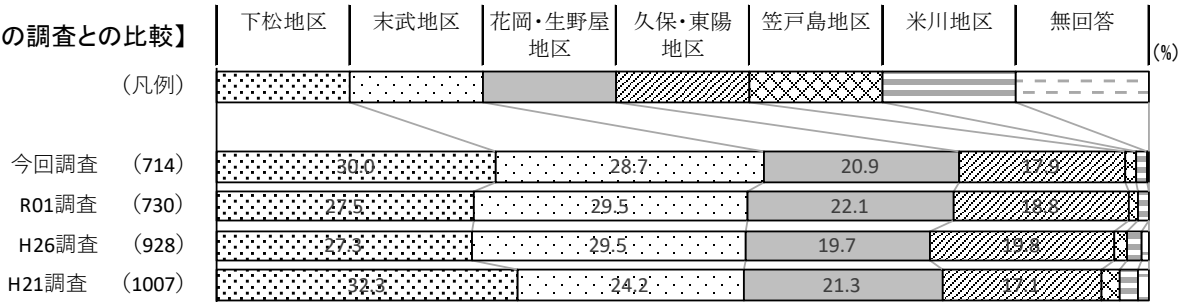
市民の年齢構成上の特徴が反映されているとも見られる。

性別では、男性では末武地区の割合が30.5%と最も多く、下松地区が33%を占める女性との間で順位が逆転している。

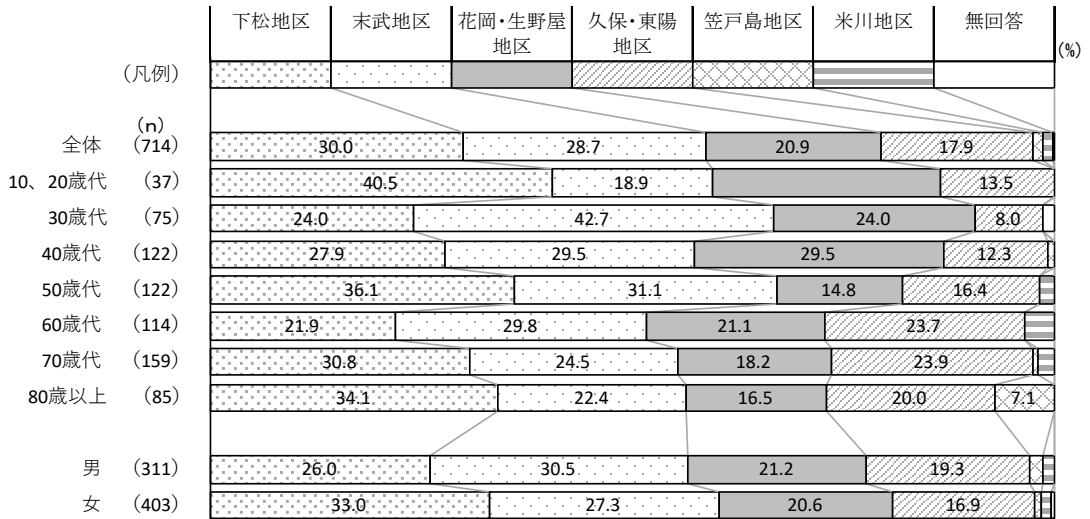
回答者の居住地区構成と市人口の地区別構成の比較



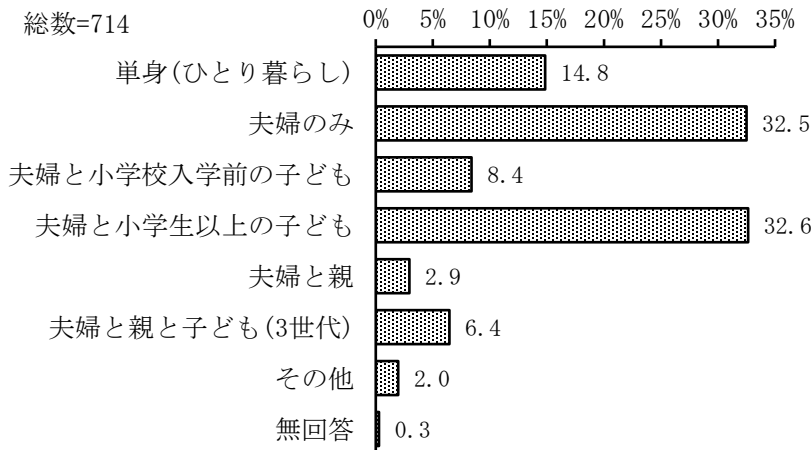
【過去の調査との比較】



【年齢別】



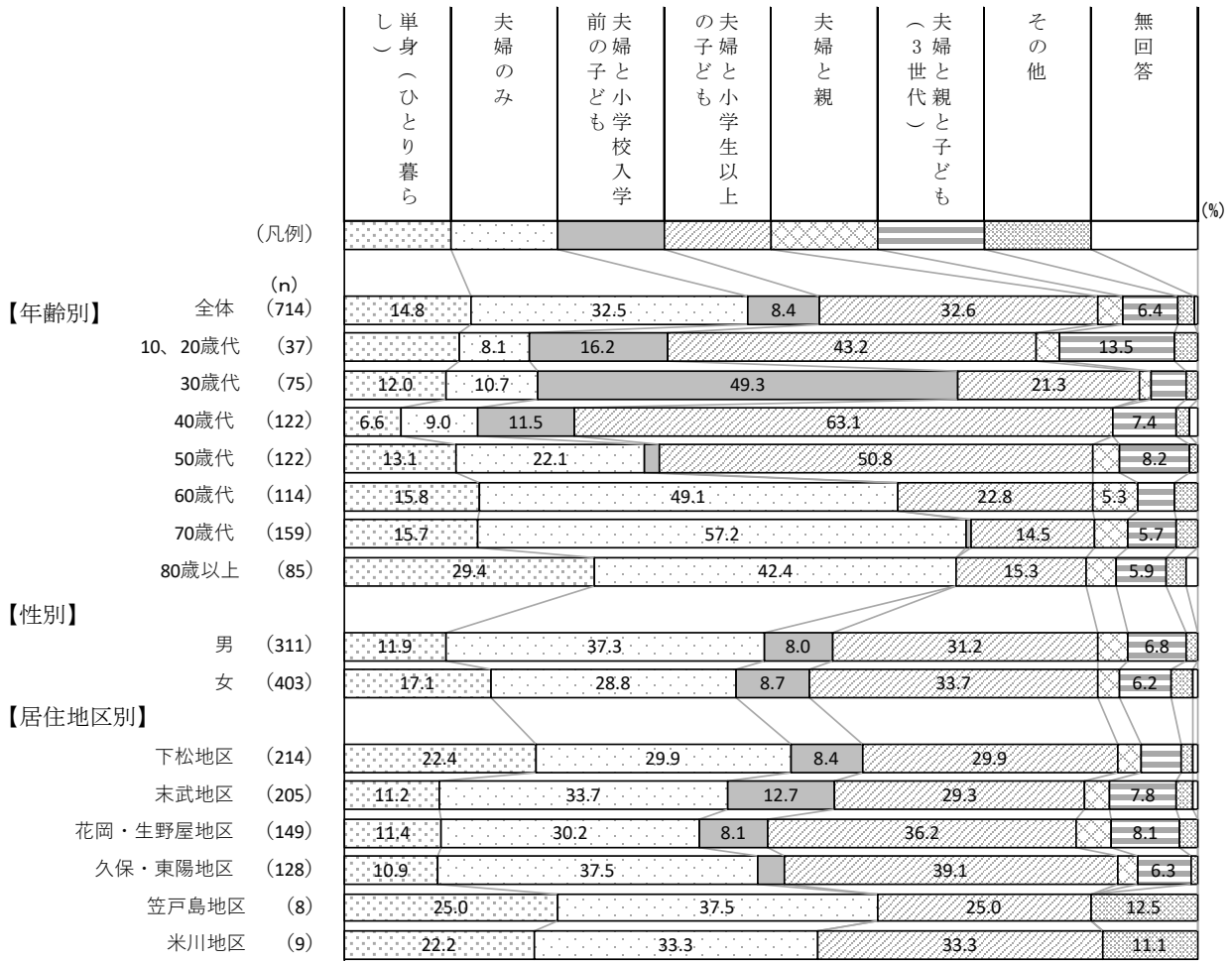
(6) 世帯構成



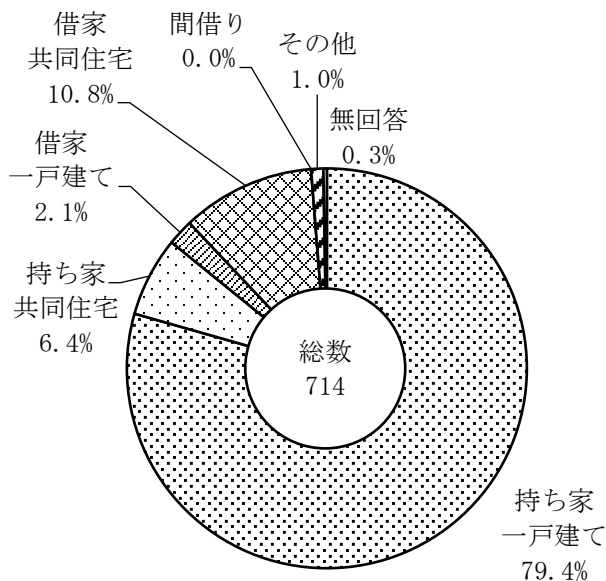
世帯の構成では、「夫婦と小学生以上の子ども」と「夫婦のみ」がほぼ並んで3割以上と多く、次いで「単身(ひとり暮らし)」が14.8%となっている。

この分布状況は年齢層によって大きく異なり、「夫婦と小学生以上の子ども」の割合は40～50歳代(及び10、20歳代)で半数前後以上、「夫婦と小学校入学前の子ども」は30歳代で半数近くを占めるのに対して、「夫婦のみ」は60～70歳代で半数前後以上と、

ライフステージを反映した分布状況となっている。「単身（ひとり暮らし）」は80歳以上で3割近くあるが、女性でのこの比率が男性より高いことから、高齢者の女性ひとり暮らしが多いことを窺わせる。また、下松地区では「単身（ひとり暮らし）」の割合が22.4%と他地区より目立って高く、臨海部の事業所群での単身者雇用の多さの反映とも考えられる。



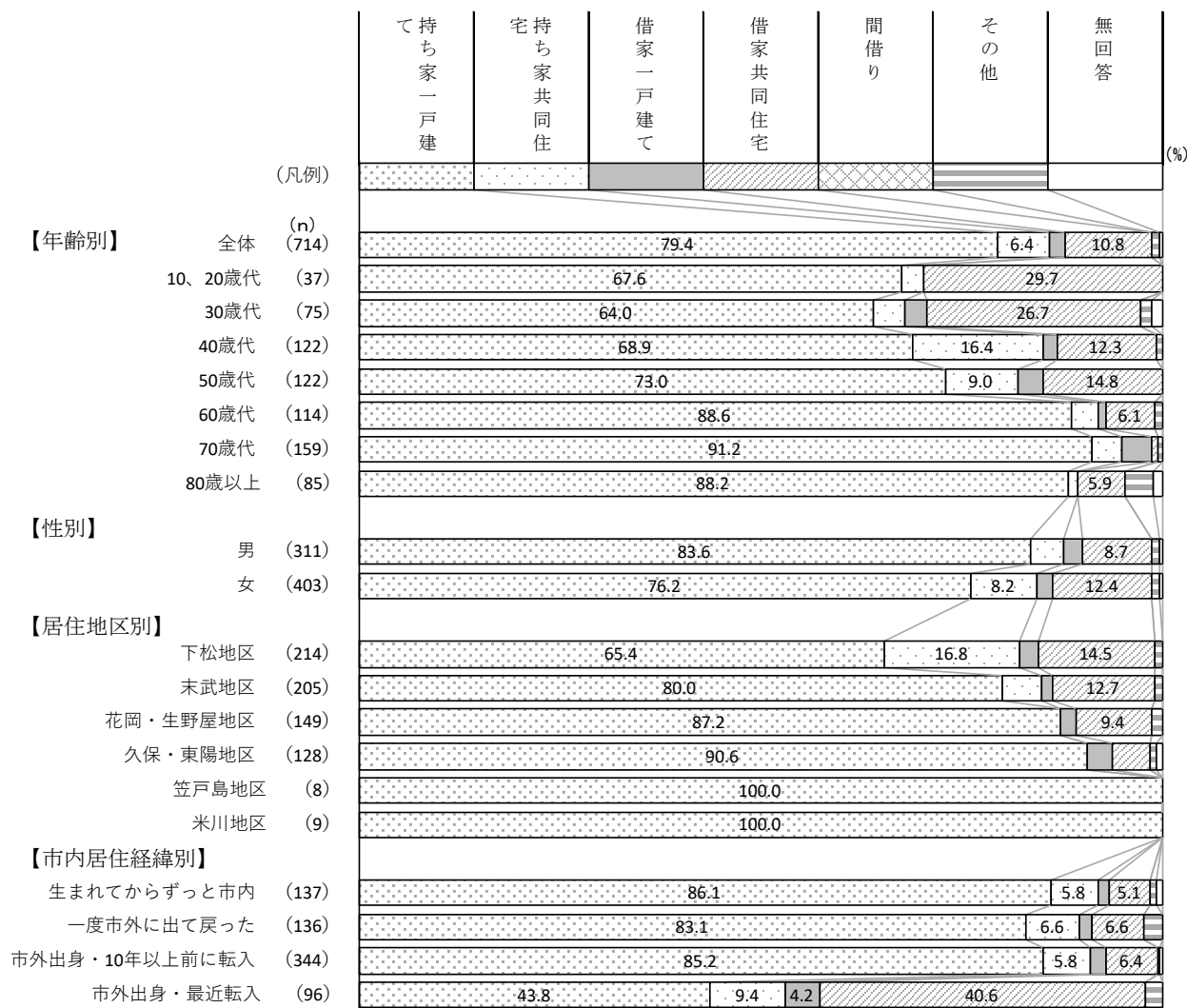
(7) 住居形態



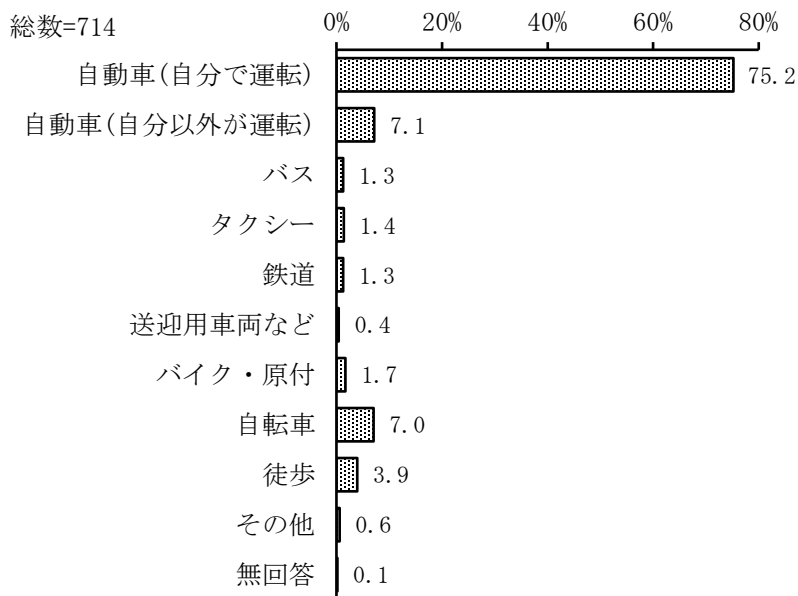
住居形態は、「持ち家一戸建て」が8割近くと大半を占め、「持ち家共同住宅」を合わせると85.8%が持ち家である。残りの中では「借家共同住宅」が10.8%と最も多い。

「持ち家一戸建て」の割合は、概して年齢が上がるほど高くなり、70歳代では91.2%に達している。一方、10、20歳代、30歳代では「借家共同住宅」の割合が高いことが特徴である。また、下松地区では「持ち家共同住宅」(マンション等)の割合の高さが目立つほか、市外出身・最近転入者での「借家共同住宅」の割合の高さ(4割)も、定住可能性の観点から興味深い。

「その他」の主な内容： 社宅、老人ホーム など



(8) 日常交通手段 (通勤通学・買物・通院など)



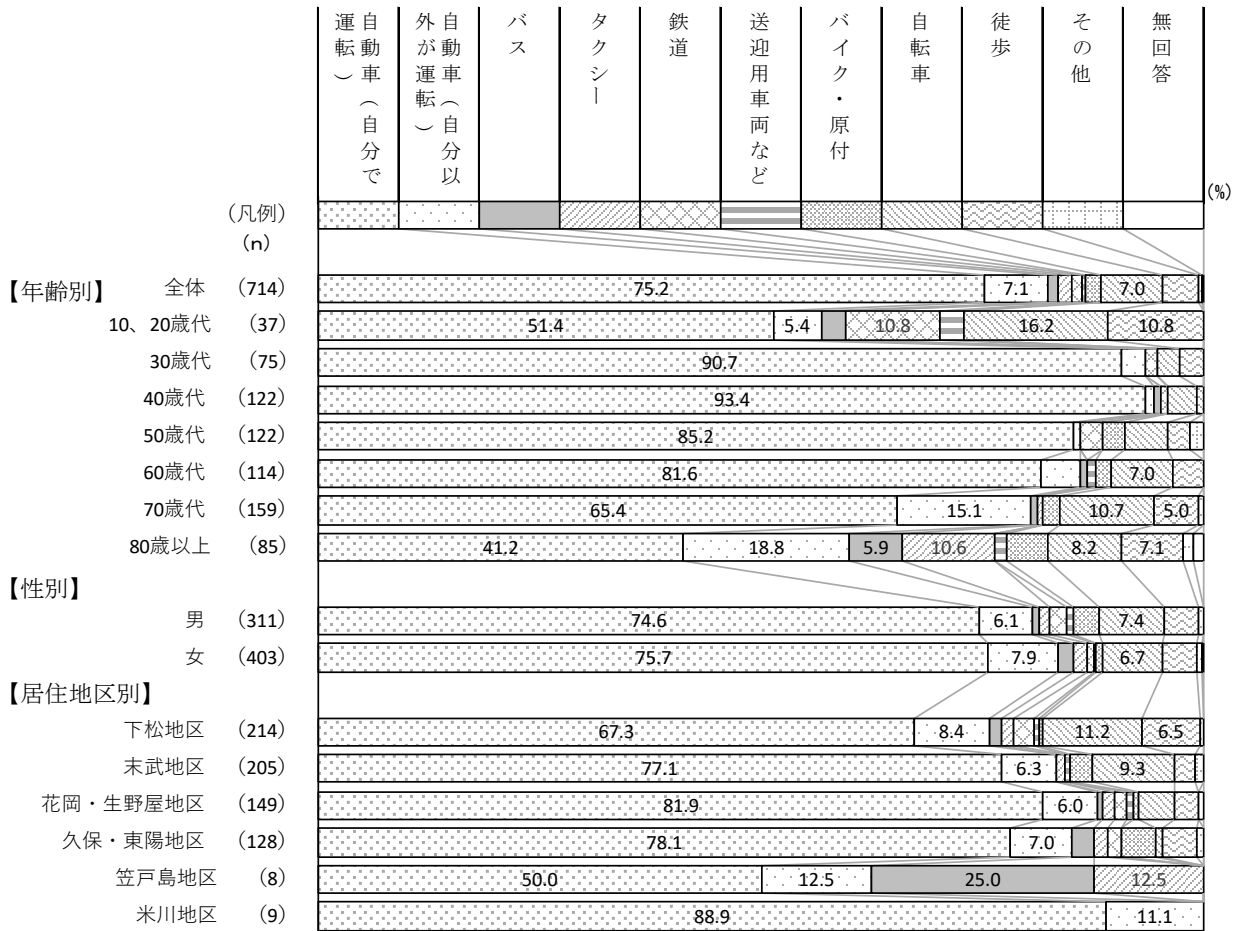
日常の交通手段では、「自動車(自分で運転)」の割合が75.2%と圧倒的で、前回調査(令和元年)の71.8%よりもさらに上昇しており、クルマ社会が一層深化していることを示している。

年齢別では40歳代、30歳代で「自動車(自分で運転)」の割合が特に高く9割を超えている。10、20歳代でこの比率が約5割と低く、自転車、徒歩や鉄道の割合が目立つのは、自動車を使わない通勤通学が含まれるためとも考えられる。

また、70歳代以上では「自動車(自分以外が運転)」や自転車、徒歩の割合が目立つようになり、

80 歳以上ではタクシーの割合も 1 割強ある。高齢者と若年層に公共交通の需要が一定程度あることを示している。

居住地区別（笠戸島、米川地区以外）では、下松地区で「自動車（自分で運転）」の割合が比較的 low、自転車や徒歩の割合が他地区よりやや高いのが特徴的である。



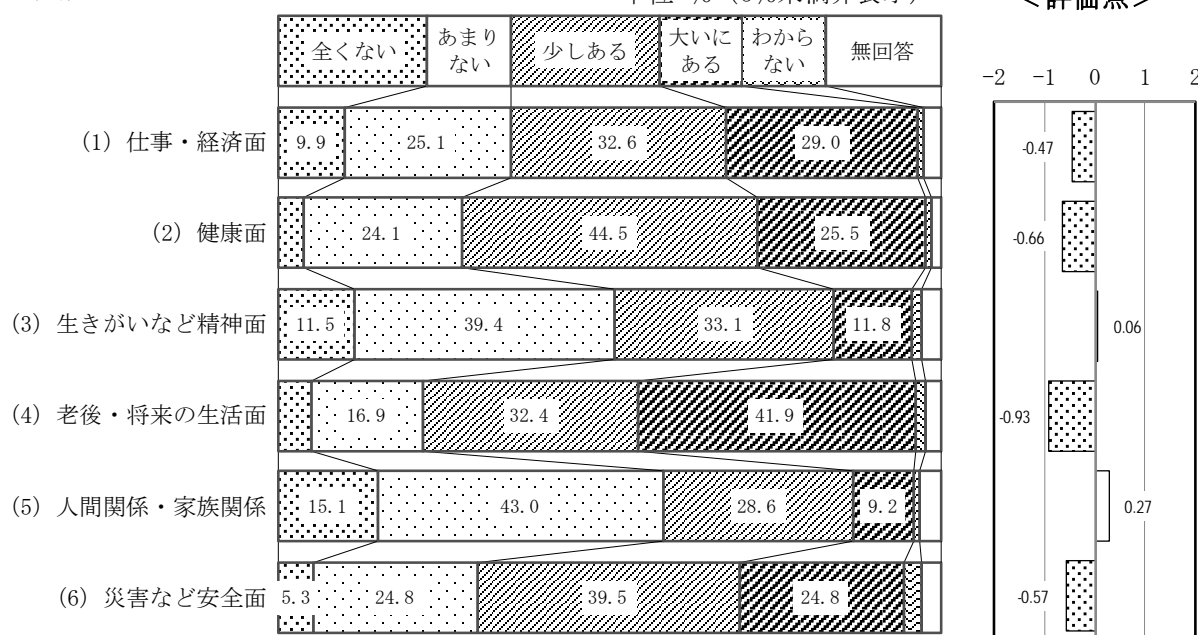
Ⅲ. 調査の結果

1. 日常生活での不安

■問2 あなたは、日常生活で次のような面についてどの程度不安を感じていますか。
 (1)～(6)のそれぞれについて、選択肢から1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

総数=714

単位:% (5%未満非表示)



	全体	全くない	あまりない	少しある	大いにある	わからない	無回答	評価点
(1) 仕事・経済面	714 100.0	71 9.9	179 25.1	233 32.6	207 29.0	5 0.7	19 2.7	-0.47
(2) 健康面	714 100.0	26 3.6	172 24.1	318 44.5	182 25.5	5 0.7	11 1.5	-0.66
(3) 生きがいなど精神面	714 100.0	82 11.5	281 39.4	236 33.1	84 11.8	11 1.5	20 2.8	0.06
(4) 老後・将来の生活面	714 100.0	35 4.9	121 16.9	231 32.4	299 41.9	11 1.5	17 2.4	-0.93
(5) 人間関係・家族関係	714 100.0	108 15.1	307 43.0	204 28.6	66 9.2	7 1.0	22 3.1	0.27
(6) 災害など安全面	714 100.0	38 5.3	177 24.8	282 39.5	177 24.8	19 2.7	21 2.9	-0.57

評価点： 不安が「全くない」=2点、「あまりない」=1点、「少しある」=-1点、「大いにある」=-2点として、回答数（無回答、「わからない」を除く）で加重平均した値（マイナスが大きいほど平均的な不安の程度が大きいことになる）

市民が日常生活で感じる不安の程度を、6つの側面から尋ねている。

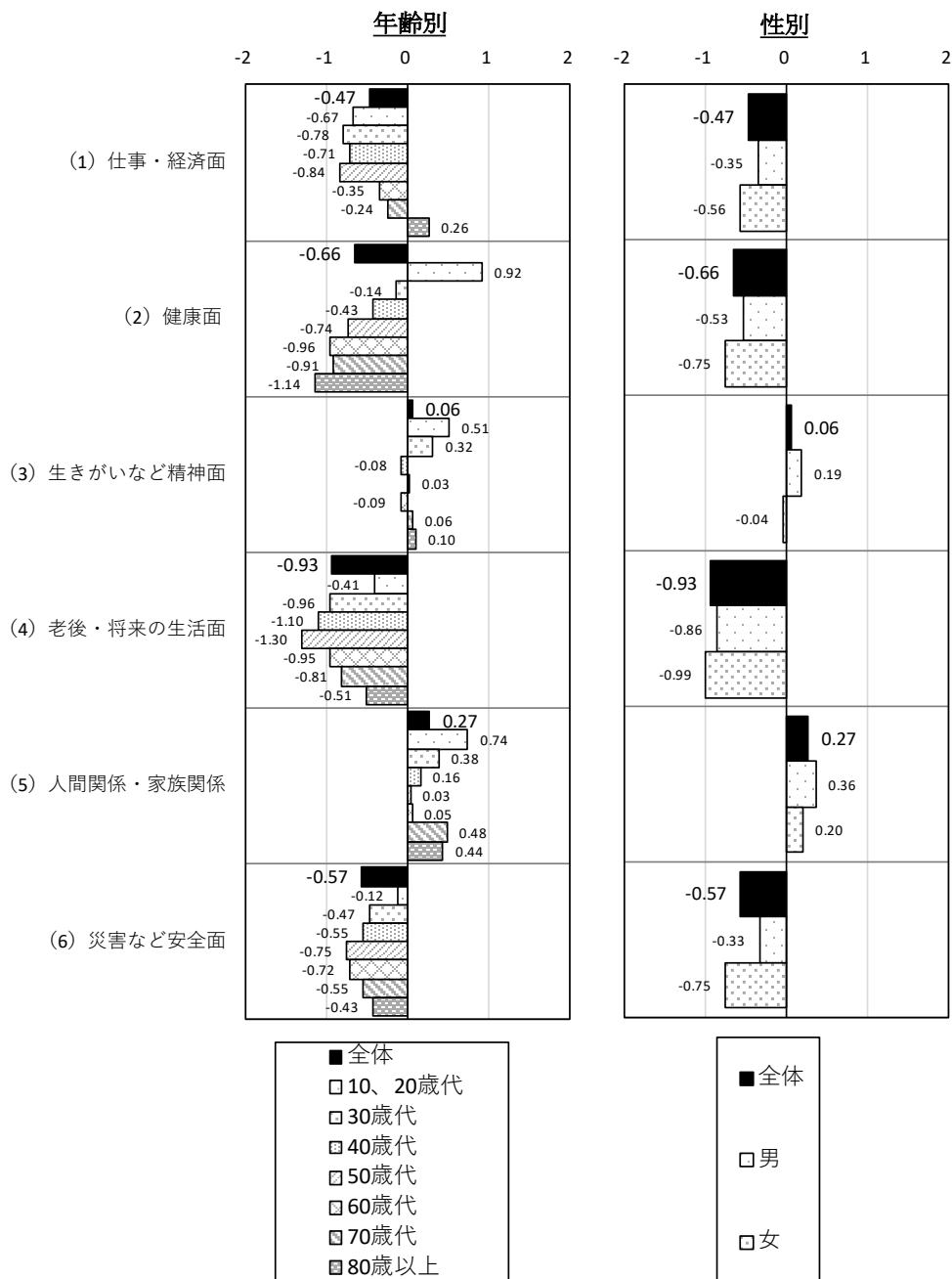
「全くない」、「あまりない」の合計割合と「少しある」、「大いにある」の合計割合の対比で、生

きがいなどの精神面と人間関係・家族関係では前者が上回っているが、その他の側面では後者の方が大きく、特に老後・将来の生活面では「大いにある」が41.9%と大きな割合を占めている。全体の平均的な不安の程度を「評価点」で見ると、前者の方が大きい2項目は評価点がプラスとなり、後者が大きい4項目はマイナスとなる。老後・将来の生活面は評価点が-0.93と最も低い。

この評価点を年齢別に見ると、老後・将来の生活面は評価点が最も低いのが50歳代である。また、健康面では年齢層が高いほど平均的な不安の程度が増す傾向が顕著である。性別では、いずれの項目でも女性の方が評価点が低く、総体としての不安の程度は男性より女性の方が大きいと言える。

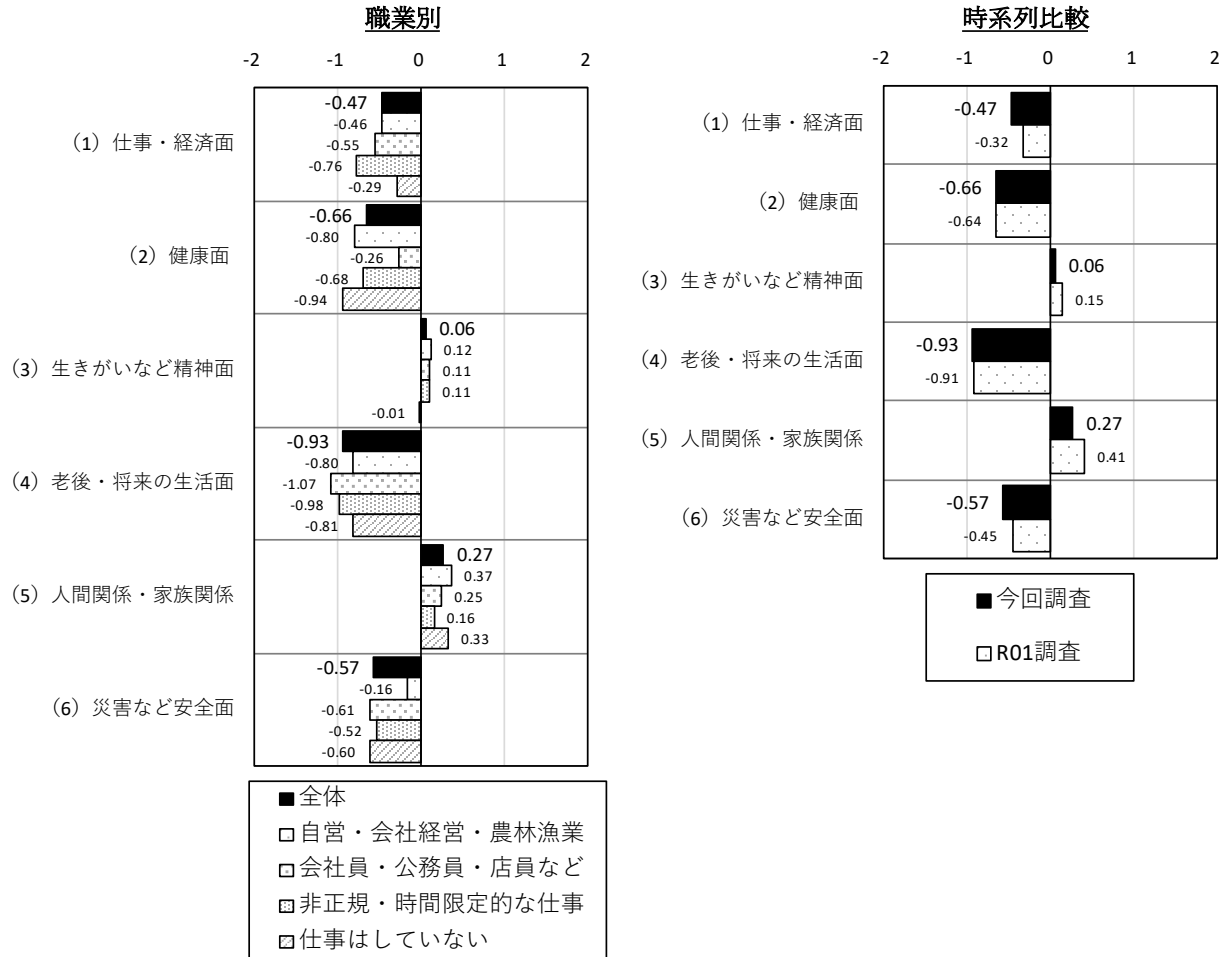
職業別に見ると、仕事・経済面の不安の程度は、非正規・時間限定的な仕事の者で最も大きく、健康面では仕事はしていない人の不安程度が最も大きいと、これらは年齢との関係が大きいと考えられる。また、老後・将来の生活面では会社員・公務員・店員などでの不安程度が最も大きいと、定年後への不安などが含まれるものと見られる。

評価点による比較（1）



前回調査（令和元年）でも同じ設問を設けており、その評価点を比較すると、全体に評価点がやや低下、すなわち不安の平均的な程度が前回よりやや大きくなっており、特に仕事・経済面や人間関係・家族関係での低下（不安程度の増大）が目立つところである。

評価点による比較（2）

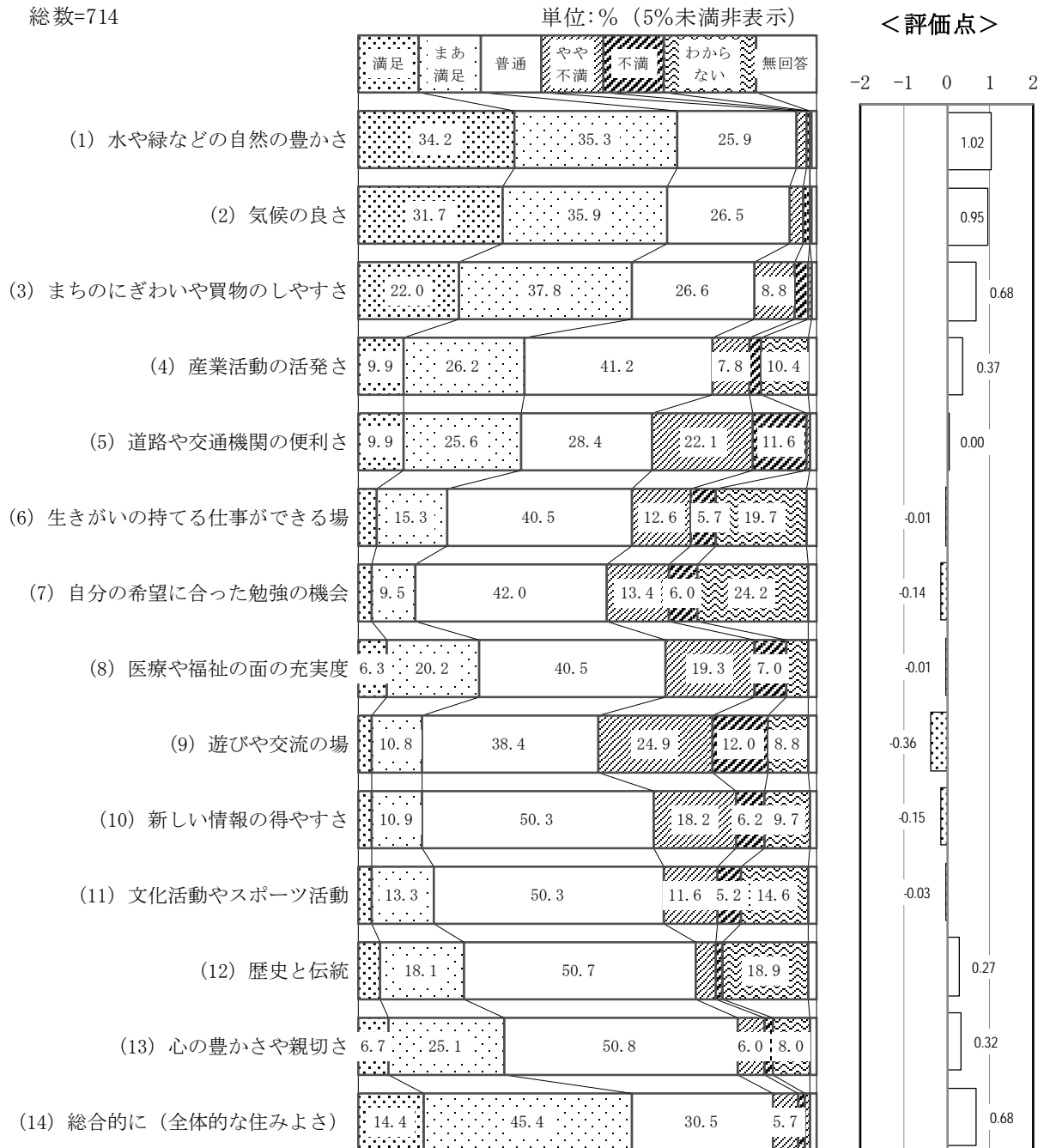


2. 下松市の魅力・自慢

(1) 下松市の魅力

■問3 現在の下松市について、あなたは次の各項目に対してどの程度の魅力、満足を感じますか。右の選択肢から1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

総数=714



評価点： 「満足」=2点、「まあ満足」=1点、「普通」=0点、「やや不満」=-1点、「不満」=-2点として、回答数（無回答、「わからない」を除く）で加重平均した値

	全体	満足	まあ満足	普通	やや不満	不満	わからない	無回答	評価点
(1) 水や緑などの自然の豊かさ	714 100.0	244 34.2	252 35.3	185 25.9	18 2.5	3 0.4	1 0.1	11 1.5	1.02
(2) 気候の良さ	714 100.0	226 31.7	256 35.9	189 26.5	21 2.9	10 1.4	2 0.3	10 1.4	0.95
(3) まちのにぎわいや買物のしやすさ	714 100.0	157 22.0	270 37.8	190 26.6	63 8.8	21 2.9	5 0.7	8 1.1	0.68
(4) 産業活動の活発さ	714 100.0	71 9.9	187 26.2	294 41.2	56 7.8	19 2.7	74 10.4	13 1.8	0.37
(5) 道路や交通機関の便利さ	714 100.0	71 9.9	183 25.6	203 28.4	158 22.1	83 11.6	4 0.6	12 1.7	0.00
(6) 生きがいの持てる仕事ができる場	714 100.0	29 4.1	109 15.3	289 40.5	90 12.6	41 5.7	141 19.7	15 2.1	-0.01
(7) 自分の希望に合った勉強の機会	714 100.0	20 2.8	68 9.5	300 42.0	96 13.4	43 6.0	173 24.2	14 2.0	-0.14
(8) 医療や福祉の面の充実度	714 100.0	45 6.3	144 20.2	289 40.5	138 19.3	50 7.0	35 4.9	13 1.8	-0.01
(9) 遊びや交流の場	714 100.0	22 3.1	77 10.8	274 38.4	178 24.9	86 12.0	63 8.8	14 2.0	-0.36
(10) 新しい情報の得やすさ	714 100.0	22 3.1	78 10.9	359 50.3	130 18.2	44 6.2	69 9.7	12 1.7	-0.15
(11) 文化活動やスポーツ活動	714 100.0	22 3.1	95 13.3	359 50.3	83 11.6	37 5.2	104 14.6	14 2.0	-0.03
(12) 歴史と伝統	714 100.0	35 4.9	129 18.1	362 50.7	32 4.5	8 1.1	135 18.9	13 1.8	0.27
(13) 心の豊かさや親切さ	714 100.0	48 6.7	179 25.1	363 50.8	43 6.0	13 1.8	57 8.0	11 1.5	0.32
(14) 総合的に(全体的な住みよさ)	714 100.0	103 14.4	324 45.4	218 30.5	41 5.7	8 1.1	8 1.1	12 1.7	0.68

評価点： 「満足」＝2点、「まあ満足」＝1点、「普通」＝0点、「やや不満」＝－1点、「不満」＝－2点として、回答数（無回答、「わからない」を除く）で加重平均した値

下松市の魅力、満足度について13の項目及び総合的な住みよさの観点からの評価を求める設問である。

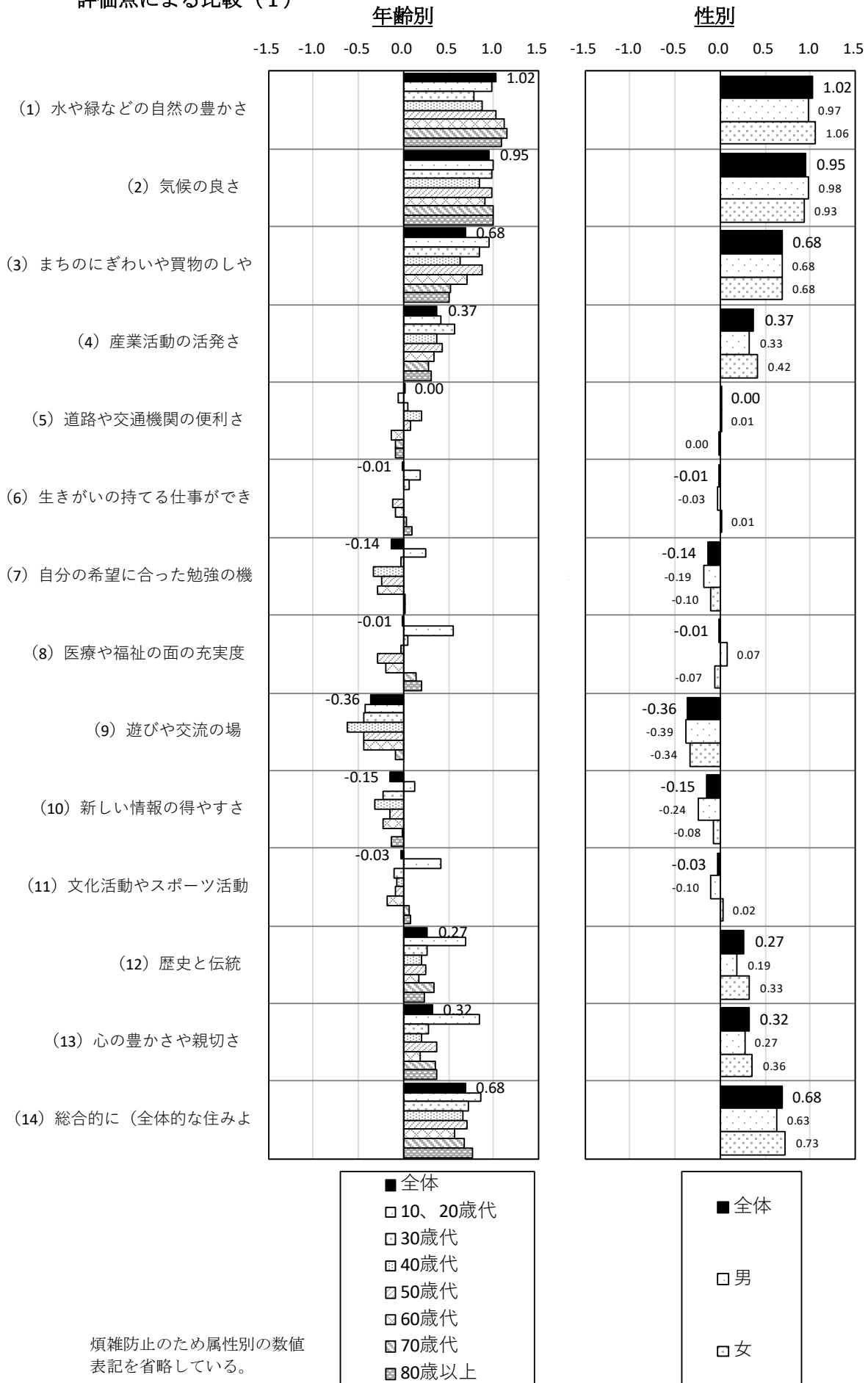
13の項目のうち、「満足」の割合が最も大きく評価点が最大なのは「水や緑などの自然の豊かさ」であり、評価点の順位で、「気候の良さ」、「まちのにぎわいや買物のしやすさ」、「産業活動の活発さ」、「心の豊かさや親切さ」、「歴史と伝統」と続いている。逆に「不満」の割合が最も大きく評価点が最小なのは「遊びや交流の場」である。

年齢別で特徴的な傾向として、全体の最上位項目である「水や緑などの自然の豊かさ」は概ね年齢が高いほど高評価である一方、「まちのにぎわいや買物のしやすさ」、「産業活動の活発さ」は若い世代の方が評価が高いこと、また、「心の豊かさや親切さ」、「歴史と伝統」では10、20歳代で特に評価点が高いこと等があげられる。

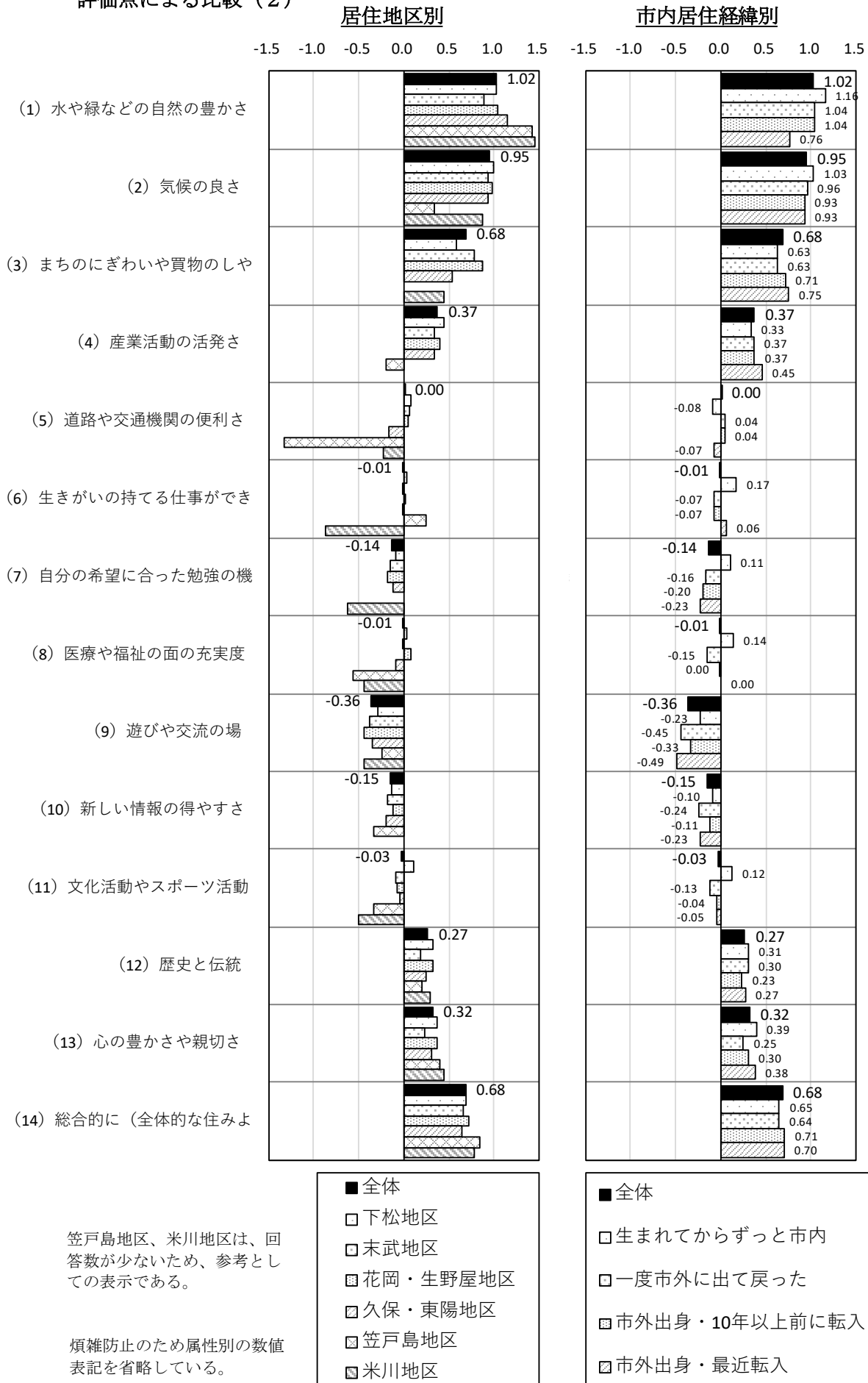
総合的、全体的な住みよさとしては「まあ住みよい」が45.4%と最も多く、評価点は0.68である。この全体的な住みよさの評価点は、10、20歳代や80歳以上ではやや高いが、60歳代では相対的に低いという特徴も見られる。

性別では大半の項目で女性の方が若干厳しい評価となっている。居住地区別では、回答数が少ない笠戸島と米川地区以外で、「まちのにぎわいや買物のしやすさ」の評価が花岡・生野屋地区で最も高いことが注目される。

評価点による比較（1）



評価点による比較（２）

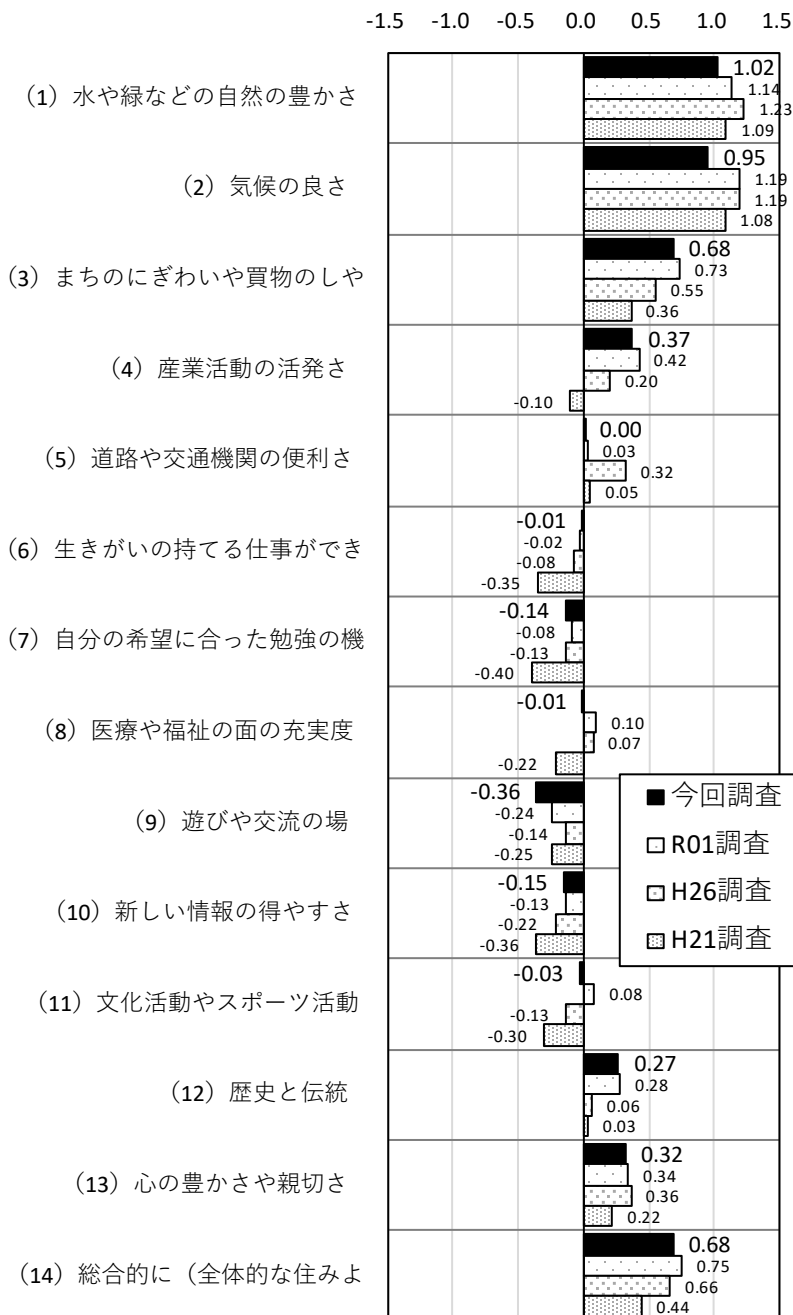


市内居住経緯の相違による傾向の大きな違いは見受けられないが、最も全体評価の低い「遊びや交流の場」の評価点が、市外出身・最近転入者と一度市外に出て戻った人で特に低いことが注目される。

この設問は過去の総合計画改定時のアンケートで繰り返し設けており、その評価点の推移を下図に示す。大半の項目で、前回調査（令和元年）より今回は評価点が低下しており、総合的、全体的な住みよさの評価点もわずかではあるが低下している。

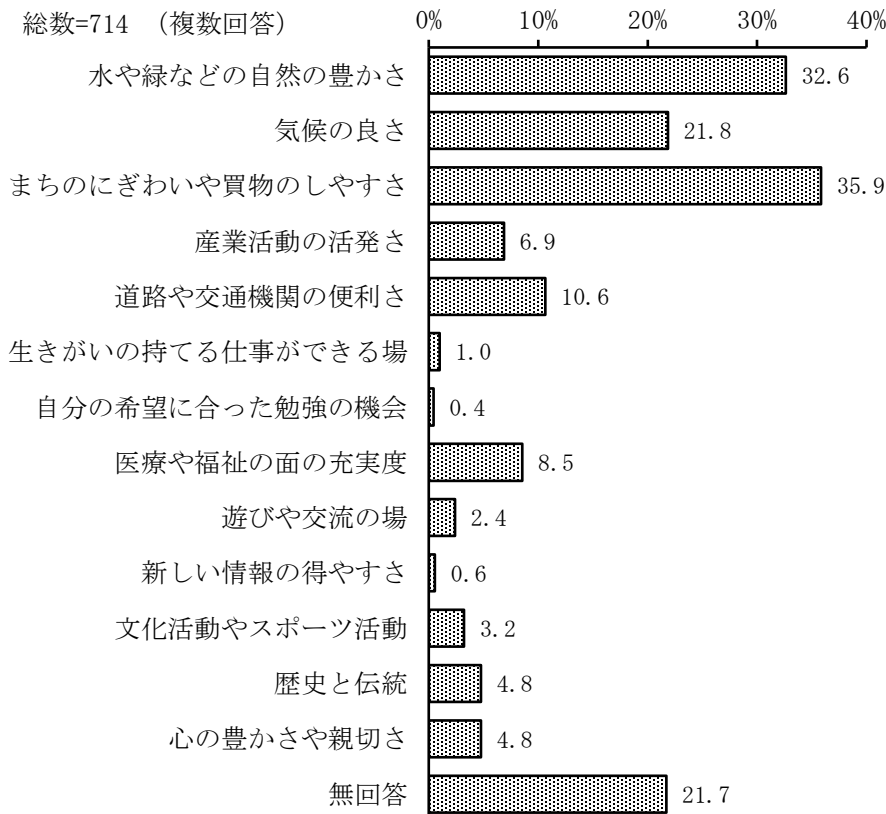
評価点

時系列比較



(2) 下松市の自慢・優れた点

■問4 上の(1)～(13)の中で、下松市に暮らすあなたが自慢できるもの、今後のまちづくりに活かしていくべき優れた点をあげるとしたら、どのようなことですか。(1)～(13)の中から2つまで選んで番号を口の中に記入し、また、具体的な内容を記入してください。

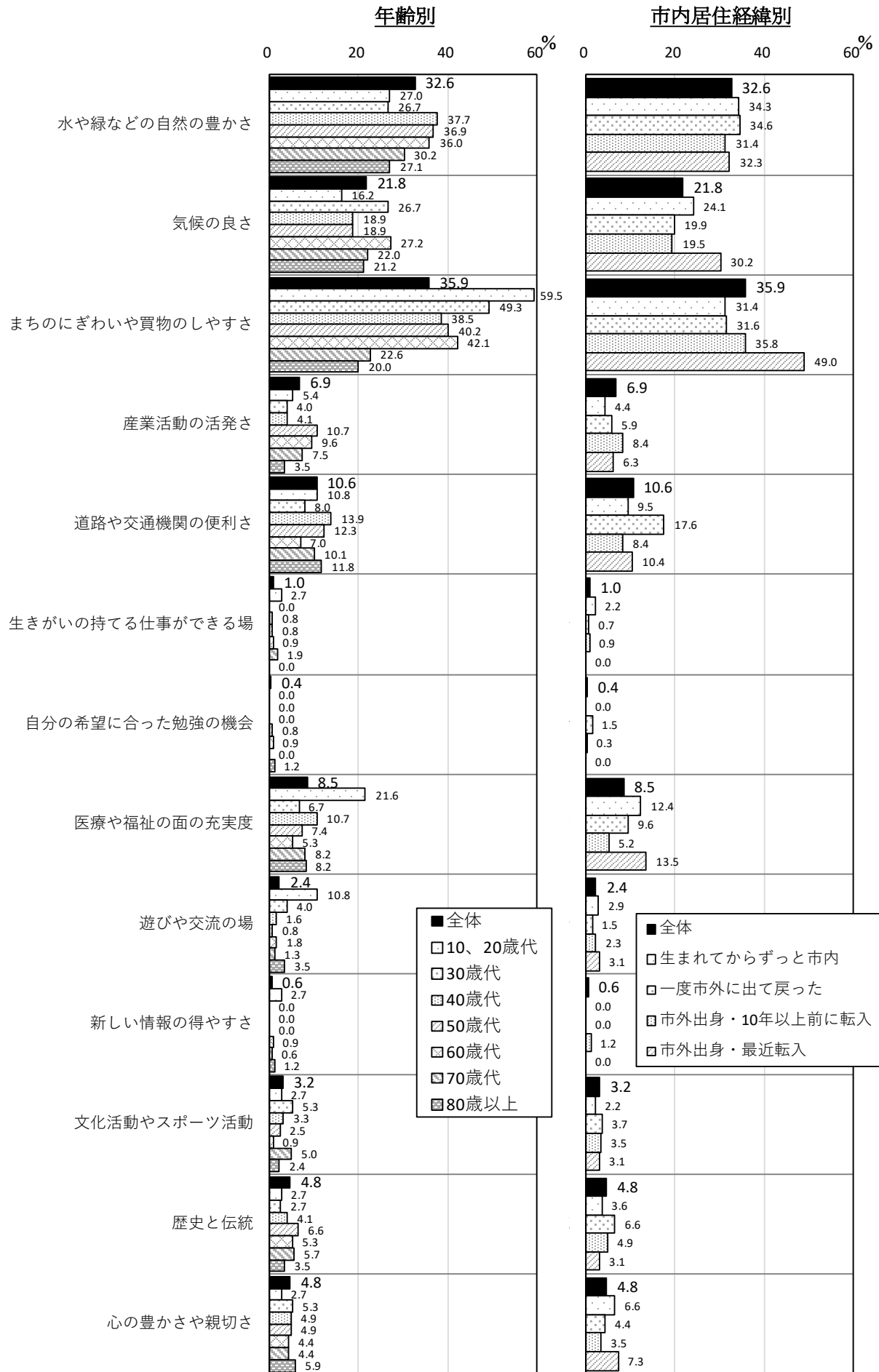


前問で掲げた13の項目から、特に優れた魅力、自慢できるものを2つまで選ぶ設問であるが、特に回答が多いのは「まちのにぎわいや買物のしやすさ」と「水や緑などの自然の豊かさ」でどちらも3割以上の回答者が選択している。これに「気候の良さ」が続き、この3点が下松市民の大きな自慢と言って良いと考えられる。

概ね、前問での評価の高低に対応しているが、「医療や福祉の面の充実度」と「道路や交通機関の便利さ」は、前問での評価は高くないが、ここでの魅力要素としての選択率が比較的高いことが注目される。

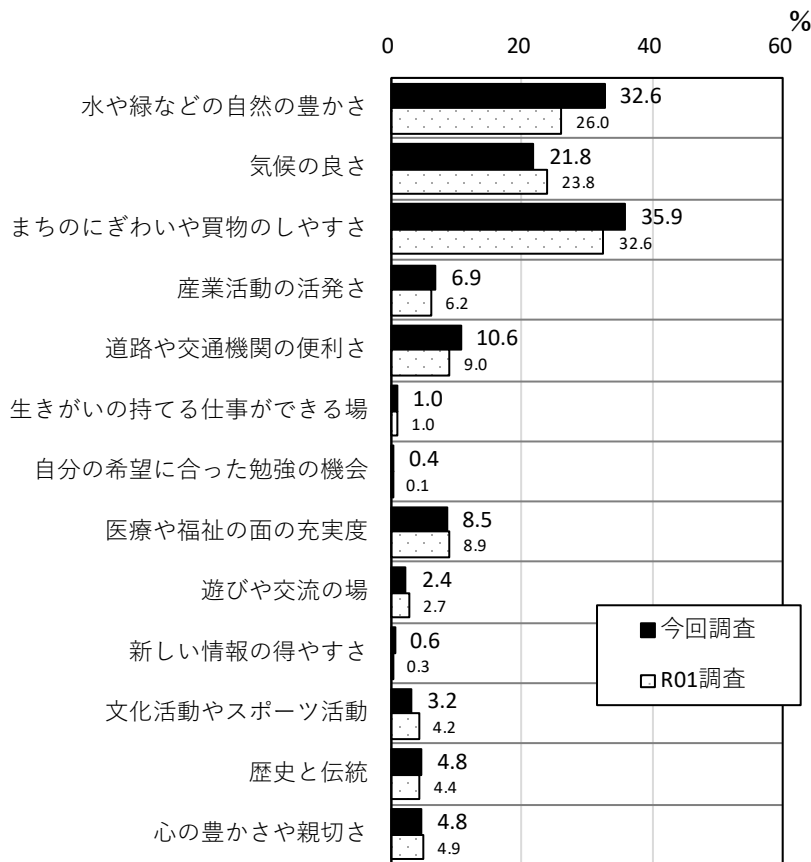
年齢別では、「水や緑などの自然の豊かさ」は40歳代より上の年代で比較的割合が高い一方、「まちのにぎわいや買物のしやすさ」は比較的若い世代で魅力点としての選択率が高いといった特徴も見られる。

また、「まちのにぎわいや買物のしやすさ」や「気候の良さ」では、市外出身・最近転入者で特に魅力・自慢点としての選択率が高いことも注目される。



この設問は前回調査（令和元年）でも行っており、その選択割合を前回と比べると、上位項目のうち「まちのにぎわいや買物のしやすさ」と「水や緑などの自然の豊かさ」では割合を高めているほか、「道路や交通機関の便利さ」でもわずかながら選択率が上昇している。

時系列比較



この設問では、自慢点、活用すべき優れた点として選択した項目についてその具体的内容の記載も求めており、全体で 953 件の記述回答をいただいた。

その中から代表的な内容を抽出して以下に示す。（（ ）内の数値は、当該項目での記述回答数を示す。）（原文のまま）

(1)水や緑などの自然の豊かさ

(233)

海、山、川すべてがそなわっている自然豊かさ。	70 歳代	女	花岡・生野屋
笠戸島のきれいな海、市民は勿論のこと、市外の人たちも沢山訪れていただきたい。	70 歳代	女	下松
米泉湖周辺、紅葉時期はきれいです。いつもきれいに掃除されていると思います。	70 歳代	男	花岡・生野屋
自然豊かで、子どもも昆虫にふれあい機会が多く、空気もきれいで、恋路の様な自然の中にある公園もあり、大人も子どももゆっくりリラックスできる場がある点。	50 歳代	女	下松
スポーツ公園、ウォーキングに最高。季節の花が植えてあり気分も上がる。	50 歳代	男	花岡・生野屋
ダムが 2 つもあり水不足の心配がないのはすごい事です。	80 歳以上	男	花岡・生野屋
緑が多く、水道代も安価である。水源があり豊富で水枯れの心配もない。	80 歳以上	男	末武
水道水は美味しくて、何より安い	40 歳代	女	花岡・生野屋
田舎過ぎず都会過ぎず丁度いい	10、20 歳代	女	末武

(2) 気候の良さ

(156)

大きな災害がない。雨もあまり降らないし、台風も地震もないので住みやすい。	60 歳代	女	下松
温暖な気候で季節を木、草花等で身体で感じられる。	80 歳以上	女	下松
自然災害が少ない町である。気候も温暖である。	60 歳代	男	花岡・生野屋
瀬戸内の四季がしっかりしていて、晴れの日が多く、雪が積もらない	40 歳代	男	花岡・生野屋

(3) まちのにぎわいや買物のしやすさ

(256)

大型店が多いので買い物が便利。	60 歳代	男	花岡・生野屋
下松市の商業施設が充実していて、市外に出てまで買い物に行くことがなく、用事が済ませる。	50 歳代	男	花岡・生野屋
車があれば色々なお店もあるし、広い駐車場(無料)もあるし、買い物は便利だと思う。	60 歳代	女	下松
コンパクトシティ。生活に必要なものがすぐそろう。お店を何軒か廻っても全てが近く、時間がかからない。	40 歳代	女	花岡・生野屋
商業施設がコンパクトにまとまっており、少し車で走るだけでたいがいの買い物は済む。出身地と比べて道路もまっすぐで幅も広くて走りやすい。	40 歳代	女	久保・東陽
ショッピングモールやスーパーが多く、色々な所で買い物をすることができ、欲しいものが手に入りやすい。	10、20 歳代	男	久保・東陽
日常生活に必要な商業施設が衣食住とバランスよく配置され、車社会のインフラとしての駐車スペースもあり、住みよい環境にある。	60 歳代	男	久保・東陽
適度な賑わいがあり一つのブロックで買い物等日常生活が総べて整う。	50 歳代	女	下松

(4) 産業活動の活発さ

(49)

周南工業地帯の中にあるので、ものづくりが活発な点。大きな企業があるので経済活動が良くされている。	50 歳代	男	花岡・生野屋
新幹線等の鉄道車両に代表されるものづくりの技術が集積されていること。	70 歳代	男	久保・東陽
鉄道車両、造船、半導体製造装置など広く、生活や文化スポーツにも関係している点。	80 歳以上	男	久保・東陽
日立製作所をはじめとした世界に誇れる産業があること。	80 歳以上	女	下松

(5) 道路や交通機関の便利さ

(76)

40 年前に比べると、道路が整備され、大変便利になった。今も整備されつつあり、住みよくなっている。	60 歳代	女	下松
最近では道路が整備されて、とても走りやすくなったり駅も近くにあり、誰でも気安く使えると思ったからです。	10、20 歳代	男	花岡・生野屋
道路や信号機が程よく整備されていて、車の運転がしやすいです。山陽新幹線徳山駅、山陽高速道路入口などにも近くにあり、とても便利です。	70 歳代	女	久保・東陽
高速道路 IC や新幹線駅が近くて便利	30 歳代	女	末武

(6) 生きがいの持てる仕事ができる場

(7)

自慢出来る鉄道産業	50 歳代	男	末武
大きな会社がある	40 歳代	女	下松

(7) 自分の希望に合った勉強の機会

(3)

一週間に一度は図書館を利用。読書に努めている。	80 歳以上	男	笠戸島
-------------------------	--------	---	-----

(8) 医療や福祉の面の充実度

(61)

医療関連充実しています。30 分以内にあらゆる系統の医院、病院あります。	40 歳代	男	久保・東陽
高校生まで医療費無料はありがたい。子育て世代としては良い制度です。	30 歳代	女	下松
高齢者の福祉の整備、施設が多く充実して、送迎用が充実して良いと思う。	80 歳以上	男	久保・東陽
子育てのしやすさは自慢できる。更に強化してほしい。	10、20 歳代	男	下松
親の介護の真っ只中だが、様々な福祉サービスを受けられていてとても助けられている	40 歳代	女	下松

(9) 遊びや交流の場

(17)

イベントが沢山ある(子どもに向けた)。公園がたくさんある。	10、20 歳代	女	下松
公園や図書館がきれい	30 歳代	女	花岡・生野屋

(10)新しい情報の得やすさ**(4)**

メールで新しい情報が発信されてくるのはいいと思います。	10、20 歳代	女	花岡・生野屋
-----------------------------	----------	---	--------

(11)文化活動やスポーツ活動**(23)**

下松市文化会館のイベントや公演の充実。	70 歳代	男	久保・東陽
自治会などでのスポーツ活動。年に数回だけでも良い取組だと思っている。	40 歳代	女	久保・東陽
吹奏楽の集い等、音楽と触れ合う場がある。	50 歳代	女	末武
ハンドボールやバドミントンに育成の力を入れていると思います。	30 歳代	男	花岡・生野屋

(12)歴史と伝統**(34)**

「きつねの嫁入り」珍しいお祭りだと思うので、これからも大切に守ってほしい。	40 歳代	女	末武
切山歌舞伎、稲穂祭り、降松星太鼓、天王森古墳。	70 歳代	男	久保・東陽
知名度は低いですが、守らなくてはいけない歴史と伝統があると思う。	60 歳代	女	末武

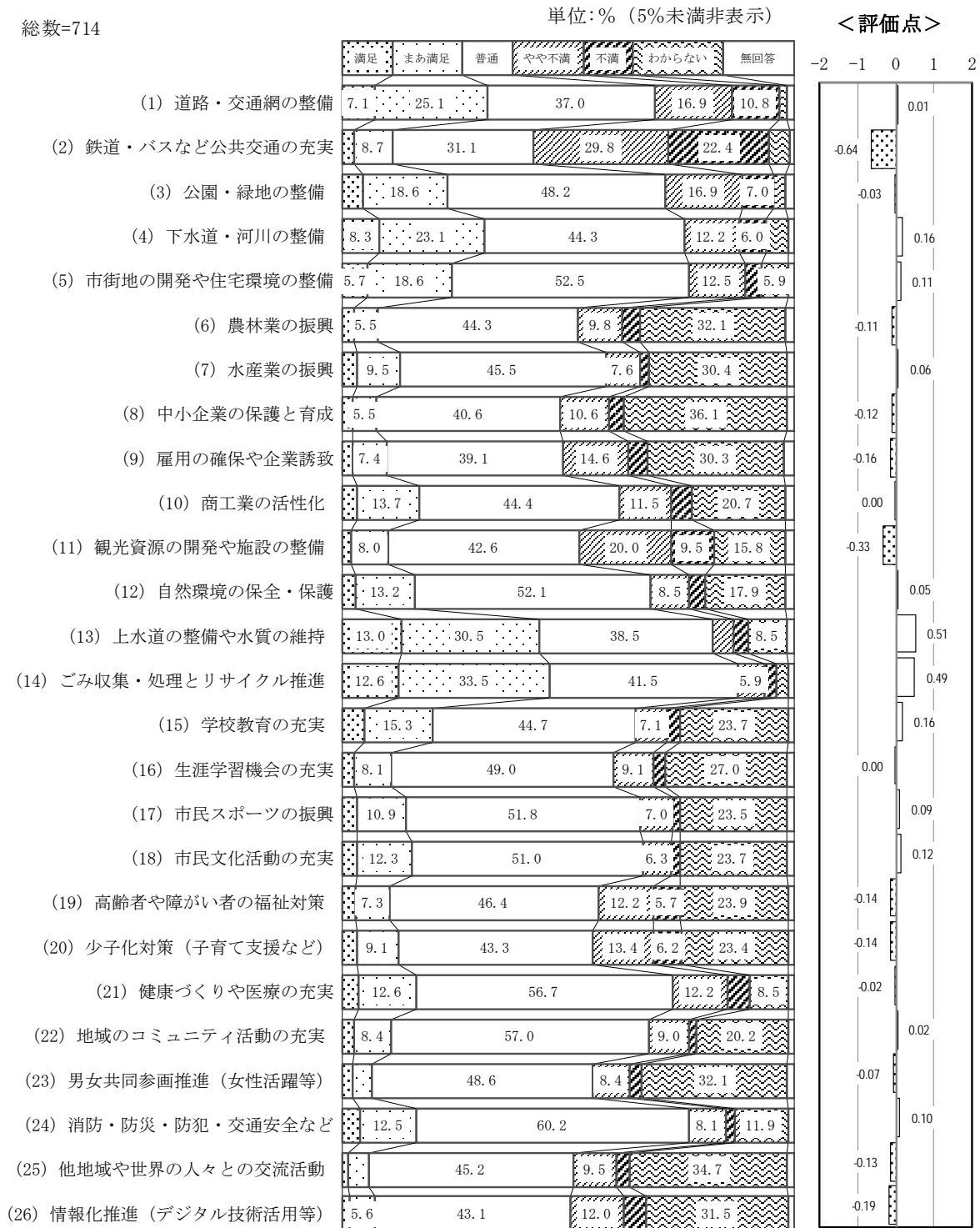
(13)心の豊かさや親切さ**(34)**

子どもから大人まで明るく挨拶できる町、なかなかありません。下松に住んで間もなく、ビックリしたのを思い出しました。	50 歳代	女	下松
自治会内、交流関係で大いに親切さを感じることが多い。	70 歳代	男	下松
他市から引っ越してきましたが、今の住居の周りの方がとても親切で助かっています	50 歳代	女	下松

3. まちづくり施策の満足度・重要性

(1) 施策の満足度

■問5 下松市のまちづくり施策について、あなたはどの程度満足していますか。次の分野ごとに、それぞれの「現在の満足度」の程度を1～6の中から1つずつ選んで、番号を○で囲んでください。



評価点： 「満足」=2点、「まあ満足」=1点、「普通」=0点、「やや不満」=-1点、「不満」=-2点として、回答数（無回答、「わからない」を除く）で加重平均した値

	全体	満足	まあ満足	普通	やや不満	不満	わからない	無回答	評価点
(1) 道路・交通網の整備	714 100.0	51 7.1	179 25.1	264 37.0	121 16.9	77 10.8	10 1.4	12 1.7	0.01
(2) 鉄道・バスなど公共交通の充実	714 100.0	18 2.5	62 8.7	222 31.1	213 29.8	160 22.4	32 4.5	7 1.0	-0.64
(3) 公園・緑地の整備	714 100.0	34 4.8	133 18.6	344 48.2	121 16.9	50 7.0	18 2.5	14 2.0	-0.03
(4) 下水道・河川の整備	714 100.0	59 8.3	165 23.1	316 44.3	87 12.2	43 6.0	34 4.8	10 1.4	0.16
(5) 市街地の開発や住宅環境の整備	714 100.0	41 5.7	133 18.6	375 52.5	89 12.5	25 3.5	42 5.9	9 1.3	0.11
(6) 農林業の振興	714 100.0	18 2.5	39 5.5	316 44.3	70 9.8	29 4.1	229 32.1	13 1.8	-0.11
(7) 水産業の振興	714 100.0	23 3.2	68 9.5	325 45.5	54 7.6	15 2.1	217 30.4	12 1.7	0.06
(8) 中小企業の保護と育成	714 100.0	16 2.2	39 5.5	290 40.6	76 10.6	24 3.4	258 36.1	11 1.5	-0.12
(9) 雇用の確保や企業誘致	714 100.0	17 2.4	53 7.4	279 39.1	104 14.6	29 4.1	216 30.3	16 2.2	-0.16
(10) 商工業の活性化	714 100.0	23 3.2	98 13.7	317 44.4	82 11.5	32 4.5	148 20.7	14 2.0	0.00
(11) 観光資源の開発や施設の整備	714 100.0	15 2.1	57 8.0	304 42.6	143 20.0	68 9.5	113 15.8	14 2.0	-0.33
(12) 自然環境の保全・保護	714 100.0	22 3.1	94 13.2	372 52.1	61 8.5	24 3.4	128 17.9	13 1.8	0.05
(13) 上水道の整備や水質の維持	714 100.0	93 13.0	218 30.5	275 38.5	32 4.5	23 3.2	61 8.5	12 1.7	0.51
(14) ごみ収集・処理とリサイクル推進	714 100.0	90 12.6	239 33.5	296 41.5	42 5.9	20 2.8	18 2.5	9 1.3	0.49
(15) 学校教育の充実	714 100.0	35 4.9	109 15.3	319 44.7	51 7.1	21 2.9	169 23.7	10 1.4	0.16
(16) 生涯学習機会の充実	714 100.0	20 2.8	58 8.1	350 49.0	65 9.1	17 2.4	193 27.0	11 1.5	0.00
(17) 市民スポーツの振興	714 100.0	24 3.4	78 10.9	370 51.8	50 7.0	13 1.8	168 23.5	11 1.5	0.09
(18) 市民文化活動の充実	714 100.0	23 3.2	88 12.3	364 51.0	45 6.3	13 1.8	169 23.7	12 1.7	0.12
(19) 高齢者や障がい者の福祉対策	714 100.0	22 3.1	52 7.3	331 46.4	87 12.2	41 5.7	171 23.9	10 1.4	-0.14
(20) 少子化対策（子育て支援など）	714 100.0	23 3.2	65 9.1	309 43.3	96 13.4	44 6.2	167 23.4	10 1.4	-0.14
(21) 健康づくりや医療の充実	714 100.0	27 3.8	90 12.6	405 56.7	87 12.2	35 4.9	61 8.5	9 1.3	-0.02
(22) 地域のコミュニティ活動の充実	714 100.0	18 2.5	60 8.4	407 57.0	64 9.0	11 1.5	144 20.2	10 1.4	0.02
(23) 男女共同参画推進（女性活躍等）	714 100.0	16 2.2	32 4.5	347 48.6	60 8.4	19 2.7	229 32.1	11 1.5	-0.07
(24) 消防・防災・防犯・交通安全など	714 100.0	29 4.1	89 12.5	430 60.2	58 8.1	14 2.0	85 11.9	9 1.3	0.10
(25) 他地域や世界の人々との交流活動	714 100.0	10 1.4	32 4.5	323 45.2	68 9.5	22 3.1	248 34.7	11 1.5	-0.13
(26) 情報化推進（デジタル技術活用等）	714 100.0	12 1.7	40 5.6	308 43.1	86 12.0	34 4.8	225 31.5	9 1.3	-0.19

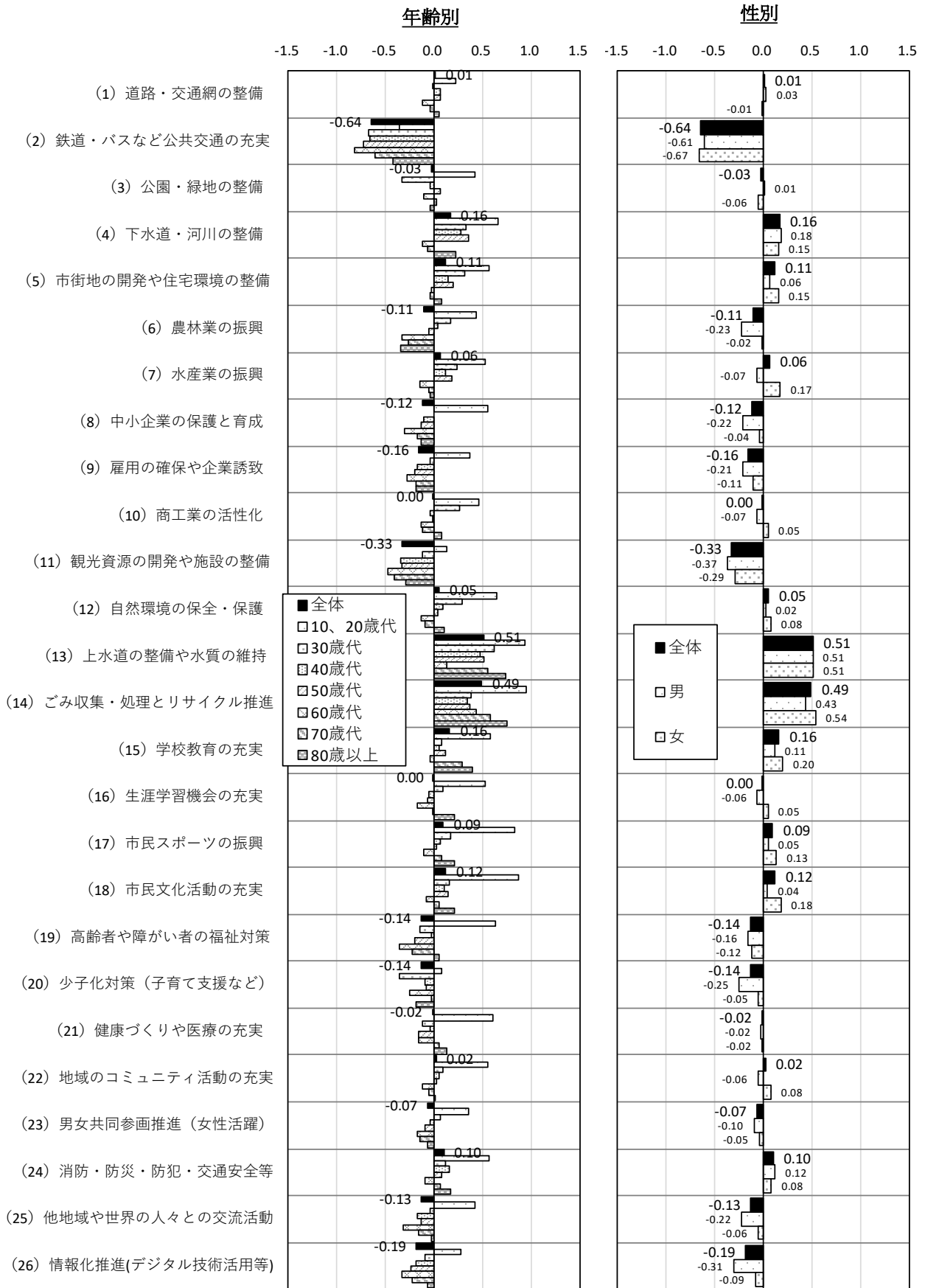
評価点： 「満足」＝2点、「まあ満足」＝1点、「普通」＝0点、「やや不満」＝-1点、「不満」＝-2点として、回答数（無回答、「わからない」を除く）で加重平均した値

下松市のまちづくり施策の分野を 26 項目掲げ、その現状に対する満足度を尋ねる設問である。比較のために評価点を算出しているが、この評価点がプラス（平均的な評価が「満足」寄り）なのは 12 項目であり、マイナス（平均的な評価が「不満」寄り）の 14 項目より少ない。

特に高評価であるのが目立つのは「上水道の整備や水質の維持」と「ごみの収集・処理とリサイクル推進」の 2 項目で、「満足」と「まあ満足」の合計割合が 4 割を超えている一方で、「やや不満」と「不満」の合計割合が 1 割に満たない。逆に、評価点が最も低い（-0.64）のは「鉄道・バスなど公共交通の充実」で、「やや不満」と「不満」の合計割合が 5 割を超えている。「観光資源の開発や施設の整備」もこれに次いで平均的な評価が低い。

年齢別に評価点を比較すると、全体に 10、20 歳代の評価が他の年代に比べて高く、年齢が高い層での評価が比較的低い傾向がある中で、子育ての中心世代である 30 歳代で「少子化対策（子育て支援など）」や「公園・緑地の整備」の評価点が相対的に低いことや、高齢者年齢に達する前後の 60 歳代で「高齢者や障がい者の福祉対策」の評価点が同じく相対的に低いことが目につき、施策対象の当事者が比較的厳しい見かたをしている状況が読み取れる。

性別では、全体評価が高い「ごみの収集・処理とリサイクル推進」で特に女性の評価点の高さが目立つほか、逆に、「鉄道・バスなど公共交通の充実」では女性の方が評価点がやや低い。一方、「観光資源の開発や施設の整備」のほか「少子化対策（子育て支援など）」や「情報化推進（デジタル技術活用など）」などでは男性の方が評価点が低いことが注目される。

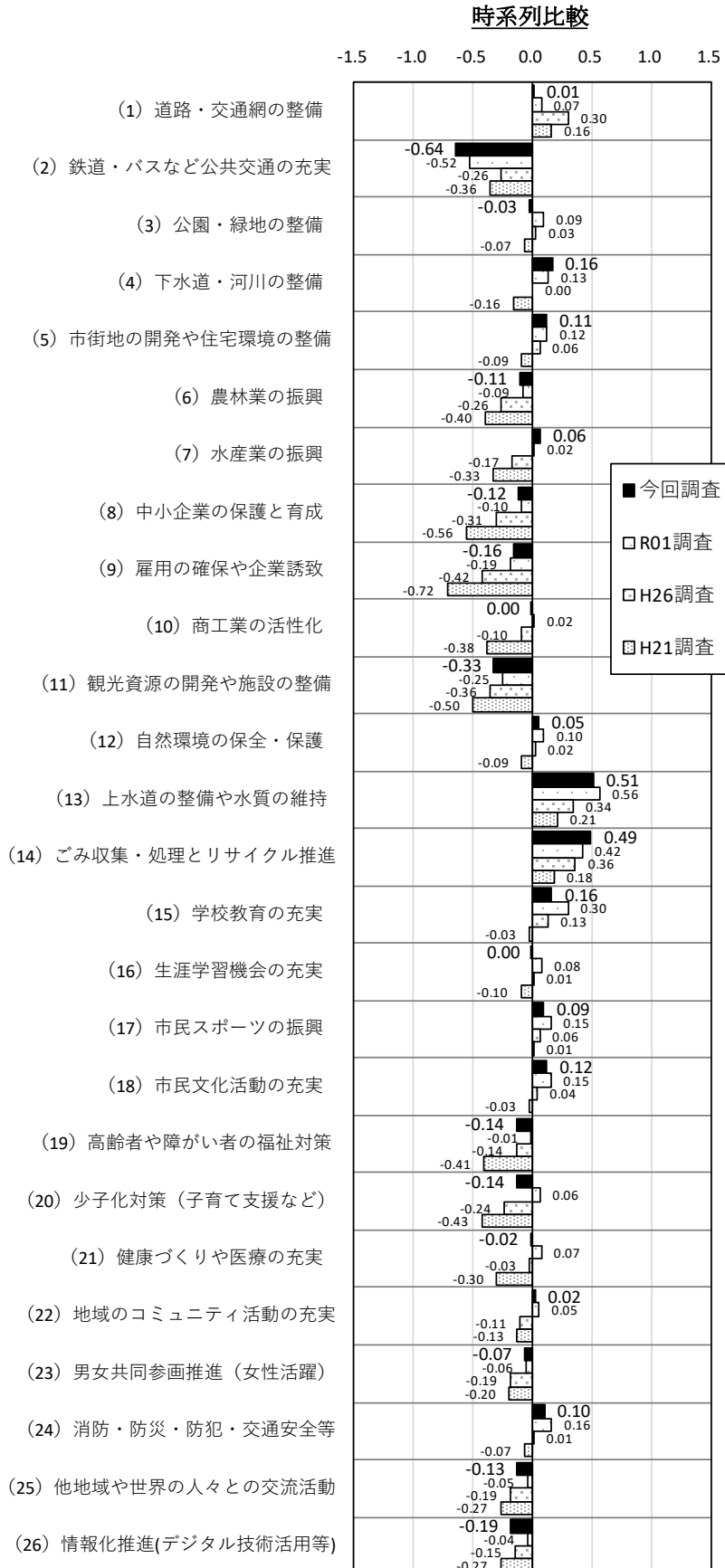


煩雑防止のため属性別の数値表記を省略している。

この設問は、過去の総合計画改定時の市民アンケート調査でも同様に実施しており、各項目の評価点の推移を右図に示す。

総体として、前回調査（令和元年）の結果に比べて評価点が低下した項目が多いことが指摘できる。「上水道の整備や水質の維持」や「観光資源の開発や施設の整備」、「学校教育の充実」、「市民スポーツの振興」、「市民文化活動の充実」、「消防・防災・防犯・交通安全等」など、前回調査まで上昇を続けていたものが今回調査で下降したのも多い。「鉄道・バスなど公共交通の充実」は前回も前々回から低下していたが今回さらに評価を下げている。

（項目名の表現は実施回により若干異なる場合がある）



この設問では、満足度を選択した理由としての意見がある場合、2項目まで項目番号を選択した上で理由の記述回答を求めている。総計で579件の記述回答をいただいたが、各項目での代表的な記載内容を抽出して以下に示す。(原文のまま)(()内の数値は、当該項目での記述回答数を示す。)

(1)道路・交通網の整備

(69)

普通	ここ数年で道路は整備されてきたが、渋滞がひどくなる一方なので、もっと道路を増やして欲しい。	60歳代	男	末武
やや不満	自転車移動が多いので道路整備をお願いします。	80歳以上	女	下松
やや不満	センターラインや止まれなどがもうほぼ見えないほど消えていても中々補修されない。雨の日は一つも見えない。	40歳代	女	花岡・生野屋
不満	市道の維持管理が不十分。(舗装欠損、路面沈没、路肩崩落、路肩草刈、上空及び洗面雑木の通行支障等の放置。)	50歳代	男	米川

(2)鉄道・バスなど公共交通の充実

(121)

普通	運転免許証を返納すると、とたんに家から出れなくなってしまいます。集合バスなど必要かと。	70歳代	女	花岡・生野屋
やや不満	高齢者になってからの交通手段が心配。バス停まで遠いし、バスの数が少ない。タクシーは高い。	50歳代	女	末武
やや不満	バスのダイヤと下松駅の電車のダイヤがリンクしておらず使いづらい。	60歳代	男	末武
不満	車を運転できない人には公共交通が不便なので、それにかわるコミュニティバスなどを充実させてほしい。	30歳代	男	花岡・生野屋
不満	バス、電車の便が少ない。岩徳線は特に少ない。	50歳代	男	花岡・生野屋

(3)公園・緑地の整備

(56)

まあ満足	下松スポーツ公園は花や緑が整備されていて良いと思うが、野良犬が複数いるので、そのあたりの対策をしてもらいたい。	40歳代	女	下松
普通	スポーツ公園はあるが、車が必須で都市にあるような歩いていける緑の多い散歩するような公園が、街の中心にないのが残念。	50歳代	女	末武
やや不満	公園がたくさんあっても草ぼうぼうだったり駐車場がなかったりで遊べない	30歳代	女	久保・東陽
不満	老人、子どもが利用できる(散歩等)整備された公園がほしい。	70歳代	男	下松

(4)下水道・河川の整備

(41)

まあ満足	護岸工事が進み水害に対する安心感が増した。	60歳代	男	末武
やや不満	大雨時の川の氾濫による災害が不安である。河川の整備を進めて欲しい。	40歳代	男	末武
不満	下水道がない地域なので平等にしてほしい。	70歳代	女	久保・東陽

(5)市街地の開発や住宅環境の整備

(20)

普通	田畑や空き地、空き家の管理整備が無く将来展望が無い。	60歳代	男	末武
やや不満	狭い道に住宅が増え、環境を整えてから住宅を増やすと良い!	50歳代	男	花岡・生野屋
不満	開発が加速し、市街地、住宅地が増えたため、自然のダム役割をしていた田畑が減り、河川の氾濫が起こりやすくなっていると思う。そこも考慮したまちづくり構想が必要では。	70歳代	女	下松

(6)農林業の振興

(16)

まあ満足	農業体験などよく目にします。	40歳代	女	花岡・生野屋
やや不満	農林業の後継者の育成に力を入れてほしい。	80歳以上	女	下松
不満	山が放置され荒れ放題。	60歳代	女	花岡・生野屋

(7)水産業の振興

(5)

まあ満足	鮎の養殖に関するニュースを見た際に取り組みがある事を知った	30歳代	女	末武
------	-------------------------------	------	---	----

(8)中小企業の保護と育成

(4)

やや不満	中小企業への補助。育成を今以上にやってほしい。	50歳代	男	花岡・生野屋
------	-------------------------	------	---	--------

(9)雇用の確保や企業誘致**(13)**

やや不満	市外に働きに出る人が多いと思い、市内で働ける場所がさらにあると良いなど感じる。	40歳代	女	花岡・生野屋
不満	雇用の数は少ないと思う。求人誌を見ても魅力的な所はない。全体的に時給が低すぎる。	40歳代	女	末武

(10)商工業の活性化**(11)**

やや不満	豊井地区に店がなく、日常がまわらない。	60歳代	男	下松
不満	下松は商店街が無くなり、空き家が多くなった。	70歳代	男	下松

(11)観光資源の開発や施設の整備**(21)**

まあ満足	下松ブランドを作り上げようとしているのが見て取れる点。	30歳代	男	下松
やや不満	笠戸島は観光地として良いと思うが、食事をしたり買い物できる場所が少ないので、そういう施設が出来れば良いと思う。	40歳代	女	下松
不満	国内外の来訪者を案内する観光資源が見当たらない。	60歳代	男	末武

(12)自然環境の保全・保護**(9)**

まあ満足	野良犬が多すぎて危険なので早急に対応して欲しい	10、20歳代	女	末武
------	-------------------------	---------	---	----

(13)上水道の整備や水質の維持**(23)**

満足	水道料金が安いのはとても魅力的である	30歳代	男	末武
不満	自分が毎日飲んでいる水の水質が安全なのか、本当に不安になります。PFAS 検査等実施したら市民に分かりやすく知らせて頂きたいです。	60歳代	女	末武

(14)ごみ収集・処理とリサイクル推進**(23)**

満足	ゴミの収集、処理について実感できたからです。	50歳代	女	下松
不満	ゴミの分別が細かすぎる。分別が分からないのでゴミ出せない。	70歳代	女	末武

(15)学校教育の充実**(24)**

やや不満	人手不足。教育のゆとりのなさが、子どもの教育の質を下げってしまう可能性がある。早急に人手を現場に届けてほしい。	30歳代	女	下松
不満	学校全体の人数が多すぎて行き届いていない。アピールできる子しか成長できない。	40歳代	女	末武
不満	少子化対策として市内の子どもたちの教育の充実。ふるさととして愛着が持てるような教育の充実をしてほしい。	50歳代	女	久保・東陽

(16)生涯学習機会の充実**(3)**

やや不満	図書館の蔵書数が少なすぎる。また延長するのにWEB でできなく不便である。公民館の講座が少なすぎて選べない。	60歳代	男	久保・東陽
------	--	------	---	-------

(17)市民スポーツの振興**(13)**

まあ満足	スポーツイベントがよくある。	40歳代	女	花岡・生野屋
やや不満	光の交流村の様なスポーツプログラムがあると良いのですが、恋路のプールがなくなったことは残念です。	50歳代	女	下松

(18)市民文化活動の充実**(2)**

普通	吹奏楽のまちと言っているのなら、市民の方が多く吹奏楽に触れる機会があると良いと思う。	50歳代	男	花岡・生野屋
----	--	------	---	--------

(19)高齢者や障がい者の福祉対策**(23)**

やや不満	高齢者の対策として、ケアハウスまた老人施設の数が足りていない。また、入居者の経済的な不安、家族の負担を考えれば、日々の費用が高いと思う。	50歳代	男	末武
不満	障がい児を育てていますが市外の療育園を利用したり、市内で充実しているとは言い難いです。	30歳代	女	久保・東陽

(20)少子化対策(子育て支援など)**(37)**

満足	中高生の医療費無償化ありがとうございます。	50歳代	男	末武
----	-----------------------	------	---	----

やや不満	お金の問題だけでなく、職場の理解に努めてほしい。また、お金の面でも安心して産み育てられる環境を、今以上につくってもらえるとよい。市内の小児科も増えるとよい。	30 歳代	女	下松
不満	若年層の夫婦への金銭的な援助が足りていない。子どもをつくろうという気にならない。	10、20 歳代	男	下松
不満	保育園が少なすぎて待機児童が年々増えていて困る	30 歳代	女	久保・東陽

(21)健康づくりや医療の充実 (12)

まあ満足	総合病院をはじめ医療機関が多く、健診案内、健診補助も充実している	50 歳代	女	下松
不満	産院がない。産後施設もなく隣の市まで行かなくてはならない。小児科も少ない。その点不便に感じる。	30 歳代	女	下松

(22)地域のコミュニティ活動の充実 (1)

普通	地域自治体等で実施の回覧板を廃止。デジタル技術を活用した情報提供。	70 歳代	男	末武
----	-----------------------------------	-------	---	----

(23)男女共同参画推進(女性活躍) (2)

不満	女性が活躍できる職が限られている。そして給料が安い。専門職の給料が安すぎる。	30 歳代	女	下松
----	--	-------	---	----

(24)消防・防災・防犯・交通安全等 (9)

普通	防災面にもっと力を注いで欲しい。避難場所が少ないと感じる。	60 歳代	男	末武
----	-------------------------------	-------	---	----

(25)他地域や世界の人々との交流活動 (5)

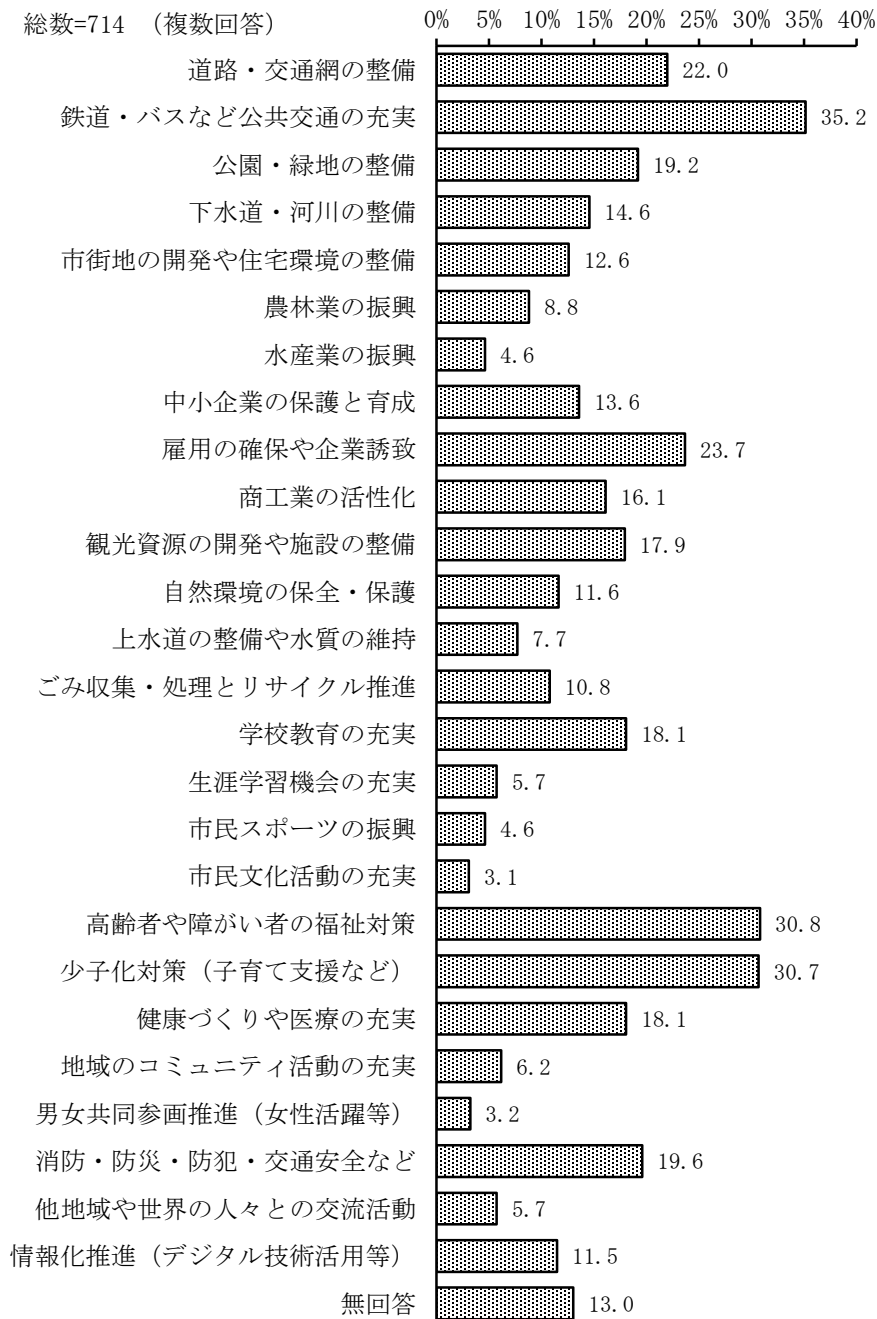
不満	外国籍の方が増加傾向にあるが、もっと日本の良い所をアピール、交流できるようになるといいと思う。	40 歳代	女	下松
----	---	-------	---	----

(26)情報化推進(デジタル技術活用等) (16)

まあ満足	病院でのアプリでの受診ができ、待ち時間など確認出来てよい。スーパー等での QR 決算もとても便利だと思った。	30 歳代	女	末武
やや不満	デジタルの活用を促すなら、歳を重ねた人にも勉強会などが必要だと思う。	70 歳代	女	花岡・生野屋
不満	市役所の手続などは、専門業者を入れて、総合的にデザインされたデジタル化を進めてほしい。	30 歳代	男	下松

(2) 今後の施策の重要度

■問6 左の(1)～(26)の中で、これからのまちづくりでは、特にどのような分野の施策を進めることが重要だと思いますか。 (1)～(26)の中から5つまで選んで番号を口の中に記入してください。



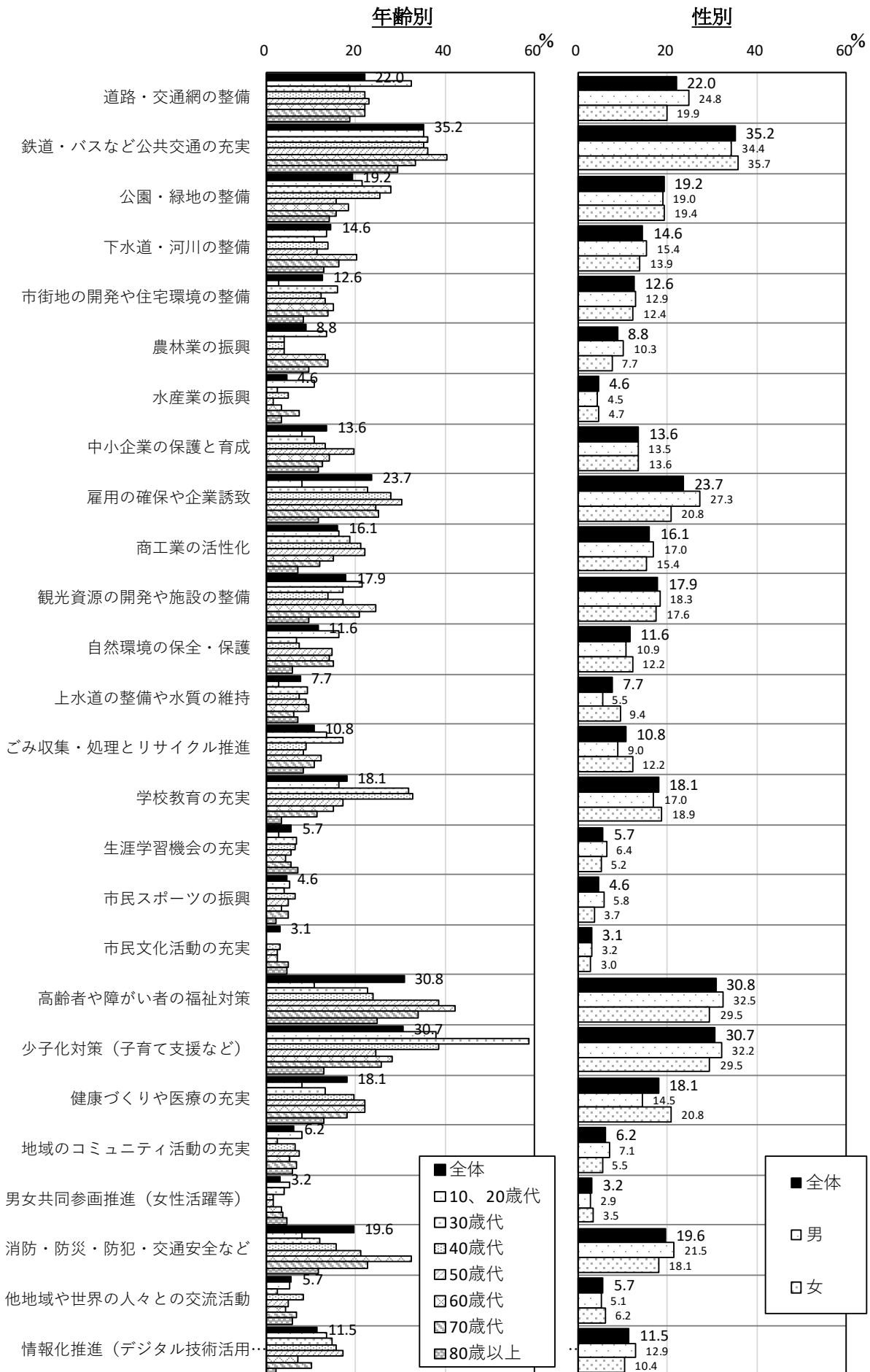
ここでは、問5で掲げた26項目のまちづくり施策において、今後重要と思われるもの5つ以内の選定を求めている。

最も多いのは「鉄道・バスなど公共交通の充実」で、35.2%の回答者が指摘しており、これは前問で満足度が最も低かった項目である。そのほか、特に目立つのは、「高齢者や障がい者の福祉対策」、「少子化対策 (子育て支援など)」、「雇用の確保や企業誘致」、「道路・交通網の整備」などである。

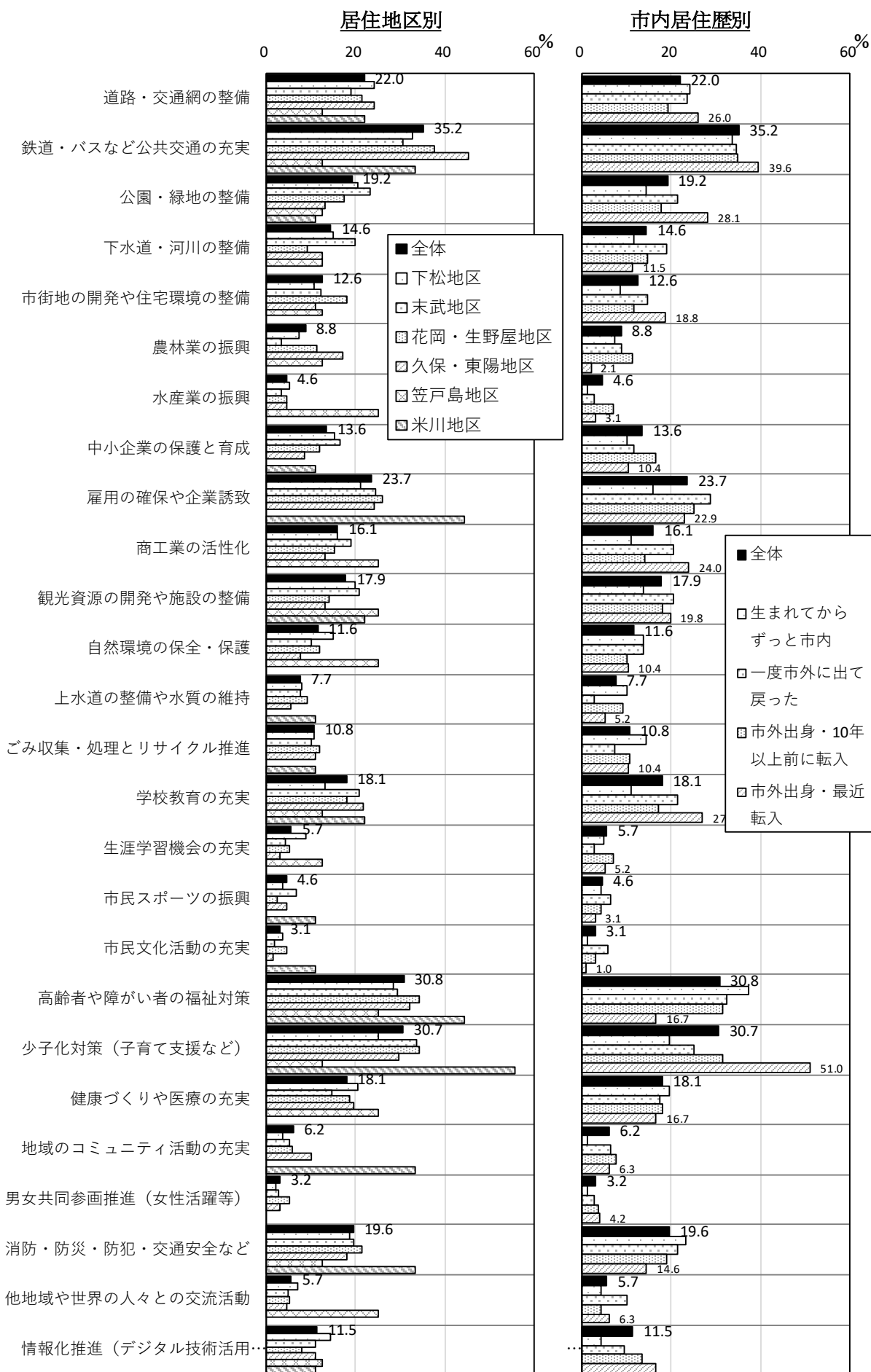
「少子化対策 (子育て支援など)」や「学校教育の充実」、「公園・緑地の整備」は子育て世代である30歳代前後、また市外出身で最近転入した人を中心に支持が高く、また、「高齢者や障がい者の福祉対策」、「消防・防災・防犯・交通安全など」は50～70歳代の高齢者層での支持

の高さが目立つ。「雇用の確保や企業誘致」は40～60歳代の現役世代、また、女性より男性での割合が比較的多い。

居住地区別 (笠戸島、米川地区を除く) では、「鉄道・バスなど公共交通の充実」や「農林業の振興」が久保・東陽地区で、「市街地の開発や住宅環境の整備」が花岡・生野屋地区で相対的に高い支持率であるといった特徴が見られる。



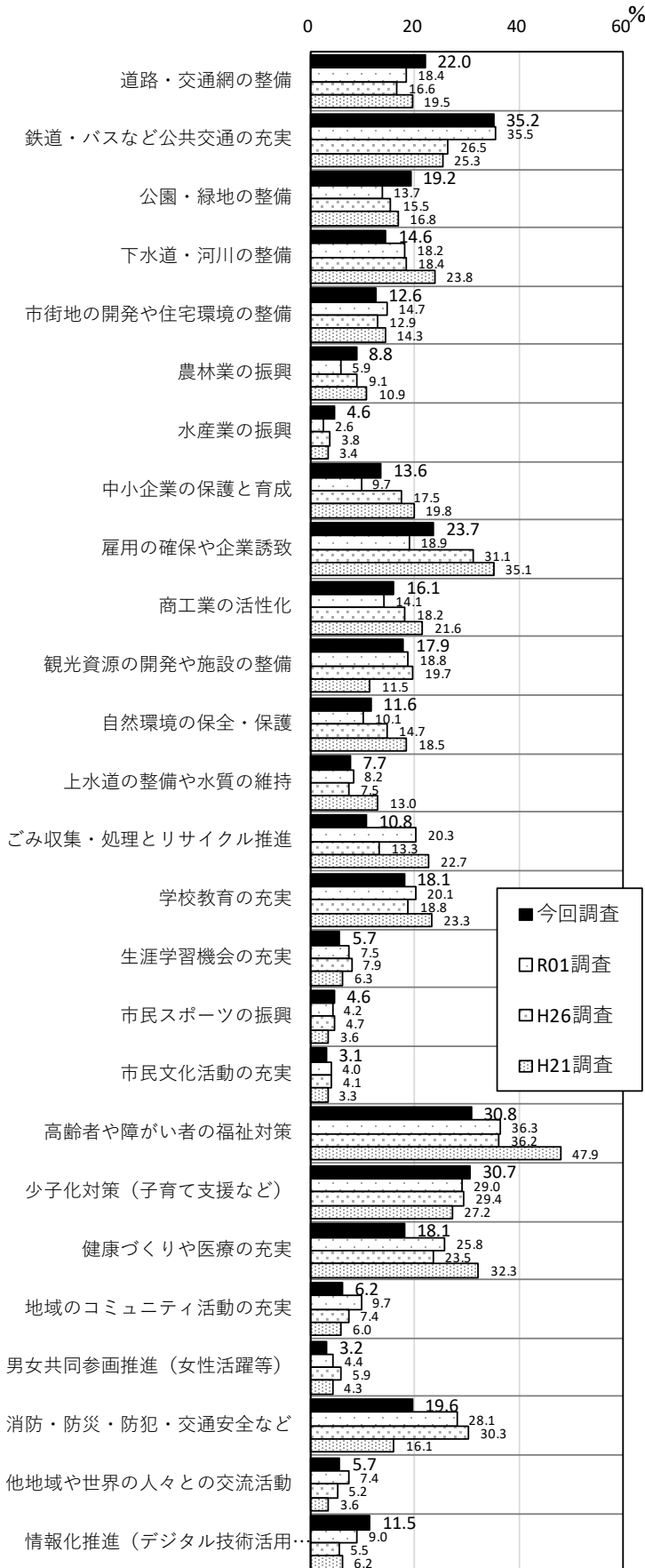
煩雑防止のため属性別の数値表記を省略している。



笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考としての表示である。

煩雑防止のため属性別の数値表記を省略している。

時系列比較

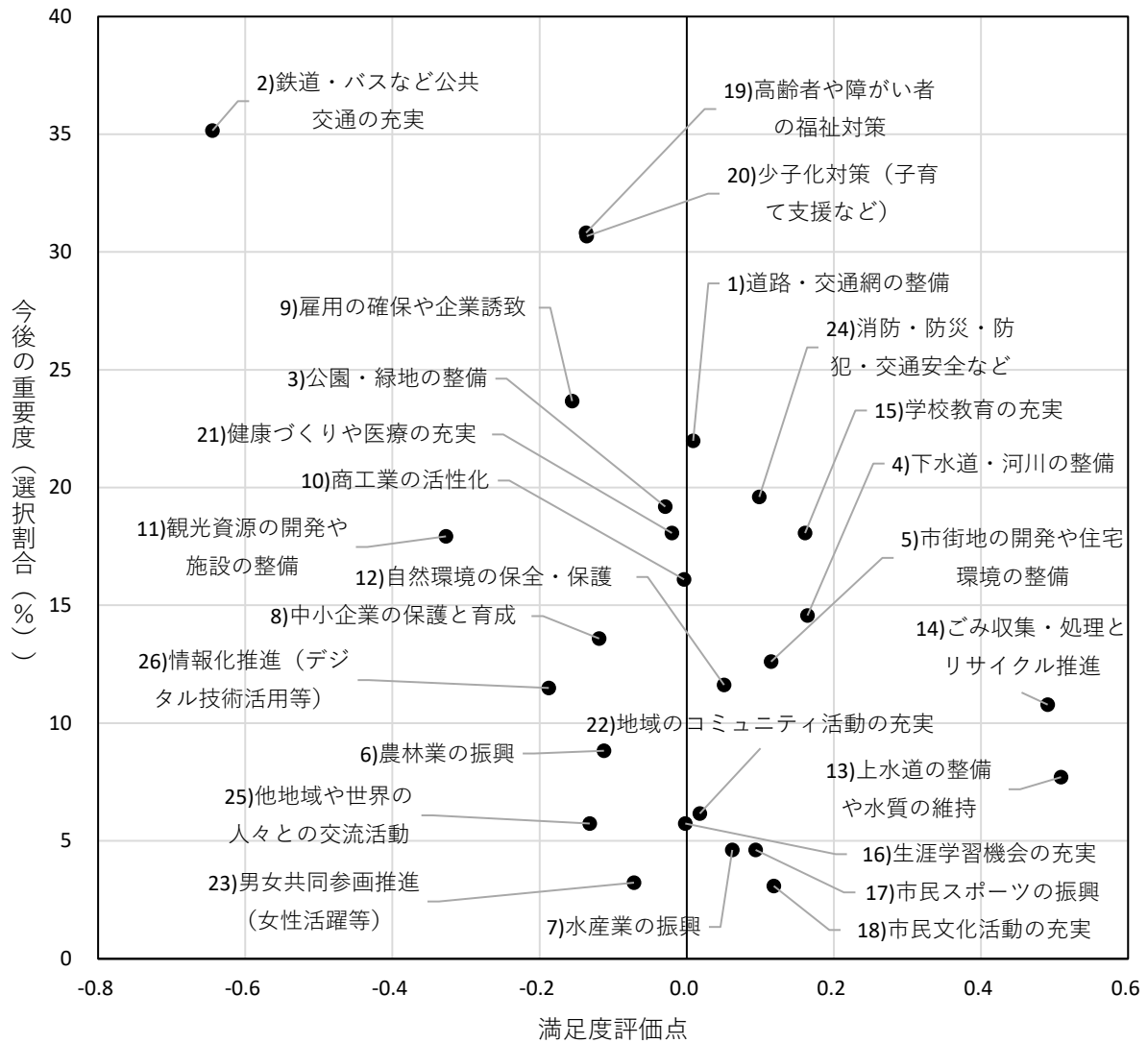


本問についても過去の調査結果と比較すると、項目間の相対関係は大きくは変わらないが、前回調査（令和元年）まで割合を減らしていた「雇用の確保や企業誘致」や「商工業の活性化」で再び指摘割合が増加していることや、「高齢者や障がい者の福祉対策」、「健康づくりや医療の充実」、「消防・防災・防犯・交通安全など」などが前回から割合を減らす一方で、「公園・緑地の整備」や「少子化対策（子育て支援など）」がわずかながら割合を増やしている等の変化も見られる。

前問における満足度の評価点と、本問での今後の重要施策選択割合の関係を下図に示す。

満足度が低く重要度が高い項目グループ(図の左上)として、「鉄道・バスなど公共交通の充実」、「高齢者や障がい者の福祉対策」、「少子化対策(子育て支援など)」、「雇用の確保や企業誘致」があげられる。また、満足度は比較的高いが重要度も高い項目(図の右上)として、「道路・交通網の整備」や「消防・防災・防犯・交通安全など」、「学校教育の充実」があげられる。

満足度評価点と今後の重要施策選択割合の関係



4. コミュニティ・協働の意識

(1) コミュニティ活動への参加

■問7 あなたは、次のような活動に現在の程度参加していますか。また、今後の程度参加したいと思いますか。次の(1)～(6)について、それぞれの選択肢から1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

- (1) 自治会、隣近所などの活動
 (2) 子ども会、PTA、婦人会、老人会などの活動
 (3) 教養、趣味、スポーツなどのサークル活動
 (4) まちづくり団体や地域おこしなどの地域活動
 (5) 福祉、環境、防災、災害復興支援などの活動
 (6) 人権、国際交流などの活動

<現在の参加程度> 選択肢

1. 自ら機会を作って積極的に参加している
2. 機会があればできるだけ参加している
3. ある程度は参加している
4. あまり参加していない
5. 全く参加していない

<今後の参加希望> 選択肢

1. 自ら機会を作って積極的に参加したい
2. 機会があればできるだけ参加したい
3. ある程度は参加したい
4. あまり参加したくない
5. 参加するつもりはない

		全体	積極的に参加	できるだけ参加	ある程度は参加	あまり参加しない	全く参加しない	無回答	評価点
現在の参加程度	(1) 自治会・隣近所の活動	714 100.0	43 6.0	179 25.1	214 30.0	105 14.7	156 21.8	17 2.4	1.78
	(2) 子ども会・老人会などの活動	714 100.0	19 2.7	83 11.6	69 9.7	149 20.9	370 51.8	24 3.4	0.89
	(3) 趣味などのサークル活動	714 100.0	48 6.7	61 8.5	56 7.8	125 17.5	396 55.5	28 3.9	0.89
	(4) まちづくり団体など地域活動	714 100.0	16 2.2	43 6.0	56 7.8	153 21.4	420 58.8	26 3.6	0.67
	(5) 福祉・環境・防災などの活動	714 100.0	13 1.8	27 3.8	52 7.3	151 21.1	443 62.0	28 3.9	0.57
	(6) 人権・国際交流などの活動	714 100.0	4 0.6	12 1.7	33 4.6	105 14.7	531 74.4	29 4.1	0.33
今後の参加希望	(1) 自治会・隣近所の活動	714 100.0	37 5.2	212 29.7	224 31.4	120 16.8	90 12.6	31 4.3	1.98
	(2) 子ども会・老人会などの活動	714 100.0	16 2.2	126 17.6	193 27.0	165 23.1	177 24.8	37 5.2	1.47
	(3) 趣味などのサークル活動	714 100.0	43 6.0	159 22.3	212 29.7	106 14.8	154 21.6	40 5.6	1.75
	(4) まちづくり団体など地域活動	714 100.0	15 2.1	106 14.8	229 32.1	166 23.2	161 22.5	37 5.2	1.48
	(5) 福祉・環境・防災などの活動	714 100.0	14 2.0	116 16.2	250 35.0	144 20.2	152 21.3	38 5.3	1.55
	(6) 人権・国際交流などの活動	714 100.0	8 1.1	82 11.5	174 24.4	153 21.4	260 36.4	37 5.2	1.15

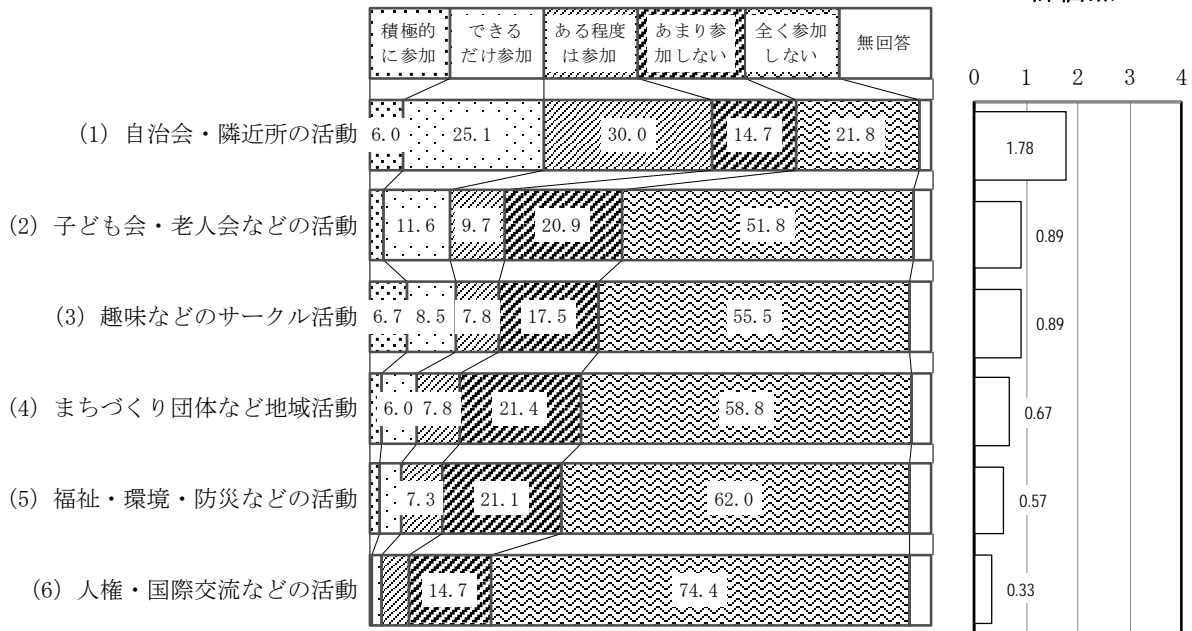
評価点： 「積極的に参加」 = 4点、「できるだけ参加」 = 3点、「ある程度は参加」 = 2点、「あまり参加しない」 = 1点、「全く参加しない」 = 0点として、回答数（無回答を除く）で加重平均した値

現在の参加程度

総数=714

単位:% (5%未満非表示)

<評価点>

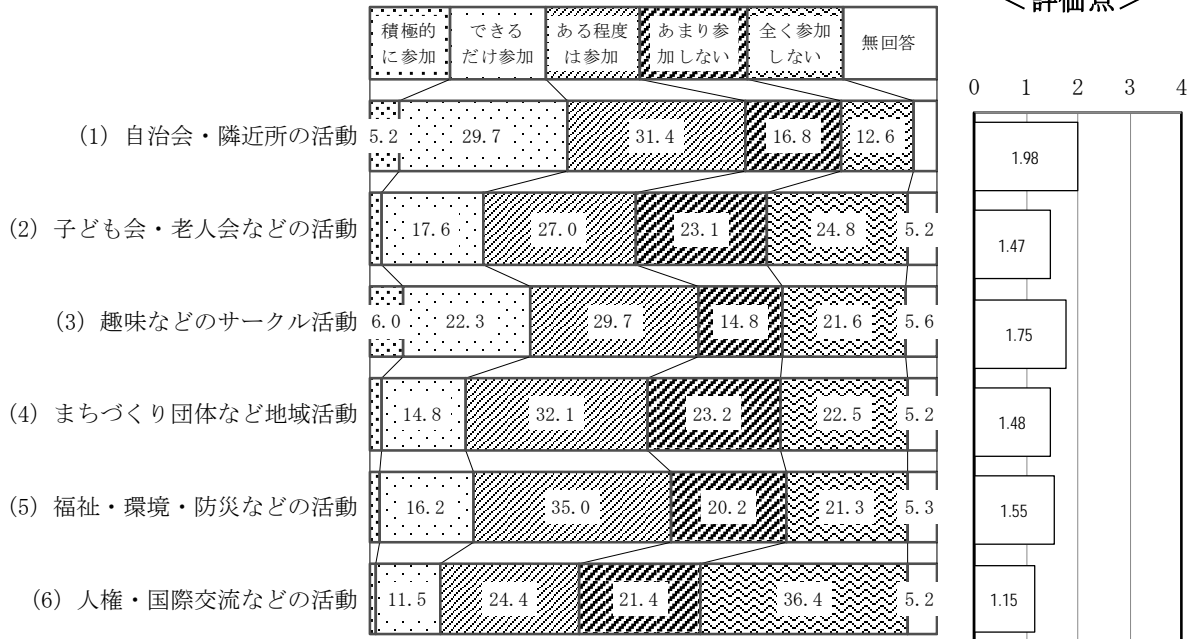


今後の参加希望

総数=714

単位:% (5%未満非表示)

<評価点>



評価点： 「積極的に参加」 = 4点、「できるだけ参加」 = 3点、「ある程度は参加」 = 2点、「あまり参加しない」 = 1点、「全く参加しない」 = 0点として、回答数（無回答を除く）で加重平均した値

コミュニティに関する各種の活動への現在の参加程度と今後の参加希望を尋ねている。

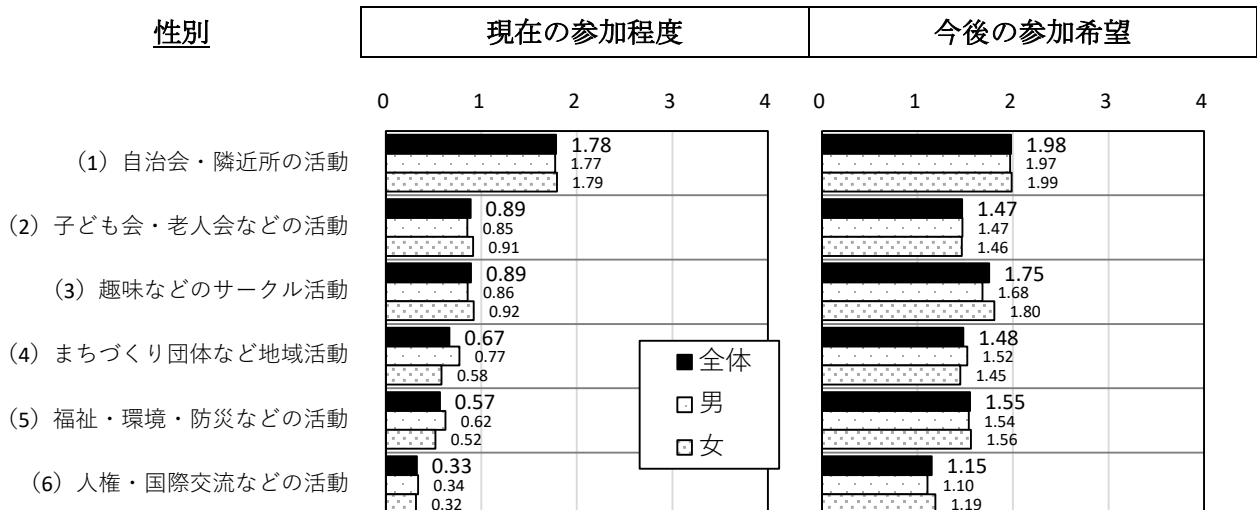
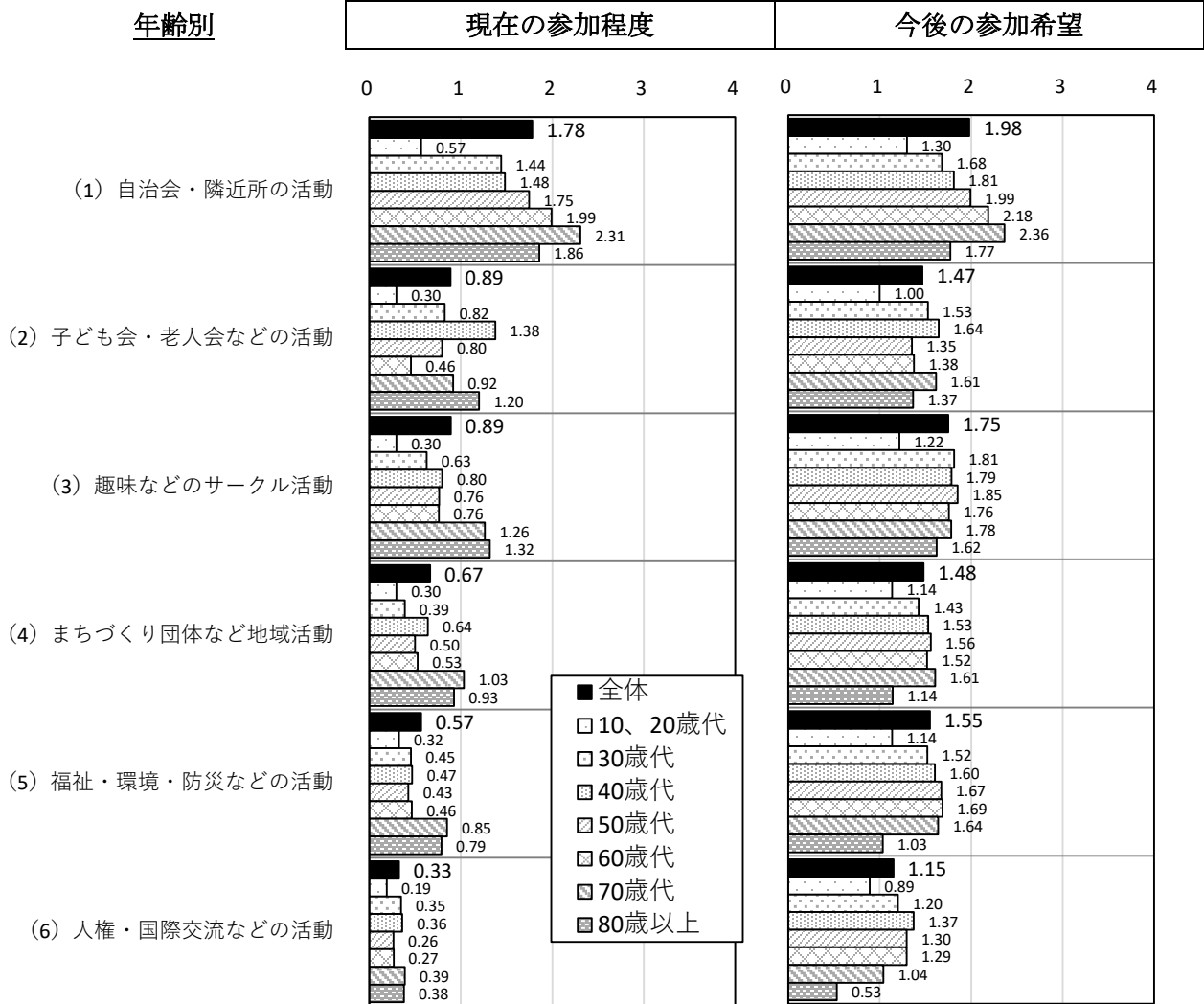
自治会・隣近所の活動でも「積極的に参加」は6.0%にとどまるが、「できるだけ参加」を合わせた割合は31.1%となる。その他の活動ではその割合が大きく減少し、逆に「全く参加していない」がいずれも5割以上となっている。

今後の希望では、全体に参加に対する積極性が増し、「全く参加しない(参加するつもりはない)」

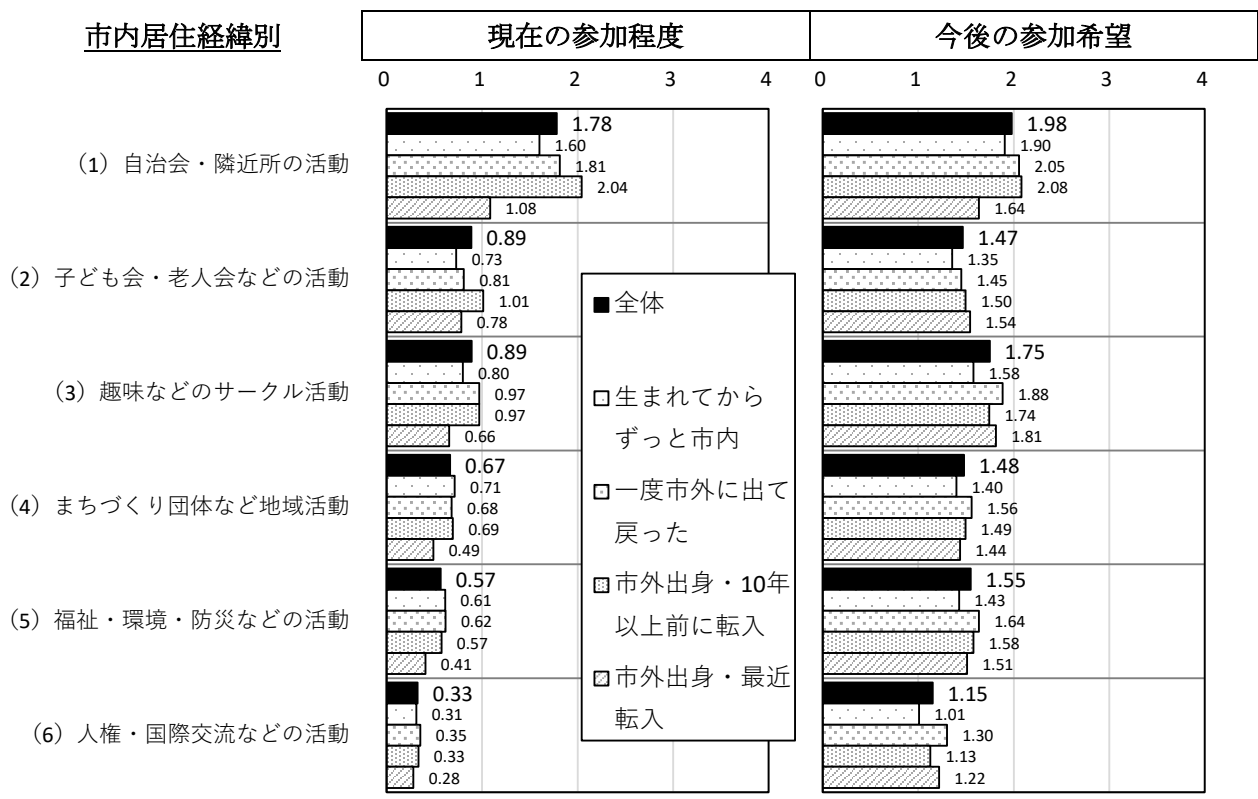
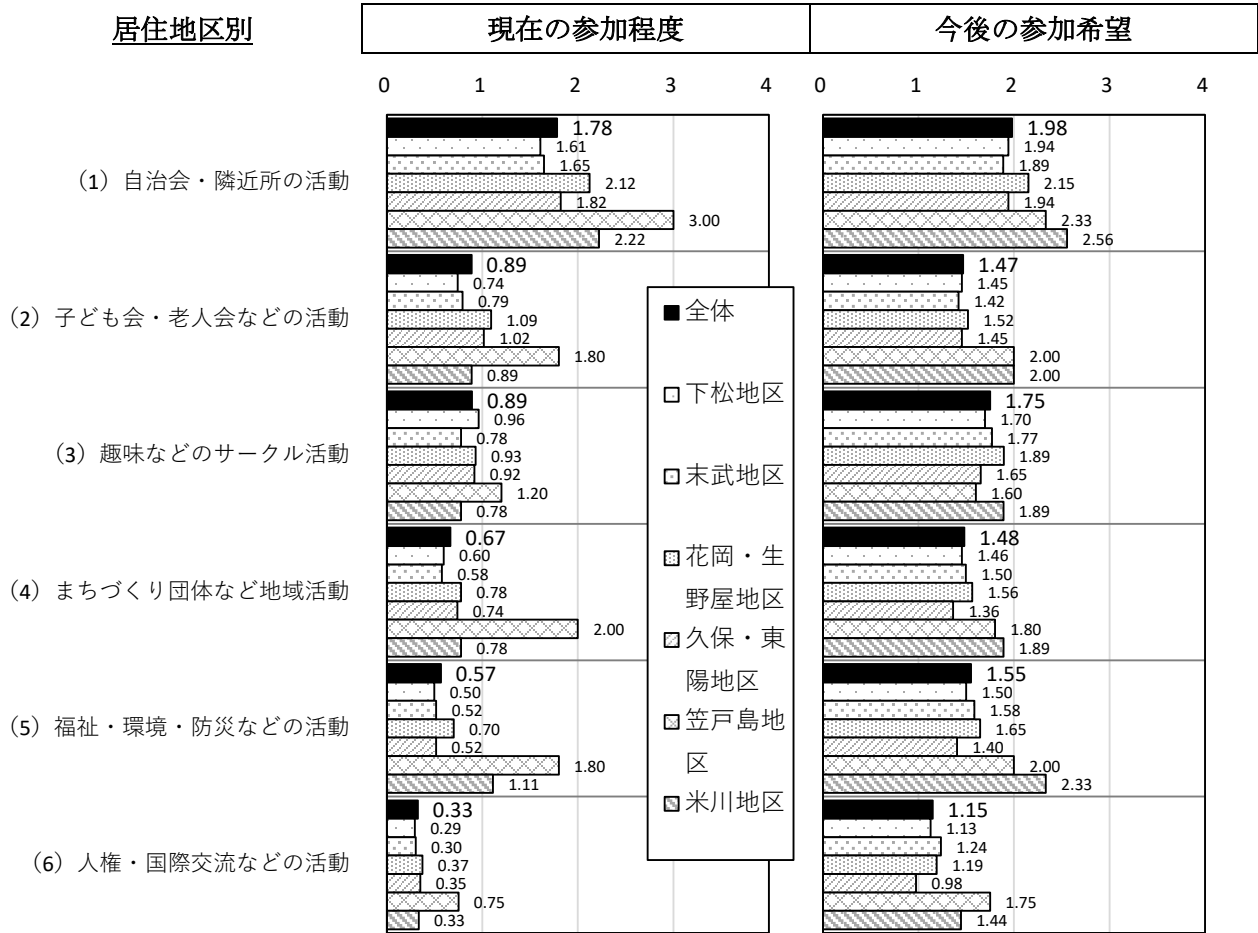
の割合は1～3割程度に減少する。特に「趣味などのサークル活動」への参加希望率が大きく上昇する結果となっている。

年齢別の相違を評価点によって見ると、自治会・隣近所の活動は現状で年齢が高いほど参加程度が高いが、今後の希望もその格差を縮小させる形で全体に上昇する。趣味などのサークル活動をはじめ他の活動では、概して高齢者の参加程度が現状では相対的に大きいですが、将来の希望では年齢による差が目立たなくなるように全体が上昇する。

評価点による比較（1）



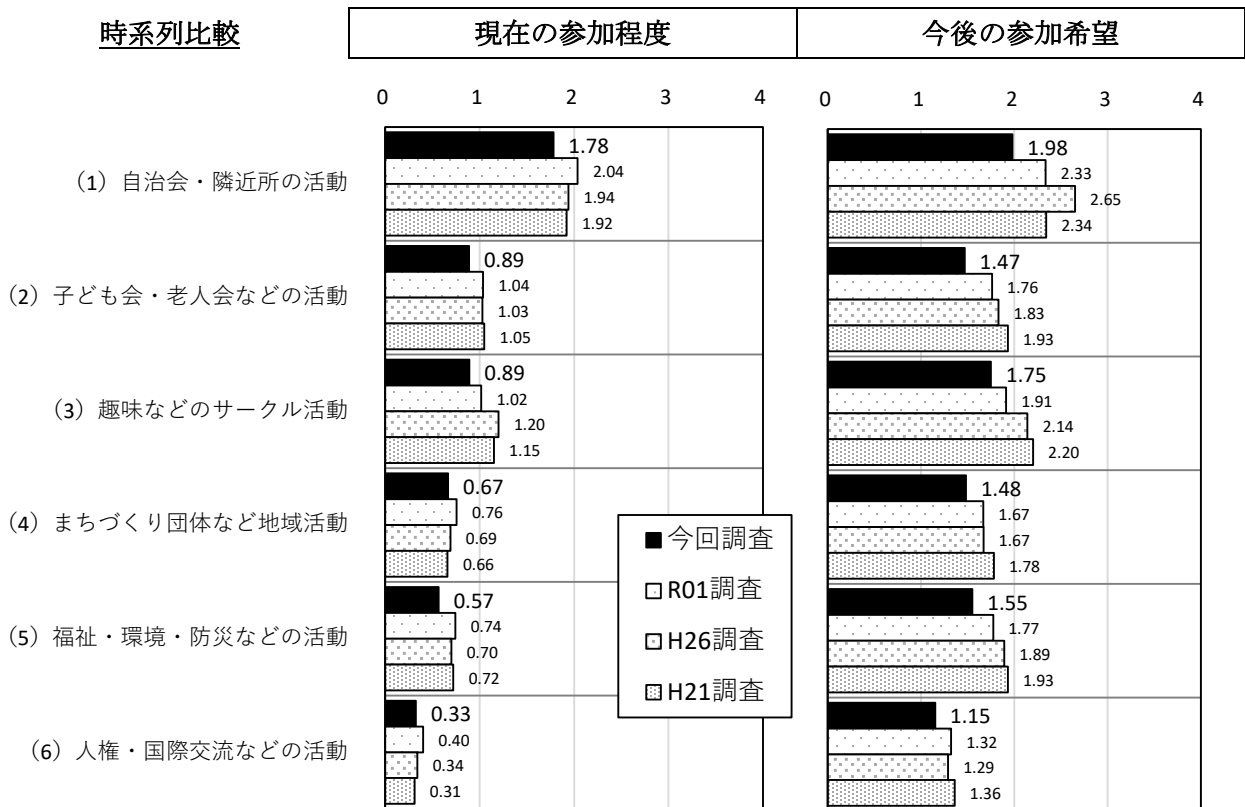
性別では、各活動ともに大きな男女差はなく、現在の状況に対して将来の希望もほぼ同程度に参加程度が上昇する。



居住地区別では、回答数が少ない笠戸島、米川地区を除けば、ほぼ全体傾向と同様で大きな差は見られない。

また、自治会・隣近所の活動において市外出身・最近転入者の現在の参加程度が低いが、将来は差を残しながらもその程度がかなり上昇する。他の活動では、市内居住の経緯による大きな相違は認められない。

過去の総合計画策定時の市民アンケートにおける同じ設問の結果と比較すると、いずれの活動でも評価点による平均的な現在の参加程度はやや低下し、今後の希望でも全体に前回調査（令和元年）よりもやや低い評価点にとどまっている。

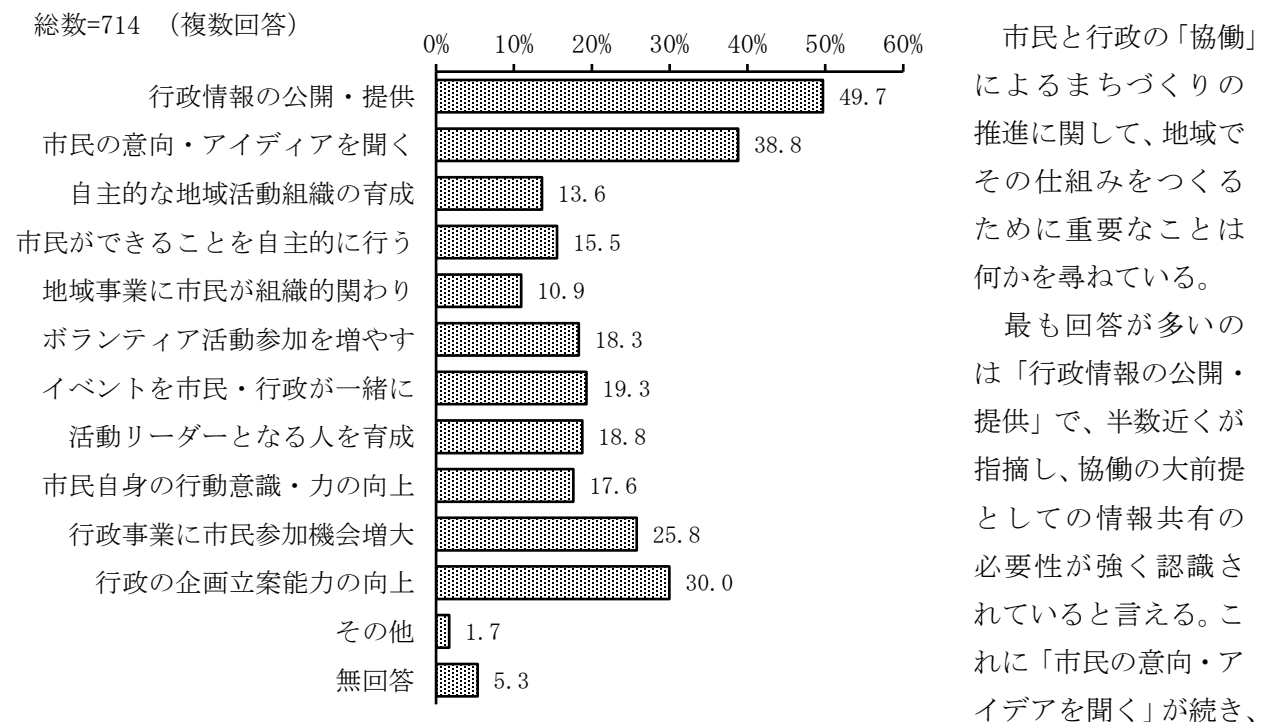


(2) 協働のしくみづくり

■問8 地域のまちづくりは、市民と行政（市や県など）が一緒に考え協力し、役割を分担しあって進めること（＝「協働」）が重要となります。あなたは、より参加しやすい「協働」のしくみを地域で作っていくために、何が重要だと思いますか。次の中から3つまで選んで番号を口の中に記入してください。

〔選択肢〕

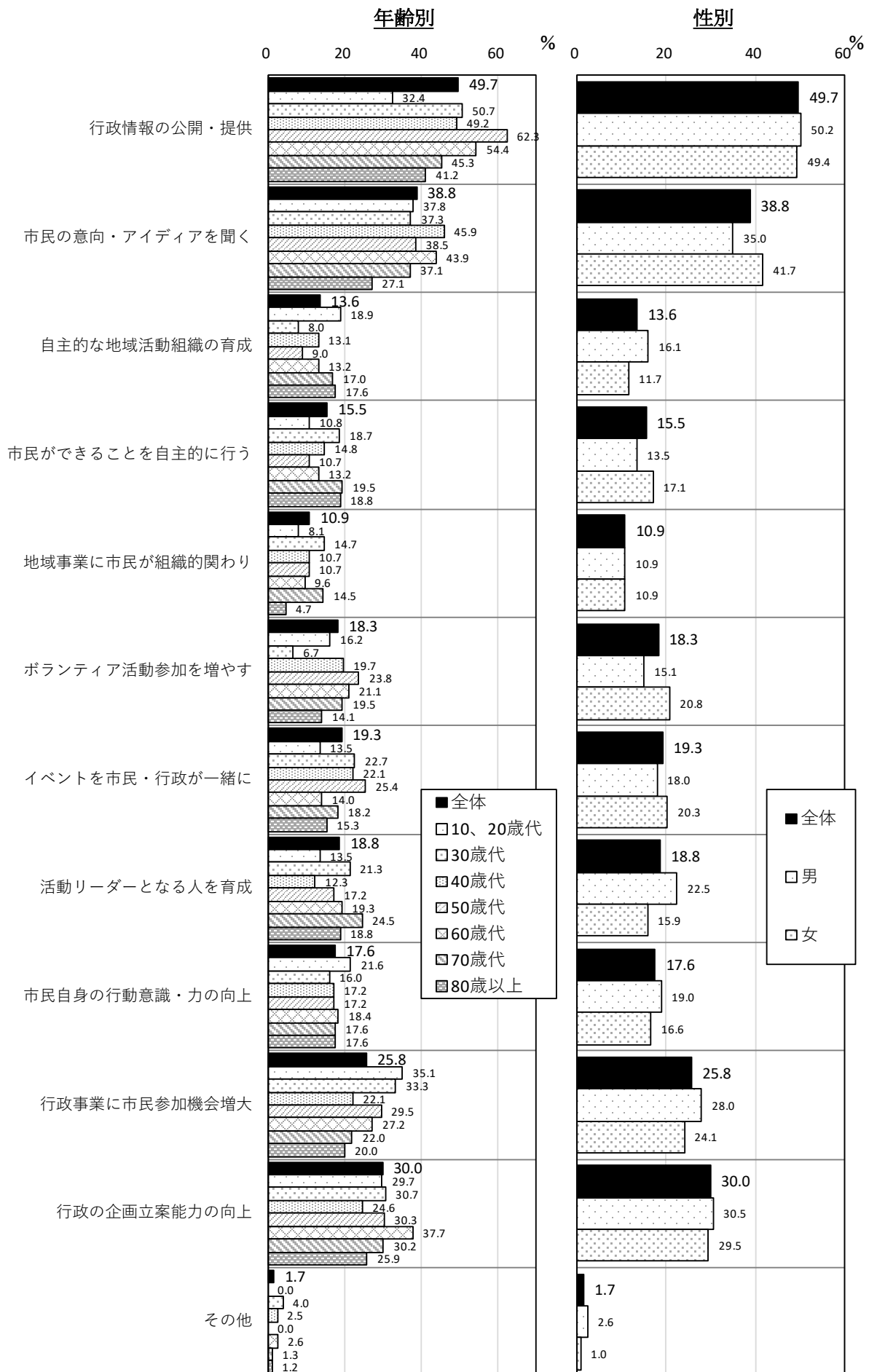
1. 行政が持っている情報を市民に積極的に公開、提供すること
2. 市民や市民活動団体などの意見や意向、アイデアなどを行政がよく聞くこと
3. 自治会、子ども会やNPO（民間非営利組織）など自主的な地域活動組織を育てること
4. 道路や公園の清掃や管理など、できることを市民が自主的に行うこと
5. 環境パトロールやリサイクルなどに市民が組織的に関わり取り組むこと
6. 地域の福祉などのボランティア活動への参加を増やし盛り上げること
7. 生涯学習や文化・スポーツなどのイベントを市民と行政が一緒に行うこと
8. 地域でのまちづくりの活動のリーダーとなる人を育てること
9. 市民自身がまちづくりを学び、行動する意識や力を高めること
10. 行政の事業や計画などに市民が参加する機会を増やすこと
11. 行政がまちづくりの施策を企画立案する能力を高め、市民に示すこと
12. その他



一方通行でない情報の双方向性も強く求められることを示している。「行政事業に市民参加機会の増大」（4位）も同様の認識に基づくと考えられる。

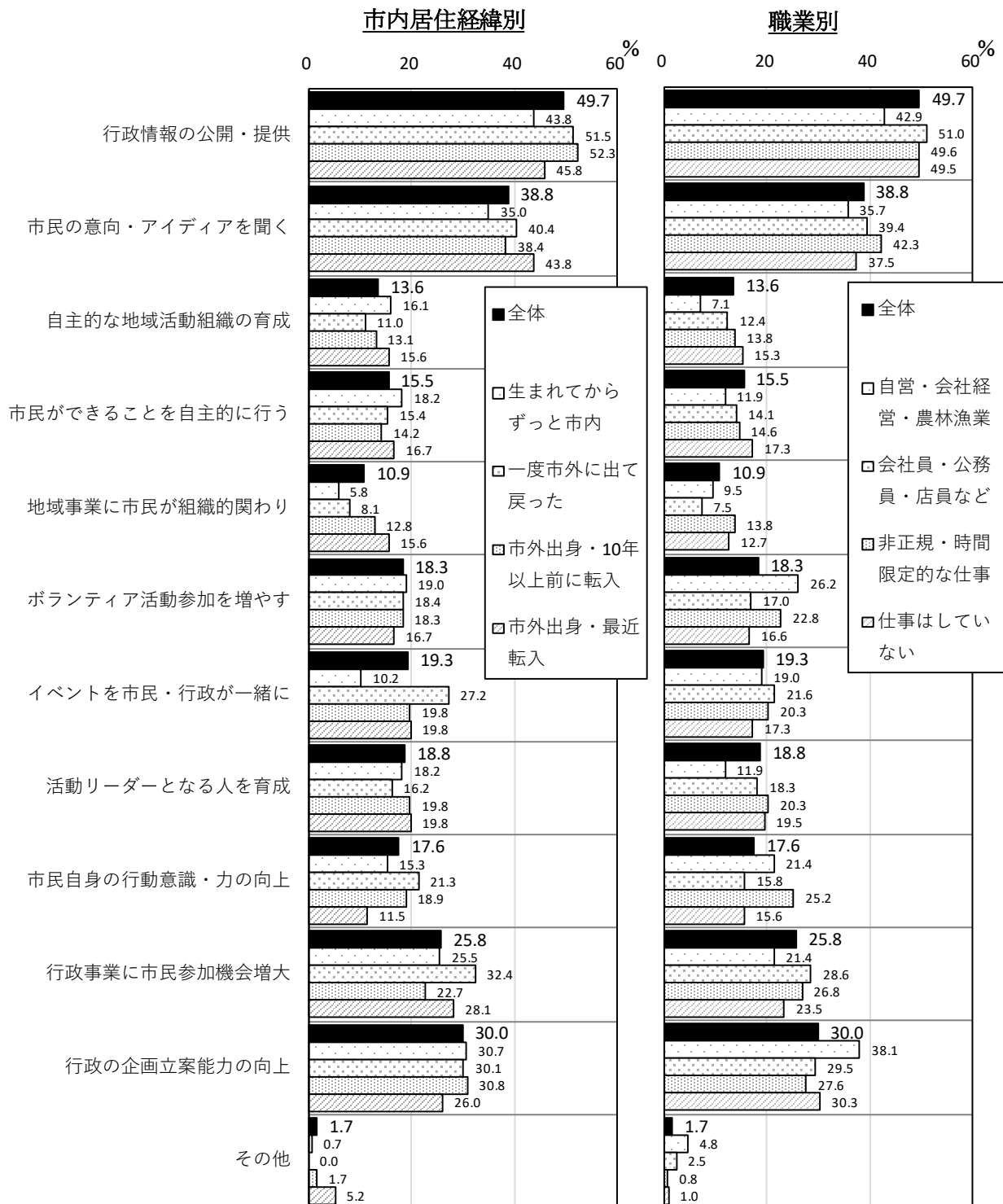
また、「行政の企画立案能力の向上」が3位であり、地方創生と言われる時代におけるユニークな施策等への期待も強く持たれていると言えよう。

上記の市民と行政の情報共有に関する項目では、中高年層での指摘割合が比較的高く、「市民の意向・アイデアを聞く」では女性の割合がやや高いが、「行政事業に市民参加機会の増大」では10～30歳代の若い世代の指摘割合も相対的に高いことが注目される。



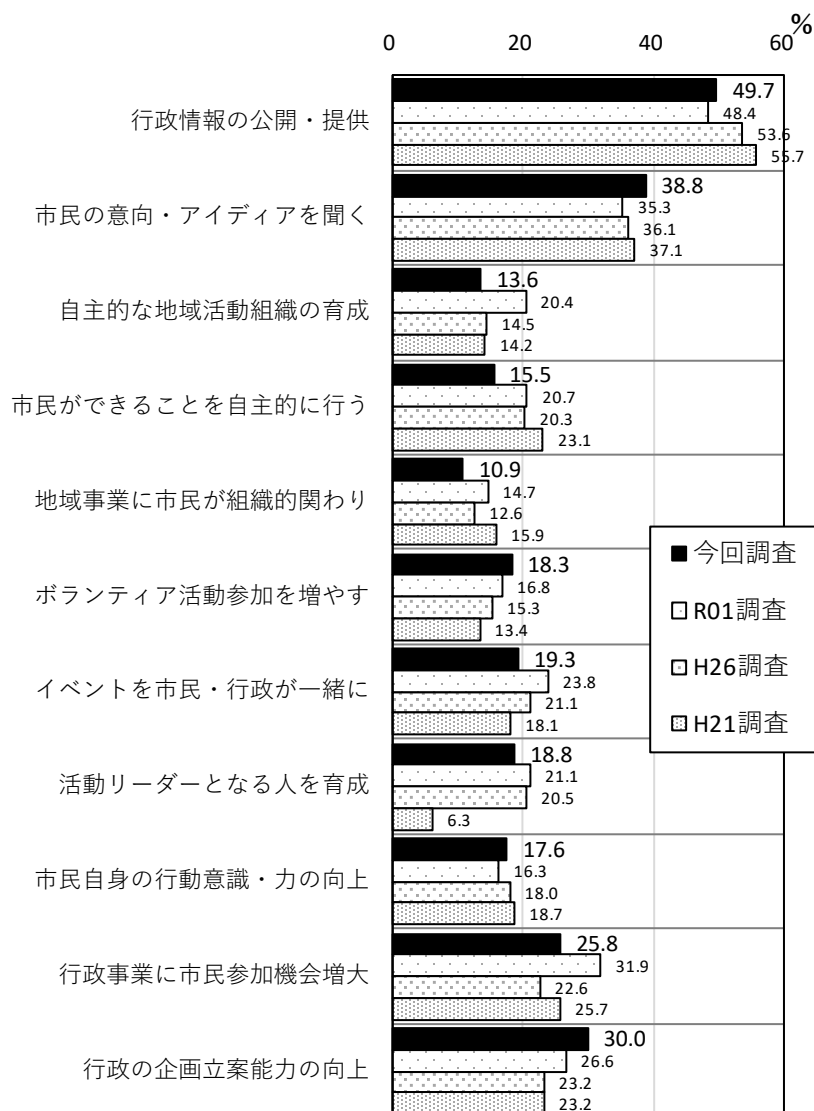
また、「行政事業に市民参加機会の増大」や「イベントを市民・行政と一緒に」、「市民自身の行動意識・力の向上」の割合が、一度市外に出て戻ったというUターン組の回答者で他の層よりもやや多いことも興味深い。

さらに、自営・会社経営・農林漁業者では「行政の企画立案能力の向上」を指摘する割合が高いことなども読み取れる。



過去の総合計画策定時の調査結果との比較では、傾向の大きな差は見られないが、「行政の企画立案能力の向上」や「市民の意向・アイデアを聞く」の割合がやや増加したようにも見える。

時系列比較



「その他」の 主な記述	<p>自発的な相互扶助のある市民社会をめざす。 ただし経験のある人材を行政に採用すること。 市民任せではなく市がリードしましょう。 毎月か毎週 市長が行政の企画案や決定事項をTVメディアで 発表する 協働自体がそれほど重要だとは思わない。項目のすべてが市民への押し付けに思えてならない。</p>
----------------	---

5. 少子高齢化・人口減少への対応

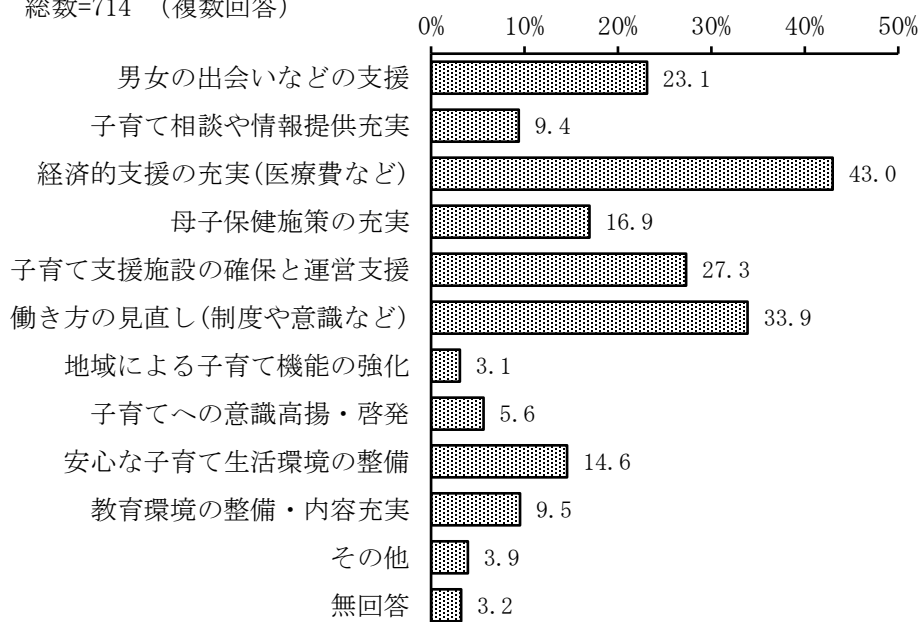
(1) 少子化への対策

■問9 少子化への対策として、市内で結婚・出産・子育てがしやすいまちにするために、特にどのようなことが必要だとご思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

〔選択肢〕

1. 結婚を希望する男女の出会いなどの支援
2. 子育てに関する相談や情報提供の充実
3. 若い世帯、子育て世帯への経済的支援の充実（医療費など）
4. 安心して妊娠や出産ができる環境づくりなど母子保健施策の充実
5. 保育園や児童の家などの子育て支援施設の適切な確保と運営支援
6. 仕事と子育てを両立できる働き方の見直し推進（制度や意識など）
7. 子育てサークルの活動支援など地域による子育て機能の強化
8. 地域社会や家庭での子育てに関する意識の高揚・啓発
9. 安全な道路や良好な公園など安心して子育てができる生活環境の整備
10. 学校等の教育環境の整備・内容充実
11. その他

総数=714（複数回答）

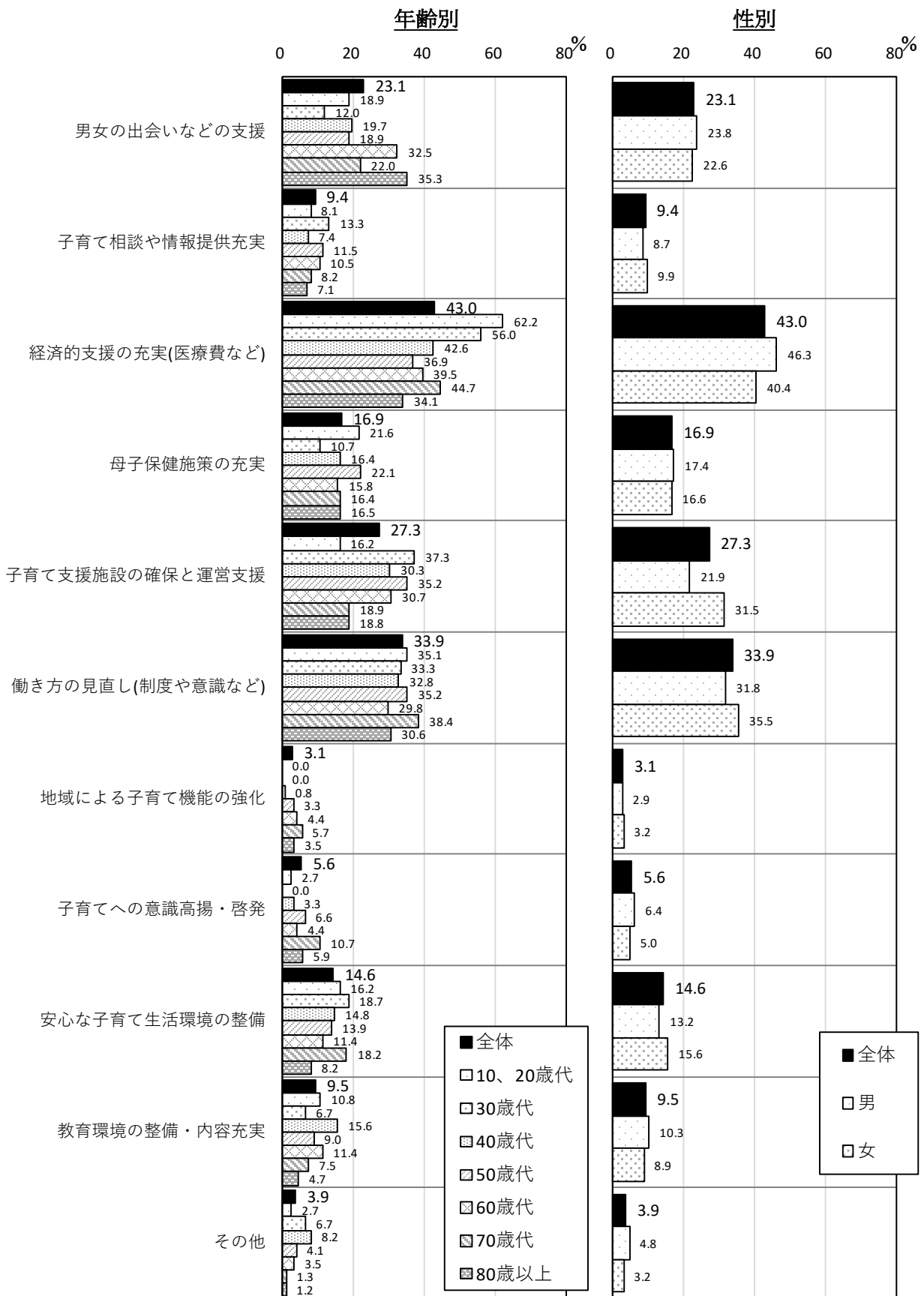


少子化対策として求められる施策としては、「経済的支援の充実」が1位で、これに「働き方の見直し」、「子育て支援施設の確保と運営支援」の順で続いている。市では高校生までの医療費無償化を行ったが、やはり子育てにかかる経済的負担の軽減は重要であることが示されている。また、仕

事と子育てを両立できる働き方の制度や意識等の変革や、待機児童がある保育園の充実のほか、4位に「男女の出会いなどの支援」があるように、結婚から子育てまでの一貫した支援の取組が重要であることがわかる。

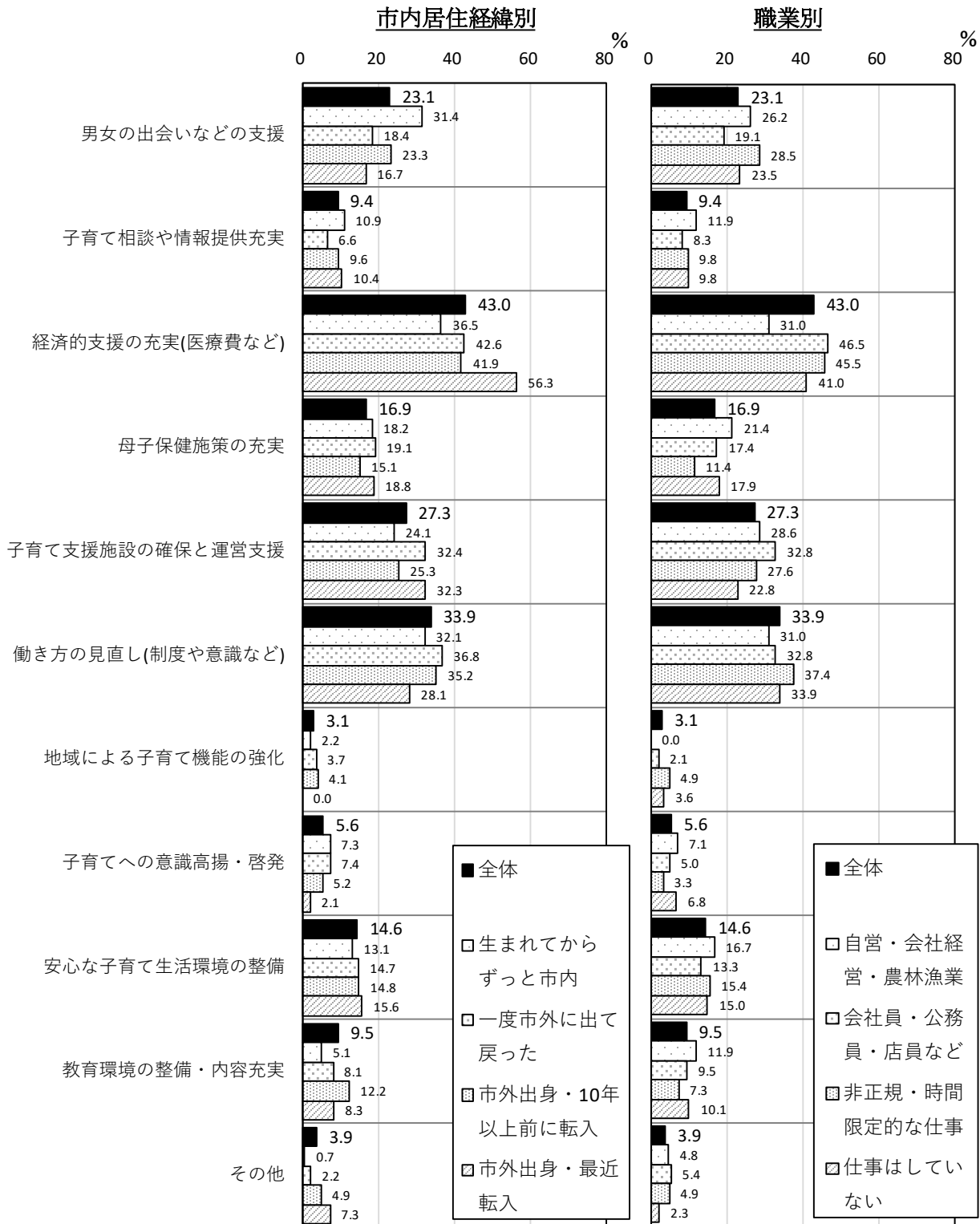
年齢別では、子育ての中心世代である30歳代とその前後で、「経済的支援の充実」、「子育て支援施設の確保と運営支援」の割合が特に高く、「教育環境の整備・内容充実」でも類似の傾向が見られるが、「働き方の見直し」は全世代でほぼ同程度の支持率である。

性別では、「経済的支援の充実」は男性の方が、「子育て支援施設の確保と運営支援」は女性の方がやや高い割合であるなどの特徴が見られる。

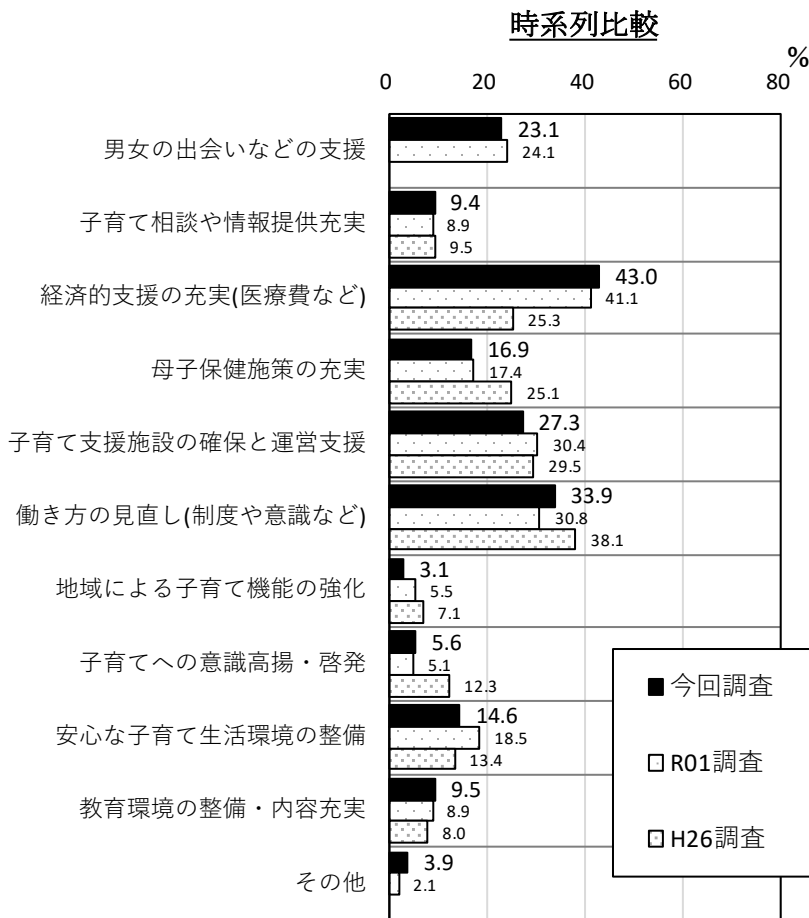


市内居住経緯別では、市外出身・最近転入者で「経済的支援の充実」、生まれてからずっと市内の居住者で「男女の出会いなどの支援」の割合が特に高い。

職業による相違としては、「働き方の見直し」が非正規・時間限定的な仕事の人で、「子育て支援施設の確保と運営支援」が会社員・公務員・店員などで、比較的高い割合であることが注目される。



過去の調査との比較では、各回ともほぼ前回調査（令和元年）と同様の傾向であるが、「経済的支援の充実」と「働き方の見直し」の割合がわずかずつだが増加していることが読み取れる。（H26年調査は、選択肢の数や表現が異なる部分があるため参考としての表示である。）



「その他」の 主な記述	<p>今までに結婚したくても経済的に自信がないという話を聞いたことが多々ある。</p> <p>子育て中に仕事をしなくてもいい様、育休とかじゃない支援があればいいと思う。働かなければいけないじゃなく、働かなくても大丈夫!!が必要。</p> <p>子どもがほしくても出来ない人たちへの不妊治療への理解と援助。</p> <p>若い女性は仕事を持っています。男性と同じように働いています。子どもの病気が長引く時に預けられる病状、保育園が必要だと思います。休みが長引くことが多く有り、離職してしまうのは勿体ないと思います。</p> <p>市内に産婦人科と小児科を増やす</p> <p>若い世代、子育て世帯への経済的支援の充実について、現状医療費は負担ゼロでできているため、医療費以外の部分でどれだけ経済的支援ができるかが大切だと思う。</p>
----------------	--

(2) 人口の社会増への対策

■問 10 人口の維持に向け、人の市外への転出をとどめ、市内への転入を促し、また、進学や就職などで転出した人が戻ってきやすくするため、どのようなことが有効だと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

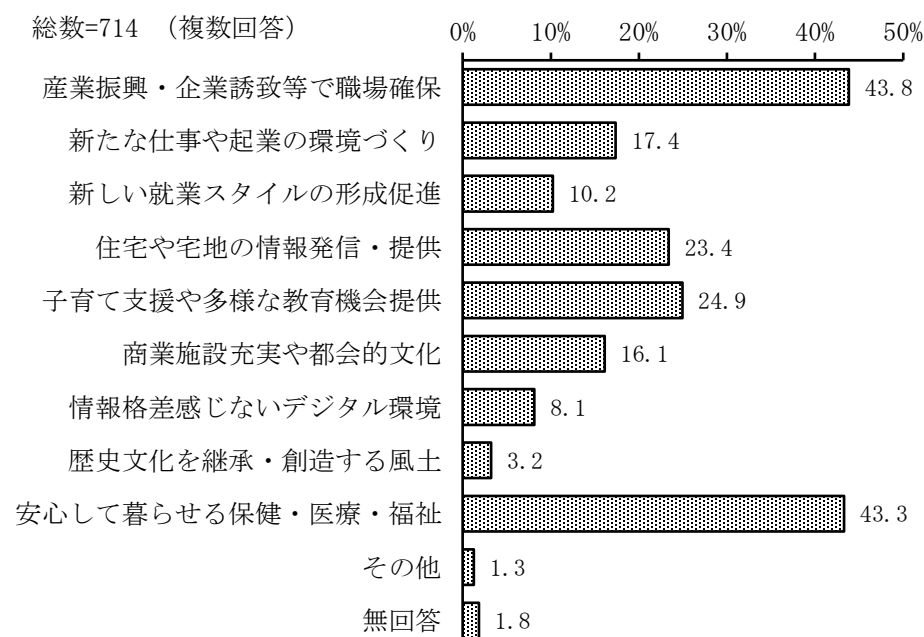
〔選択肢〕

1. 産業の振興、企業誘致などによる職場の増加、確保
2. 新たな仕事づくり、起業ができる環境づくりやその支援
3. 仕事と余暇の融合など新しい就業スタイルの形成促進
4. 空き家も含む良好な住宅や宅地の情報発信や提供
5. 子育て支援制度の充実や多様な教育機会の提供
6. 商業施設の充実や都会的な文化に触れられる機会の増加
7. 大都市との情報格差を感じないデジタル環境などの整備
8. 個性ある歴史文化が継承、創造される地域の風土づくり
9. いつまでも安心して暮らせる保健・医療・福祉の充実
10. その他

人口の市外への転出抑制とUターンも含む転入促進による「社会増」に向けた方策として有効と思われることを尋ねる設問である。

用意した選択肢のうち多くの回答を集めたのは、「産業振興・企業誘致等で職場の増加・確保」と「安心して暮らせる保健・医療・福祉の充実」であり、経済的安定と生活の安心が人口定着の大きな要件であることを示している。

そのほかでは、「子育て支援や多様な教育機会の提供」、「住宅や土地の情報発信・提供」も多く、教育、住

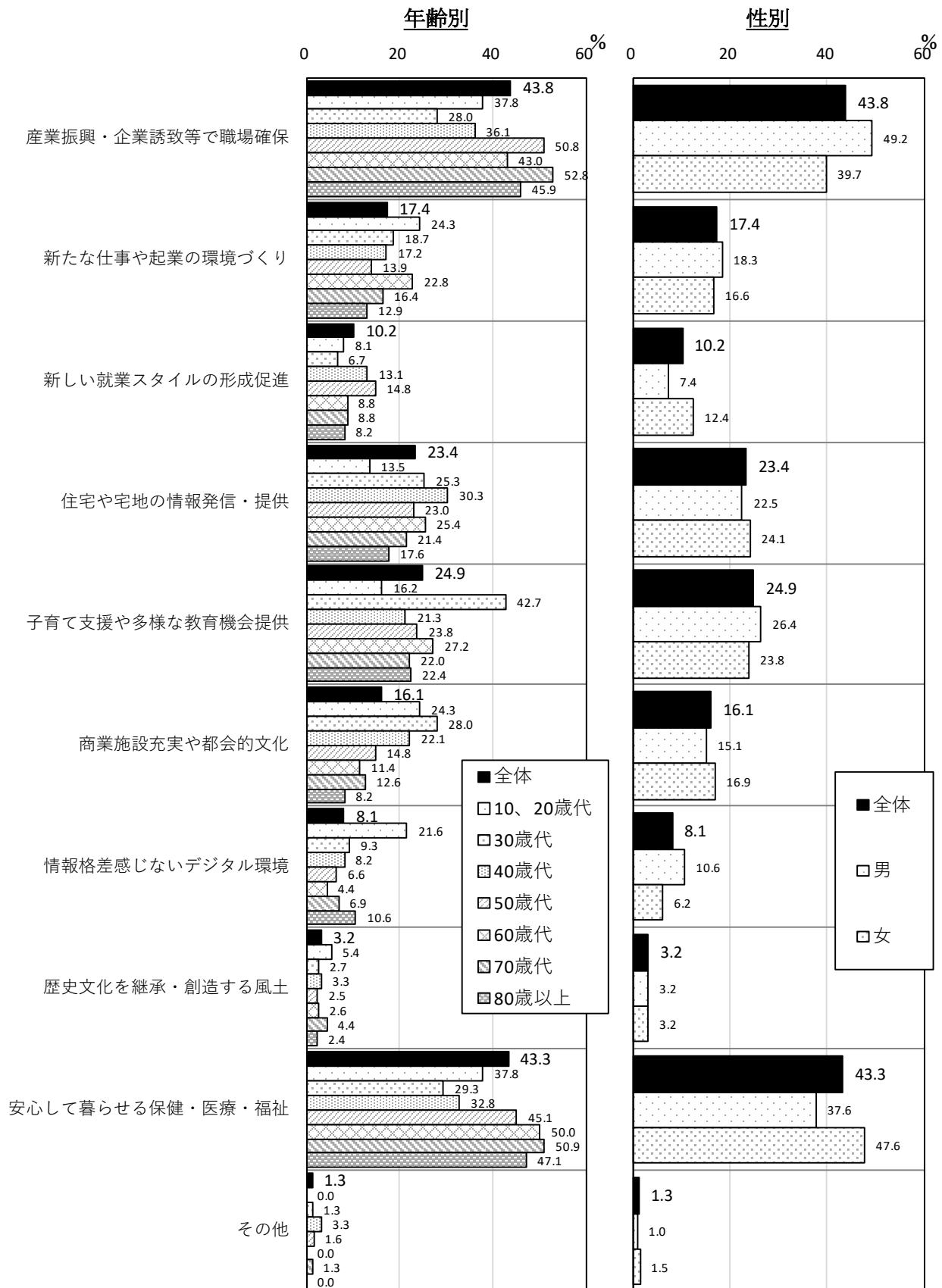


宅も居住地選択の大きな条件となっていることを窺わせる。

「その他」の主な記述	<p>他県に進学したら帰っても就職がない。</p> <p>下松市はかなり住みよい街だと思うが、他の市町村と同じように働く場所、賃金等、企業側の是正が必要なものが多く関係してくる。住宅の情報提供だけでなく住宅自体の提供まで視野にいれるべき。</p> <p>去る者追わず、来るもの拒まず。外国籍技能実習生との創生社会へ。</p> <p>子育てがしやすい(子育てに対する経済的な支援が充実している)場所には、実際に移住が増えている他県での実例があると思います。</p>
------------	---

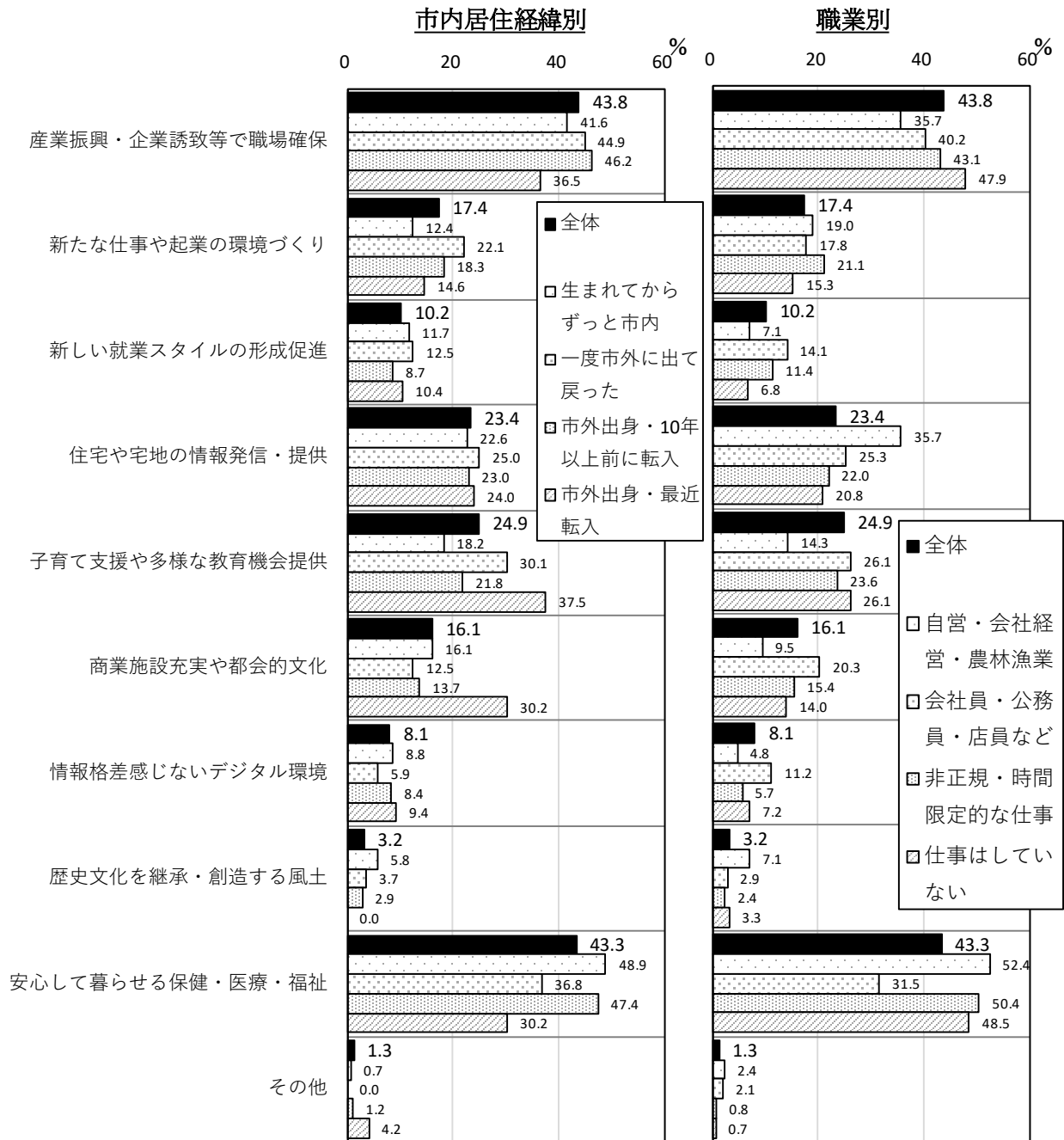
この設問の結果は、年齢層によりかなりの相違が見られる。全体で上位の「産業振興・企業誘致等で職場の増加・確保」と「安心して暮らせる保健・医療・福祉の充実」は50歳代以上の高年齢層

層での割合が特に高く、「子育て支援や多様な教育機会の提供」や「商業施設や都会的文化に触れる機会」は30歳代で、「情報格差を感じないデジタル環境等の整備」や「新たな仕事や起業環境づくり」は10、20歳代での割合の高さが目立つなど、ライフステージに応じた特徴が表れていると言える。



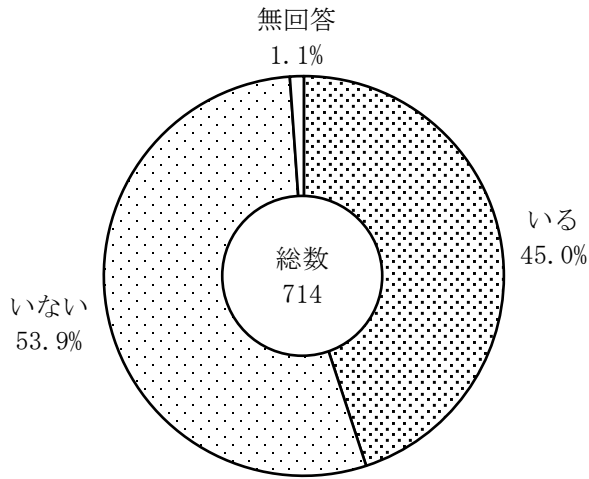
また、市外出身の最近転入者と一度市外に出て戻ったUターン者では、「安心して暮らせる保健・医療・福祉の充実」や「子育て支援や多様な教育機会の提供」の割合が特に高いほか、市外出身の最近転入者では「商業施設や都会的文化に触れる機会」の割合も突出している。

職業別でも、自営・会社経営・農林漁業者で「住宅や土地の情報発信・提供」の割合が特に高い等の特徴的相違が見られる。



(3) 市外転出家族の還流意向

■問 11 あなたのご家族で、進学や就職などで市外・県外へ転出（住民票異動の有無にかかわらず）している方はいらっしゃいますか。次の中から1つ選んで番号を□の中に記入してください。



ここでは、回答者の家族で市外に転出したものの有無を尋ねている。

全体の45%が「いる」と答えており、続柄や転出先、転出理由は多様であろうが、家族が下松市内にしながら市外で生活する者が多数いることを示している。

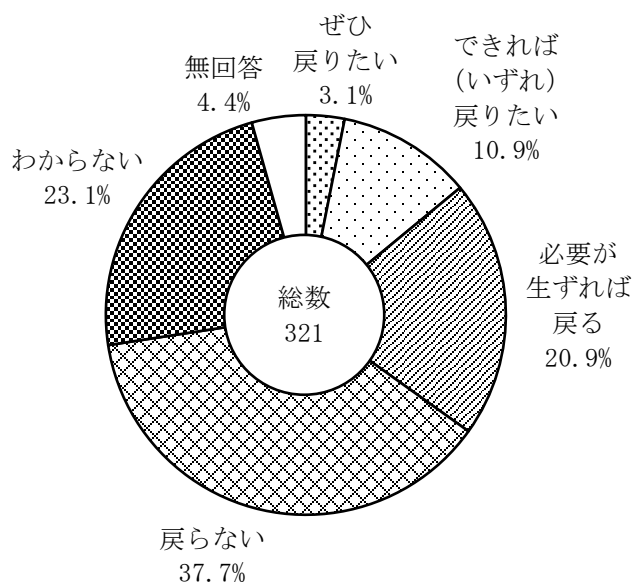
回答者の職業別では、非正規・時間限定的な仕事や仕事をしていない人で「いる」の回答割合が相対的に高い。また、回答者の現在の世帯構成では夫婦のみ、夫婦と親の世帯で「いる」の割合が特に高く、成長した子ども等の転出により結果的に夫婦やその親が市内に残っているというケースも多いことが読み取れる。

さらに、回答者の住居形態において、借家の場合に「いる」の割合が小さいが、借家は市外出身・最近転入者で多いことから、逆に家族を市外に残して下松市に居住しているケースも含まれると考えられる。

		いる	いない	無回答	(%)
(凡例)					
(n)					
【回答者の職業別】	全体 (714)	45.0	53.9		
	・ 全職 (42)	40.5	59.5		
	・ 会社員・公務員・店員など (241)	37.8	61.4		
	・ 非正規・時間限定的な仕事 (123)	52.8	47.2		
	・ 仕事はしていない (307)	47.9	50.2		
【回答者の世帯構成別】					
	・ 単身(ひとり暮らし) (106)	39.5	57.5		
	・ 夫婦のみ (232)	62.1	36.6		
	・ 夫婦と小学校入学前の子ども (60)	14.7	88.3		
	・ 夫婦と小学生以上の子ども (233)	59.5	60.1		
	・ 夫婦と親 (21)	66.7	33.3		
	・ 夫婦と親と子ども(3世代) (46)	32.5	65.2		
	・ その他 (14)	42.9	57.1		
【回答者の住居形態別】					
	・ 持ち家一戸建て (567)	48.0	50.8		
	・ 持ち家共同住宅 (46)	41.3	58.7		
	・ 借家一戸建て (15)	20.0	80.0		
	・ 借家共同住宅 (77)	20.8	68.8		

■【上で「いる」とお答えで、転出したご本人のお考えをお聞きいただける方へ】

ご本人が下松市に戻る意思はいかがですか。次の中から1つ選んで番号を口の中に記入してください。



転出した家族が「いる」場合に、その転出者の下松市への還流意向を尋ねている。

必ずしも転出者本人の意向でない可能性もあるが、「わからない」を除いた中では、「ぜひ戻りたい」と「できれば(いずれ)戻りたい」、「必要が生ずれば戻る」の合計よりも「戻らない」の割合がわずかに多く、一度転出した者の還流の可能性は半数に満たないとも受け取れる。

属性別の結果においては、職業が自営・会社経営・農林漁業者の場合に「戻らない」の割合が特に高いことが注目されるほか、戻る可能性が一定割合あるのは持ち家（特に一戸建て）の場合に限られることなどがわかる。

属性別の結果においては、職業が自営・会社経営・農林漁業者の場合に「戻らない」の割合が特に高いことが注目されるほか、戻る可能性が一定割合あるのは持ち家（特に一戸建て）の場合に限られることなどがわかる。

	ぜひ戻りたい	できれば(いずれ)戻りたい	必要が生ずれば戻る	戻らない	わからない	無回答	(%)
(凡例)							
(n)							
【回答者の職業別】 全体 (321)	10.9	20.9		37.7	23.1		
自営・会社経営・農林漁業 (17)	5.9	11.8		58.8		23.5	
会社員・公務員・店員など (91)	5.5	9.9	16.5	33.0		27.5	7.7
非正規・時間限定的な仕事 (65)	7.7	24.6		33.8		26.2	6.2
仕事はしていない (147)	12.9	23.1		40.1		19.0	
【回答者の世帯構成別】							
单身(ひとり暮らし) (42)	9.5	21.4		40.5		23.8	
夫婦のみ (144)	12.5	19.4		43.8		20.1	
夫婦と小学校入学前の子ども (7)	14.3		42.9	14.3		28.6	
夫婦と小学生以上の子ども (92)	6.5	10.9	20.7	29.3		27.2	5.4
夫婦と親 (14)	14.3		28.6		42.9		14.3
夫婦と親と子ども(3世代) (15)	6.7	13.3	20.0	26.7		26.7	6.7
その他 (6)	16.7		50.0		16.7		16.7
【回答者の住居形態別】							
持ち家一戸建て (272)	12.1	22.8		35.7		22.1	
持ち家共同住宅 (19)	10.5	5.3	10.5	42.1		31.6	
借家一戸建て (3)			66.7			33.3	
借家共同住宅 (23)	8.7		52.2			30.4	

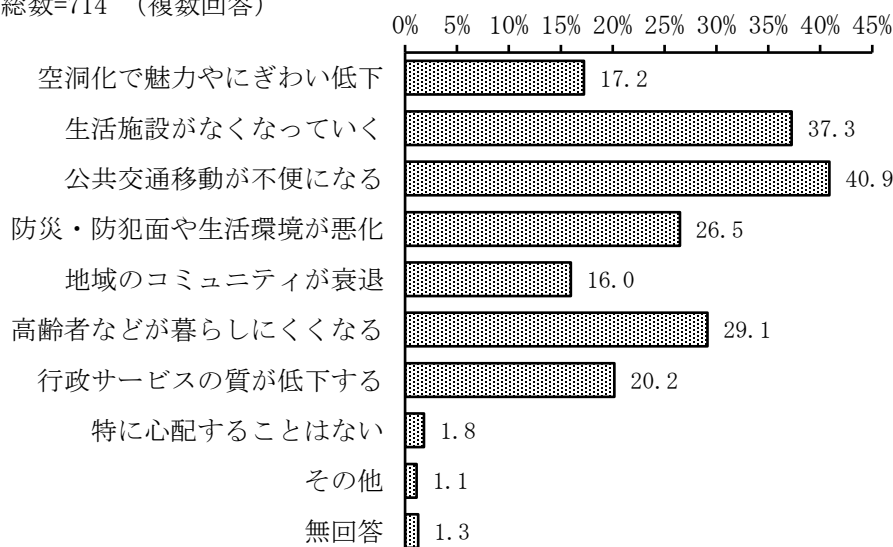
(4) 人口減少・少子高齢化の生活や都市環境への影響

■問 12 今後の人口減少や少子高齢化の進展の中で、下松市での生活や都市環境を考えた場合、特に心配なことはどのようなことですか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

〔選択肢〕

1. 市街地が空洞化し、市の魅力やにぎわいが低下する。
2. 身近なお店や病院などの生活施設が、利用者の減少等でなくなっていく。
3. バス等の本数や路線が削減され、公共交通による移動が不便になる。
4. 空き家や空き地の増加により、防災・防犯面や生活環境が悪化する。
5. 地域のコミュニティが衰退し、自治会活動や祭などの担い手がなくなる。
6. 福祉の担い手の減少やサービスの効率低下で高齢者などが暮らしにくくなる。
7. 税収の減少などにより、行政サービスの質が低下する。
8. 特に心配することはない。
9. その他

総数=714（複数回答）

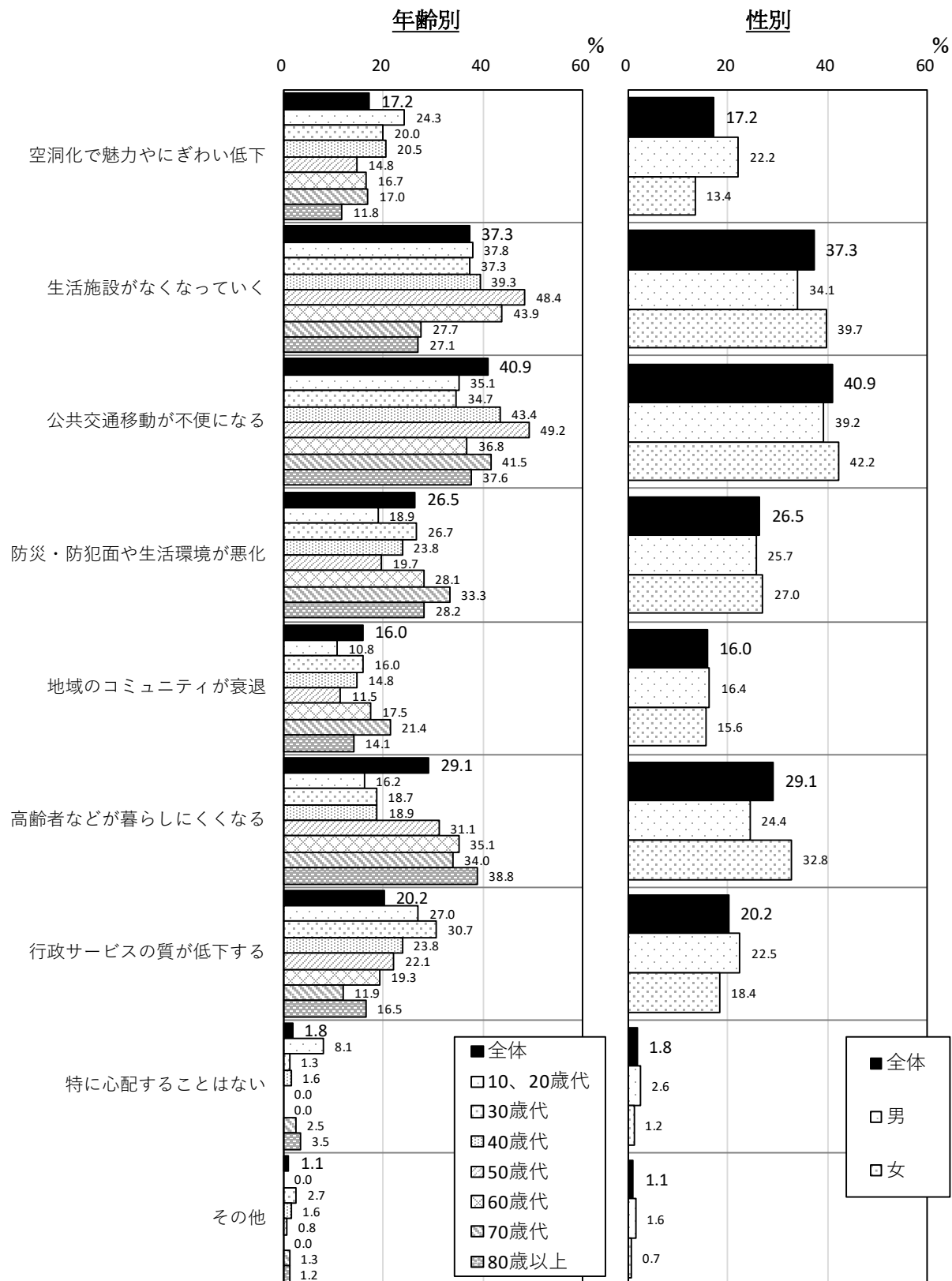


人口減少、少子高齢化による生活環境や都市環境への影響の懸念事項を「心配なこと」として尋ねている。

最も多い「心配」は、「バス等の削減で公共交通による移動が不便になる」で、これに「店舗や病院など生活施設がなくなっていく」が続いている。「福祉等のサービス低下で高齢者などが暮らしにくくなる」や「空き家増加等で防災・防犯面の生活環境の悪化」もこれに次いで高い割合で、これまでの人口増加時代に充実してきた各種の環境要素が維持しにくくなることによる不安が様々な側面から想定されていると言える。

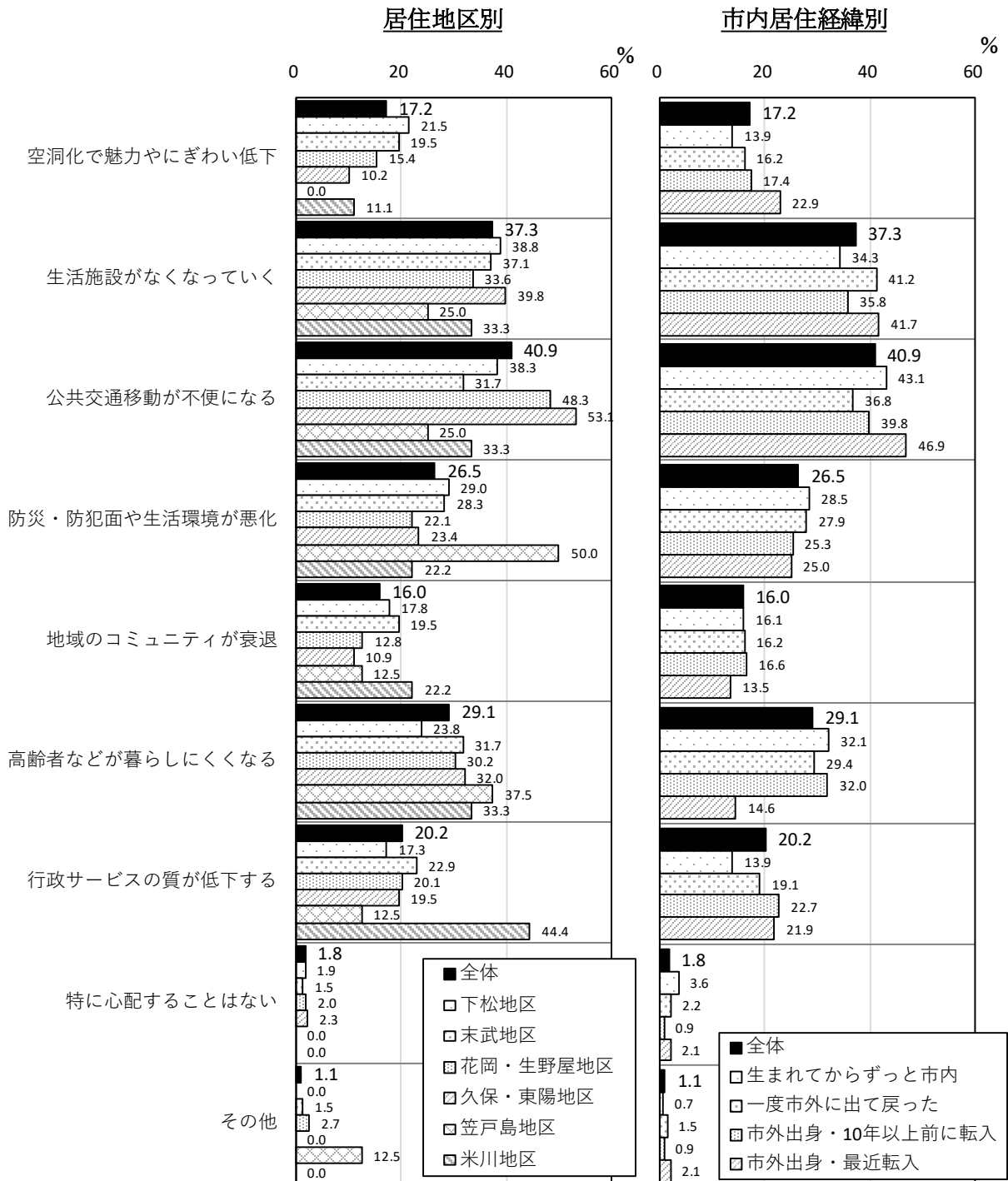
上位にあがった「心配」事項は、特に高年齢層で高い割合を占めており、逆に「市街地の空洞化で魅力やにぎわいが低下する」や「税収減等で行政サービスの質が低下」は10～40歳代の若い世代で高い割合であることが特徴的である。

「市街地の空洞化で魅力やにぎわいが低下する」という心配の割合は女性より男性の方が高く、「福祉等のサービス低下で高齢者などが暮らしにくくなる」は女性の方が割合が高い。



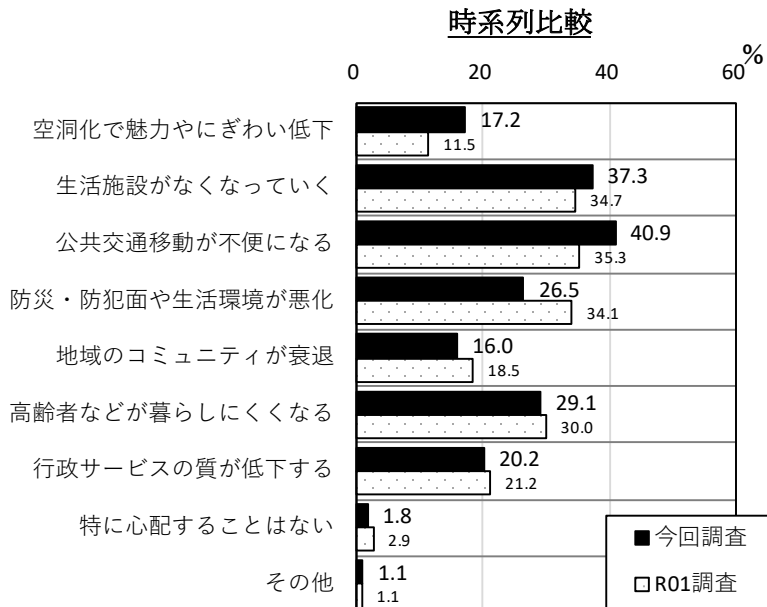
居住地区別では、「市街地の空洞化で魅力やにぎわいが低下する」の割合が下松地区で最も高く、「バス等の削減で公共交通による移動が不便になる」は久保・東陽地区でかなり高いなど、各地区の立地特性を反映した特徴も見られる。

「市街地の空洞化で魅力やにぎわいが低下する」や「バス等の削減で公共交通による移動が不便になる」は市外出身・最近転入者でそれぞれ最も高い割合であることも注目される。



笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考としての表示である。

この設問は、前回調査（令和元年）でも設けており、前回との比較では、「バス等の削減で公共交通による移動が不便になる」、「店舗や病院など生活施設がなくなっていく」、「市街地の空洞化で魅力やにぎわいが低下する」の割合がそれぞれ上昇しており、実際に人口減少局面に突入したことで日常生活行動面の不安が増幅されているとも考えられる。



「その他」の主な記述	人口の減少は自然な流れ。ソフトランディングが重要。 高層マンションなどが建って自然が薄まること 全員が少しずつ貧しくなる。医療の待ち時間増加、災害復旧の遅延、生鮮食品の質の低下、汚職、治安の悪化。
------------	--

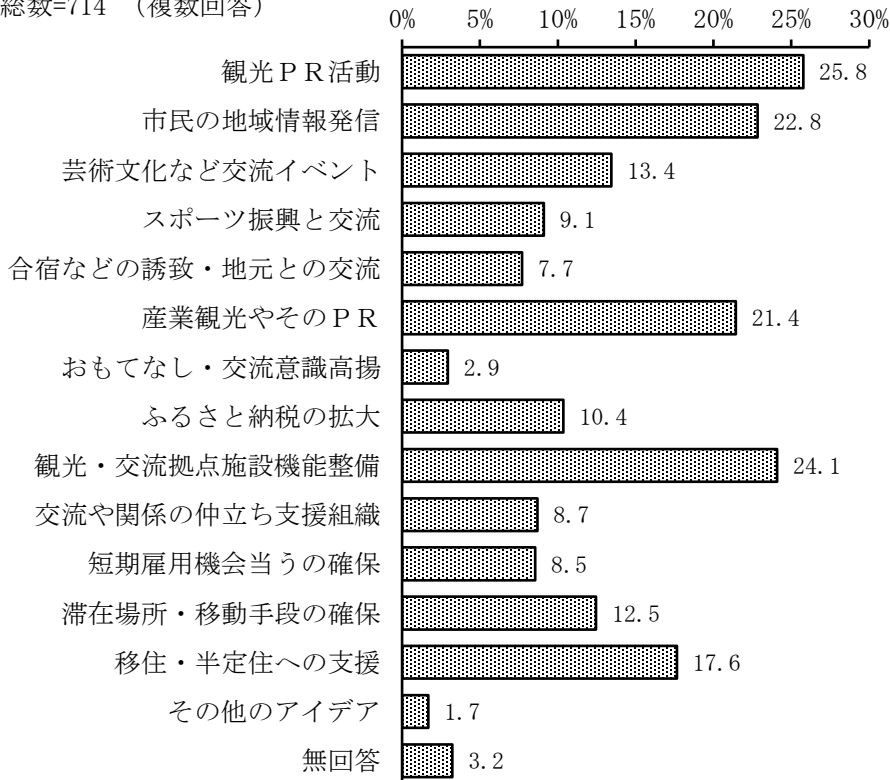
(5) 交流人口・関係人口拡大の方策

■問 17 笠戸島などの資源を生かした観光を含む「交流人口」に加え、様々な立場から下松に関わりを深め、思いを持って行き来する「関係人口」の拡大を目指すには、どのような方策が有効だと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

〔選択肢〕

1. 市や観光協会による観光PR活動
2. SNSなどによる市民の地域情報発信
3. 文化、芸術など各種の交流イベントの開催
4. スポーツの振興と交流促進（わがまちスポーツ*の盛り上げなど）
（*わがまちスポーツ：ハンドボール、バドミントン）
5. 各種の合宿などの誘致による地元との交流促進
6. 産業観光（鉄道車両、造船、水産など）の展開やそのPR促進
7. おもてなし精神、交流意識の高揚、実践
8. ふるさと納税の拡大促進（訪問特典なども）
9. 観光・交流拠点施設機能（食など）の整備
10. 交流や関係づくりを仲立ちする支援組織（人材）の創出、育成
11. 短期雇用など下松で働ける機会の確保、提供
12. 滞在場所、移動手段の確保、提供
13. 移住や半定住の促進に向けた支援
14. その他のアイデア

総数=714（複数回答）



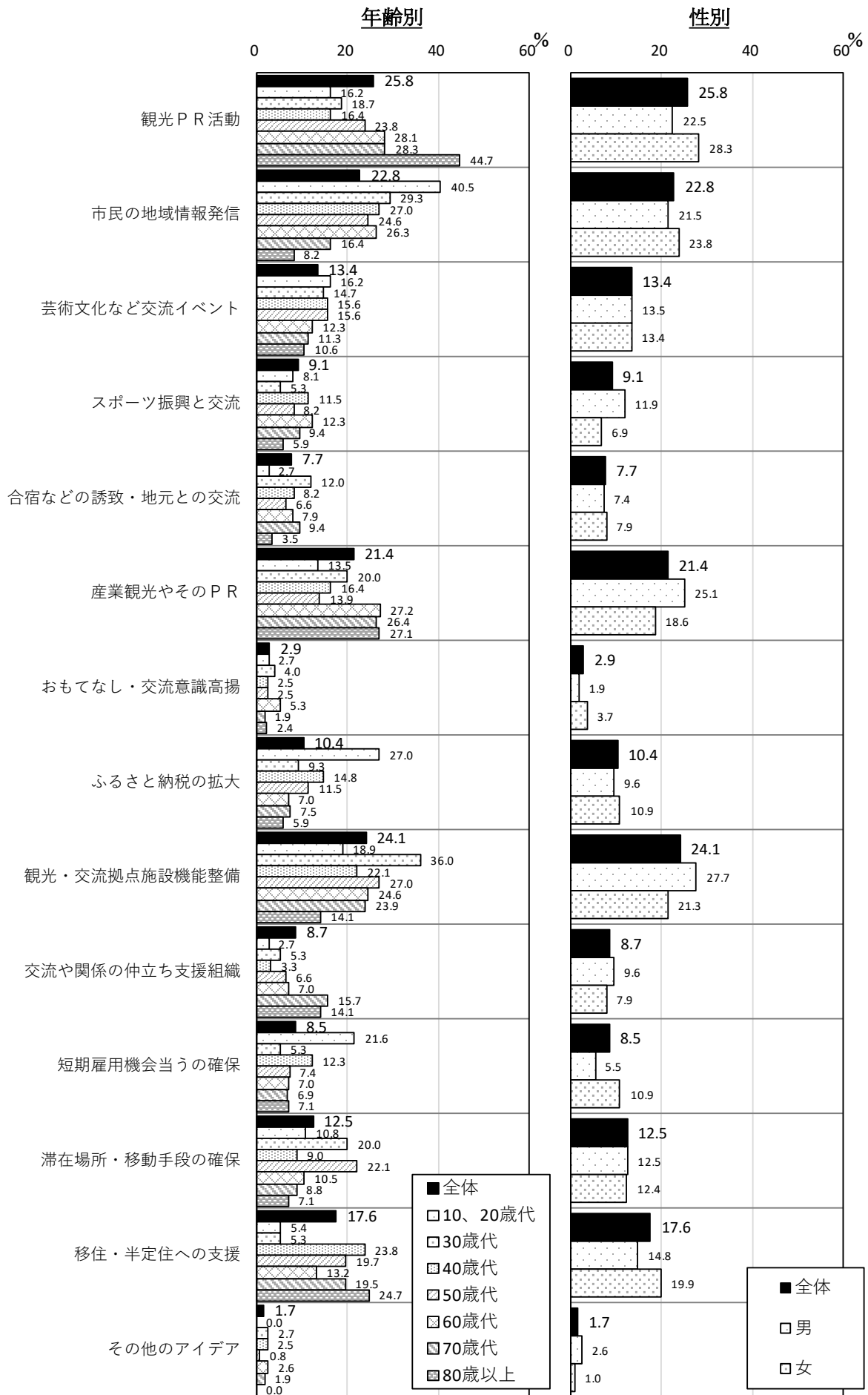
定住人口だけでなく交流人口、関係人口の増加による活性化も期待されるが、そのために有効な方策としては、「観光PR活動」、「観光・交流拠点施設機能の整備」、「SNSなどによる市民の地

域情報発信」、「産業観光の展開やそのPR促進」の順で支持を集めている。観光を主眼とした人の交流拡大への期待が最も大きいと言える。また、「移住や半定住の促進に向けた支援」もこれに次いでおり、笠戸島等の良好な環境の「住む」場所としての活用も有望視されていると見られる。

<p>「その他」の 主な記述</p>	<p>ハイキングコースをもっと手軽に歩けるコースに改修する。 笠戸大橋に歩道橋を造ってほしい。渡りたいけど危なくて渡る気はしません。子どもが渡れると喜ぶと思います。 10～17才までの子供たちに「世の中に発表されていない 一切真似ていないオリジナルアイデア」を懸賞付で募集をする →後日(1年間以内) 真似ている事が明らかになった場合 返金してもらう。 県内の観光ツアーに乗っかり、宿泊地として下松をPRする 市でははく、瀬戸内海の島として姉妹提携「島」を、地中海の島と結ぶ。</p>
------------------------	--

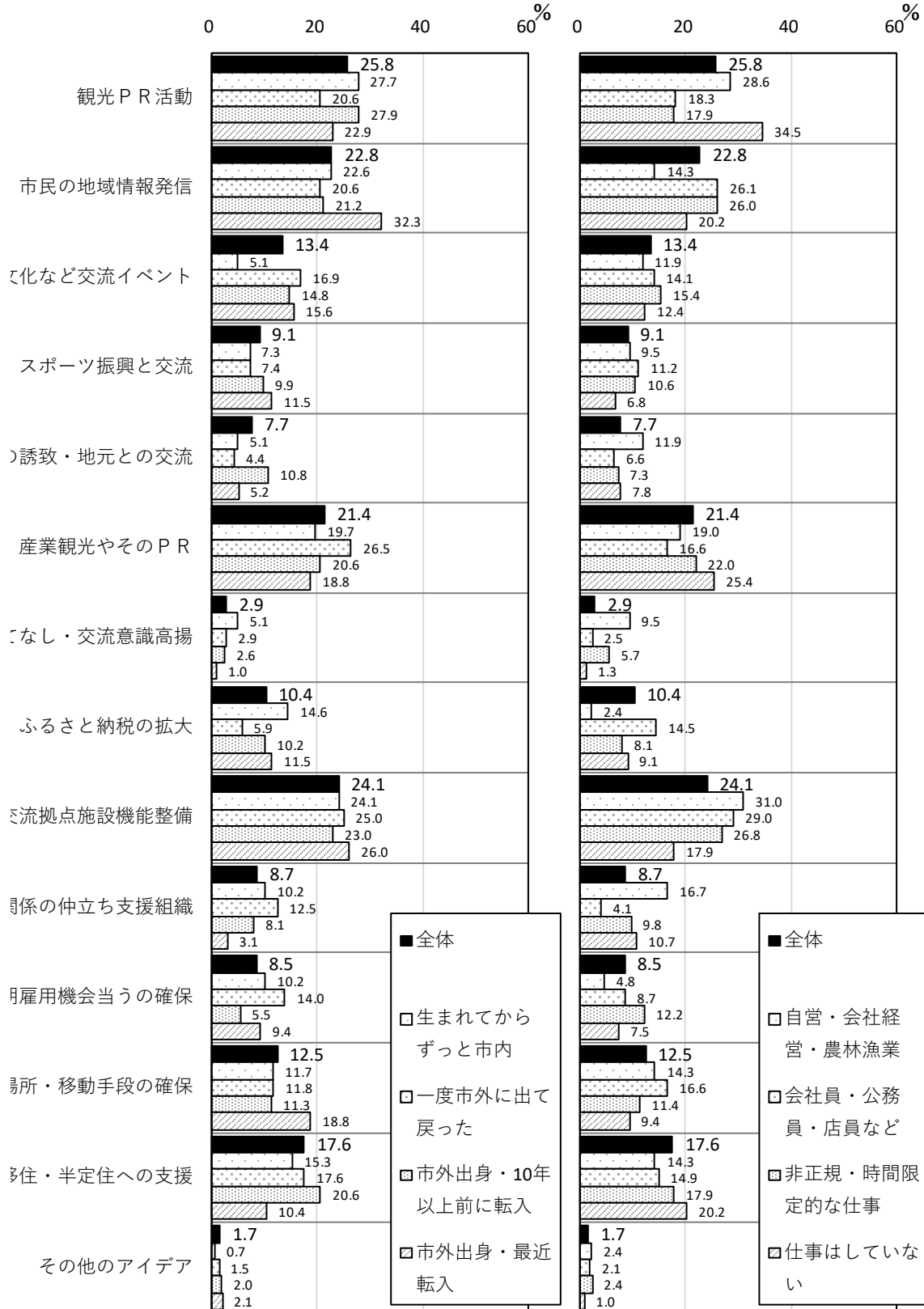
「観光PR活動」や「産業観光」は高齢層で比較的 support されている一方、「観光・交流拠点施設機能の整備」、「SNSなどによる市民の地域情報発信」は若い世代で比較的 support 率が高いといった相違がある。また、「観光PR活動」や「移住や半定住の支援」は女性の方が support 率が高い反面、「観光・交流拠点施設機能の整備」、「産業観光」は男性の方が高い割合であるといった違いも見られる。

さらに、「市民の地域情報発信」は市外出身・最近転入者で、「産業観光」は一度市外に出て戻った(Uターン)者で特に割合が高く、「観光PR活動」や「産業観光」は仕事をしていない人、「観光・交流拠点施設機能の整備」は自営・会社経営・農林漁業者で最も高い割合である等の特徴もある。



市内居住経緯別

職業別

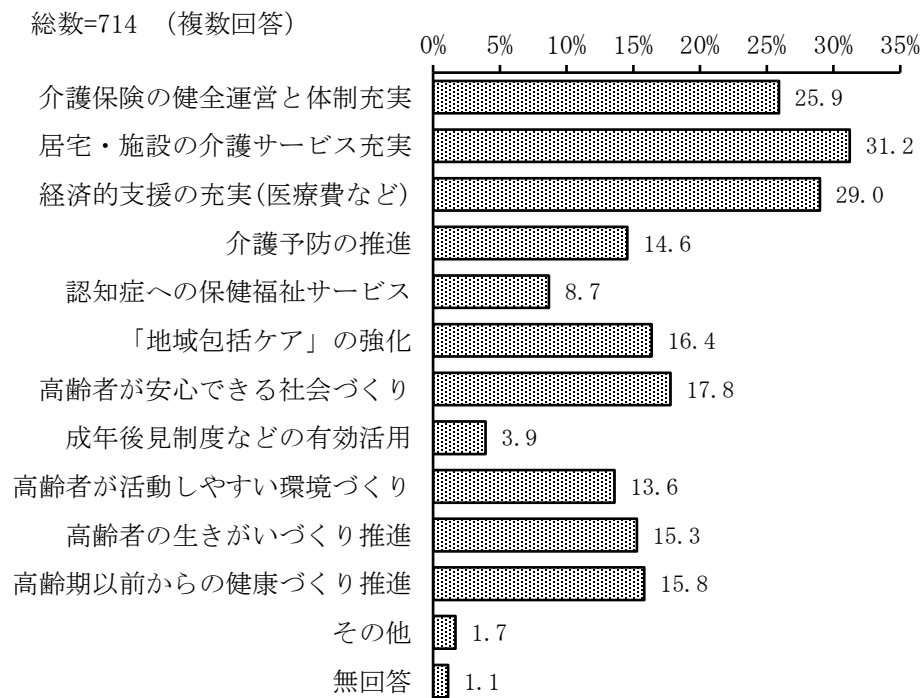


(6) 高齢化社会のまちづくりの重点

■問 13 高齢化社会におけるまちづくりで、どのようなことが特に重要となると思いますか。 次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

〔選択肢〕

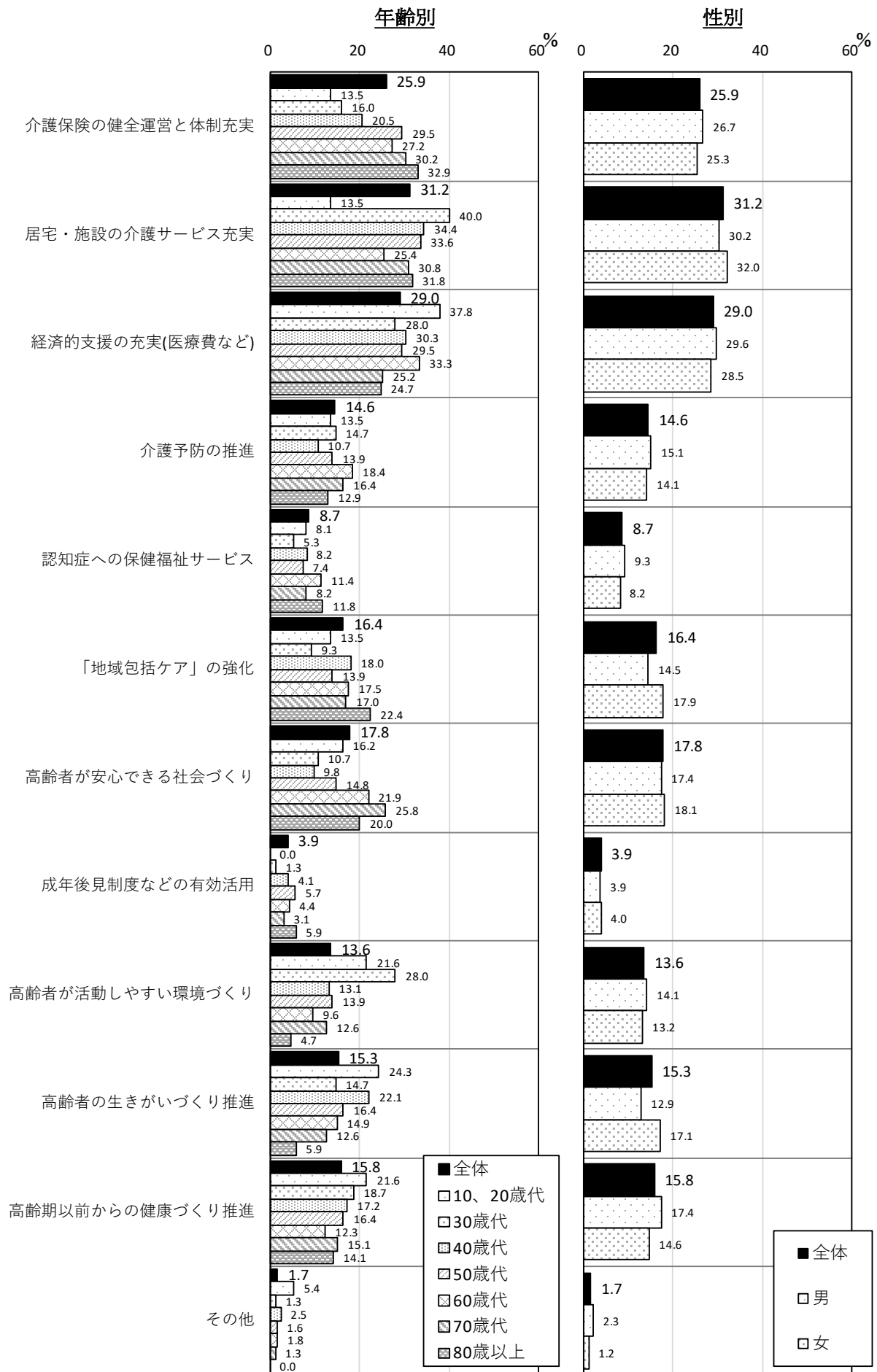
1. 介護保険制度の健全で円滑な運営とその体制の充実
2. 居宅サービスや施設整備など介護サービスの充実
3. 経済的支援の充実（医療費など）
4. 要介護状態になることを防ぐ介護予防の推進
5. 認知症高齢者に対する保健福祉サービスの提供
6. 高齢者の生活を地域全体で支える「地域包括ケア」の強化
7. 見守りや防犯など高齢者が安心して暮らせる社会づくり
8. 成年後見制度など高齢者の権利を守る仕組みの有効活用
9. 道路や各種施設のバリアフリー化など高齢者が活動しやすい都市環境づくり
10. 高齢者の社会参加などによる生きがいのづくりの推進
11. 高齢になる前からの健康づくりの推進
12. その他



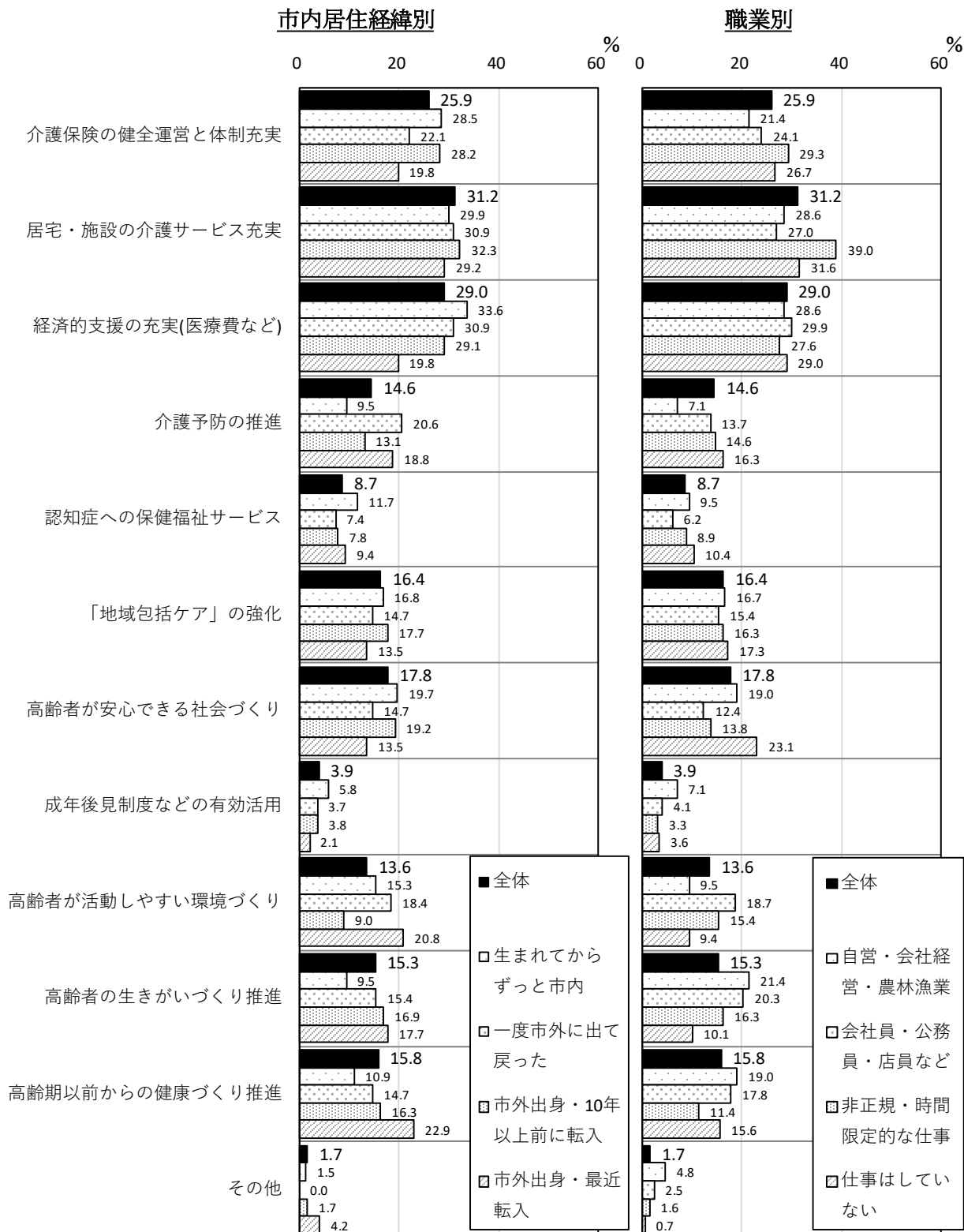
高齢化の進行が続く中で、高齢者福祉を中心とする高齢化社会のまちづくり施策として重要なものを尋ねている。

「居宅・施設の介護サービスの充実」への支持が最も多く、「経済的支援の充実」、「介護保険制度の健全運営と体制充実」を合わせて他の項目を引き離している。

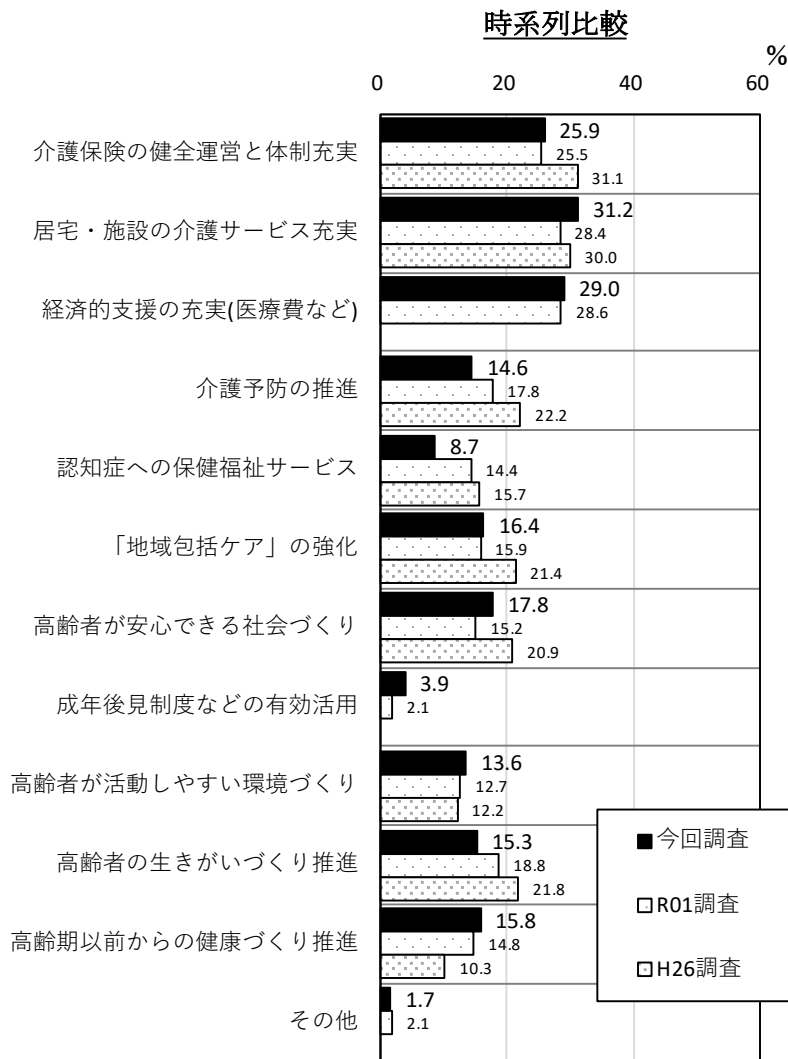
「介護保険制度の健全運営と体制充実」や「見守り・防犯など高齢者が安心して暮らせる社会づくり」は、当事者である高年齢層で特に高い割合であるのに対し、「バリアフリー化など高齢者が活動しやすい都市環境づくり」や「居宅・施設の介護サービスの充実」は、30歳代を中心とした世代での割合が高いといった相違がある。



「経済的支援の充実」は生まれてからずっと市内の居住者で最も多く、「高齢になる前からの健康づくり推進」は市外出身・最近転入者で最も高い割合であるほか、「居宅・施設の介護サービスの充実」は非正規・時間限定的な仕事の人で、「高齢者の社会参加など生きがいの推進」は会社員・公務員・店員などで最も高い割合といった特徴も見られる。



この設問は、過去の総合計画策定時の市民アンケートでも実施しており、時系列で各選択肢の割合を比較すると下図のようになり、各回で大きな傾向の差異は見られない。ただし、今回1位の「居宅・施設の介護サービスの充実」の指示割合は前回から3ポイント近く上昇している。



「その他」の主な記述	若者世代と高齢者世代を分断させない取り組み 健康で有れば、空地等を利用し可能な限り花や野菜作り等に参加可能な場所を提供できる活動を望む。 独居の方が安心して住める集合住宅？集団居住区とか作って老後も下松なら安心！とかなるといいですね。 過度な支援は必要ない。若年層への支援に回してほしい。
------------	---

6. 防災対策

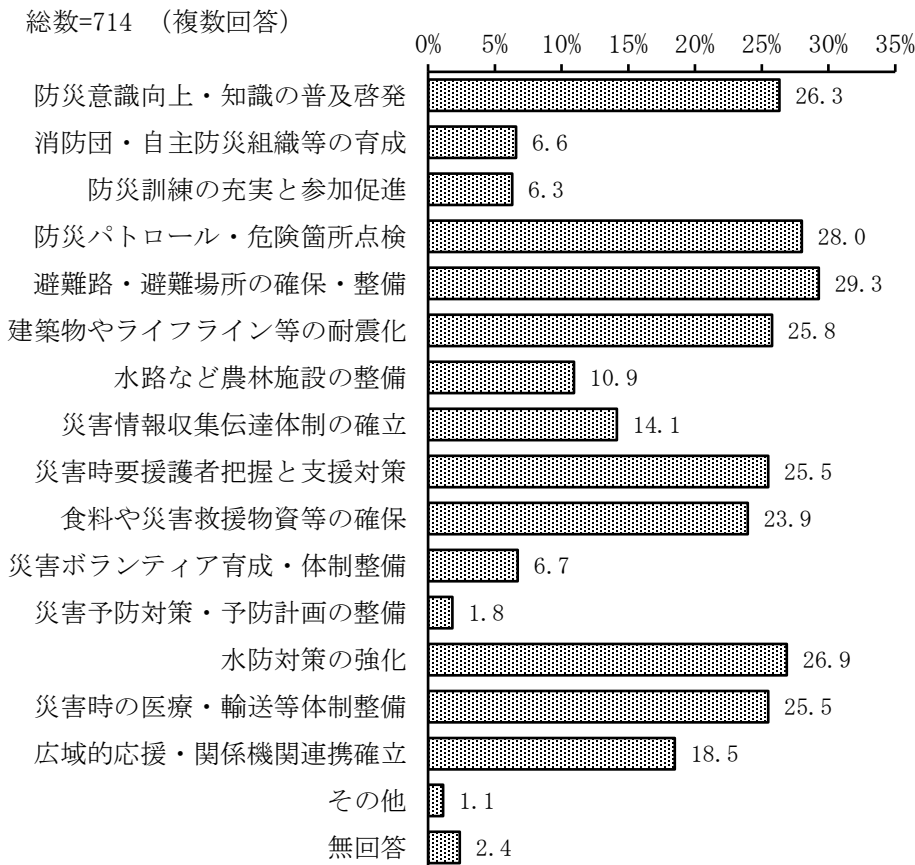
■問 14 行政や市民、民間事業者などの防災対策として、特にどのようなことを急ぐべきだと思いますか。次の中から3つまで選んで番号を口の中に記入してください。

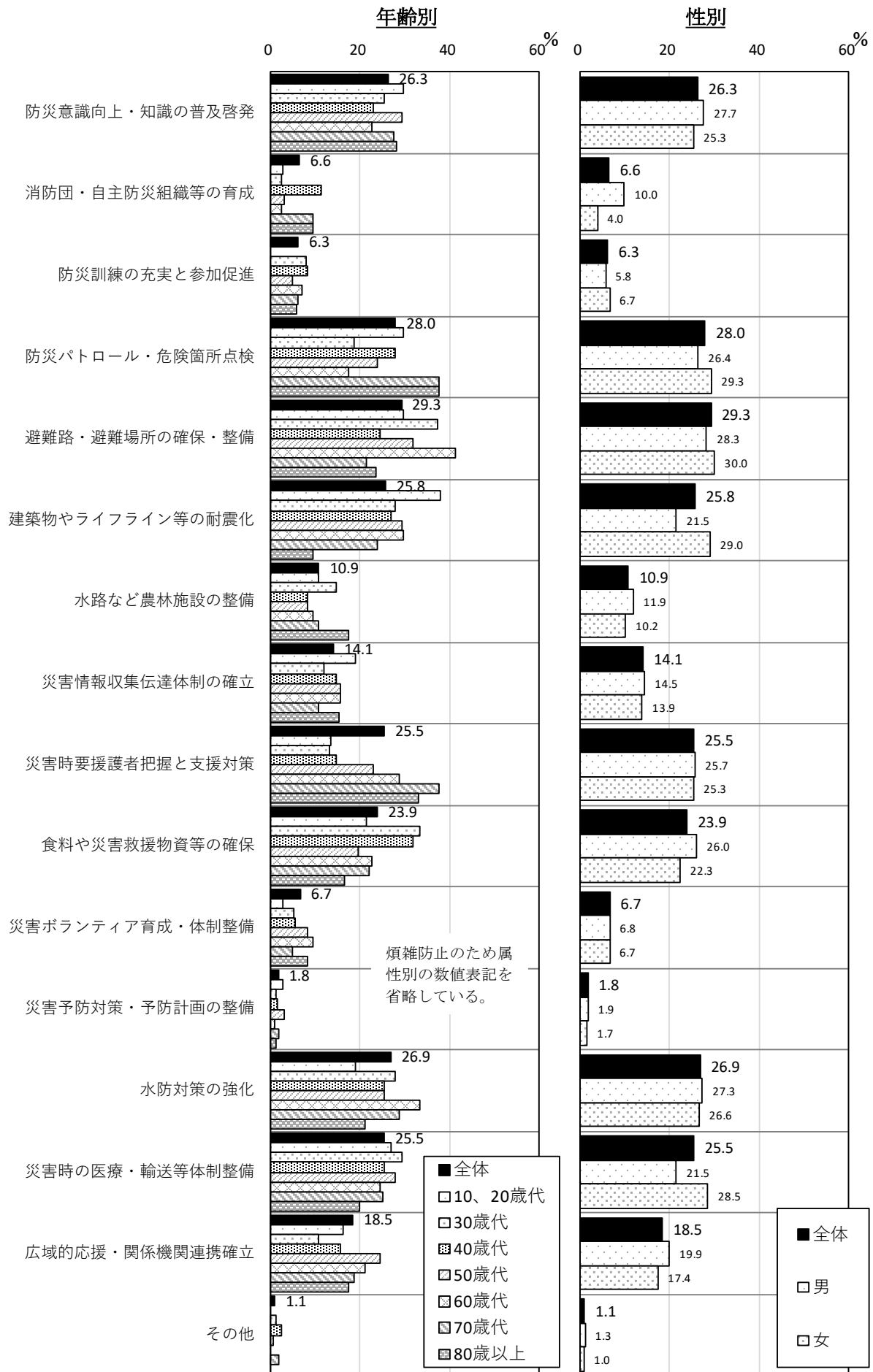
〔選択肢〕

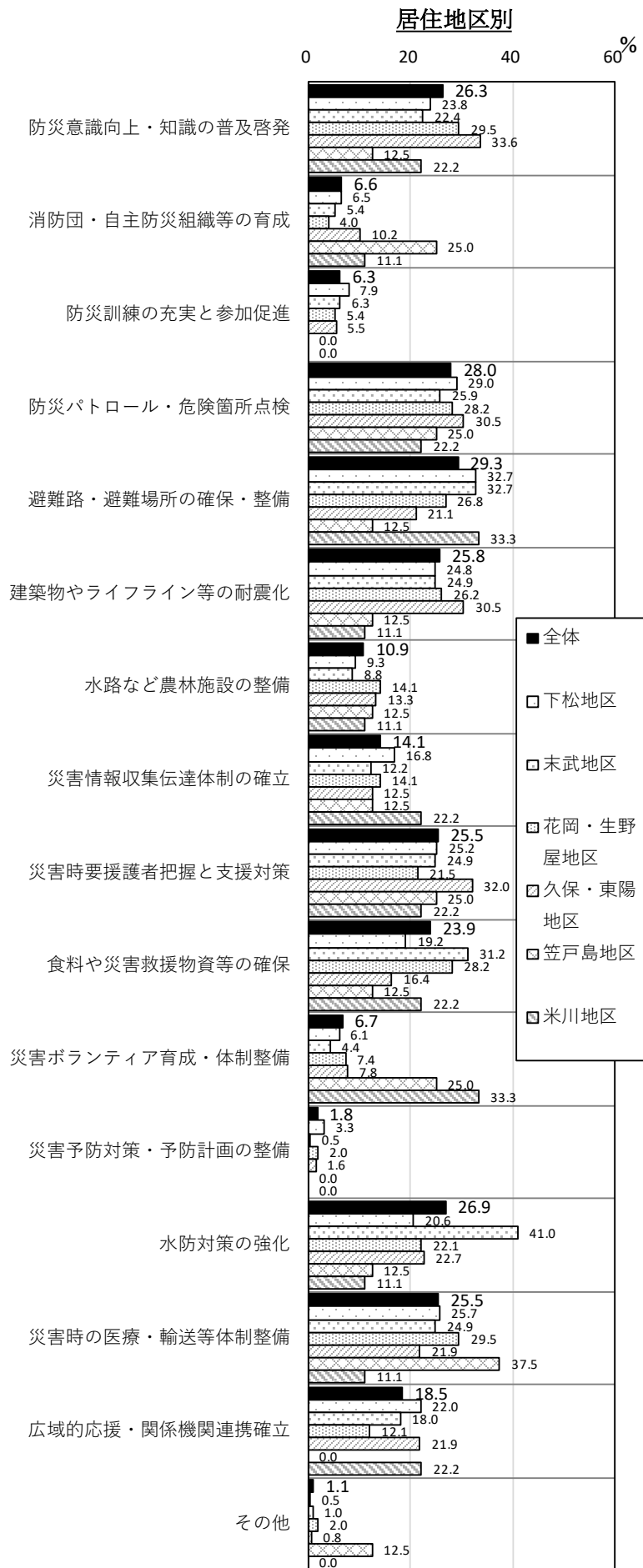
1. 市民の防災意識の向上と防災知識の普及啓発
2. 消防団や自主防災組織などの育成強化
3. 防災訓練の充実と参加の促進
4. 防災パトロールや災害危険箇所の点検、対策
5. 避難路、避難場所の確保と整備
6. 建築物や公共土木施設、ライフライン施設等の耐震化
7. 水路、ため池、堰などの農林施設の整備
8. 災害情報の収集・伝達体制の確立
9. 高齢者や障がい者など災害時に配慮が必要な方の把握と支援対策の確立
10. 非常時の食料や燃料、災害救助物資等の確保
11. 災害ボランティアの育成と受入体制整備
12. 火災予防対策や企業等における災害予防計画の整備
13. 河川の改修や津波対策などの水防対策の強化
14. 災害時の医療や衛生、緊急輸送等の体制の整備
15. 災害時の広域的な相互応援協力、関係機関との連携体制の確立
16. その他

防災対策として急ぐべきこととして掲げた複数の選択肢で、特に高い回答割合となった項目が複数にわたり、偏りのない総合的な防災対策が求められていると言える。

その中でも最も高い割合なのは「避難路、避難場所の確保と整備」であり、このほか、「防災パトロールや危険箇所の点検、対策」、「水防対策の強化」、「防災意識の向上と防災知識の普及啓発」、「建築物やライフライン施設等の耐震化」、「災害時に配慮が必要な方の把握と支援対策」、「災害時の医療や衛生、緊急輸送等の体制」、「食料や燃料、災害救助物資等の確保」といった項目がいずれも20%以上という高い割合を示している。







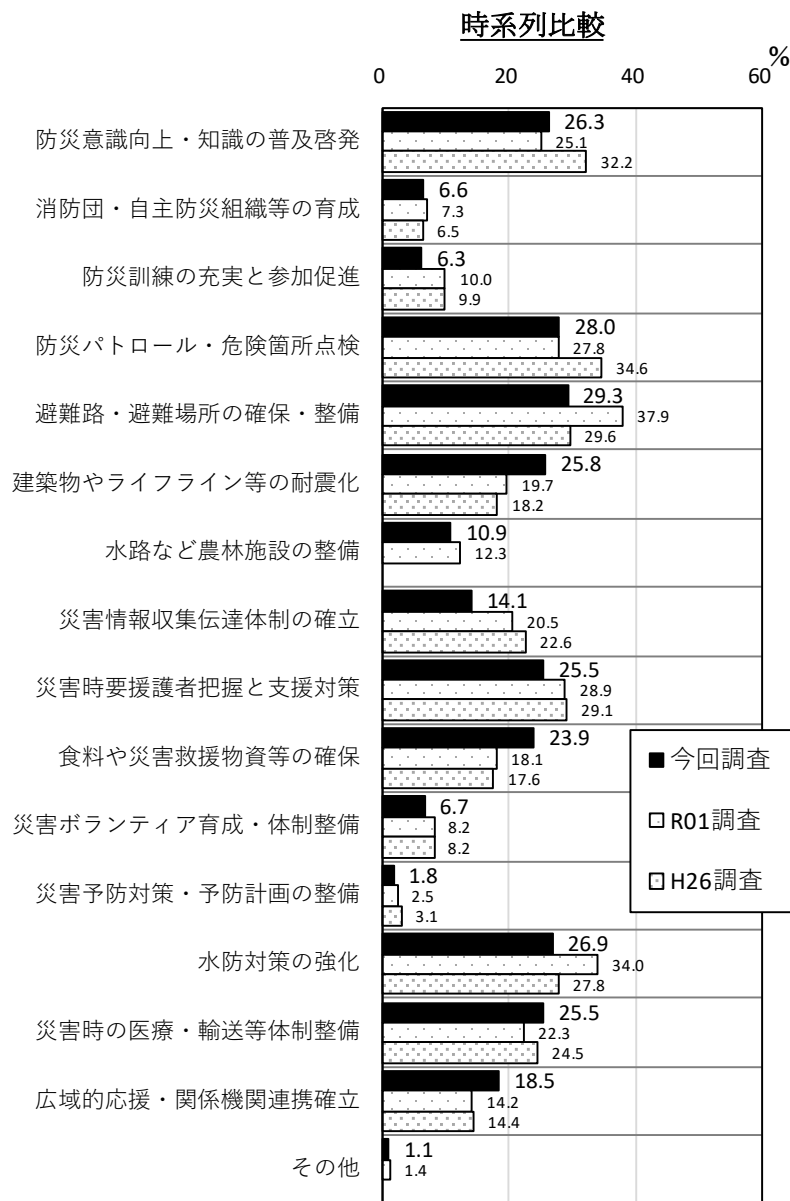
年齢別では、「防災パトロールや危険箇所の点検、対策」や「災害時に配慮が必要な方の把握と支援対策」で特に高齢層が、「建築物やライフライン施設等の耐震化」や「食料や燃料、災害救助物資等の確保」で特に若い世代がそれぞれ比較的高い割合を示している。

また、「建築物やライフライン施設等の耐震化」や「災害時の医療や衛生、緊急輸送等の体制」で女性が男性よりも目立って高い割合となるなどの特徴も見られる。

居住地区による相違を、回答数の少ない笠戸島、米川地区以外で見ると、全体に大きな差異は認められない中で、「水防対策の強化」の割合が末武地区で突出して高いのが目立つほか、「避難路、避難場所の確保と整備」が下松、末武地区で、「食料や燃料、災害救助物資等の確保」が末武、花岡・生野屋地区で比較的高い割合であること等が指摘できる。

笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考としての表示である。

過去の総合計画策定時の調査結果との比較では、各選択肢の回答割合に多少の増減が見られ、前回調査（令和元年）から割合の値を目立って増やした項目として、「建築物やライフライン施設等の耐震化」や「食料や燃料、災害救助物資等の確保」、「災害時の医療や衛生、緊急輸送等の体制」などがある。



「その他」の主な記述	災害時のプライバシー（テント等）の数の確保。水の確保。 防災無線が聞こえにくい。 高齢者避難指示（レベル3）でも、ほとんどの高齢者が自宅を出ない現状を見直す。 4項の災害危険個所の見る目はその地域にも詳しい人が居ると思われる、そこで改善を要請できる体制を作り、対策に繋げると良い。
------------	---

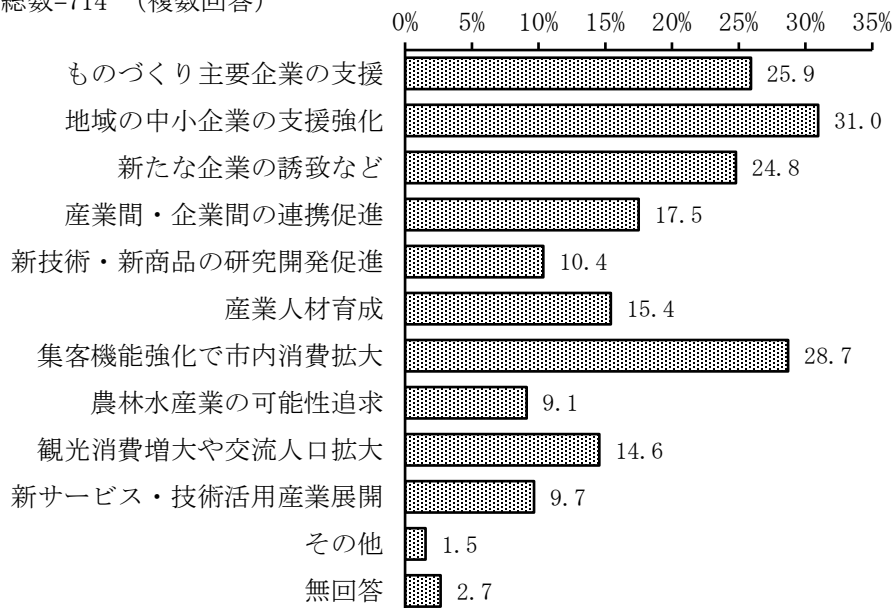
7. 産業振興

■問 15 下松市の活力を維持し、より高めていくために、市内の産業をどのような方向で育てていくべきかと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

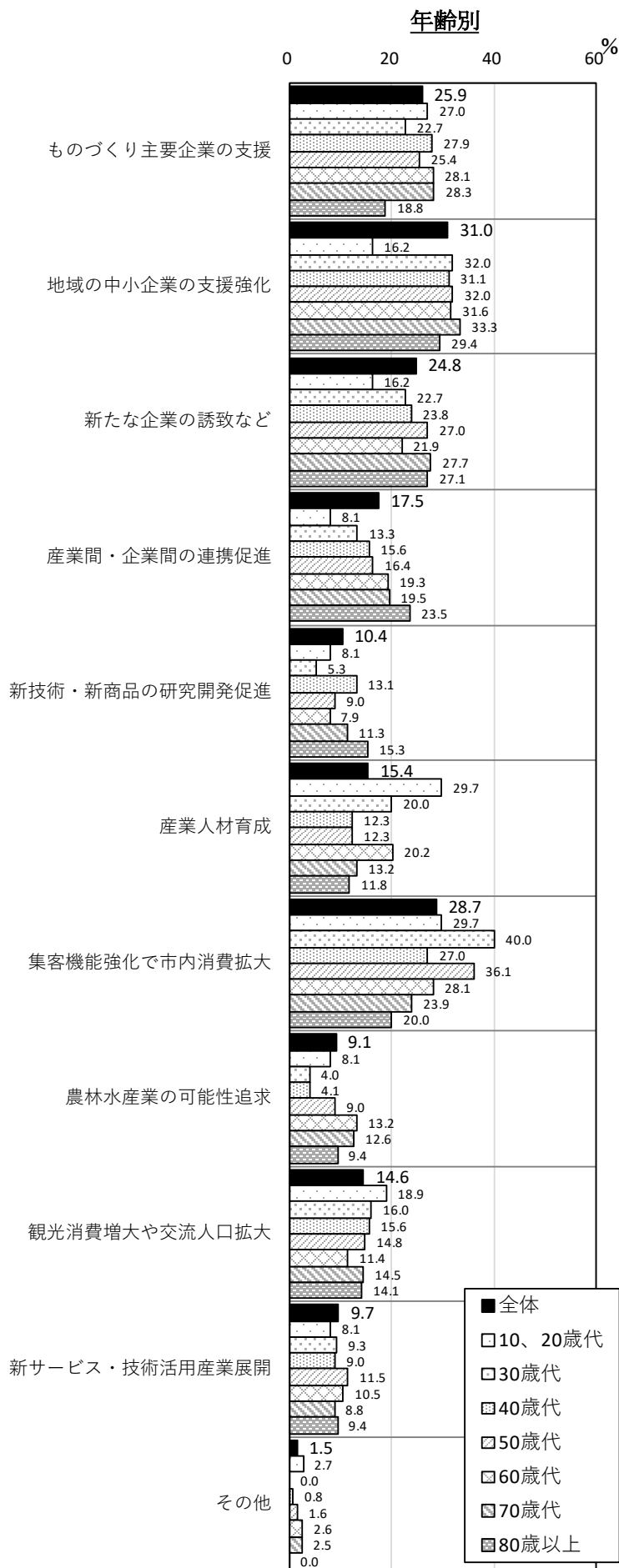
〔選択肢〕

1. 市内のものづくり主要企業がさらに力を発揮できるよう支援する。
2. 地域の中小企業の経営支援などにより地場産業の力を強化する。
3. 新たな企業の誘致などを積極的に行う。
4. 農業・商業・工業など産業間、企業間の連携を促進し、新しい製品や価値を産み出す。
5. 県内外の高等教育機関などとの連携も含め、新技術・新商品の研究開発を促進する。
6. 産業に関わる人材育成を積極的に行う。
7. 商業施設など人が集まる機能を強化し、市内消費を拡大させる。
8. 農林業、水産業の分野で新しい可能性を追求する。
9. 観光による集客に力を入れ、観光消費の増大や交流人口の拡大を目指す。
10. 新しいサービス・技術を活用した産業展開を促進する。
11. その他

総数=714（複数回答）



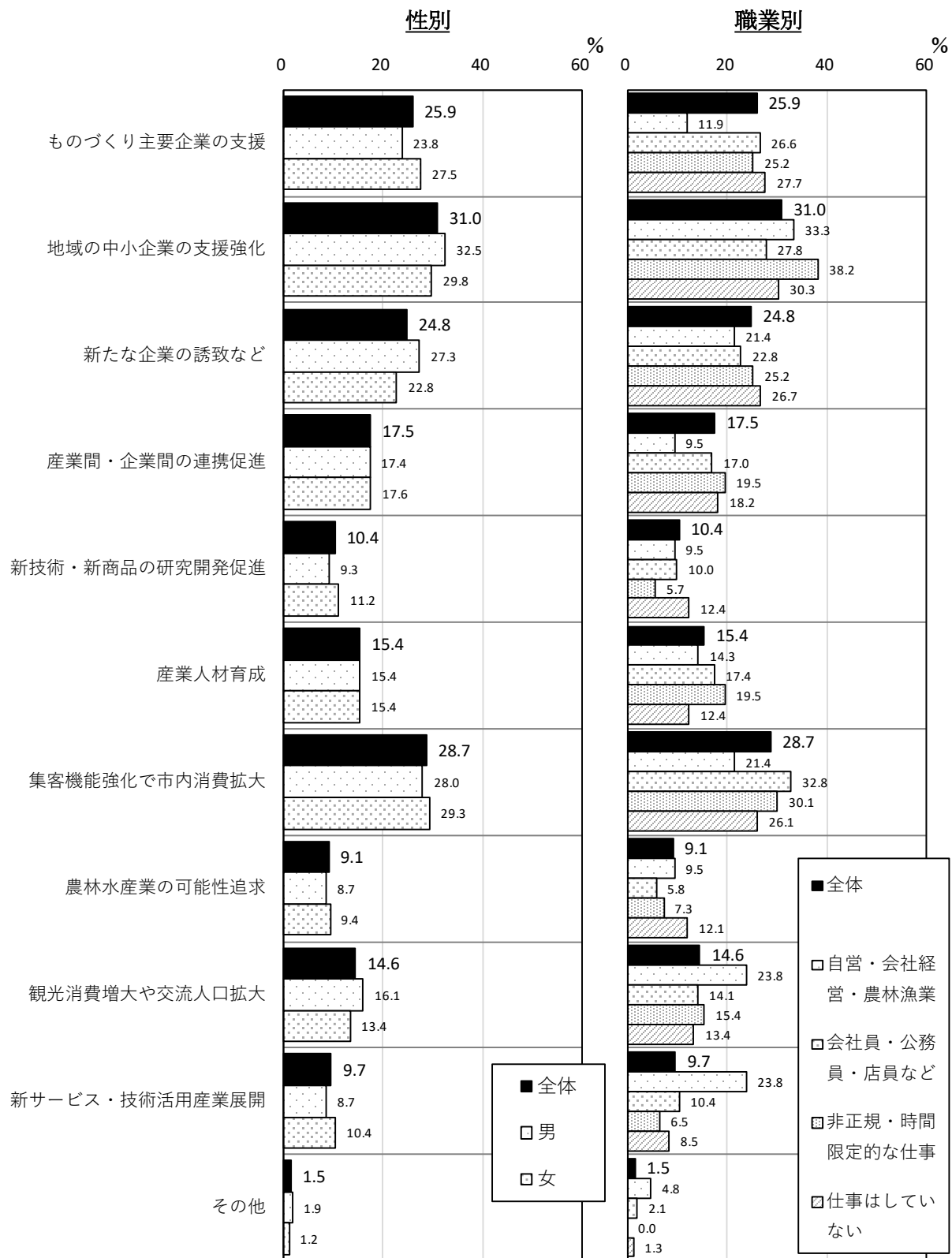
市内の産業振興の方向についての設問で、回答割合の1位は「地域の中小企業の支援などによる地場産業の強化」であるが、「商業施設など集客機能を強化し市内消費を拡大」、「ものづくり主要企業の支援」、「新たな企業の誘致など」もこれに続いて多くの支持を集め、上位グループを形成している。大手のものづくり企業で特徴づけられる下松市であるが、中小企業や商業も含めた総合的な産業力の強化が求められているとも見られる。



このうち、「商業施設など集客機能を強化し市内消費を拡大」は、30歳代や50歳代で特に高い割合であり、また、「産業に関わる人材育成」は10、20歳代で特に高い割合であることが目立つ。

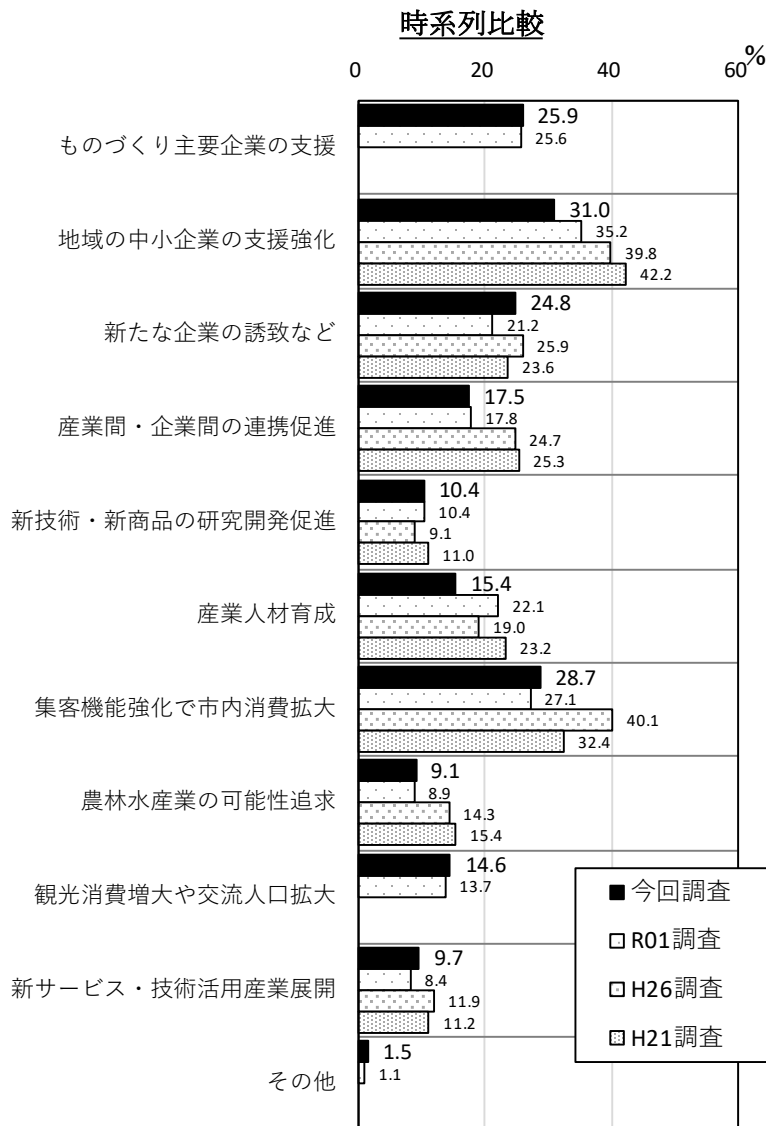
男女別では目立った差異は見られないが、「新たな企業の誘致など」では男性の方が、「ものづくり主要企業の支援」では女性の方がやや高い割合である。

職業別に見ると、「地域の中小企業の支援などによる地場産業の強化」では非正規・時間限定的な仕事の人の支持割合が比較的高く、「観光消費の増大や交流人口の拡大」、「新サービス・技術を活用した産業展開」では自営・会社経営・農林漁業者での支持割合が目立って高いといった特徴もある。



過去の調査との比較をした図を下に示すが、「ものづくり主要企業の支援」と「観光消費の増大や交流人口の拡大」は前回調査（令和元年）から加えた選択肢である。

概ね前回調査と同様の傾向であるが、「新たな企業の誘致など」が若干前回より割合を伸ばし、前々回からの減少を回復させている。



「その他」の 主な記述	耕作放棄地の有効活用、転作等。 外国籍技能実習生との創生社会へ。 自治体が産業、経済活動に口をはさむべきではないのでお金だけ出すべき。
----------------	---

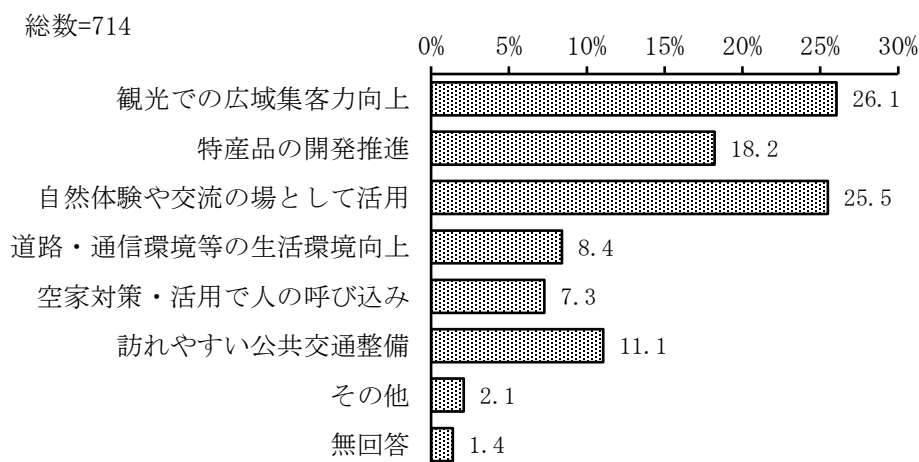
8. 笠戸島・米川の振興

■問 16 市の南北に位置する笠戸島や米川地区は、豊かな自然に恵まれています。この環境を有効に利用するために特にどのようなことが必要だと思えますか。次の中からそれぞれ1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

(1) 笠戸島

〔選択肢〕

1. 観光PRや観光関連施設の充実・連携などで、広域的な集客力を向上させる。
2. 笠戸ひらめ・とらふぐや笠戸島レモンなどを活かし、特産品の開発を進める。
3. 海や森、農地などを活かした自然体験や交流の場として多様な活用を広める。
4. 島内の道路・交通網や通信環境の整備等、集落の生活環境の向上を図る。
5. 空家対策、活用による環境改善、人の呼び込みなどを進める。
6. 笠戸島へ訪れやすい公共交通を整備する。
7. その他



笠戸島の自然環境等活用方策としては、「観光PRや施設充実などで広域的な集客力向上」と「自然体験や交流の場として多様な活用」がほぼ同率で最上位を占めている。これに「特産品の開発を進める」が続き、観光を中心とした活用が広く支持されていると言える。

年齢層による目立った傾向の相違も見られないが、特に40歳代で、これら観光関連の3項目の選択率が最も高い。

居住地区別では、笠戸島と米川を除く4地区ではほぼ類似した傾向である。笠戸島地区は回答数が少ないのであくまで参考値であるが、上記観光関連項目の割合は少なく、「道路・交通網や通信環境の整備等生活環境向上」などの回答の方が多く、ここで生活する当事者と他地区市民の意識の相違を見せている。

また、市外出身・最近転入者で「観光PRや施設充実などで広域的な集客力向上」の回答割合が特に高いことが目立つところである。

		集観 客光 力で 向の 上 の 広 域	推特 進産 品の 開 発	活流 用の 場 と 験 し や 交	自然 体 験 し や 交	境境 向等 上の 生 活 環 境	道 路 の 通 信 環 境	込用 みで 家 人 の 策 呼 び 活	空 家 対 策 の 呼 び 活	訪 れ や す い 公 共 交 通 整 備	そ の 他	無 回 答
	(凡例)											
	(n)											
【年齢別】	全体 (714)	26.1	18.2	25.5	8.4	7.3	11.1					
	10、20歳代 (37)	27.0	13.5	24.3	10.8	21.6						
	30歳代 (75)	20.0	21.3	28.0	5.3	8.0	12.0					
	40歳代 (122)	18.0	23.0	37.7	9.0	5.7	5.7					
	50歳代 (122)	28.7	19.7	25.4	6.6	7.4	10.7					
	60歳代 (114)	31.6	15.8	26.3	8.8	7.9						
	70歳代 (159)	28.3	17.0	17.6	10.1	10.1	13.2					
	80歳以上 (85)	27.1	14.1	20.0	8.2	9.4	14.1	5.9				
【性別】	男 (311)	26.0	21.9	22.8	9.6	7.4	8.0					
	女 (403)	26.1	15.4	27.5	7.4	7.2	13.4					
【居住地区別】	下松地区 (214)	25.7	19.2	23.8	10.7	7.0	10.3					
	末武地区 (205)	30.2	17.1	23.4	7.8	7.3	11.7					
	花岡・生野屋地区 (149)	24.2	16.8	28.2	6.7	6.0	14.8					
	久保・東陽地区 (128)	24.2	20.3	29.7	6.3	8.6	7.8					
	笠戸島地区 (8)	12.5	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5					
	米川地区 (9)	11.1	33.3	11.1	11.1	11.1	22.2					
【市内居住経緯別】	生まれてからずっと市内 (137)	27.0	19.0	20.4	8.0	8.8	10.9					
	一度市外に出て戻った (136)	22.1	19.9	22.8	9.6	10.3	12.5					
	市外出身・10年以上前に転入 (344)	24.7	18.0	29.9	7.6	6.1	10.5					
	市外出身・最近転入 (96)	34.4	15.6	20.8	10.4	5.2	11.5					

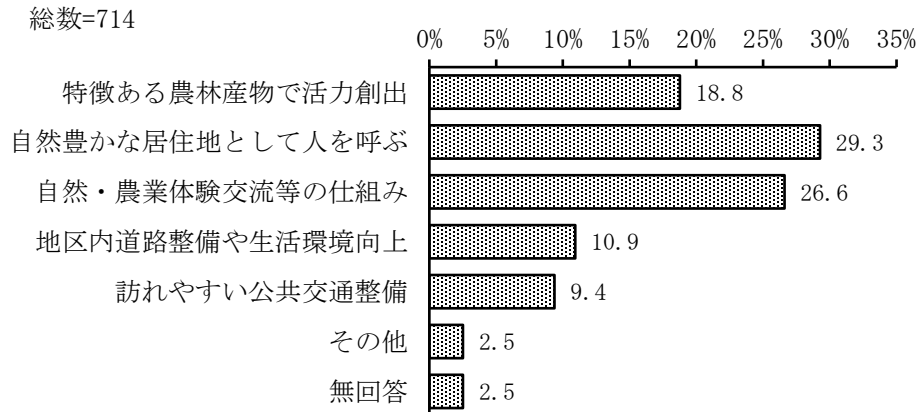
笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考としての表示である。

「その他」の 主な記述	海の駅のようなものをつくり、割安感のある魚を販売する場がほしい。 2, 3 (旬の魚、野菜を利用して) 老人及び市民サービスをする。バスの循環コースをつくる。 深浦をリゾート地化するなど、特色ある観光推進 キャンプ場には経験豊かな人を常駐させ、設備をもっと充実させて、雨天でも困らない場余にすればよい。 土地建物が自由に売買、建築できるようにする。(周防大島のように移住が進むと思う。)
----------------	---

(2) 米川

〔選択肢〕

1. 農林業の活性化に努め、特徴ある農林産物を産み出し、経済的な活力の創出を目指す。
2. 農地付空家などの提供により、山と水に囲まれた自然豊かな居住地域として人を呼び込む。
3. 休耕農地や米川ゆずなどを活かし、自然体験や農業体験など交流の場となる仕組みを作る。
4. 地区内の道路・交通網の整備や集落の生活環境の向上を図る。
5. 米川へ訪れやすい公共交通を整備する。
6. その他



米川地区に関しては、「農地付空家などの提供で自然豊かな居住地域として人を呼び込む」の割合が最も多く、これに「自然体験や農業体験など交流の場となる仕組みづくり」が小差で続いている。「農林業の活性化、特徴ある農林産物産出で経済活力創出」もこれらに次いで高い割合を示している。

年齢層別では、30～40歳代で、「自然体験や農業体験など交流の場となる仕組みづくり」と「農林業の活性化、特徴ある農林産物産出で経済活力創出」の割合が目立って高く、居住地というよりも農業生産やその体験を多く求めていることが興味深い。

居住地区別では、米川地区に隣接する花岡・生野屋地区で「自然体験や農業体験など交流の場となる仕組みづくり」の割合が最大であることが特徴的である。

米川地区の回答者数は少ないので、あくまで参考としての表示であるが、他の地区と回答構成は大きく異なり、「地区内道路・交通網の整備や集落生活環境の向上」が強く求められていることが窺える。

なお、市内出身者よりも市外出身者の方が「農林業の活性化、特徴ある農林産物産出で経済活力創出」の支持割合が高いことも特筆される。

		出産特 物徴 であ る力 農創 林	を住自 呼地然 ぶと豊 しか な居 人	組験自 み交然 流・農 業 仕 体	向備地 上や区 生内 活道 環路 境整	共訪れ 交や 通す 整い 備公	そ 他	無 回 答	(%)
	(凡例)								
【年齢別】	全体 (n) (714)	18.8	29.3		26.6	10.9	9.4		
	10、20歳代 (37)	13.5	21.6		35.1	10.8	18.9		
	30歳代 (75)	26.7	17.3		32.0	10.7	6.7		
	40歳代 (122)	22.1	28.7		31.1	8.2	8.2		
	50歳代 (122)	18.0	32.0		27.9	10.7	9.8		
	60歳代 (114)	16.7	34.2		20.2	13.2	9.6	6.1	
	70歳代 (159)	17.0	30.8		25.2	13.2	8.2		
	80歳以上 (85)	16.5	30.6		21.2	8.2	10.6	11.8	
【性別】	男 (311)	21.2	28.6		25.1	11.3	8.7		
	女 (403)	16.9	29.8		27.8	10.7	9.9		
【居住地区別】	下松地区 (214)	15.9	30.8		26.2	14.0	8.4		
	末武地区 (205)	21.5	29.8		26.3	8.8	9.3		
	花岡・生野屋地区 (149)	21.5	22.8		32.2	8.7	10.7		
	久保・東陽地区 (128)	18.0	36.7		24.2	8.6	10.2		
	笠戸島地区 (8)	12.5	12.5	25.0	12.5	37.5			
	米川地区 (9)	11.1	44.4	11.1	33.3				
【市内居住経緯別】	生まれてからずっと市内 (137)	12.4	31.4		22.6	13.1	10.9	8.0	
	一度市外に出て戻った (136)	15.4	25.7		28.7	15.4	11.8		
	市外出身・10年以上前に転入 (344)	20.3	32.3		27.6	7.8	7.3		
	市外出身・最近転入 (96)	27.1	19.8		26.0	12.5	11.5		

笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考としての表示である。

「その他」の 主な記述	<p>家ができない。農振とかの解除しかない。真剣に考えてほしい。農かには困っている。田畑は荒れる一方。</p> <p>農村リゾート施設を設置。それを核に農産物とその加工品を生産する施設を造り、経済的活力を生み出す。</p> <p>道の駅など人が集まりやすい場がほしい。</p> <p>広大な敷地を生かした多世代に向けた公園や温泉などの集客施設を作る</p> <p>市街地から1番近くて利用しやすいキャンプ場つくる。ダムに散歩に訪れる人の意欲向上のための道よ整備、アイコンや距離などの工夫と、フリーワイハイとぼして集客して欲しい。</p> <p>大々的な自然農法エリア地域として 様々な作物を栽培する</p> <p>農林業の特区として、農家住宅の推進など</p>
----------------	--

9. 新たな時代の課題への対応

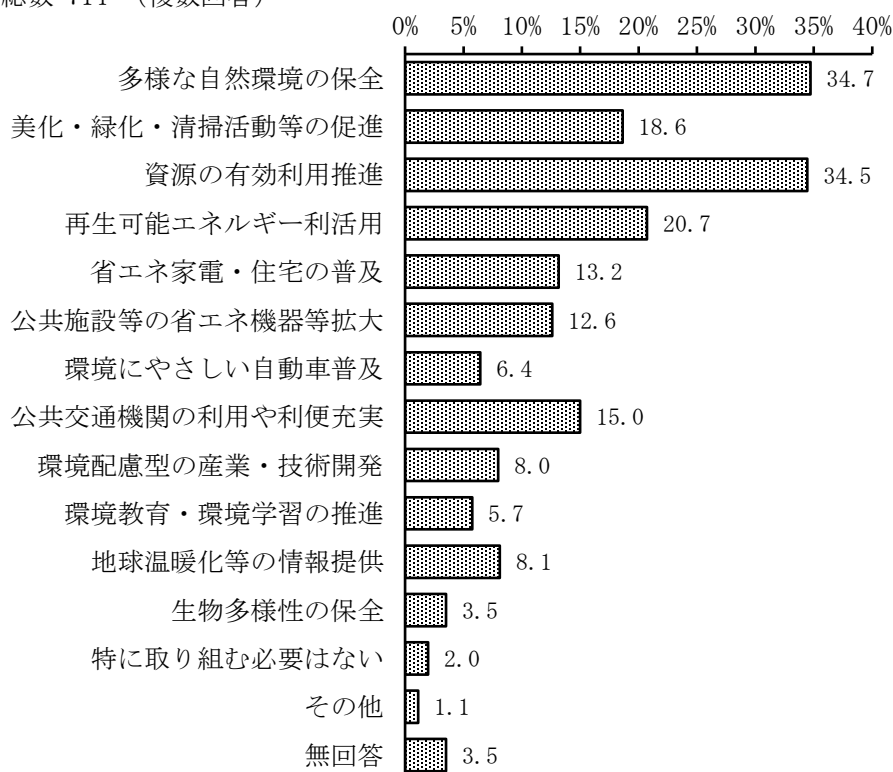
(1) カーボンニュートラルへの取組

■問 18 気候変動問題の解決に向けて、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させる「カーボンニュートラル」が世界共通の目標になっており、地域でも実践が求められています。市民と行政がともに進めていくべき取組としてはどのようなことが特に重要だと思えますか。次の中から2つまで選んで番号を□の中に記入してください。

〔選択肢〕

1. 農地、森林、海や川などの多様な自然環境の保全
2. 美化、緑化、清掃活動などの環境保全活動の促進
3. ごみの発生抑制、再使用、再生利用などの資源の有効利用推進
4. 再生可能エネルギー（太陽光、風力など）の利活用の推進
5. 省エネ家電・住宅の普及促進
6. 公共施設などへの省エネ機器や再生可能エネルギー利用設備等の導入拡大
7. 環境にやさしい自動車（EVなど）の普及
8. 公共交通機関の利用増進や利便充実
9. 環境配慮型の産業活動、技術開発の促進
10. 環境教育・環境学習の推進
11. 地球温暖化等に関する情報提供
12. 生物多様性の保全
13. 特に取り組む必要はない
14. その他

総数=714（複数回答）



世界的共通課題である「カーボンニュートラル」への取組について、その内容の重点を尋ねている。

用意した選択肢の中では、「多様な自然環境の保全」と「ごみの発生抑制、再使用、再生利用など資源の有効利用推進」がほぼ並んで最上位となっており、これに「再生可能エネルギー利活用の推進」と「美化、緑化、清掃活動などの環境保全活動の促進」が続く形である

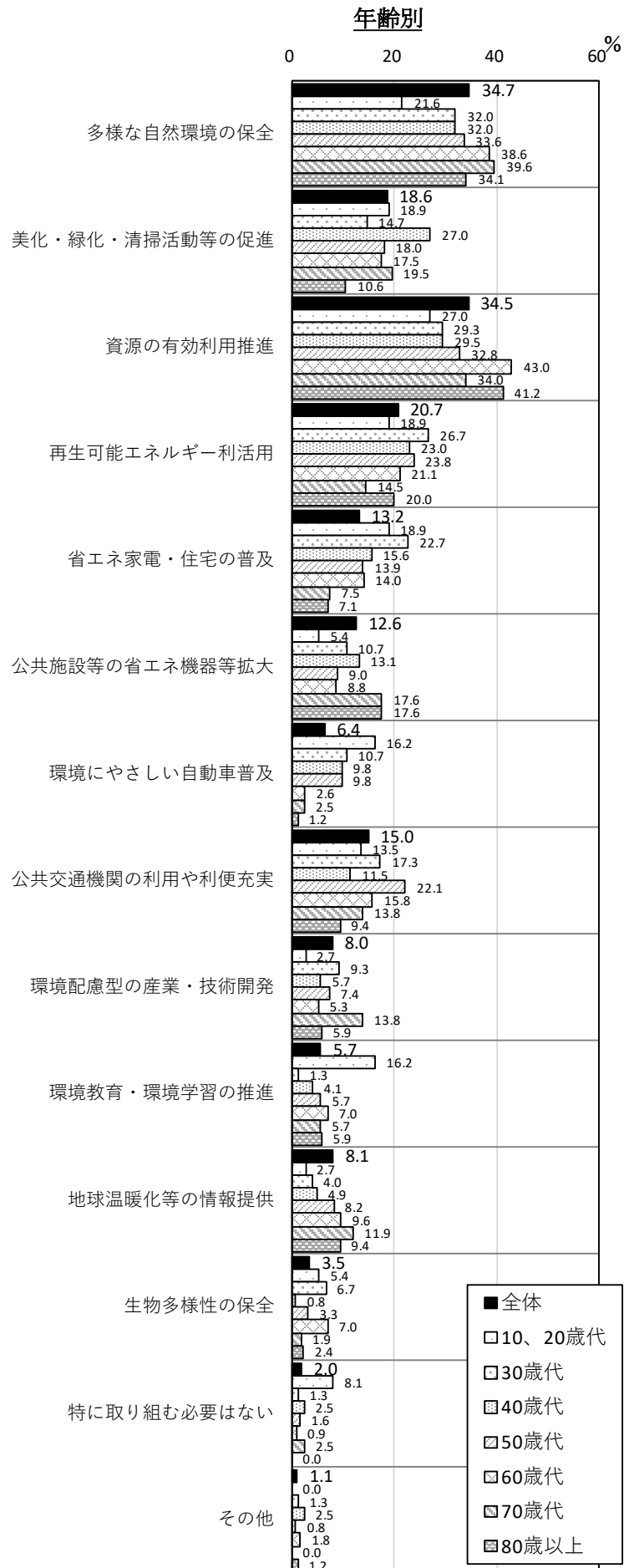
最上位の2項目（「多様な自然環境の保全」と「ごみの発生抑制、再使用、再生利用など資源の有効利用推進」）の割合は高齢層で比較的多く、数値は小さいが「地球温暖化等に関する情報提供」も同様の傾向である。

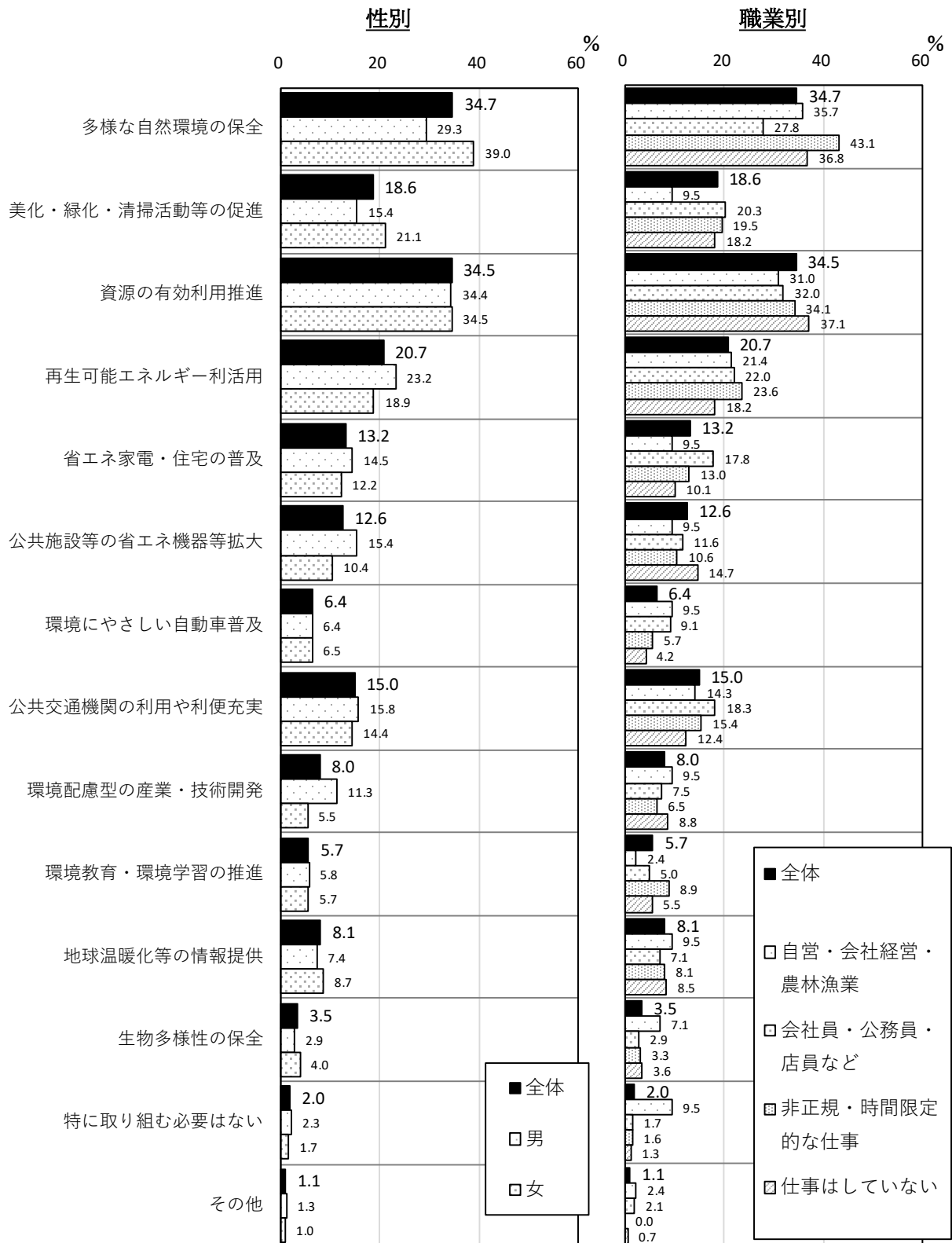
一方、「再生可能エネルギー利活用の推進」や「省エネ家電・住宅の普及促進」などの項目では30歳代など若い層での割合が比較的高いなど、年齢による意識の相違を見せている部分もある。

性別では総じて大差はないが、「多様な自然環境の保全」と「美化、緑化、清掃活動などの環境保全活動の促進」では女性の回答割合が目立って高く、逆に「再生可能エネルギー利活用の推進」では男性の方が高い値である等の違いも見られる。

また、「公共交通機関の利用増進や利便充実」では会社員・公務員・店員などでの割合が最多であることなどが目につく。

なお、「特に取り組む必要はない」の回答割合はわずかであるが、「その他」の記述の中ではカーボンニュートラル自体への否定的意見も見られる。

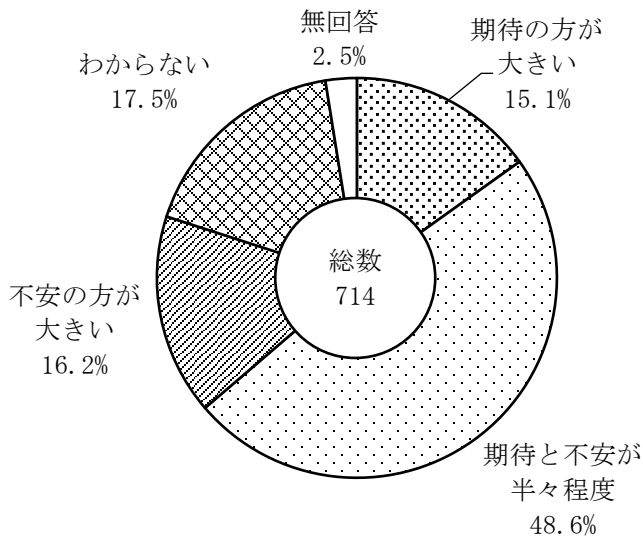




「その他」の主な記述
 国の補助のみならず、市としての追加補助を増やす。(EVの購入等)
 電気自転車に補助金出して、日本一の所有率の市町村にとかいかげでしょうか？
 世界的なカーボンニュートラルの目標達成のために創設される工場等が、その立地近辺の環境負担を増大させることのないように取り組む。
 安易な太陽光パネルの使用は避ける
 既に世界で 気温上昇の原因が 温室効果ガスではない事が報じられているので 意味がないと思います。

(2) デジタル化の進展への期待や不安

■問 19 企業や社会でのDX（デジタルトランスフォーメーション）の進展に加え、生成AI（人工知能）の急速な進歩、普及など、デジタル化が進んでいますが、これに対しどのように感じていますか。次の中から1つ選んで番号を口の中に記入してください。



デジタル化の進展に対しては「期待と不安が半々程度」が約半数近くを占め、また、「わからない」が17.5%あり、残りを「期待の方が大きい」と「不安の方が大きい」で分け合っている構図である。

「わからない」を除けば、年齢、性別、職業の各属性において「期待と不安が半々程度」が半数程度を占めるのはほぼ共通である。

「期待の方が大きい」と「不安の方が大きい」の割合を対比すると、年齢が若い層ほど「期待の方が大きい」の比重が増し、高齢層ほど「不安の方が大きい」の比重が高くなる。

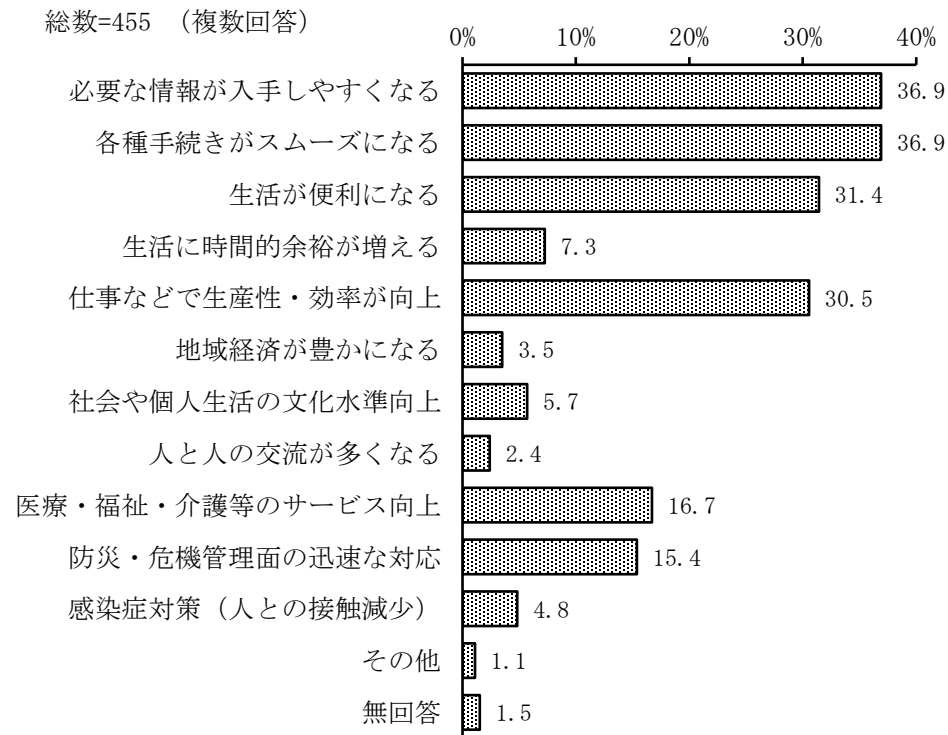
また、男性の方が女性より「期待の方が大きい」の比重が高いほか、非正規以外の有業者で、それ以外と比べて「期待の方が大きい」の比重が高いといった相違が見られる。

		期待の方が大きい	期待と不安が半々程度	不安の方が大きい	わからない	無回答	(%)
【凡例】							
【年齢別】		(n)					
	全体 (714)	15.1	48.6	16.2	17.5		
	10、20歳代 (37)	24.3	37.8	8.1	27.0		
	30歳代 (75)	28.0	50.7	8.0	12.0		
	40歳代 (122)	22.1	49.2	13.1	13.9		
	50歳代 (122)	12.3	59.0	14.8	13.9		
	60歳代 (114)	14.0	53.5	21.9	9.6		
	70歳代 (159)	6.9	47.2	20.8	21.4		
	80歳以上 (85)	10.6	31.8	17.6	31.8	8.2	
【性別】							
	男 (311)	21.9	47.6	13.2	15.8		
	女 (403)	9.9	49.4	18.6	18.9		
【職業別】							
	自営・会社経営・農林漁業 (42)	23.8	47.6	14.3	11.9		
	会社員・公務員・店員など (241)	22.8	48.5	12.0	15.8		
	非正規・時間限定的な仕事 (123)	10.6	58.5	20.3	9.8		
	仕事はしていない (307)	9.8	44.6	18.2	22.8		

■ その期待や不安の内容はどのようなものでしょうか。それぞれ2つずつ選んで番号を□の中に記入してください。

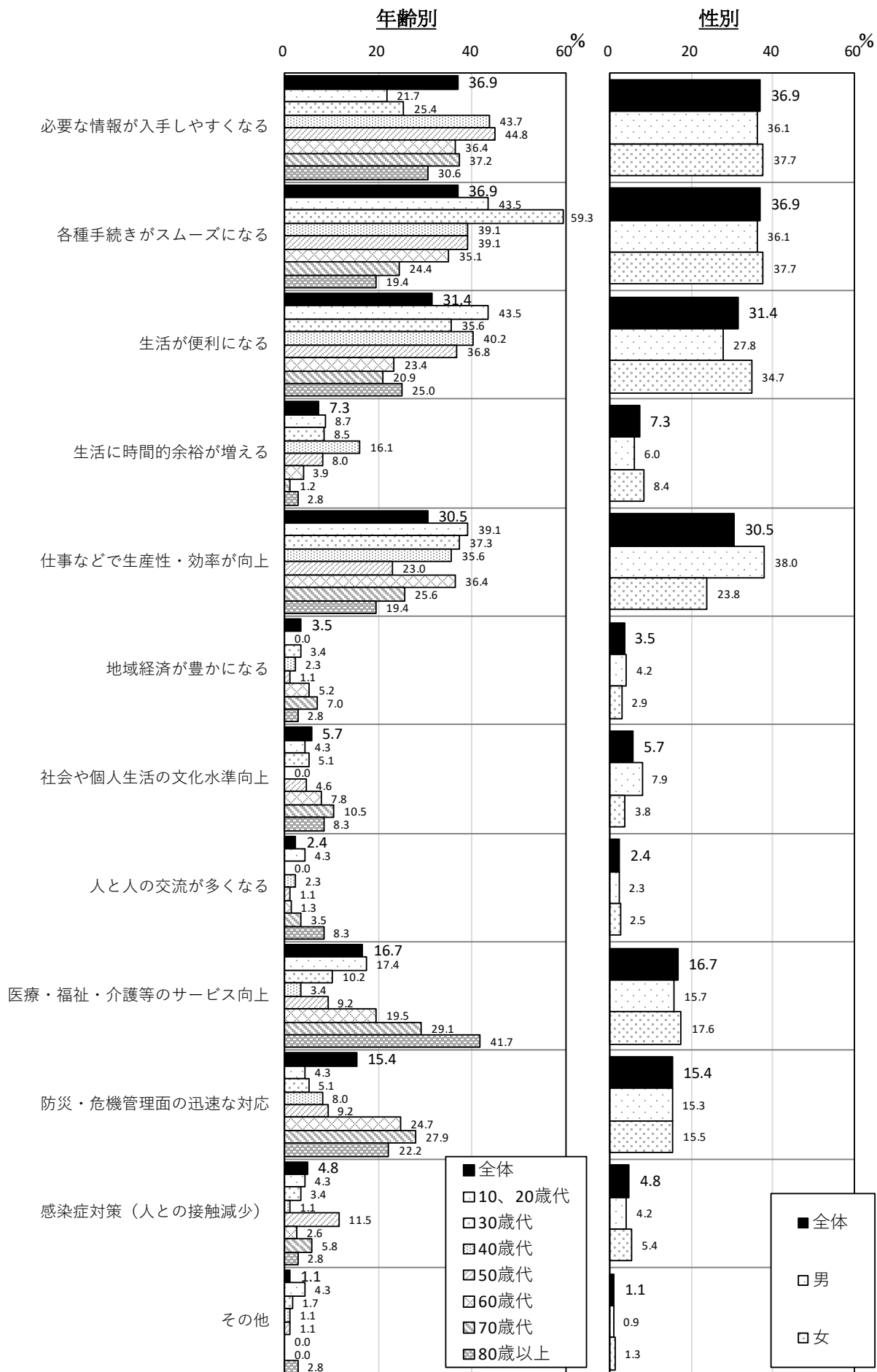
① 期待の内容【上で1・2とお答えの方】

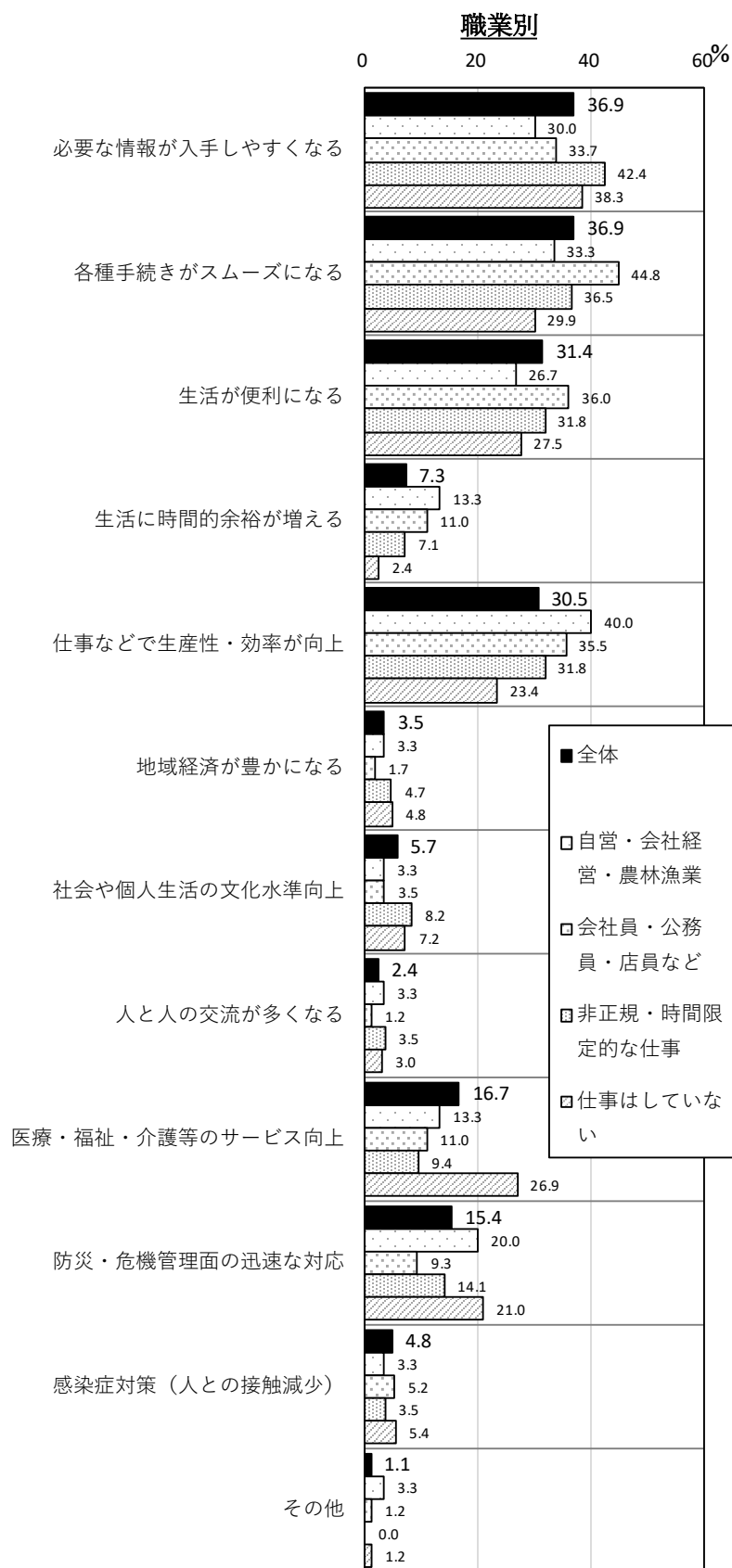
- 〔選択肢〕
1. 様々な場面で必要な情報が入手しやすくなる
 2. 各種手続きがスムーズになる
 3. 生活が便利になる
 4. 生活に時間的な余裕が増える
 5. 仕事などで生産性・効率が向上する
 6. 地域経済が豊かになる
 7. 社会や個人生活の文化水準が上がる
 8. 人と人との交流が多くなる
 9. 医療や福祉・介護などでのサービスが向上する
 10. 防災や危機管理面での迅速な対応ができる
 11. 感染症対策として人との接触を減らせる
 12. その他



デジタル化の進展に対する期待の内容としては、「様々な場面で必要な情報が入手しやすくなる」、「各種手続きがスムーズになる」、「生活が便利になる」、「仕事などで生産性・効率が向上する」の4項目に多くの回答が集中している。他に「医療や福祉・介護などでのサービスが向上する」、「防災や危機管理面での迅速な対応ができる」も1割程度が選択している。

「その他」の主な記述	システム化による人員削減、単純化で税金が安くなる 何かを取り入れることでまた別の発展を見込めるから 面倒でやらなかったことが、できる機会がふえるとおもう。
------------	---





この期待の内容は、年齢層により興味深い相違を見せている。

「各種手続きがスムーズになる」や「生活が便利になる」は若い世代での選択率が高い一方で、「医療や福祉・介護などでのサービスが向上する」、「防災や危機管理面での迅速な対応ができる」は高年齢層での割合が顕著に高くなっている。また、「様々な場面で必要な情報が入手しやすくなる」や「仕事などで生産性・効率が向上する」は現役世代に相当する幅広い年齢層で高い選択率である。

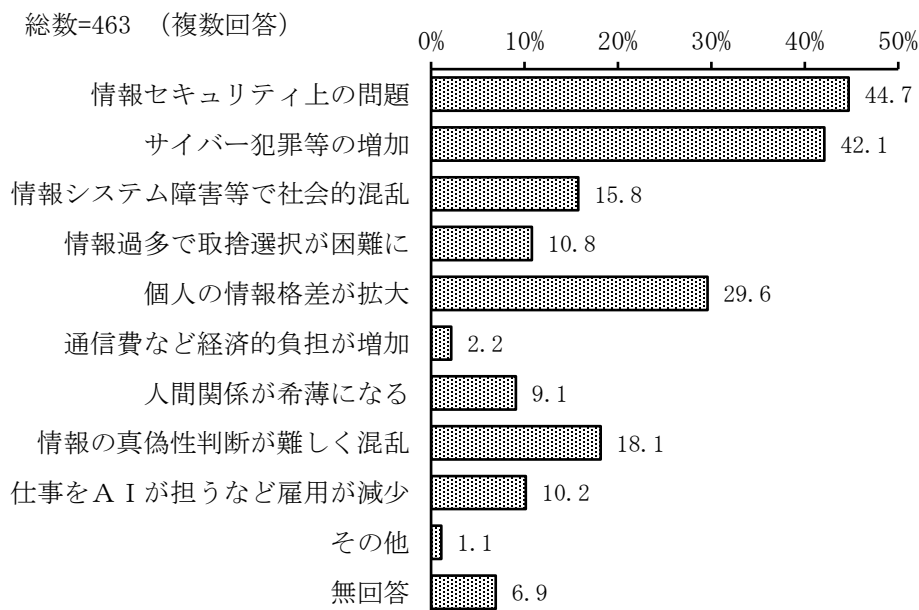
性別で相違が見られるのは、「仕事などで生産性・効率が向上する」が男性で、「生活が便利になる」が女性で比較的高い割合となっている点である。

職業によっても様々な特徴があり、「仕事などで生産性・効率が向上する」は自営・会社経営・農林漁業者で最も割合が高く、「各種手続きがスムーズになる」は会社員・公務員・店員などで、「医療や福祉・介護などでのサービスが向上する」は仕事をしていない層での回答率が相対的に高い。

② 不安の内容【上で2・3とお答えの方】

〔選択肢〕

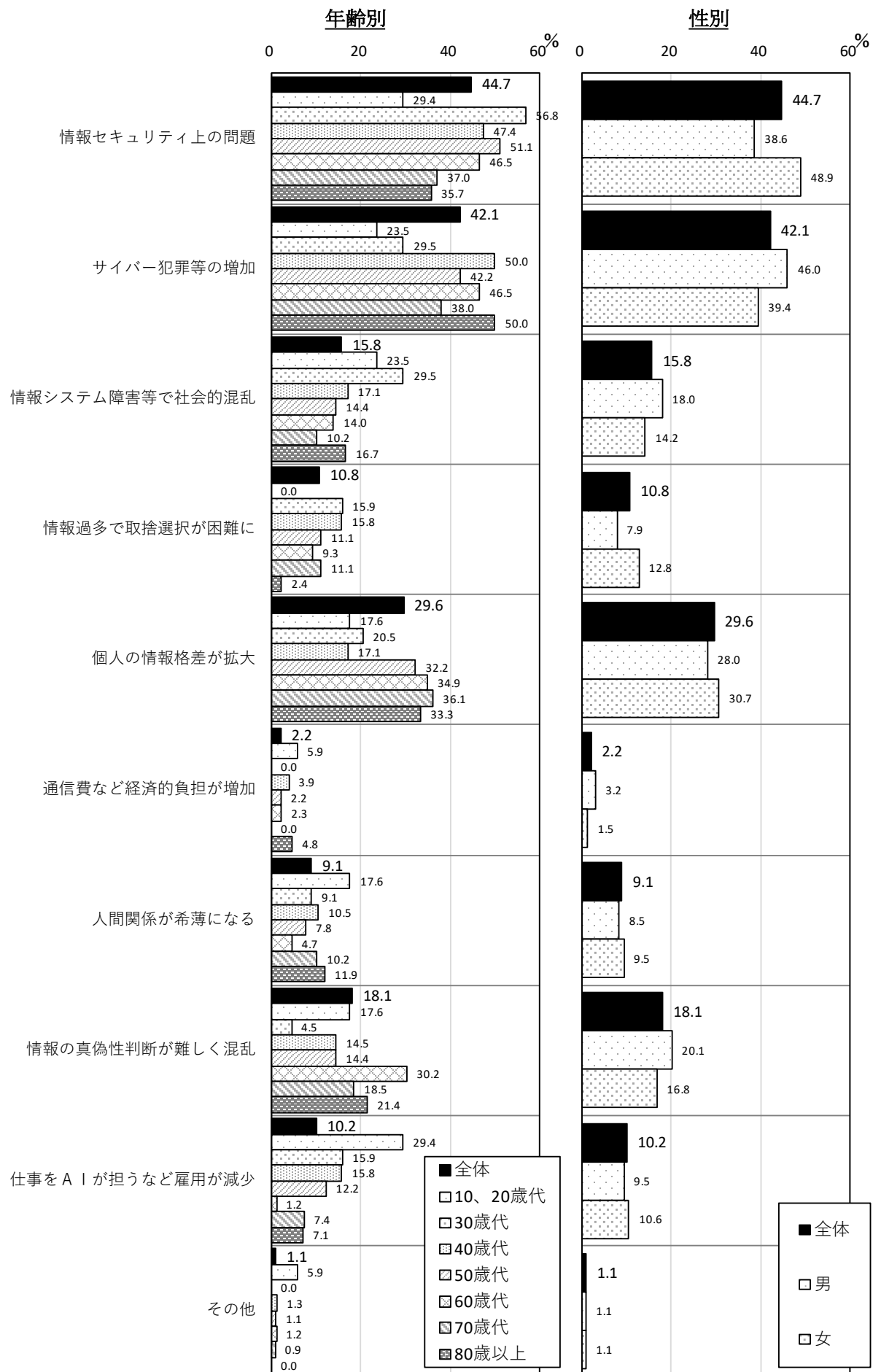
1. 個人情報の漏えいなど情報セキュリティ上の問題が起こる
2. サイバー犯罪やA Iの悪用等による犯罪が増加する
3. 情報システムの事故や障害などによる社会的な混乱が生ずる
4. 情報が多すぎ、取捨選択が困難になる
5. 情報通信機器が利用できる人とできない人の情報格差が拡大する
6. 通信費などの経済的負担が増加する
7. 人間関係が希薄になる
8. 情報の真偽性の判断が難しくなり混乱を招く
9. 仕事をA Iが担うなど雇用が減少する
10. その他

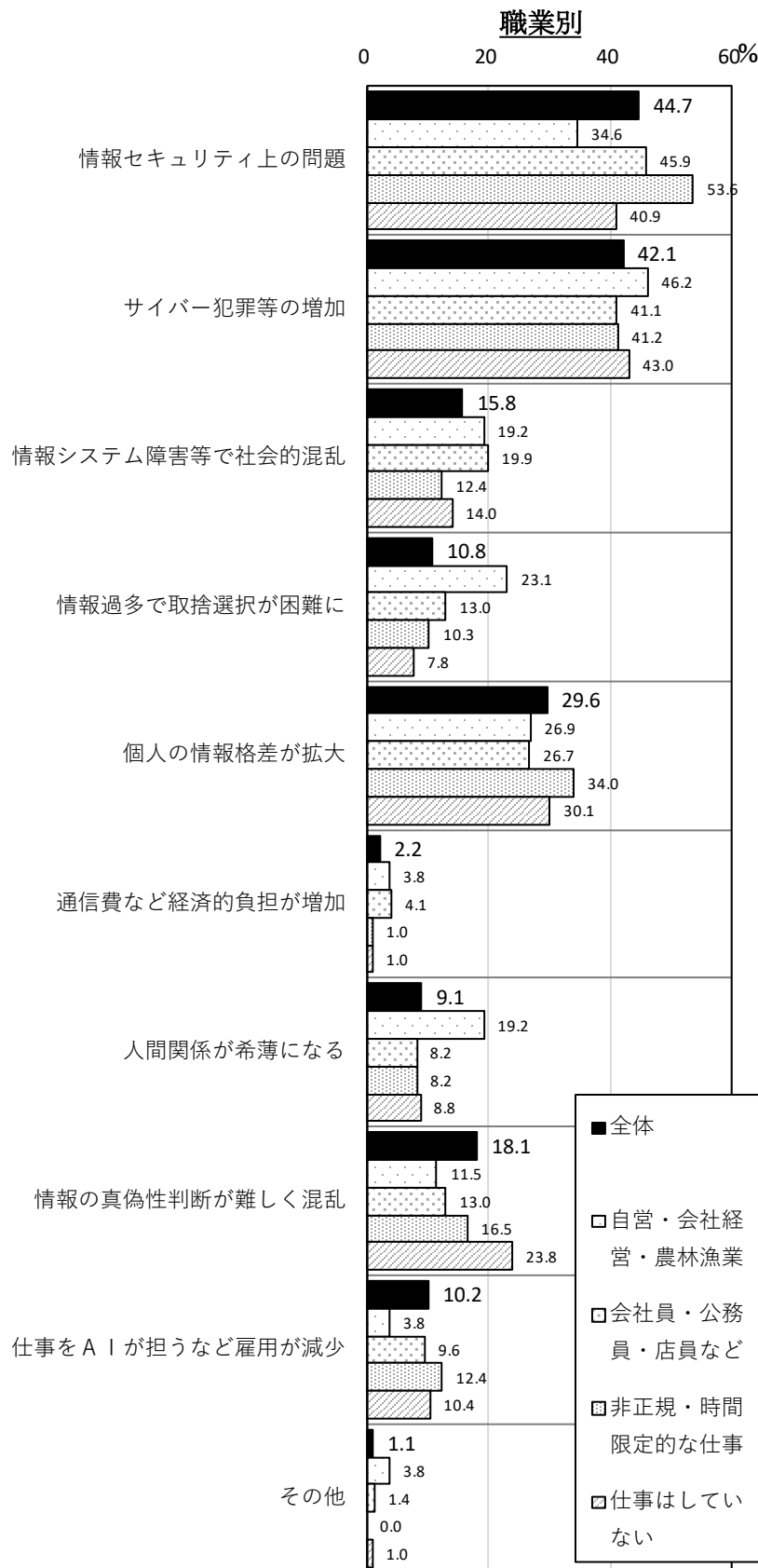


デジタル化に対する不安の内容としては、「個人情報の漏えいなど情報セキュリティ上の問題が起こる」、「サイバー犯罪やA Iの悪用等による犯罪が増加する」という安全上の問題に多くの回答が集まり、このほかでは「情報通信機器が利用できる人とできない人の情報格差が拡大する」という不安の割合も3位で、これに「情報の真偽性の判断が難しくなり混乱を招く」が続く。

「その他」の主な記述	高齢者は使いこなせません。 ネットショップなど一部の企業だけが売り上げを伸ばす。 雇用を奪われた層の不安が社会不安に繋がると思う
------------	--

不安の内容も年齢層によりかなり異なり、「サイバー犯罪等による犯罪が増加する」では40歳代以上、「個人の情報格差が拡大する」では50歳代以上の中高年世代で比較的高く、「情報セキュリティ上の問題が起こる」や「情報システムの事故や障害などによる社会的な混乱が生ずる」は30歳代を中心とした比較的若い世代での選択率が高い。また、「仕事をA Iが担うなど雇用が減少する」や「人間関係が希薄になる」という不安の割合が10、20歳代で突出しているほか、「情報の真偽性の判断が難しくなり混乱を招く」は60歳代での割合がかなり高いことも目立つ。





性別では、「情報セキュリティ上の問題が起こる」では女性、「サイバー犯罪等による犯罪が増加する」では男性の指摘率が相対的に高いなどの特徴が見られる。

職業別では、「情報セキュリティ上の問題が起こる」や「個人の情報格差が拡大する」といった不安を非正規・時間限定的な仕事の人と比較的によく選択しているほか、「情報システムの事故や障害などによる社会的な混乱が生ずる」を非正規以外の有業者が多く不安視している。また、「情報が多すぎ取捨選択が困難になる」や「人間関係が希薄になる」という不安を会社員・公務員・店員などで比較的よく示していることも興味深い。

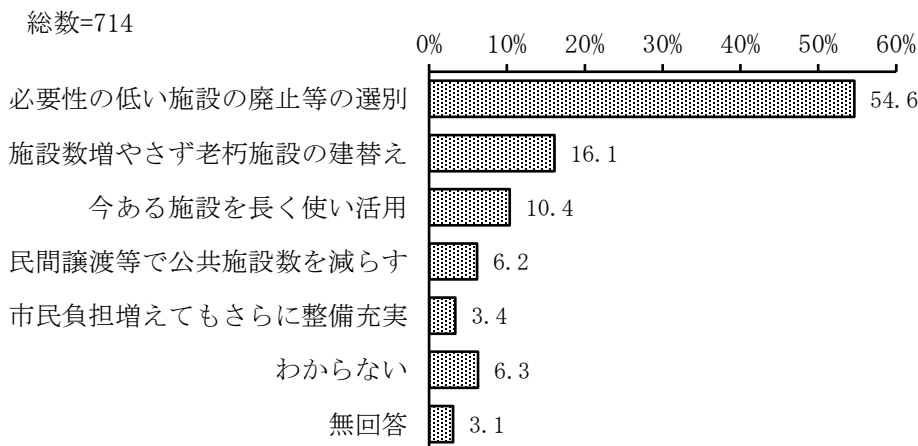
10. 都市生活・都市形成

(1) 公共施設のあり方

■問 20 公共施設の老朽化により、維持管理のコストが増大することが予想されますが、市内の公共施設について、あなたはどのように考えますか。次の中から1つ選んで番号を口の中に記入してください。

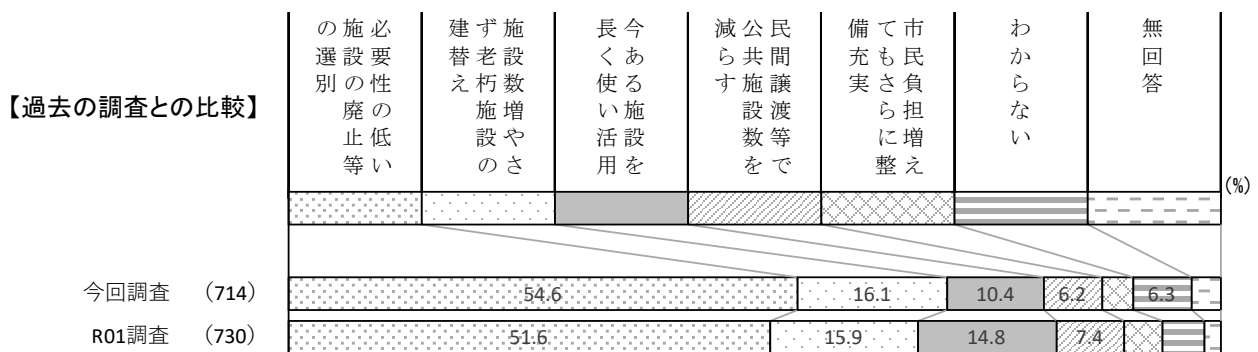
〔選択肢〕

1. 必要性の高い施設は整備し、必要性が低くなった施設は廃止するなどの選別を進める。
2. 老朽化した施設の建替えを順次行い、施設の数が増やさない。
3. 今ある施設をできるだけ長く使い、活用するように努める。
4. 施設の民間譲渡などにより、公共施設の数減らしていく。
5. 公共施設は必要なので、市民の負担が増えてもさらに整備充実を進める。
6. わからない。



市は公共施設総合管理計画、個別計画を策定して各種公共施設の管理コストの長期的な適正化を目指しているが、その方向性については、「必要性が低い施設は廃止などの選別を進める」が半数以上の支持を集めている。「老朽化した施設の建替え、施設の数が増やさない」がこれに次ぐが、割合は16.1%である。

この設問は前回調査（令和元年）から設けており、前回とほぼ同様の結果であるが、「必要性が低い施設は廃止などの選別を進める」の割合が今回さらに増加し、「今ある施設をできるだけ長く使い活用する」や「民間譲渡などにより公共施設の数減らしていく」の割合がやや減少している。



「必要性が低い施設は廃止などの選別を進める」との回答の割合は、60歳代で最も高く、女性より男性の方が高い。

また、「必要性が低い施設は廃止などの選別を進める」と「老朽化した施設の建替え、施設の数は増やさない」の回答割合は、下松、末武地区居住者での値が花岡・生野屋、久保・東陽地区よりも高い。

「今ある施設をできるだけ長く使い活用する」の割合が自営・会社経営・農林漁業者で目立って低いのも特徴的である。

		の施必 選設要 別の性 廃の低 止等 い	建 替老 え朽 設数 増 設や のさ	長 今 くあ る 使 い 施 活 用 を	減 公 ら 共 間 す 施 譲 設 渡 数 等 を	備 も 充 実 さ ら に 増 え	わ か ら な い	無 回 答	(%)
(凡例)									
【年齢別】	全体 (n) (714)	54.6			16.1	10.4	6.2	6.3	
	10、20歳代 (37)	54.1			16.2	5.4	13.5	5.4	
	30歳代 (75)	54.7			18.7	9.3	6.7	5.3	
	40歳代 (122)	58.2			13.1	10.7	5.7	5.7	
	50歳代 (122)	58.2			16.4	13.1	6.6		
	60歳代 (114)	62.3			16.7	7.9	6.1		
	70歳代 (159)	52.2			15.7	11.3	6.9	8.2	
	80歳以上 (85)	38.8		17.6	10.6	5.9	5.9	10.6	10.6
【性別】	男 (311)	59.2			14.8	10.6	5.5	5.1	
	女 (403)	51.1			17.1	10.2	6.7	7.2	
【居住地区別】	下松地区 (214)	55.6			17.8	7.9	6.5	7.0	
	末武地区 (205)	57.6			17.6	9.8	5.9	5.9	
	花岡・生野屋地区 (149)	52.3			11.4	13.4	6.7	6.0	7.4
	久保・東陽地区 (128)	51.6			16.4	12.5	5.5	5.5	
	笠戸島地区 (8)	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5		25.0	
	米川地区 (9)		77.8				11.1	11.1	
【職業別】	自営・会社経営・農林漁業 (42)	50.0			21.4	4.8	7.1	9.5	
	会社員・公務員・店員など (241)	57.7			16.6	10.8	5.4	6.2	
	非正規・時間限定的な仕事 (123)	54.5			16.3	11.4	9.8		
	仕事はしていない (307)	52.8			15.0	10.4	5.2	7.2	5.2

笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考としての表示である。

■ 選んだ理由及び具体的な施設があれば教えてください。

上の設問での回答理由等を尋ねている。

何らかの記述回答のあった総件数は 155 件であり、その上問での回答番号別の数は以下のとおりである。

1	必要性の低い施設の廃止等の選別	(理由等回答件数 87 件)
2	施設数増やさず老朽施設の建替え	(理由等回答件数 29 件)
3	今ある施設を長く使い活用	(理由等回答件数 14 件)
4	民間譲渡等で公共施設数を減らす	(理由等回答件数 9 件)
5	市民負担増えてもさらに整備充実	(理由等回答件数 8 件)
6	わからない	(理由等回答件数 7 件)
	(番号未記入)	(理由等回答件数 1 件)
		計 155 件)

このうち、代表的な意見を抽出したものを以下に示す。(原文のまま)

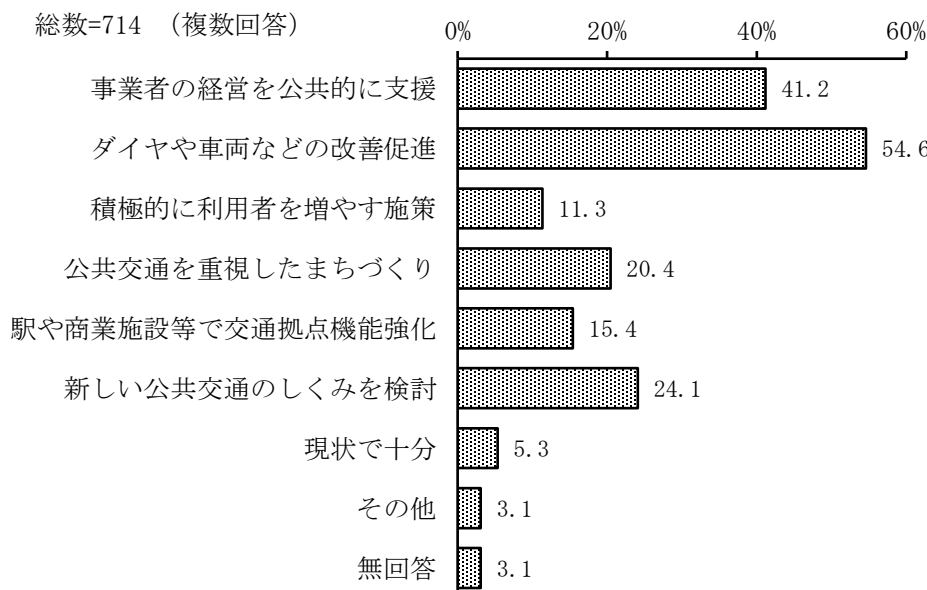
選択肢	「理由」等の具体的記述	年齢	性別	居住地区
1	維持管理にはコストがかかるため、施設を集約して使用しやすくする方が市民にとっても良いと思う。	50歳代	女	久保・東陽
1	時代に合った施設は必要だと思うが、利用の少ない施設は管理するのがムダになると思うから。	50歳代	女	下松
1	取捨選択を行い、必要性の高い施設は利便性を高め、人を呼び込むようにし、低い施設は経費等を考え廃止する。	80歳以上	女	下松
1	人によって必要性が高い、低いはあるが、コスト面や少子高齢化の面からも選別は必要。老朽化により何かあれば市民も行政もどちらも損。	40歳代	女	花岡・生野屋
1	今後人口減少が進み、現状の施設数では過剰になること、税収規模の縮小により、維持管理が追いつかなくなり、事故の懸念が増加することが予想されるため	40歳代	男	下松
1	必要かどうか市民が納得できるまで検討した上で、必要ないとされた施設は廃止して、他の利用方を考えた方が良くと思うので。	50歳代	女	下松
1	旧はなおか保育園＝早く解体して別なものに有効に使ってほしい。特にスーパーが欲しいですね。	80歳以上	女	花岡・生野屋
1	恋路のプールが利用できなくなったのは残念です。大人も子どもも利用していたので、早急に利用できるようにして下さい。市民プールは外にあり、夏の暑さに耐えられません。	50歳代	女	下松
2	数は増やさなくても良いが、老朽化した末武公民館等は災害時の避難場所としての重要拠点として、耐震強固な施設として早急に建て替えるべき。場所が川、海に近いのは不安!!	70歳代	女	下松
2	恋路のプール施設のスタジオを早く利用したい。	70歳代	女	花岡・生野屋
2	図書館や大城のようにリニューアルすることで通いやすくなり、それだけで利用者が増えると思うから。市民体育館なども綺麗にするだけで利用者が増えると思う	10、20歳代	女	末武
3	今のある施設をなるべく丁寧に使い、長く使った方がいいと思います。	60歳代	女	久保・東陽
3	必要性が低くなくても、必要とする人が居るのだから、できるだけ残して活用して欲しい。	70歳代	女	久保・東陽
4	ハード面の整備は行政が担い、その施設のソフト面は民間が担うべき。行政はソフト面に弱く、収益化も苦手なため担うべきではない	30歳代	男	下松
4	リノベーションや居抜きにより市の負担は減り、色々な産業や施設に変わるのは市の活性化に繋がるのでは	40歳代	女	末武
5	市民体育館。我々の年代は親しみが有り、必要と思う。	70歳代	男	久保・東陽
5	市民が負担した分だけ、市民に見返りがあれば良いと思う。見返りのある支出ならば、負担したが公共施設を使って市民の生活が良くなるならば、負担して良かったねとなると思う。	40歳代	男	末武

(2) 公共交通機関の確保・整備方向

■問 21 バスや鉄道などの公共交通機関について、その確保や整備のためにはどのような取組が必要だと思いますか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。

〔選択肢〕

1. バスや鉄道の事業者の経営を公共的に支援するなどにより、公共交通サービスの維持、向上を進める。
2. 乗り継ぎしやすい運行ダイヤの設定や路線の見直し、車両、停留所の改善など、乗りたくなる魅力ある交通サービスの提供を促進する。
3. 自家用車利用の制限や、バス・鉄道利用の助成など、積極的に公共交通の利用者を増やす施策を進める。
4. バスが走りやすい道路環境整備や、バス路線周辺に各種施設を集積するなど、公共交通を重視したまちづくりを進める。
5. 駅や大規模商業施設などで、バスターミナルなど公共交通拠点の機能を強化する。
6. 自動運転やライドシェア*など新技術、新制度の活用も含め、バスや鉄道だけでなく新しい公共交通のしくみを検討する。（*ライドシェア：一般乗用車の登録ドライバーが有償で乗客を送迎するサービス）
7. 公共交通機関の確保や整備などは現状で十分だ。
8. その他

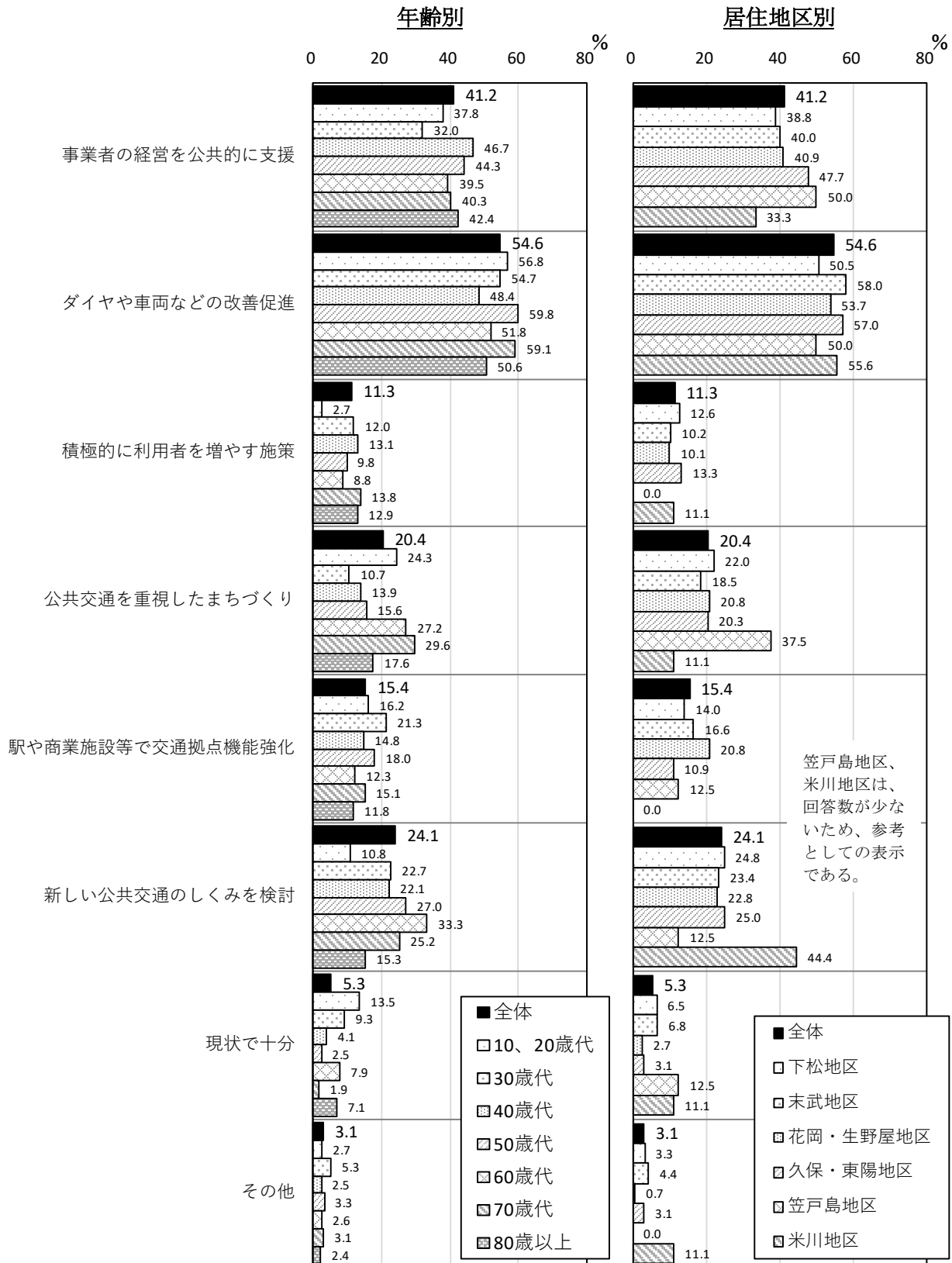


高齢化の進行やカーボンニュートラルの要請などから公共交通への注目が高まる一方で、現実にはその運営環境の厳しさが増しているが、それに対する取組の方向性を尋ねている。

最も回答率が高いのは「運行ダイヤや路線、車両、停留所の改善など、魅力ある交通サービスの提供を促進」で、「事業者の経営への公共的支援などで公共交通サービスの維持向上」がこれに次ぎ、現状の公共交通機関を前提とした維持や改善を求める内容が多くを占める結果となっている。この背景には現状のシステムへの不満もあると考えられる。

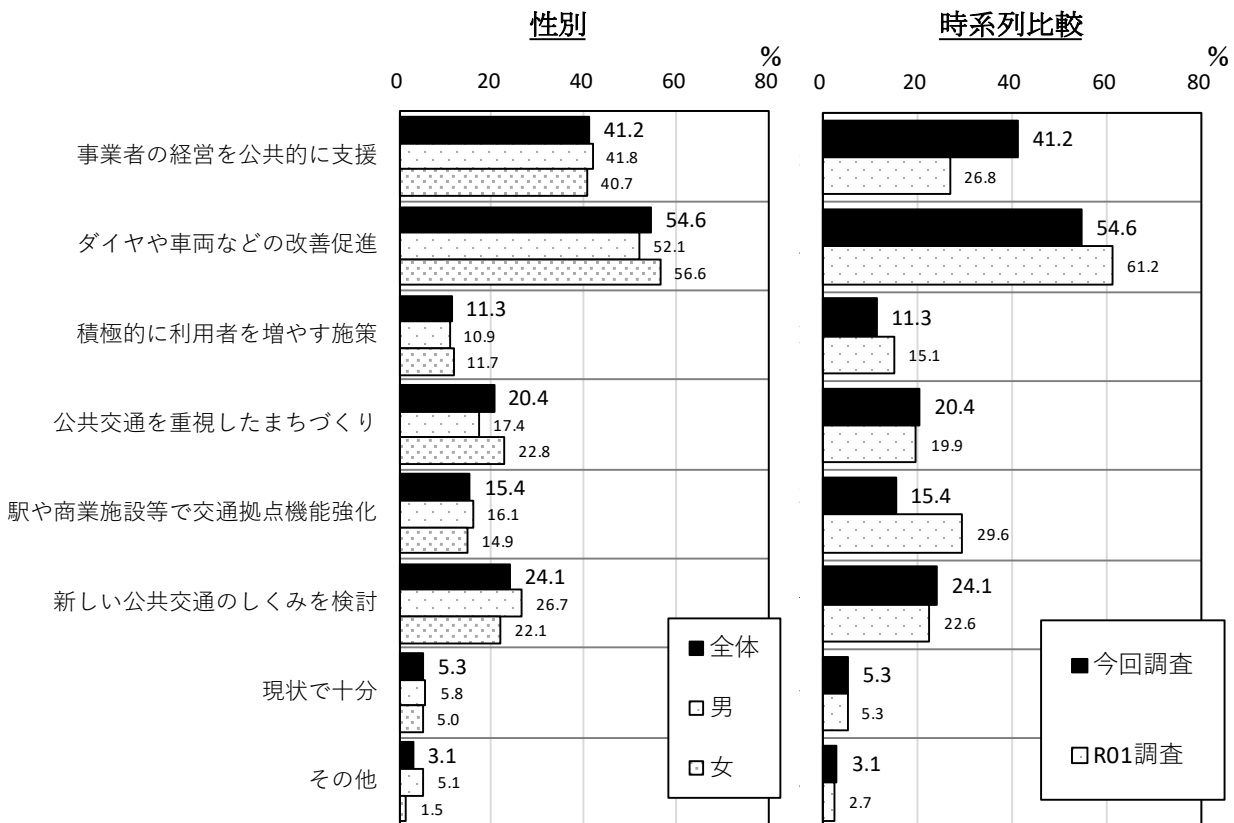
ただ、これらに次いで、「新しい公共交通のしくみを検討」が3位、「公共交通を重視したまちづくり」が4位であり、現状への不満を乗り越えた前向きな意見も一定の割合であることが注目される。

この「新しい公共交通のしくみを検討」や「公共交通を重視したまちづくり」の選択率は60歳代、70歳代等で比較的高いことも興味深い。居住地区別では、回答数が少ないため参考値であるが、笠戸島、米川地区で、それぞれ「公共交通を重視したまちづくり」、「新しい公共交通のしくみを検討」の割合が高いという特徴を示している。



性別では大きな違いはないが、「運行ダイヤや路線、車両、停留所の改善など、魅力ある交通サービスの提供を促進」、「公共交通を重視したまちづくり」の割合は女性がやや多く、「新しい公共交通のしくみを検討」の割合は男性がやや多い。

前回調査（令和元年）とは、一部選択肢を組み替え、表現も変更しているため対等な比較とは必ずしもならないが、「運行ダイヤや路線、車両、停留所の改善など、魅力ある交通サービスの提供を促進」が1位であることは前回と共通である。また、「事業者の経営への公共的支援などで公共交通サービスの維持向上」の割合が大きく増加している。（今回の「駅や大規模商業施設などで、バスターミナルなど公共交通拠点の機能を強化する」は、前回の「駅や駅前広場」「商業施設」別の2選択肢を統合したものである。）



「その他」の主な記述
 高齢者が運転免許証を返上できる様、各病院の近くにバスが停まるよう努力も大切だと考える。
 小型バスを導入し、住宅街でも乗り降りしやすいバス停を設ける。
 ショッピングモールなど集客が必要な施設にお金を出してもらって公共交通を充実させる
 車をもたない若者のニーズを調査し、若者向けの路線、料金体系を開発する（車をすでに持っている人は、現状では公共交通機関を使う気にならない）
 国や県と協力すべき。地方の力だけでは限界があるかと思えます。

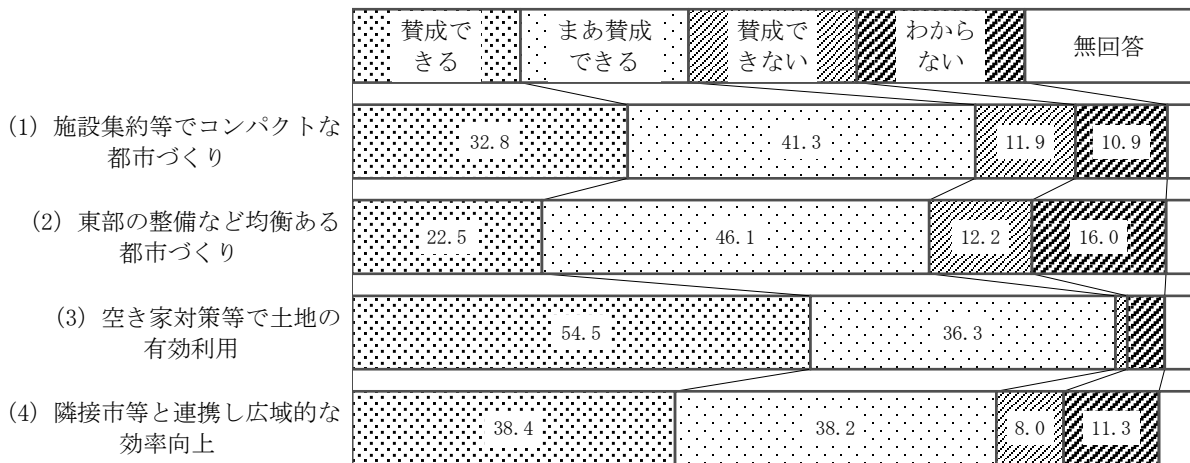
(3) 都市づくりの方向性

■問 22 人口減少時代にも効率的な都市づくりを進めるため、下松市では次のような方向性で取組を進めています。これについてあなたはどのように思いますか。(1)～(3)について、選択肢から1つずつ選んで番号を口の中に記入してください。

- (1) 市街地の拡大は抑制し、駅周辺、中央線、末武大通線沿いなどに人が集まる施設を集約し、コンパクトな都市づくりを進める。
- (2) 人口の集積が市の西部に偏っている現状に対し、豊井地区など東部方面での市街地整備により均衡ある都市づくりを目指す。
- (3) 空き家や空き店舗などの有効活用や適切な除却などの対策を進め、土地の有効利用を進める。
- (4) 隣接する周南市や光市などと連携した都市づくりにより、公共施設の集約や相互利用など、広域的な効率の向上を進める。

総数=714

単位:% (5%未満非表示)



	全体	賛成できる	まあ賛成できる	賛成できない	わからない	無回答
(1) 施設集約等でコンパクトな都市づくり	714 100.0	234 32.8	295 41.3	85 11.9	78 10.9	22 3.1
(2) 東部の整備など均衡ある都市づくり	714 100.0	161 22.5	329 46.1	87 12.2	114 16.0	23 3.2
(3) 空き家対策等で土地の有効利用	714 100.0	389 54.5	259 36.3	10 1.4	32 4.5	24 3.4
(4) 隣接市等と連携し広域的な効率向上	714 100.0	274 38.4	273 38.2	57 8.0	81 11.3	29 4.1

都市政策上の主要課題として4項目を掲げ、その方向性への賛否を尋ねているが、各項目とも「賛成できる」と「まあ賛成できる」の合計割合が2/3を超え、大方の賛同が得られていると見られる。特に「空き家対策等で土地の有効利用」に対しては同比率が9割を超えている。

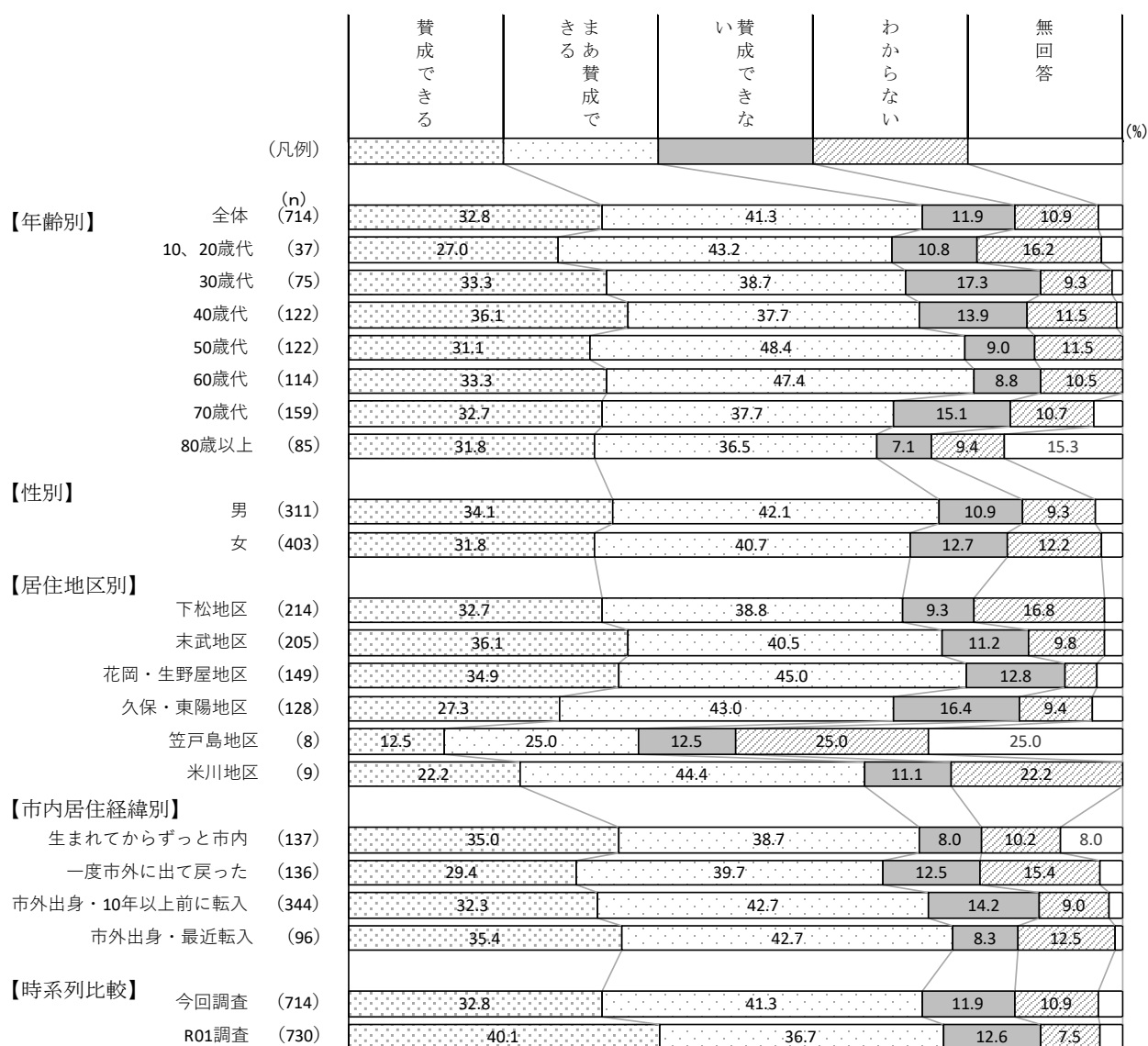
以下に、項目別に、属性別集計結果等を示す。

1) コンパクトな都市づくり

(1) 市街地の拡大は抑制し、駅周辺、中央線、末武大通線沿いなどに人が集まる施設を集約し、コンパクトな都市づくりを進める。

コンパクトな都市づくりに関しては、概ね全世代に理解されていると見られるが、「まあ賛成できる」も合わせた値で、特に50、60歳代での賛成の割合が高い。居住地区別では、末武、花岡・生野屋地区で賛成の割合が特に高い。回答数が少なく参考値であるが笠戸島地区では賛成の割合が低い。

前回調査（令和元年）との比較では「賛成できる」の割合がやや低下しているが、「まあ賛成できる」を合わせた割合の低下は少なく、「賛成できない」の比率はわずかに低下している。



笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考としての表示である。

2) 東部の整備など均衡ある都市づくり

(2) 人口の集積が市の西部に偏っている現状に対し、豊井地区など東部方面での市街地整備により均衡ある都市づくりを目指す。

進行中の豊井地区まちづくり整備計画も踏まえて今回調査で新たに設けた項目であるが、これに対しては、30歳代や10、20歳代といった若い世代での賛成率が特に高いことが目立つ。また、居住地区別では、豊井地区を擁する下松地区での賛成率が最も高く、「賛成できる」だけで29.0%に達している（「まあ賛成できる」を合わせると71.1%）。さらに、生まれてからずっと市内に住んでいる者での「賛成できる」の割合が27.0%と高い。

		賛成できる	まあ賛成できる	賛成できない	わからない	無回答	(%)
(凡例)							
【年齢別】	全体 (n)	22.5	46.1	12.2	16.0		
	10、20歳代 (37)	29.7	43.2	10.8	13.5		
	30歳代 (75)	26.7	53.3	10.7	8.0		
	40歳代 (122)	16.4	45.9	18.0	18.9		
	50歳代 (122)	22.1	45.9	10.7	21.3		
	60歳代 (114)	21.1	48.2	13.2	17.5		
	70歳代 (159)	25.2	44.7	11.9	13.2	5.0	
	80歳以上 (85)	22.4	41.2	7.1	15.3	14.1	
【性別】	男 (311)	22.2	43.4	14.8	15.8		
	女 (403)	22.8	48.1	10.2	16.1		
【居住地区別】	下松地区 (214)	29.0	42.1	10.7	15.9		
	末武地区 (205)	21.0	49.3	9.3	18.0		
	花岡・生野屋地区 (149)	20.8	47.0	16.1	12.1		
	久保・東陽地区 (128)	17.2	48.4	14.1	16.4		
	笠戸島地区 (8)	12.5	25.0	12.5	25.0	25.0	
	米川地区 (9)	22.2	33.3	22.2	22.2		
【市内居住経緯別】	生まれてからずっと市内 (137)	27.0	38.0	7.3	19.0	8.8	
	一度市外に出て戻った (136)	18.4	51.5	12.5	14.7		
	市外出身・10年以上前に転入 (344)	23.0	45.3	13.7	16.3		
	市外出身・最近転入 (96)	20.8	52.1	13.5	12.5		

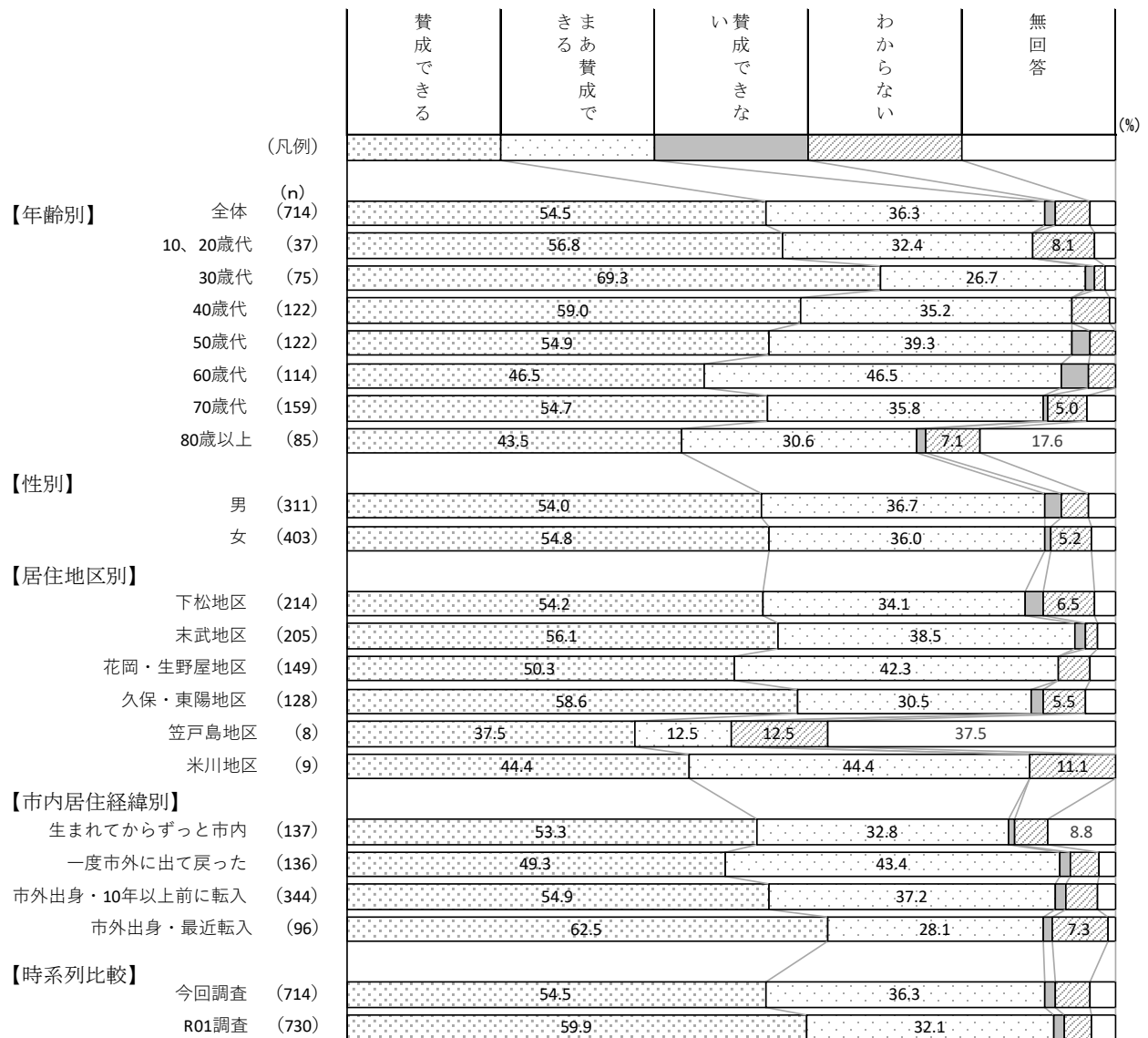
笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考としての表示である。

3) 空き家対策等

(3) 空き家や空き店舗などの有効活用や適切な除却などの対策を進め、土地の有効利用を進める。

空き家対策等も含めた土地の有効利用に関しては、30歳代での賛成率が特に高いことが注目される。このほか、性別、居住地区別、市内居住経緯別での各属性いずれでも、「賛成できる」と「まあ賛成できる」の合計割合が9割前後で大きな差異はない。

前回調査(令和元年)との比較でも、「賛成できる」の割合は若干低下したが、「まあ賛成できる」を合わせた割合は大差ない。



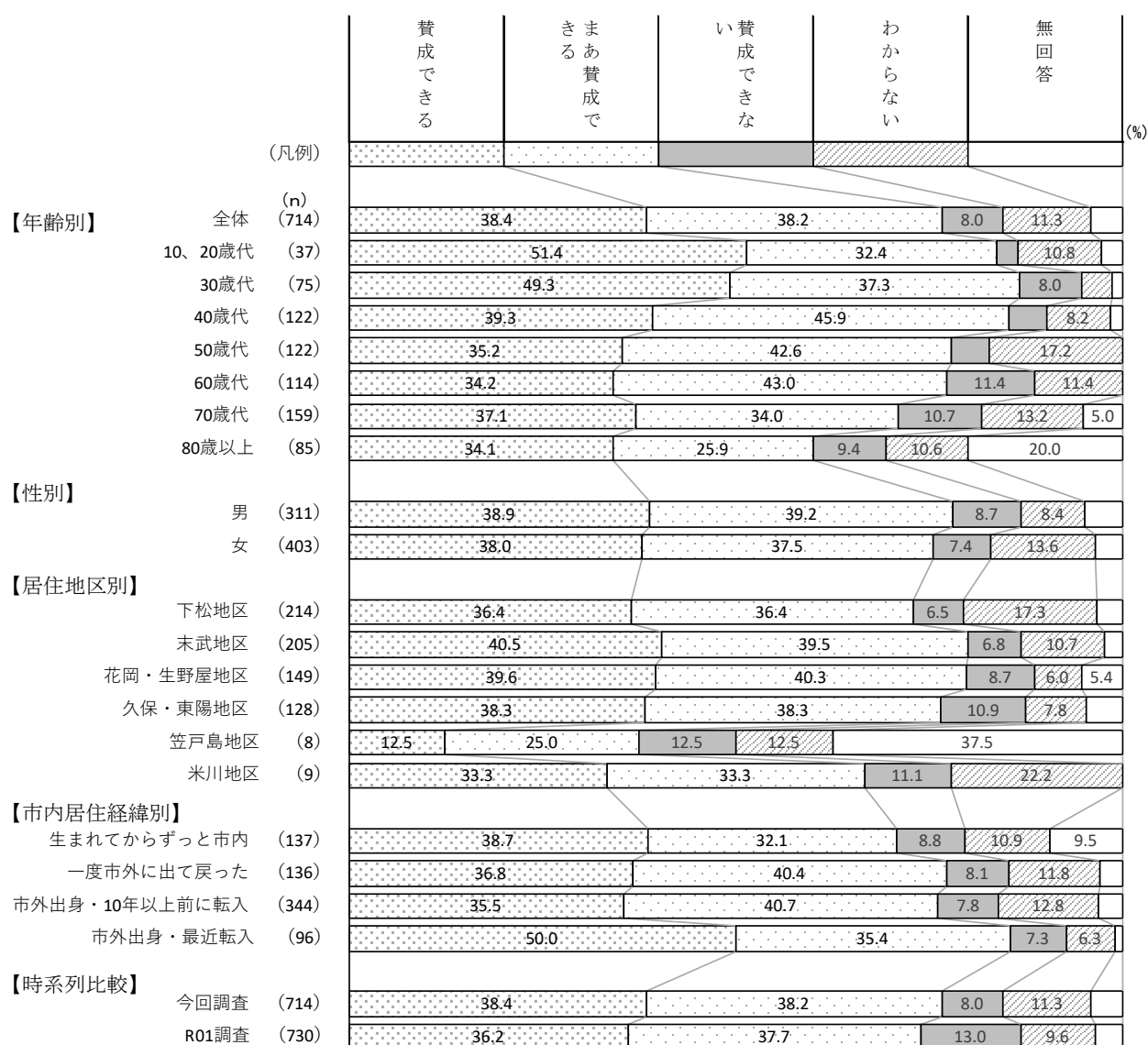
笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考としての表示である。

4) 広域的連携による効率向上

(4) 隣接する周南市や光市などと連携した都市づくりにより、公共施設の集約や相互利用など、広域的な効率の向上を進める。

周南市等と連携した広域的な効率向上については、年齢が若い層ほど賛成の割合が高いことが特徴であるが、性別や居住地区別（笠戸島、米川地区を除く）では大きな差異はない。市内居住の経緯別において、市外出身・最近転入者で特に賛成の度合いが強いことも特徴的である。

前回調査（令和元年）との比較では「賛成できない」の割合が減少し、賛成の度合いが強まっている。

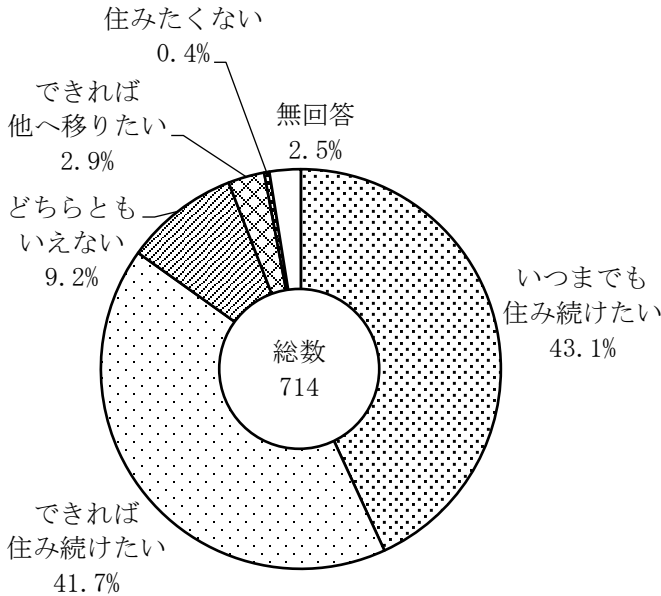


笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考としての表示である。

11. 定住意向や愛着

(1) 下松市への定住意向

■問 23 あなたは、今後も下松市に住み続けたいと思いますか。次の中から1つ選んで番号を口の中に記入してください。



下松市への定住の意向については、過去の総合計画策定時の市民アンケートで毎回尋ねている。

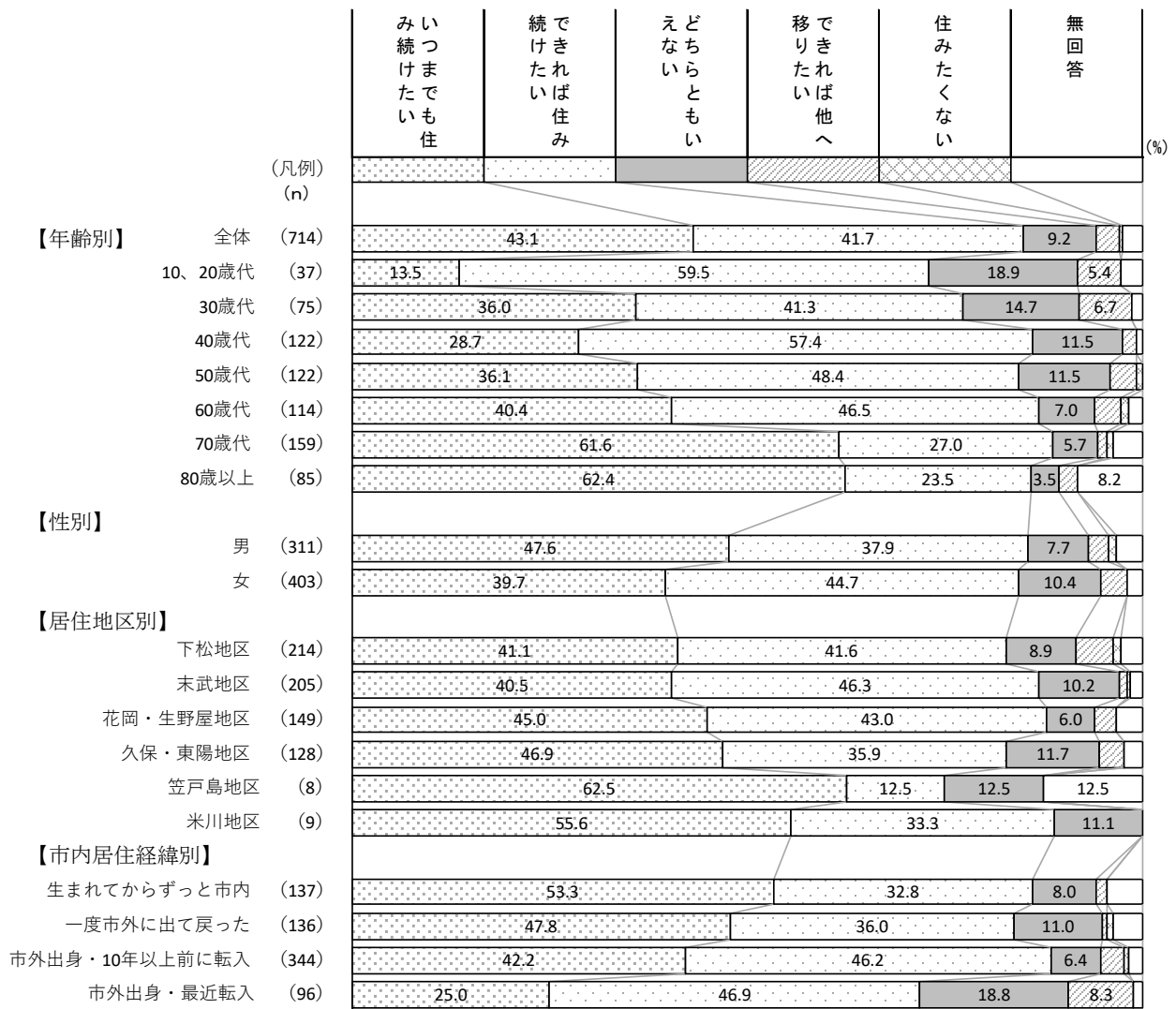
今回の結果は、「いつまでも住み続けたい」が43.1%で、「できれば住み続けたい」を合わせると84.8%が定住の意向を持っていることになる。

過去の調査結果と比較すると、「いつまでも住み続けたい」の割合は前回調査から若干低下したが、「できれば住み続けたい」を合わせた割合はわずかずつだが上昇を続けている。

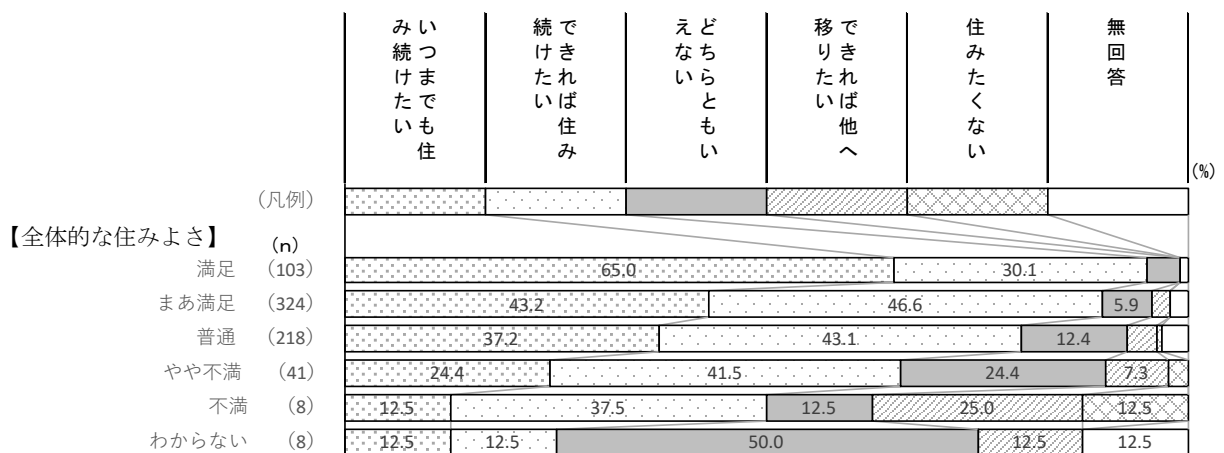
(凡例)	いつまでも住み続けたい	できれば住み続けたい	どちらともいえない	できれば他へ移りたい	住みたくない	無回答	(%)
今回調査	43.1	41.7	9.2	2.9	2.5	0.4	
R01調査	46.2	36.8	9.3	2.9	2.5	0.4	
H26調査	46.9	35.0	13.7	2.9	2.5	0.4	
H21調査	39.8	40.6	15.4	2.9	2.5	0.4	

この定住意向の割合は、年齢が高いほど高まる傾向にあるが、「住み続けたい」以外では若年世代でも「どちらともいえない」が多く、「できれば他へ移りたい」、「住みたくない」の割合は合わせても5%程度前後である。

性別では、男性の方が「いつまでも住み続けたい」の割合が高く、居住地区別では花岡・生野屋地区の「できれば住み続けたい」を合わせた割合が最も高いが、他地区(笠戸島、米川地区を除く)との相違はわずかである。また、生まれてからずっと市内の居住者での「いつまでも住み続けたい」の割合が最も高く、Uターン者や市外出身者はそれより低い。市外出身・最近転入者での「住みたくない」の割合が8.3%あることが気になるところである。



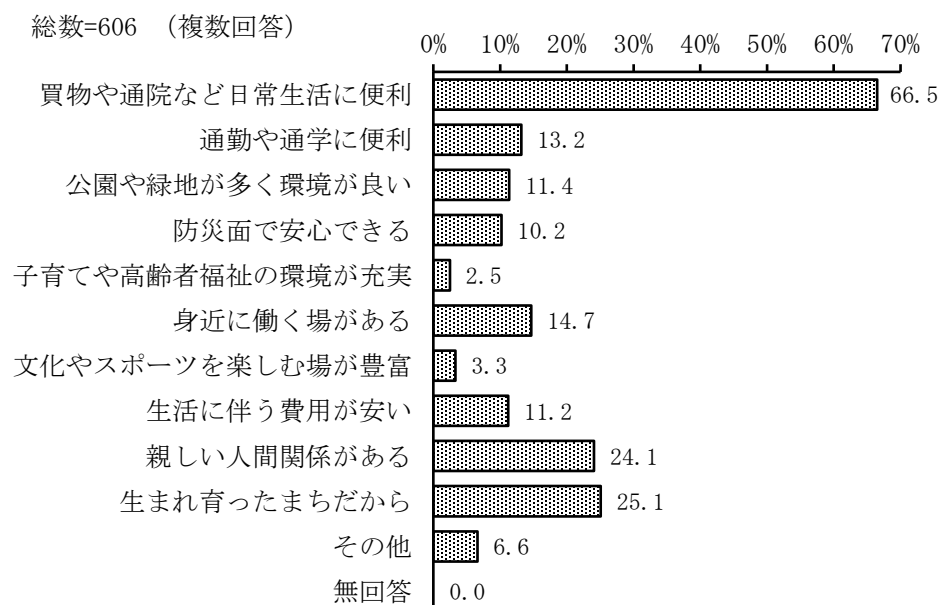
問3(14)の「総合的・全体的な下松市の住みよさ」との関係を見ると、住みよさの満足度が高いほど定住意向の度合いが高いことが鮮明である。住む場所としての魅力、満足度の高さが住み続けたいという意思の高まりにつながる事が表れている。



1) 住み続けたい理由

■【問 23 で 1、2 とお答えの方へ】

住み続けたいと思う主な理由はどのようなことですか。次の中から2つまで選んで番号を口の中に記入してください。



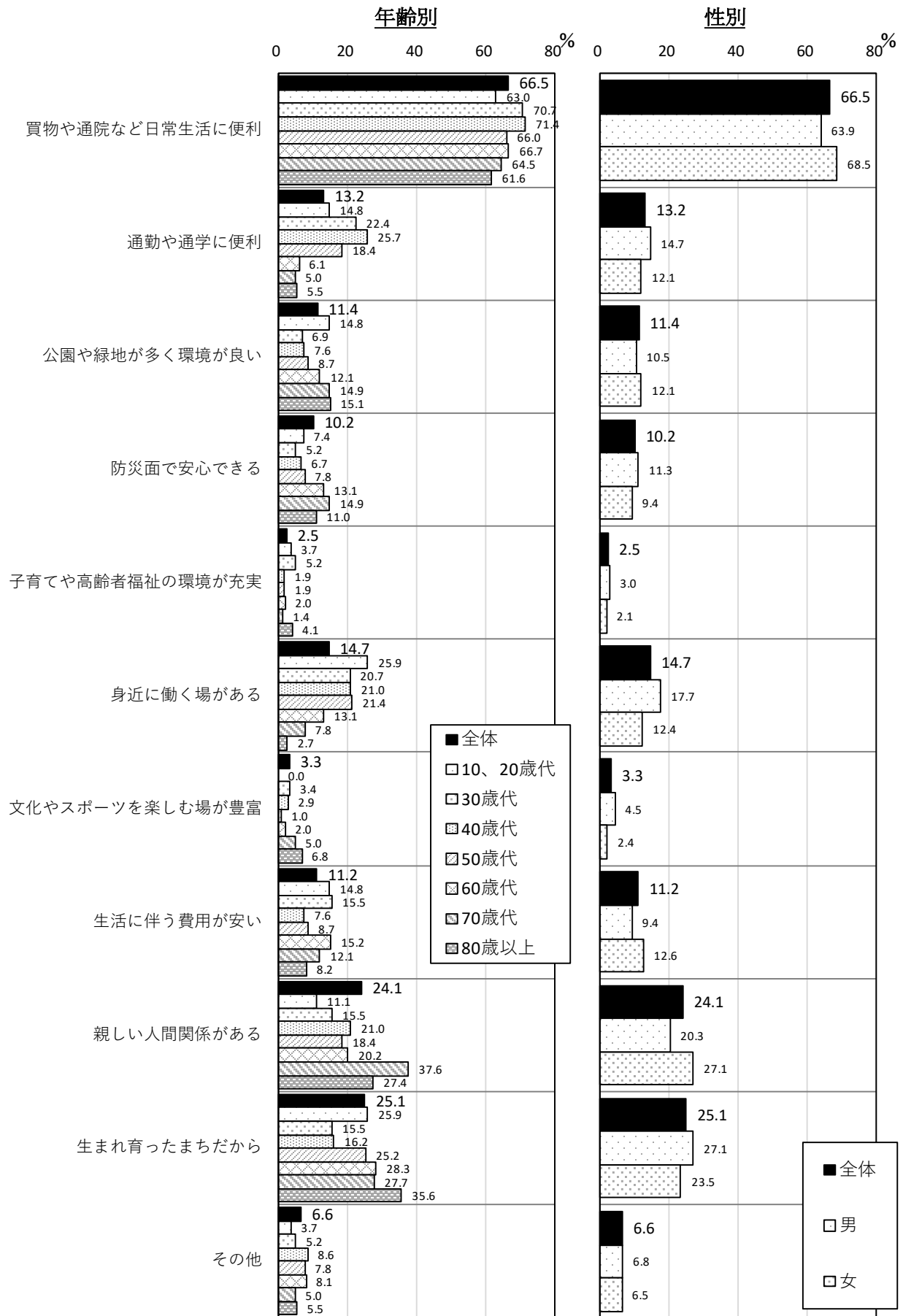
前問で「いつまでも」、「できれば」住み続けたいと答えた回答者にその理由を尋ねている。

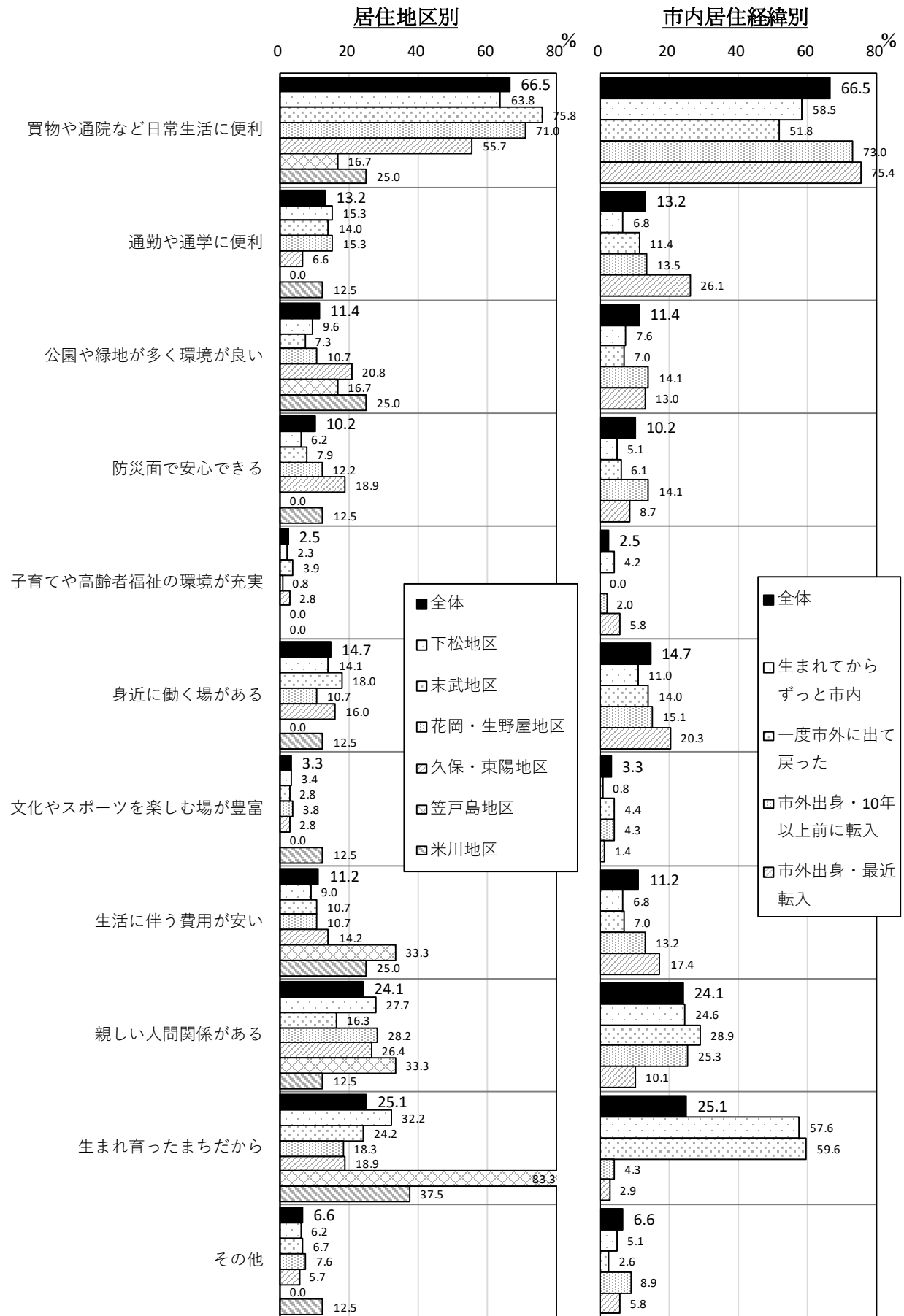
複数回答だが、「買物や通院など日常生活に便利」が約2/3と圧倒的である。これに「生まれ育ったまちだから」と「親しい人間関係がある」が1/4前後が続いている。

「買物や通院など日常生活に便利」は全世代で高率だが、「生まれ育ったまちだから」と「親しい人間関係がある」は高齢者ほど割合が高く、また、「身近に働く場がある」や「通勤や通学に便利」は当事者である現役世代、及び男性で比較的高い割合を示している。

さらに、「買物や通院など日常生活に便利」の割合は、末武、花岡・生野屋地区で特に高く、また市外出身者での割合の高さも目立つ。「生まれ育ったまちだから」の割合は、生まれてからずっと市内の居住者とUターン者での割合が市外出身者のそれを圧倒している。

「その他」の 主な記述	家を建てたから。 持ち家があるので。 高齢で環境を変えたくない。 上下水道の安さ。 温暖な地域
----------------	---





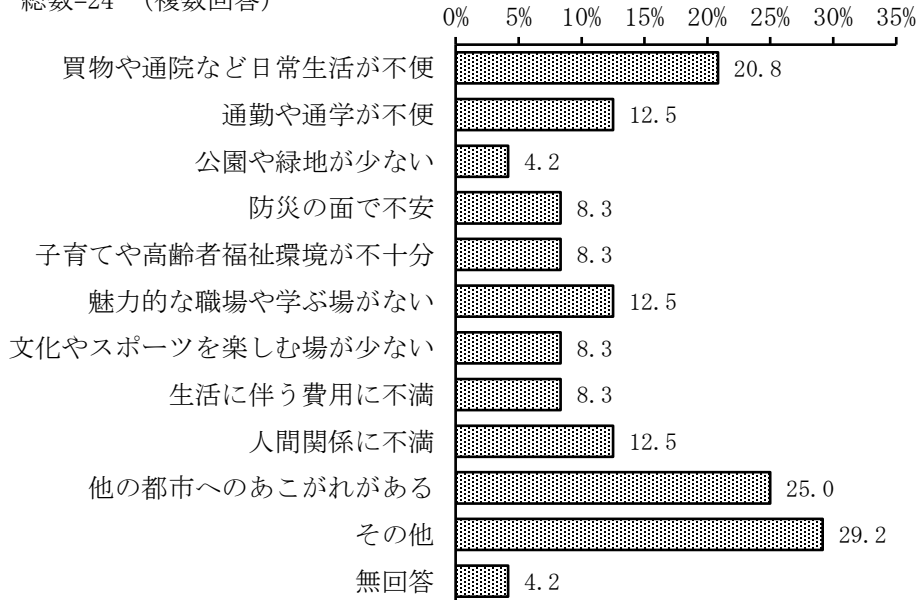
笠戸島地区、米川地区は、回答数が少ないため、参考としての表示である。

2) 転出希望の理由

■【問 23 で 4、5 とお答えの方へ】

他へ移りたい（住みたくない）と思う主な理由はどのようなことですか。
次の中から2つまで選んで番号を□の中に記入してください。

総数=24（複数回答）



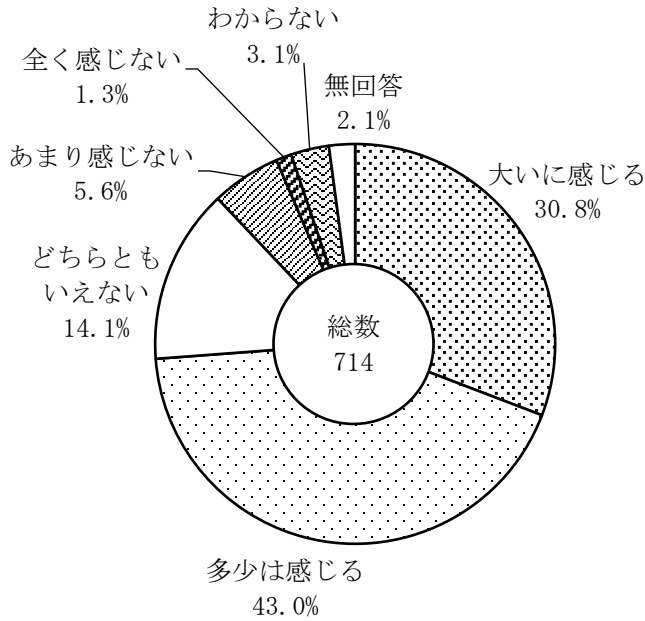
「できれば他へ移りたい」、「住みたくない」との回答数は計 24 と少ないが、その理由を尋ねている。

「その他」が多いが、その主な内容は下表のとおりで、それ以外では、「他の都市へのあこがれがある」は「買物や通院など日常生活が不便」などが主なところである。「できれば他へ移りたい」、「住みたくない」との者は、10～30 歳代、市外出身・最近転入者で多かったことから、これらの理由の意識を持ちやすい状況にある者が多いとも考えられる。

「その他」の主な記述	出来れば済みたいと思うが、子どもが県外に住んでいるのでいずれは子どもの近くに移住する。地元へ戻る。買物や趣味など楽しめる所が少ない。病院も少ない。通勤に伴い住んでいるものの、移動手段の選択肢の少なさから永住したいとはまして思えないため。
------------	--

(2) 下松市への誇りや愛着

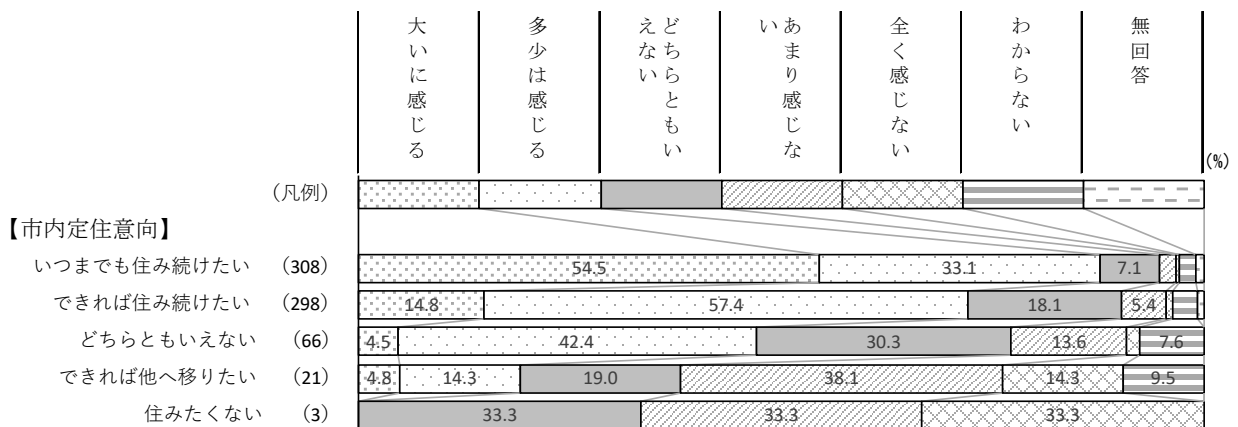
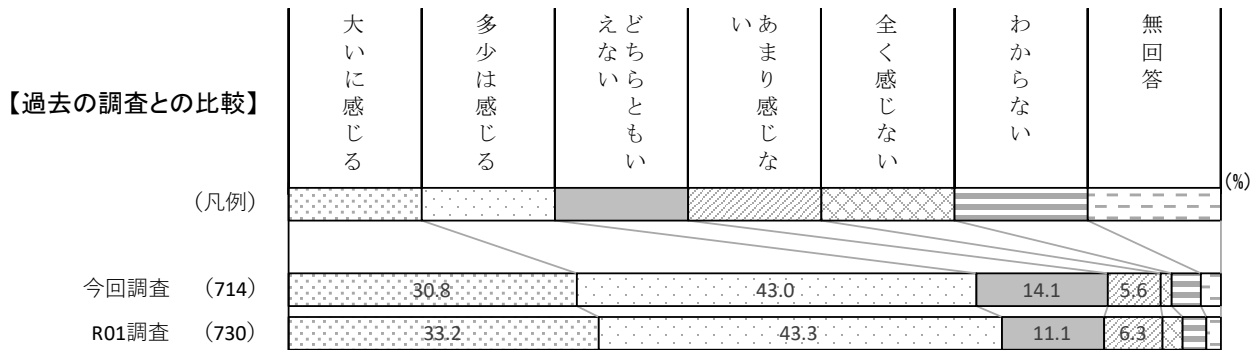
■問 24 あなたは、下松市に誇りや愛着を感じますか。次の中から1つ選んで番号を口の中に記入してください。



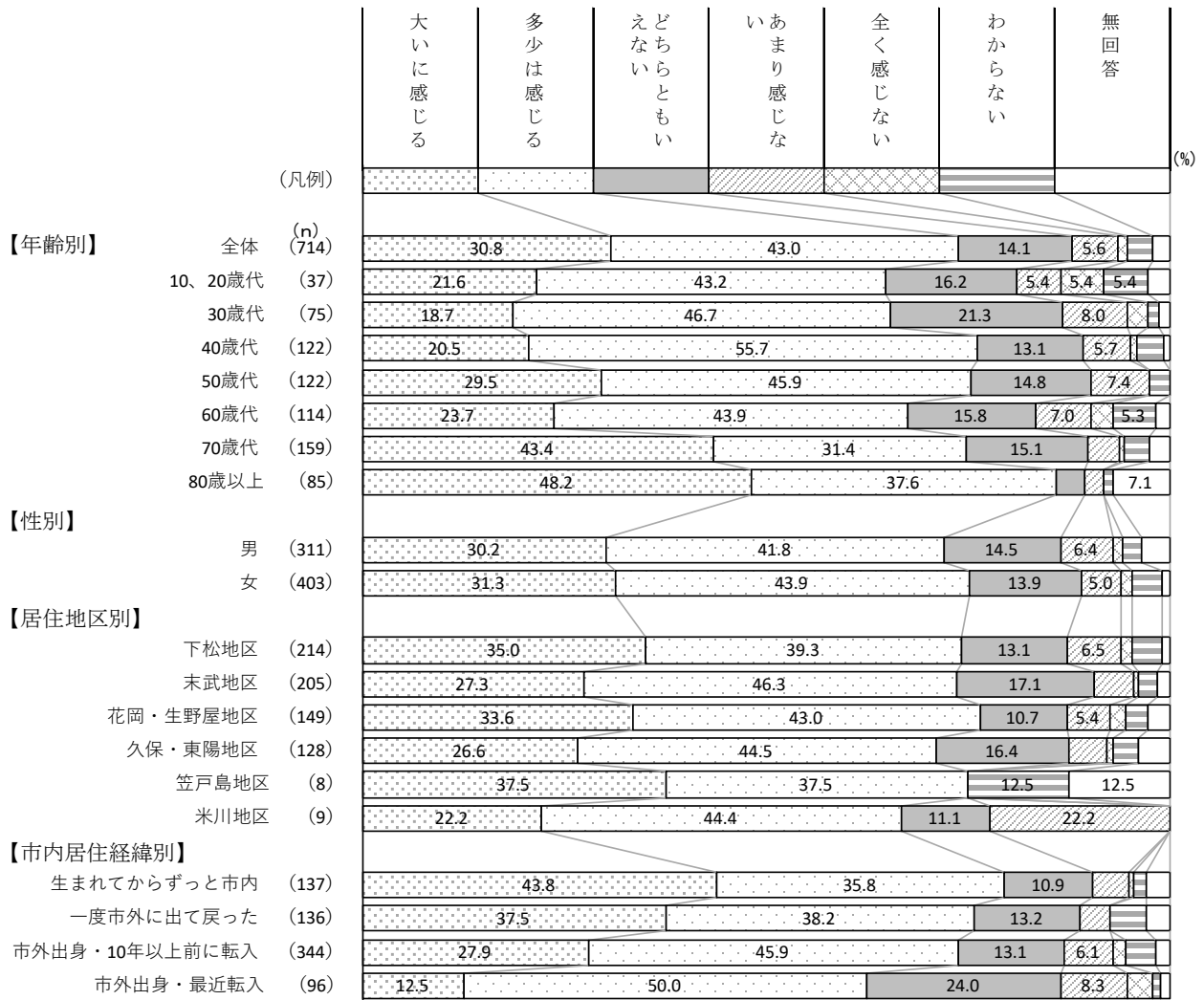
下松市への誇りや愛着については、「大いに感じる」が30.8%、「多少は感じる」が43.0%で、これを合わせると73.8%となる。一方、「あまり感じない」と「全く感じない」の合計は6.9%である。

この設問は前回調査(令和元年)から設けており、前回との比較では「大いに感じる」と「多少は感じる」の割合が減少しているが、これは「どちらともいえない」の割合が増えたため、「あまり感じない」と「全く感じない」の割合も減少している。

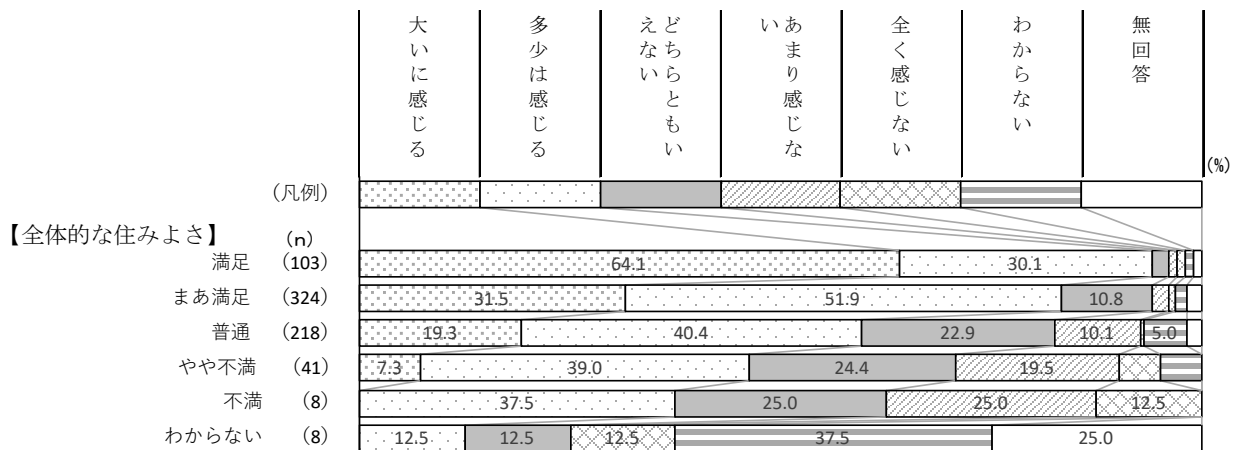
また、この結果は、前問の市内定住意向との強い関係があり、「いつまでも住み続けたい」と答えた者では「大いに感じる」と「多少は感じる」の合計が87.6%に達するのに対し、「できれば他へ移りたい」との回答者ではこの比率が19.1%にとどまる。



誇りや愛着を「大いに感じる」の割合は70歳代以上の高齢者で特に高く、また、生まれてからずっと市内の居住者で最も高く、Uターン者、市外出身者の順で低下する。市外出身・最近転入者ではこの比率が12.5%にとどまる。



問3(14)の「総合的・全体的な下松市の住みよさ」との関係を見ると、住みよさの満足度が高いほど誇りや愛着を感じる割合が高まるのは、前問の定住意向と同様である。



■ お答えの主な理由を教えてください。

本問では、上記での回答の理由の記述も求めている。記述回答の総数は 353 件（上問で無回答 2 件も含む）であった。その主な内容を以下に抽出して示す。（（ ）内の数値は件数）（原文のまま）

★大いに感じる

(151)

生まれ育ったまちだから。	70 歳代	男	久保・東陽
長年住んでいるから。	70 歳代	男	久保・東陽
幼少の頃から住んでいて、その後の発展（商業施設等が次々出来た事など）も見ていて、これからも変わらずに見ていたいと思います。	40 歳代	女	花岡・生野屋
下松市が大好きだから。	50 歳代	女	下松
買い物、通院しやすい。ごみごみしてなくて、水・空気も都会よりきれい。山や海、緑もあり住みやすい。	50 歳代	女	下松
日常生活が送りがやすく、買い物するのもお店が集まっていてとても便利で住みやすい。	10、20 歳代	女	下松
自然に恵まれ災害もなく、買い物の不自由なく暮らせています。	70 歳代	女	花岡・生野屋
住みやすい市（町）で知り合いも多く、安心して生活していけるので。	50 歳代	女	下松
全国で住みやすい街で上位にいるというのは水道代の安さ、子育てのしやすい街、老後ゆっくりできる街。これは本当に自慢できる	50 歳代	女	花岡・生野屋

★多少は感じる

(137)

生まれも育ちも下松だから。	80 歳以上	男	笠戸島
下松で働き、出産、子育てをして下松市にお世話になっているので。	40 歳代	女	久保・東陽
コンパクトで住みやすい。水道代が安い。	30 歳代	女	下松
生活していて特に不便だと思う事はないし、笠戸島など身近な所に良い場所があるからです。	40 歳代	女	下松
普通に生活するには住みやすいし、都会でもないし田舎でもない所がいい。	60 歳代	女	下松
誇りは特にはないが、年配の方を中心に、人が優しいし、明るい人が多い。治安が悪い地域がない。空が広くて気持ちがいい。	40 歳代	女	花岡・生野屋
自然が多くある中で育ってきたので、とてもよかったと思っている。その自然を残しつつ、笠戸島など魅力を高め、集客できればいいと思う！	60 歳代	女	末武
長く住んでいることで、移り変わっていく下松市を見てきた。素晴らしい自然や産業は今も変わらず、自慢できると思うから。	50 歳代	女	久保・東陽

★どちらともいえない

(31)

交通機関等の住みにくさもあれば、商業施設などの充実により住みやすさもあるため。	10、20 歳代	男	久保・東陽
就職に伴って移り住んだため愛着はないが、暮らしやすい街だとは思っている	30 歳代	男	花岡・生野屋

★あまり感じない

(23)

いつの間にかマンションだらけの街になっていた。駅前、特に北口がさびれた。つまらない街になってしまっているところが良くない。	70 歳代	女	久保・東陽
県外出身者には、仕事のため住んでいるので退職後は帰省するつもりである。	50 歳代	男	下松
地域のコミュニティを感じない。他府県や世界からのリスペクトされるものが無い。	60 歳代	男	末武

★全く感じない

(4)

住みやすいと感じるが、土地に執着はないし、今後も感じる事はない。	10、20 歳代	男	下松
----------------------------------	----------	---	----

★わからない

(5)

就職に伴い来たので、特になし。	40 歳代	男	末武
-----------------	-------	---	----

12. まちづくりのアイデア等

■問 25 下松市をより良いまちにしていけるために、アイデアをお持ちでしたら教えてください。(どんな分野の内容でも結構です。)

回答者のまちづくりや市政に対する自由な意見を、「下松市をより良いまちにしていけるためのアイデア」という形で求めた。

234人が何らかの回答記述を寄せている（「特になし」などは除く）が、この内容を、総合計画の分野分類を意識した右の区分で分類した。ここで、一人の回答者が複数の分類にわたる記述をしているものが多いため、それらの回答は極力分割した上で分類した。

右表における件数は、この分類をした結果の延べ件数であり、延べ件数の合計は300件となった。

総合計画の分野分類単位で延べ件数が多いのは「都市建設」の分野で、その中では、道路の整備や維持管理、公共交通の不便さ等を訴えるものが多く、次いで「市民協働」の分野、中でも観光に関する記述が多い。

そのほかでは、商業・サービス業に関する意見や、行政運営への意見等が多くなっている。

次ページ以下に、各分類区別の主な意見（類似の記述が複数あるものなど）を抽出して示す。（原文のまま）

自由回答の分野区別延べ件数

■健康福祉	(24)
●健康づくり	1
●医療	3
●高齢者福祉	4
●障害者福祉	1
●出産・子育て支援	15
■生活環境	(32)
●防災・減災	4
●消防・救急	0
●防犯・交通安全	10
●消費者	1
●ごみ収集・処理	3
●環境美化	6
●その他生活環境全般	8
■都市建設	(77)
●土地利用	4
●市街地・都市構造	8
●道路(整備・維持管理)	19
●治山・治水	2
●港湾	1
●上水道	3
●住宅・公営住宅	1
●空き家対策	8
●公共交通	17
●緑化・みどり	3
●公園	7
●その他都市建設全般	4
■産業経済	(39)
●農林水産業	3
●工業・ものづくり	6
●商業・サービス業	21
●創業支援・事業承継	1
●雇用・勤労者	4
●その他産業経済全般	4
■教育文化	(16)
●学校教育	11
●生涯学習	3
●文化	2
■市民協働	(57)
●広報広聴	3
●コミュニティ・協働	6
●観光	27
●スポーツ	3
●多文化共生・国際交流	2
●情報発信	11
●その他市民協働全般	5
■行政管理	(41)
●行政運営	19
●公共施設	2
●財政運営	3
●人口問題	7
●その他行政管理全般	10
■下松市・市政全般への意見	9
■その他	2
■アンケートについて	3
計(延べ意見数)	300

自由記述回答（下松市を良くするためのアイデア）の主な意見

■健康福祉

●健康づくり

私は下松市食生活改善推進員をしています。今年度 9 月より保健師さんの不在により活動が中止しています。コロナ後、再開した活動ができず残念です。新年度からは市民の皆様、子どもから大人までに食育活動が出来る様をお願いします。健全な生活は食生活が基本だと思います。	70 歳代	女	末武
---	-------	---	----

●医療

医療過疎地だと思う。病院はあっても対応が酷い。緊急を要する病気になったが死ぬかと思った。もっと高度な医療のできる病院があったらと願う。	60 歳代	女	末武
---	-------	---	----

●高齢者福祉

高齢者の施設入所できるところが少ないです。空きはあっても、とても高く年金少ない者は無理です。もっと特老、老健増やして入所しやすくして欲しい。生活できません。	50 歳代	女	久保・東陽
--	-------	---	-------

●障害者福祉

家族に車椅子の身障者がいますが、とにかく道路が車椅子では通りづらい。段差のない歩道の整備をして欲しいと思います。ちょっとした散歩も道を選ばなくてはなりません。高齢者や身障者が安心して暮らせる街づくりをお願いしたいです。市役所内での身障者申請の手続きも簡単に済ませられるようにして欲しいです。	50 歳代	女	末武
---	-------	---	----

●出産・子育て支援

子育て世代が多いので子供が楽しめるイベントや催しを定期的で開催してもいいと思う。公園も遊具がない小さい公園が多いので外でも楽しく遊べる場や、室内で遊べる施設があるととても嬉しい。	30 歳代	女	末武
・既に市内に住む子どもは人数は減っている。だからこそ手厚い教育、遊び場としての公園を整備など、他の市からも住みたくなるような独自の子育て対策を打ち出して欲しい。	50 歳代	女	久保・東陽
これからも若い人達が安心して暮らせる町、子育ての充実、サービスが大事だと思う。子育て中のお母さん同士の触れ合い場提供。	60 歳代	女	下松

■生活環境

●防災・減災

災害時の被災地への援助も他市ではやっておられるが、下松市も参画したり、必要な物資を市民から募り送るなど出来る事を積極的に行ってほしい（個人ではなかなか難しいため）。	80 歳以上	女	花岡・生野屋
私の知る限り今まで下松市は地震も津波も洪水も大火事ありません。けれどもこの様な状況に面した時、下松市は万全な用意、準備等が備わっているのでしょうか？医療体制も含めて。	80 歳以上	女	下松

●防犯・交通安全

街灯が凄く暗いです。特に住宅街が暗いです。防犯的からもブルーライトの街灯をたくさん設置してくれると良いです。近所の高校生が暗い中、帰っていて危ないといつも思っています。	40 歳代	男	花岡・生野屋
私は主に自転車通勤していますが、ちょっと細い道に入ると夜は真っ暗で、ライトを付けても危ないくらいで 2~3m 先が見えません。もっと街灯を増やして欲しいです。もう子どもは市外に出ましたが、自転車で通学している時は心配でたまりませんでした。	50 歳代	女	下松

●消費者

色々お知らせ等、聞き落とし等あって不安です。この度の米不足も知らないまま、何時の間にか米がスーパーの棚から消えていたのです。最終的に本当の米不足ではなかったのが良かったです。そんな事がいつ襲ってくるか分からないのが怖いです。	80 歳以上	女	下松
--	--------	---	----

●ごみ収集・処理

ゴミ分別が非常に面倒。大型ゴミを処理場に持ち込むのも許可証がいたり処理場が2つあったり、挙句の果てには処理場でも捨てられないものがあったり、とてもストレスに感じている。	10,20 歳代	男	下松
--	----------	---	----

●環境美化

「ゴミポイ捨て禁止」この一択！！葉山の工業団地入口や笠戸島の道路脇にコンビニの袋やペットボトル、アルコール飲料の缶などが散乱しているのが、ここ何年かやたら気になります。これが大雨や風で川や海に流され海洋汚染原因にもなるのでは・・・？自然豊かな下松市があちこちポイ捨てゴミでいっぱいだなんて恥ずかしいし、もったいない。バイパス近くの法面や川なども是非、見てみて下さい。そして住みよさランキング上位の綺麗な下松市になる様、市独自の取組をお願いします。	50 歳代	女	下松
---	-------	---	----

●その他生活環境全般

家の近くに野犬が多く、家に 0 歳児がいるので不安がある為安心して子育てできる様なまちづくりをして欲しい	30 歳代	女	末武
旗岡に住んでいますが、お年寄りが多いです。近くにスーパーもほとんどなく、この地域だけ局地的に不便です。バス停も便も増やして、もっと便利になってくれたらと思います。	40 歳代	女	下松

■都市建設

●土地利用

駐車場代が掛からないから買い物は下松市に来ると思う。しかし飲みに行くとなれば周南市に行くようになる。新しい店舗ができれば、どこかが閉店する事になるし、そんな事になって欲しくない。今どこを見ても田んぼが土地やアパートになっている。全部売れるのか心配。	50 歳代	女	末武
--	-------	---	----

●市街地・都市構造

コンパクトシティを目指して欲しい。インフラ整備（道、水道、橋）にコストをかけても人口の大きい増加は無理。コンパクトにして限られたお金を特に若い人に使えるようにして欲しい。	60 歳代	男	久保・東陽
下松市はコンパクトな町です。自転車があれば大抵の事は大丈夫です。このコンパクトさを活かすまちづくりを進めてみてはどうでしょうか。福祉、商業、産業、子育て支援など、全ての事柄を市中心部とするところに集約して、その地域に行けば後は徒歩でも全ての事ができてしまうような、そんな町ができれば良いと思います。	60 歳代	女	久保・東陽

●道路(整備・維持管理)

宅地開発地域では先ず道路整備をしてから宅地開発を進めるべき。狭い道に車が多くなり危険。	70 歳代	男	末武
・歩道の凸凹が多くて自転車で走りにくいし買い物をした時、荷物が飛び出します。フラットにして頂けると助かります。今は車道の方が走りやすいです。車道のような歩道にしてください。	70 歳代	女	末武
道路沿い（市道、県道、国道）の土手の草木が夏場になると伸びて、通行の妨げになっているところがある。安全パトロールのステッカーを貼った市役所の公用車が毎日、走行しているので運転者は気付いていると思います。歩行者（歩道）の邪魔にもなっているので草刈りをお願いします。	70 歳代	男	下松

●治山・治水

平田川、切戸川等を是非、生きた目で見てください。	80 歳以上	男	末武
--------------------------	--------	---	----

●港湾

東海岸通りに超大型貨物船（石炭・コンテナ）の接岸が出来るような埠頭を造る。	70 歳代	男	末武
---------------------------------------	-------	---	----

●上水道

・インフラ特に水道水の料金を安定する。	70 歳代	男	下松
---------------------	-------	---	----

●住宅・公営住宅

・独身若者向けのシェアハウスのような住居施設（寮のような）一人一人の寝る部屋（プライベート空間）もあり、みんなで集まれるラウンジ空間もある感じ、男女の出会いの場！？若者同士のつながり。	50 歳代	女	末武
--	-------	---	----

●空き家対策

笠戸地区や米川地区に限らず、市の中心部に近いところでも空き家が目立ち、雑木や雑草が生い茂っている場所がかなりある。まずは、伐採や剪定、草刈りをして、さっぱりとした爽やかな環境とし、特に若い家族が住みたいと思える町を目指したい。	50歳代	男	末武
・全国的に（下松市に空家バンクを受け付けて）ネットで流して欲しい。空家問題に取り組んでほしいです。市役所の2階（？）4階に行けば良いのでしょうか。	70歳代	女	久保・東陽

●公共交通

市内を回る路線バスが出来ると良いと思います。例えば岩徳線を含む駅や本線の駅、大型商業施設などを1日に何回か回るバス等があれば良いと思います。	60歳代	女	久保・東陽
交通機関の拡充。高齢化社会に突き進み、この問題は避けては通れない。バス、タクシー等十分に準備し、人を待たせない。この件は早く討議して頂きたいと思っております。	60歳代	女	下松

●緑化・みどり

笠戸地区や米川地区のように自然環境の豊かなところをもっとアピールし、その自然環境を守り改善し、行ってみたい、ゆっくり過ごしてみたいと思われるように考えていくのはどうでしょうか？今風のばえる場所とかなどです。	70歳代	女	花岡・生野屋
---	------	---	--------

●公園

下松市は公園とか児童広場とかは多くあるが、いずれも中途半端で手入れ、整備が行き届いていないから、整備を進めていけば良いと思う（拡大も含めて）。	70歳代	男	久保・東陽
---	------	---	-------

●その他都市建設全般

駅周辺に駐車場が少ないので増やしてほしい。下松にしかないものをつくる。	30歳代	男	下松
-------------------------------------	------	---	----

■産業経済

●農林水産業

米川地区では、農業関係で野菜の特産物を各種栽培し、PR出来る品種を各農家に広める事で、営農活動をしている若者の注目を集める等、地域の活性化を図る事が期待できると考えます。	70歳代	男	末武
高齢化により農漁業、林業等に携わる人口が減少しており、更にこの傾向は加速される。放棄農地も目立つ。「食」は人間の基礎であり重要である。集約や高度化、更に多様化等、配慮、施策を進めて欲しい。	70歳代	男	久保・東陽

●工業・ものづくり

IT関係の企業を増やすことはできないのでしょうか？	60歳代	女	久保・東陽
・今あるものを活かす。例)日立・・・実際にどんな企業が良く分からないけど、子どもが社会見学に行き私も行ってみたいとなった。市民にも積極的に開放する。	30歳代	女	下松

●商業・サービス業

人が集まったり、遊んだりする場所を増やす。駅前など、人が足を運びやすい場所にカフェなどの立ち寄りやすい施設があるとよいかも。	10,20歳代	女	久保・東陽
ショッピングに光、須々万、遠くは島根から下松に来ている。もっと魅力のある（コストコ、イケヤなど）店の誘致、中途半端なものではなく西日本最大とか。	60歳代	女	花岡・生野屋
今回もありましたが市内で使えるプレミアムチケットは良いと思います（もう少し還元率を良くして頂いても良いのですが・・・）これを他の市町村の方も買えるように冊数を増やすと、下松で買物をする人も増えると思います。	50歳代	女	花岡・生野屋

●創業支援・事業承継

・最先端のコミュニティー、モビリティの実験場としてトヨタや電気メーカー、通信メーカー、医療機器メーカーなどと連携してロボット、AIを駆使して移動手段や交通手段、介護援助、買物通院の手助けなどに高齢者や障害者などが利用できるよう大学なども連携、研究する都市となる。	60歳代	男	久保・東陽
---	------	---	-------

●雇用・勤労者

単発のアルバイト(スキマバイト)などを多く取り入れて、下松市に来るきっかけ作りをしたらいいと思う。『働きたい』人も多くいるし、働く人同士のネットワークは広いと思うから。	50歳代	女	久保・東陽
--	------	---	-------

●その他産業経済全般

贈答品などに使える下松といったらこれとゆう物があつたら良いと思います。	60歳代	女	花岡・生野屋
-------------------------------------	------	---	--------

■教育文化

●学校教育

・教育分野で、教員の負担軽減を図り、本来の業務(学習指導)に専念できるようにしてほしい。特に部活動の地域移行がスムーズに行われ、子ども達も自分がやりたいことができる環境の整備に尽力してほしい。	30歳代	男	末武
公立小中高の自由学区制(保護者が学校を選べる)の導入。	30歳代	男	末武

●生涯学習

習い事を習う場所が意外とないです。実際市内で探すも結局なく市外で習ってます。自分が子供の頃もそうだったので勿体ないなと昔から感じてます。	30歳代	女	末武
図書館をもう少し利用し易くしてほしい。誰もが気持ち良く利用できるように。規制がよくわからない。本は充実していると思う。	40歳代	女	下松

●文化

埴輪が出土したことがとても嬉しく思いました。古墳や下松の歴史はもっとアピールする材料になるのかなと思いました。	40歳代	男	末武
---	------	---	----

■市民協働

●広報広聴

LINEによる市政だよりの配信ほか、LINEの活用。	30歳代	男	末武
時代は平成、令和と変化していて若者の感性は昭和生まれの私達が驚くほど違います。もっと若い人の意見を取り入れたら良いと思う。	60歳代	女	久保・東陽

●コミュニティ・協働

また、昔はお祭りなどがあり、みんな楽しめる催しものがあるあり、地域の人も集まる機会がありました。もっとそんな催しがあってもいいのかなと思います。	40歳代	女	下松
まちづくりの基本は行動力のあるリーダーが必要。発想の柔軟性、調整能力も問われる事でしょう。行政が主体となって住民に身近な行政である事を表現していく事も良いのでは。若者の育成に大いに期待しています。	70歳代	女	花岡・生野屋

●観光

笠戸島をもっと観光者を増やしていけるよう取り組んでほしい。マリンスポーツや、ハイキングの施設や、風光明媚な資源を活用出来るようしっかりとした構想を立てて取り組んでいけたら良いと思う。	60歳代	男	米川
風光明媚な笠戸島及び周辺の島々を特色のある一大リゾート地として開発し、観光業として地域経済を活性化する事を提案します。スケールの大きな事を考えないと将来はないと思います。	60歳代	男	末武
全体的にお洒落な町になってくれる事を期待しています(植物も植える、カフェの建設等)。観光にももっと力を入れて良いと思います。ひらめパークに行った際、無料のものも多く子どもが楽しめるアイデアがあり、とても良かったです。SNSで発信していくべきだと思った。大城も絶景の海を見ながら温泉には入れるのが、もっと栄えても良いのではと思った。下松市役所？専用のアカウント等から情報の発信やSNS映えする場所の紹介を行うと、観光客や県外の交流人口も増えるのではないかと思います。市外の方に羨ましがられるまちづくりを宜しくお願いします。	30歳代	女	末武

●スポーツ

・下松独自のスポーツチーム(アクト西京、レノファ的な)。・スケートボードのパークを作る。・市民プール撤去(屋外プールは時代に合わない)。	50歳代	女	末武
--	------	---	----

●多文化共生・国際交流

下松市在住の外国人の方へ日本語教室をされるのはいかがでしょうか(ゴミの分別方法をお伝えする機会にもなると思います)。	50歳代	女	下松
--	------	---	----

●情報発信

アニメの舞台にする。(聖地巡礼で客がくるから。)有名アーティストを排出する。有名人を排出する。超有名なロボットを作る。何かのコンテストを開催する。	30歳代	男	下松
---	------	---	----

下松市は水道料金でも近隣の市と比較して、最も安い料金であり光、徳山には大企業があり通勤圏内では居住地としては最も有利な場所である。若者の移住、定住の促進を全国的にインターネット等で配信する。ただ住みよい街では具体的に表していないので、下松市に定住すると何が便利で生活もしやすいとかの事を明確にしないと分かりづらい。私も他県から仕事を探して来て50年以上になる。家族を持って子どもを育て、子ども達も他県の大学に進学、就職、その中にどのくらい下松市に帰って来るか？下松市近隣の企業、就職先があるかが重要と思う。	70 歳代	男	花岡・生野屋
---	-------	---	--------

●その他市民協働全般

若い世代が活躍できるまちおこしの企画、いろんな中小企業や個人の事業者の交流、きららであるようなフェス（おまつり、ライブ）を下松市で開催するなど。花火大会復活させる（笠戸島、米泉湖）、キャンプ場の充実（笠戸島以外の所でも）、地産地消の物を置いて販売する。買い物せずつに出来る（肉、野菜など果物）。	40 歳代	男	末武
---	-------	---	----

■行政管理

●行政運営

経済活動が活発になる施策を行うべき。現市長は何もやっていない。企業にだけ頼らず、市が率先して考え、実行すべき	50 歳代	男	末武
困りごとを総合的に相談できる市民支援窓口のようなところがほしい。たらい回しにされ、誰も助けてくれないことがあり、医療や教育や福祉の充実した街に引っ越しわや検討したから。	40 歳代	女	花岡・生野屋
結婚、子育ての祝い金をはじめ、未来ある世代への投資が足りていない。高齢者へお金を配っても生み出すものがないのだから、わざわざ払っている住民税の使い方をもう少し考えてほしい。	10,20 歳代	男	下松
市役所のDX化を推し進め定員を減らし「あしたの下松」を企画する人材とする。現状の企画係も再編する。若い頭が柔軟で動ける人を！人口を増やすには企業誘致ではないかと思います。幸いな事に土地はある。市民サービス向上には収入が必要です。	60 歳代	男	末武

●公共施設

・令和5年12月末で閉館になった温水プール施設内のサボテンや残っている植物がそのままなのが気になっています。閉館になって1年も経たないので枯れることなく生き延びているのか、管理されている人がいるのか気になりました。公園を利用する時、気になって見てしまいます。お世話する人がいなければ枯れていく姿は見たくないので、引取先があれば良いと願います。	50 歳代	女	下松
---	-------	---	----

●財政運営

子供に関わる費用は自己負担なしにした方がよい。ローンなども必要な人には安く借りられるように固定資産税の意味のわからない徴収項目は減らして欲しい。コンセントに税金って必要ですか。	40 歳代	女	花岡・生野屋
--	-------	---	--------

●人口問題

人口が増える若者が県外に流出しないようにする。子どもが欲しいと思っている人が、お金を理由に諦めることがないように支援する。	40 歳代	男	末武
少子高齢化対策を充実させる事が一番下松市にとっての財産になると思います。現状の高齢者や市政に係わる税金を少子化対策に回す事が良いと思われる。子ども達が今からの国、県、市を作っていきます。子ども達が見習うような市政にして欲しい。一番の投資先は未来の子ども達！市政だけでも実行して下さい。	30 歳代	男	花岡・生野屋

●その他行政管理全般

・市議会議員の定員数を減らす。現状、給料に見合った働きをしている議員が少ないように感じる。	30 歳代	男	末武
市長、市議の若返りが必要だと思います。年寄りに優しい政策だけでは若者の負担が大きく将来に不安がつるばかりだと思います。議員の定年制度が必要、議員の給料や退職金、市民水準に合わせるべき。そうでないと市民の気持ちに沿った政策なんて出来ないとはいいます。	40 歳代	女	末武

■下松市・市政全般への意見

下松市がとても好きなので、どの年代の方も、豊かな生活が送れる、より良いまちになるように期待しています。	40 歳代	女	花岡・生野屋
---	-------	---	--------

各個人の意識（モラル）を高めていく事で住みやすさが増すと思います。ゴミ収集、騒音などマナーを守る。当たり前の事をして人に迷惑をかけないという事を一人一人が意識していけば、住みやすくなるので啓発していく事が大切だと思うので、広報やkビジョンなどで発信しても良いのではと思います。	50歳代	男	花岡・生野屋
--	------	---	--------

IV. 調査結果の総括

以上の調査結果を、調査視点ごとの要点を総括したものを以下に示す。

<p>回答者の属性分布 ＜問 1＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・約半数が 60 歳以上（完全無作為抽出で、高齢化に加え高齢者の回答率が高いため）。 ・女性が 56.4%。 ・回答者の 6 割以上が市外出身だが、市外出身でも 10 年以上市内居住が全体の半数近く（転入者の定着が窺える）。 ・ライフステージを反映した世帯構成の分布。高齢者女性のひとり暮らしの多さも。 ・日常交通手段は自動車（自分で運転）が 3/4 で前回調査よりさらに上昇、クルマ社会が一層深化。
<p>日常生活の不安 ＜問 2＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に老後・将来の生活面での不安は 4 割強が「大いにある」（特に 50 歳代）。 ・高年齢ほど健康面の不安が増し、非正規就業者で仕事・経済面の不安が大きい。 ・不安の平均的な程度が全体に前回調査よりやや増大。
<p>下松市の魅力・自慢 ＜問 3, 4＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「水や緑などの自然の豊かさ」、「まちのにぎわいや買物のしやすさ」、「気候の良さ」の満足度が特に高く、魅力・自慢の 3 大要素でもある。「遊びや交流の場」は不満割合が最多。
<p>まちづくり施策の満足度・重要性 ＜問 5, 6＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施策評価で、公共交通、観光面は満足度評価が低く、少子化対策や公園緑地、高齢・障害福祉等は対象当事者で比較的厳しい評価。 ・全体に満足度評価が前回調査より低下した施策項目が多い。 ・満足度評価が低く今後の重要度指摘割合が高いグループは、公共交通、高齢・障害福祉、少子化対策、雇用確保・企業誘致で、雇用確保・企業誘致や商工業活性化は重要度指摘割合が前回調査までの減少から増加に転じた。
<p>コミュニティ・協働の意識 ＜問 7, 8＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種コミュニティ活動への平均的な現在の参加程度は前回調査からやや低下。今後の参加希望も同様。 ・「協働」の仕組みづくりには、その前提としての情報共有の必要性が強く認識される。また、行政と市民の間で一方通行でない情報の双方向性も強く求められる。地方創生時代にユニークな施策等への期待も持たれる。
<p>少子高齢化・人口減少への対応 ＜問 9, 10, 11, 12, 17, 13＞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化対策の重点は、経済的支援の充実が最多で、仕事と子育ての両立への働き方の制度や意識等の変革、保育園等の子育て支援施設の充実が強く求められ、結婚から子育てまでの一貫した支援の取組も重要。経済的支援や子育て支援施設は子育て当事者世代が特に強く指摘。 ・人口の社会増・定着には、職場確保等による経済的安定と保健・医療・福祉等の生活の安心が大きな要件。教育、住宅も居住地選択の大きな条件となる。 ・回答者の 45% に市外転出家族が「いる」。その転出者の市内への還流の可能性は半数に満たないとも見られる。 ・人口減少、少子高齢化による懸念は、公共交通などこれまで充実してきた各種の環境要素の維持困難化による不安が様々な側面から想定され、実際に人口減少局面に突入したことで日常生活行動面の不安が増幅したと言える。 ・交流人口、関係人口の増加には、観光を主眼とした人の交流拡大への期待大きい。情報発信の関係項目は若い世代で比較的支持率が高い。 ・高齢化社会のまちづくり施策は、各種介護サービスの充実、経済的支援、介護保険制度の健全運営と体制充実が最多グループ。

防災対策 ＜問 14＞	<ul style="list-style-type: none"> ・偏りのない総合的な防災対策が求められる。 ・各種施設の耐震化や食料・燃料・災害救助物資等の確保、災害時の医療や衛生、緊急輸送等の体制などで、前回調査から指摘割合が増加。
産業振興 ＜問 15＞	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業や商業も含めた総合的な産業力の強化が求められる（中小企業・地場産業支援、商業施設など集客機能強化、ものづくり主要企業支援、企業の誘致などが上位グループ）。
笠戸島・米川 の振興 ＜問 16＞	<ul style="list-style-type: none"> ・笠戸島は、観光を中心とした自然環境等の活用が広く支持される（PRや施設整備、体験・交流、特産品開発等）。 ・米川は、自然・農林業を活用した人の呼び込みや交流などが多く求められる。
新たな時代の 課題への 対応 ＜問 18, 19＞	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルへの取組は、自然環境保全やごみ3R・資源の有効利用、再生可能エネルギー利活用、環境保全活動が主な重点との認識。 ・デジタル化進展に対しては、総体として期待と不安が拮抗しているが、高齢者ほど不安の度合いが強まる。期待内容は、情報入手等の利便性や生産性・効率の向上、不安内容は情報セキュリティ等安全上の問題が多いが、年齢層によりかなり内容の分布が異なる。
都市生活・ 都市形成 ＜問 20, 21, 22＞	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設に関しては、必要性が低い施設は廃止などの選別を半数以上が支持。 ・公共交通に対しては、現状の公共交通機関を前提とした維持や改善を求める内容が多い。この背景には現状のシステムへの不満も。ただ、現状への不満を乗り越えた前向きな意見も一定の割合ある。 ・都市政策上の主要課題への対応方向には大方の賛同が得られ、特に空き家対策等による土地の有効利用は高い賛成率。
定住意向や 愛着 ＜問 23, 24＞	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつまでも」と「できれば」を合わせた「下松市に住み続けたい」が84.8%。住みよさの満足度との相関が強く、住む場所としての魅力、満足度の高さが定住意思の高まりにつながる。 ・住み続けたい理由は、買物や通院など日常生活の便利さが圧倒的多数。 ・下松市への誇りや愛着は、「大いに」と「多少は」を合わせた「感じる」割合が73.8%。市内定住意向や住みよさの満足度が高いほど誇りや愛着を感じる割合が高まる。
自由な意見 ＜問 25＞	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の整備や維持管理、公共交通の不便さ等の訴えが多く、観光に関する記述、商業・サービス業、行政運営への意見等が多い。